# ユダヤ問題論集

陸軍主計中將 辻村楠造編

DS
146
.J3
Y825
UNIVERSITY OF ILLINOIS-URBANA
3 0112 071406489

★人間神の子の必勝精神を教育に應用、非常時日本の最高指導精神をなせる名著★

谷口雅春著
奉仕普及版

# 人を作る教育

四六版 四六六頁・美本・定價一圓・送料十四錢

本書にて眞の『人』を發見、必勝精神を獲得し急速に學業成績を向上せしめ、或は上級學校入學率を一躍全國一に高め、例へば廣島一中の大地教諭は本書の教育法を受持五年級に活用し、陸軍士官學校入學者を一學廿三名となし、全國中學校中のレコードをつくる等、或は皇國國體の眞の尊嚴に眼覺めて雀躍する者等無數の實例山積す。今文章報國使命を完うせんが爲に犧牲を惜しまず普及版を出す。虚弱兒不良兒を有つ兩親は讀め。人を作らんとする先生は讀め。

東京・赤坂檜町五 株式會社 光明思想普及會（振替東京五五五一九）

LIBRARY OF THE
UNIVERSITY OF ILLIN
AT URBANA-CHAMPA

MIYAZAWA
宮沢正典
COLLECTION

ASIAN LIBRARY

陸軍主計中將
辻村楠造編

# ユダヤ問題論集

—戰時對策の根本問題—

標象の蛇

## 標象(シンボル)の蛇(ヘビ)について

◇紀元前九百二十九年猶太聖賢等は『標象の蛇』なる狡智に依つて平和的に世界を征服する政策を考案した。蛇の頭は聖賢の世界政策を委任された猶太政府で其の胴體は猶太人民である。此の蛇は最も正確に遺漏なき計畫に依つて、各國の胸部を貫いて進んで行く。即ち蛇道に當つた國は精神の墮落及道德の敗頽を來し、革命を惹起し經濟的に崩壞して亡んで行くのである。而して蛇の頭をシオンに回歸して首尾相接合する時が、即ち全世界を擧げて猶太王の君臨する時であると謂つて居る。今や此の『標象の蛇』は彼等の所謂天命の蛇道を我が帝國に向けて居る。上圖は即ち之れを表はしたものである。

# 梅、梅花光

梅法王書

DS
146
.J3
Y233

# 序

今や世人を震駭せしめつゝある問題は、ユダヤ人の企圖だ、その實行だ、實狀だ、天下の選民は我れのみだと僭稱し、世界各國は軈て我が支配に入ると叫び、世の總ての金庫は我が前に跪くと豪語する等、隱密裡の企てが露骨になつて來た、這回の日支事件は愈々これを曝露するに至つた。

然かもそれを守護する神が、エホバ神だ。ユダヤ人のみを依估贔負する民族神エホバ神だ。抑もエホバ神は、嫉みの神、妬みの神、怨恨の神だ、鬪爭人殺の神だ。孕みの苦お產の惱みその他生老病死の苦を救ひ得ざる神だ。苟もユダヤ人に危害を加ふるものあらば手段方法の如何を選ばず報返して止まない神だ。素より各國間に戰爭を起さしめ其の裡面にあつて私利を營み、世界の金權既に七〇%を占め、それを以て新聞雜誌通信網芝居活動寫眞等を經營し、世を淫靡に導き、墮落に陷入れ、各國を崩壞せしめて統一せうとするユダヤ人だ。それを守護するエホバ神だ。

斯く惡を爲し惡を認むる神は、神といひても、眞の神本當の神でない。けれどもその怨恨、嫉妬鬪爭人殺、生老病死の苦、孕みの苦、お產の惱み等を訓へ給ふた千古に通ずる人情を穿つた神こそ、エホバ神のエホバ神たる所以だと、隨喜する人がある、がそれは人間の迷妄の心から造られた神に過ぎない。

抑も心はコトバで發する、萬の物これに由て(コトバ)成り、成りたる物に一として之に(コトバ)ならで成りたるはなしとヨハネ傳にあつて、心が——コトバが現象界の森羅萬象を造る、故に現象界といへば現はれの象であり、又現世——現はれの世と稱し、現(うつ)し世と呼んでおる所以だ、要するに現象界の總ては、唯心の所現だ。

だから心に迷妄があつてそれでエホバ神を造れば、迷妄のエホバ神が現はれる譯だ。所謂現はれの世に現はれ出るのだ。

この心の法則の人格化したエホバ神が、煽動し、後援し、守護するユダヤ人に恐るべき企圖があり、深慮遠謀があつて、それが昨今愈々事實となつて現はれて來た。社會の裏面に隱密に策せられて居たものが、漸く表面に立つて策動することになつて來た。國

際聯盟の事務總長政治部長始め主要な部長級が、何れもユダヤ人であり、又英米の要部にある人々が、ユダヤ人であり、ユダヤ系の人々である事實に見るも、思ひ半に過ぐるものがある。

その企圖實狀を指摘して遺すところのない論說が、本書に悉くされてある。實に斯界の權威者四王天陸軍中將始め知名の人々の論說を集めたものが、この書だ。

今や局面は轉廻して、ユダヤ人の企圖と、日本精神と、正面衝突となつた。本當の神眞の神と、迷妄表現の神ならざる神との衝突となつたともいへる。實力戰と共に思想戰になつたともいへる。

迷妄の心が、民族神エホバ神を造つた如くに、迷妄ならざる心、純眞な心が、眞の神本當の神を造つた、否造つたのでない、純眞な心のそれが神だ、本當の神眞の神だ。その神が神ながらの發動となつて働く、換言すれば宇宙創造の神、本源の神の發動行爲が神ながらだ。その神ながらの發動する本當の神眞の神には依估贔負がない。怨恨嫉妬、鬪爭人殺戰爭がない。孕みの苦、お產の惱みもない。生老病死の苦もない、眞に眞善美

の極みだ、天國淨土だ、エデンの樂園追放前の淸淨で莊嚴な境地だ。

日本の神は、この莊嚴淸淨な境地の神だ。宇宙創造の神、本源の神だ。佛敎の毘盧遮那佛大日如來も、基督敎の天の父聖靈といふのも皆是れだ。這回の支那事變には、思想戰にこの神が活動して居る。だからその實戰の實力が神兵天兵の活動だ。神技妙術人智の外に出で測り知るべからざるものがある譯だ。百戰百勝しつゝある所以だ、勝敗の決何れにあるか贅言を要しないのだ。思想戰も亦斯くあるべきだ。

この眞理を說いたのが、イエス・キリストだ。これを以て舊約聖書を成就せんとした。卽ち、エホバ神を抹消し眞理に立還らしめんとした。がエホバ神に嫉まれて磔けに會うた、會うたけれどもそれに依て世人を救ふて居る。眞の神本當の神なる所以だ。故にエホバはキリストの仇敵だといへる、にも拘らずキリスト敎信者がエホバ神を崇敬してゐるのは奇怪千萬だ。

キリスト敎信者は、斯くこの眞理を正解してこそ、生きることが出來ると說き、舊約聖書を抹消せよと力說されてをる偉人が、谷口先生だ。獨逸のナチスが新宗敎を樹つる

に當り舊約聖書とパウロ傳を除外したのは、東西揆を一にする暗合の一致だ。確に卓見である。

近頃極東在住のユダヤ人貳萬人が、滿洲の哈爾賓に會合して、正義に燃ゆる日本に手賴る外なしと決議したといふことだ。誠に同情に堪へない。眞の神本當の神の懷に手賴るは、當然過ぎる當然だ。だがその實を示さなければ僞だ。人はユダヤ人常套の欺瞞だと冷眼を以て見て居る。放浪三千年、安住の國土なきユダヤ人が、神ならざる神と知りつゝも、その擁護に愛着し、習ひ性となれるものが改悛の實を示すは容易であるまい。が唯、心一ツにある、心を改むるのみだ、昔元豐の舊黨多くの邪說を起して天下を搖撼せしめたその儘を行くユダヤ人の心の改悛一ツで搖撼を化して光となる。光となる。既に業に搖撼化光照り輝いて燦然たりだ。

昭和十三年二月

陸軍主計中將　辻村楠造

## ——目　次——

ユダヤ民族運動概觀……陸軍中將　四王天延孝（一）
支那事變を繞る猶太問題の諸相……宇都宮希洋（二九）
日本を救ふ道——ユダヤ經濟主權より脱却せよ……谷口雅春（六〇）
猶太主義の文化的擬態……增田正雄（七三）
理念の實現——闘爭より建設へ——……A・ローゼンベルグ（八〇）
英國政府と米大統領を圍る猶太色彩……長谷川泰造（九二）
シオン議定書——解說全譯——……愛宕北山（一〇一）

國際秘密結社の暗躍史

# ユダヤ民族運動概觀

陸軍中將　四王天延孝

一、ユダヤ民族の沿革
二、ユダヤ民族の分布狀況
三、ユダヤ教の本質と選民思想
四、蛇の如き彼等の民族意識
五、革命手段としての他民族第一線主義

## 前書き

今次事變の底を流れてゐるものが如何なるものであるかといふことに就いては、漸くこの頃に至つて、皇軍は支那と戰を交へてゐるに非ずして、實はイギリス、ロシアと戰つてゐるのであり、然も、そのイギリス及びロシアを動かしてゐるものが、實際に何であるかといへば、純粹のイギリス、純粹のロシアではなくして、即ち之を操縱するフリーメーソン國際秘密結社の策動によるものであり、更にそのフリーメーソンなる國際秘密結社の中心を爲すものは何であるかといへば、意外にもユダヤ民族であるといふ驚く

六、フリーメーソンとは何か？
七、フリーメーソン秘密結社の目的とその罪惡史
八、ユダヤ民族の獨立運動
九、ユダヤ賢人會議とシオン議定書
十、日露戰爭とユダヤ人
十一、ユダヤ世界支配の序曲としての世界大戰
十二、ユダヤ思想の日本に及ぼせる影響
十三、三S政策とは何か？
十四、彼等の持つ二つの顏と四本の手
十五、ユダヤサツスーン財閥は東洋に於て何をなしたか？
十六、支那事變の背後にて彼等はいかに暗躍しつゝあるか

可き事實が漸く理解されるに至つたのである。だが、是は唯だ、さうしたものか、といふ樣な單純な意義しか持たぬ事象ではなくして、今後如何にこの事變を解決に導くべきか、或は如何にして恒久平和を樹立すべきかといふ問題は、この根本を充分究明しない限り、種々なる困難に遭遇せざるを得ない重大性を持つものと思ふのである。この事は單に外交上に於いて問題であるのみならず、動もすれば國内に災禍を及ぼし美事に成就しつゝある麗はしき擧國一致の現狀を、この一派の魔手に依つて打破られ、戰ひには勝つたけれども其處に不用意な禍痕を胚胎せしめることなきにしも非ずである事を大いに戒心しなければならぬ。そこでロシア及びイギリスを動かしつゝある秘密結社の中心を爲すユダヤ民族といふ如きものが、この共産主義或は自由主義なるものを動かし之を使用しつゝ世界攪亂を企圖しつゝある實狀に就いて逐次述べて見たいと思ふ。

## 一、ユダヤ民族の沿革

實は、ユダヤ人問題は今日に於いて始つたものではなく非常に舊い歷史をもつ問題であつて、彼等によれば本年を以て五千六百九十八年と稱してゐる。丁度我國の紀元よりは三千一百年餘計になつてゐる勘定である。時間的にはそれ程舊い歷史を持つものだと彼等は自負してゐるのであるが、空間的にはドイツ一國の問題たるに止らず實に世界の全部に亙つた洵に重大問題と云はねばならないのである。

先づユダヤ民族は何處に發生したか？　ユダヤ民族は、アラビア沙漠北部の豐饒な地方に發生したと云はれ、セミツト族を原種族とし、その生活手段は牧畜であつて、水草を追うて移住する所謂遊牧民族であつた。青草がなくなれば直ちに天幕を擔ぎ、更に青

葦を求めて彷徨す、人間到る所青山ありと云ふが、之を地で行つた彼らは「人間到る所青草あり」となす、遊牧の民であつた。このことは、彼らが後年、否今に至るも尙、世界を跨にかけ、徹底したインターナショナリストであり、一國に固定する事なく、何處へでも流れ歩く流民であるといふことを證明するもので、その當時からの生活狀態が後々までも彼等の潛在意識となつて頭の中にこびりつき、民族の特質を形成してゐるといふことを理解する爲には非常に必要なことである。と同時に彼等の人口の繁殖力は非常に强大であつた。從つて狹小な地方にのみ定住する事が出來ず、青草を求めて北方のチグリス河の流域にまで辿つて行つた。そこから、一部は上流地方へ、一部は川を下つてペルシヤ灣の方に流れて行つた。さうして、アモレアン民族と雜婚し、一方またヒッチー族と混血し、こゝに、セミツト族、ヒッチー族、アモレアン族との三民族が混血融合してイスラエル民族を形成した。彼らは三種族の統合によつてその優秀なる各種族の特質を吸收して長短相補ひ、その後は、他民族との混血を忌避して極力自己民族の血液の純化を成就し、他民族は不純血であるが彼らは純血族であると自ら誇稱するに至つた。今日尙、この純血維持は踏襲されて、男兒が生れると八日目に割禮を行ふ。割禮とは、實際的に云へば、男子の包莖切開を云ふのである。長いお經を上げ、割禮を施す事によつて祖先ダビテの仲間入りが出來たといふことになるのである。從つてユダヤ人は、割禮を行はぬ人間は不純血であるとして絕對に婚姻を拒否し、かくて子々孫々にまで、我等は他民族とは全く別種の優秀民族であるといふことを刻みつけて來たのである。日本に居住するユダヤ人など、割禮の爲の外科的心得のある僧侶が來てをるが、若しそれが日本にゐない場合には遠く上海から賴む、と云ふ程にこの割禮を彼らは重んじてゐる。左樣に彼らは民族の純血について力めて來たのである。

その後各國に於ける、政治的壓迫、宗教的壓迫の爲にならずも雜婚をし、改宗する者もあるけれども概して今日なほユダヤ民族はその純血を誇り、その優秀性を誇るといふことは如上の點から來てゐるのである。

それはさてをき、ユーフラテス上流に向へる一團はカナン即ち今のパレスタインの地に住むで、ここにイスラエル國を作るに至つた。

彼らは自己の歷史を五千六百九十七年と誇るが、それは我國の如く一貫充實した歷史ではなく、その間、幾多亡國の道を辿り、悲慘な生活をしてゐる。一度びは國家を形成したものゝ忽ちにして分裂し、イスラエル國とユダヤ國に分れた。或は又それらが全部エヂプトに囚はれの身となつて長い辛苦をなめた。或は又バビロニアに捕虜となり、凡ゆる難業苦業をするなど、國家の獨立を一貫して持續したわたではない。西曆紀元前五世紀の頃、再びカナンの地に還つ

たのであるが、その後また獨立を失ひ、半獨立國となり、昔日のソロモンの榮華の再現を企圖し、何人かの豫言者が現はれたがすべて空しく、遂にキリストがナザレに生れ彼らは之を渴仰しキリストに依る民族の獨立を念願したのであるが、キリストは逆にユダヤ教の偏狹なる點を排擊した。そこで彼等の憤激は、キリストを宗教革命家として磔刑に處して仕舞つたのである。是の如く彼らは民族獨立の夢を抱いて彷徨して來たのである。

キリスト紀元七十年更に獨立を圖つたものゝ、この度もローマの爲めに彈壓され、紀元百三十年更に最後の戰ひをなした。三年に亙つてエルサレムの囘復を圖つたのであつたが、之も亦遂に一敗地にまみれ數十萬の死傷者を出し、然もこの時限りエルサレム居住權を失つて叩き出され極めて少數の者のみが殘つた。爾後彼らは彷徨へるユダヤ人として放浪の生活を營むほかはなくなつたのである。之を彼らのデイアスポーラ（散亂時代）と云ふ。

## 二、ユダヤ民族の分布

今日世界に居住してゐる彼等の數は、一千五百四十五萬といふのが統計の信ずべきものである。是は彼らから出た數字である。世界の全人口に比すれば實に微々たるものであるが、併し是は純血ユダヤ人のことであつて、彼らの非常な努力に拘らず、自然に雜婚し混血せる者を合せるならば恐らく五千萬位あるのでないかと想像される。それにしても大したものではない。その一千五百萬人の分布狀態は如何と云へば北米合衆國には四百八萬をつて一番多い。この事實は將來米國を觀る上に非常に大事なことである。その次がポーランドの三百七十萬人、勞農ロシアの二百九十七萬人、ルーマニアの百萬人、ドイツの六十萬人であつて、是はナチスの時代になつてだん〳〵國外に追放されたのであるが、全部放逐されたわけではなく最も有害なる分子だけが國外に追放されたのであつて、大部分は今も尙ドイツに居住してゐる、何人をるか正確な系統や數字は今のところ不明であるが。次にイギリスの三十萬人、フランスの二十萬人といふ狀態であつて、イタリーにも五萬人近くはをる筈である。

東洋に於ける分布狀況はよくわからない。彼等の言に依れば、日本に一千人、支那に一千人と稱してゐるが、それは信憑すべき統計ではなく、或はもつと澤山住んでをるかも知れぬ。例へば滿洲國だけでも一萬以上はゐるし、從つて支那にある英米人中には、大分ゐる譯である。勿論日本に來てをる英米人殊に米人の中には澤山をり、ユダヤ人の一千人など云ふのは信賴すべからざるものと思はれる。

## 三、ユダヤ教の本質と選民思想

分布狀態は以上の如くであるが、併しながら玆に注目す可き事實は千八百年もの長き以前より各國に流浪し、分布せられたる少數民族でありながら、何故に彼等は他民族に同化せられてしまはないかと云ふことは、考へなければならぬ。

如何なる理由で彼らが、少數民族としてありながら同化されないか。この點こそユダヤ人問題に於ける最も重要なキイ・ポイントであつて、即ち彼らの宗教、ユダヤ教に對する牢固たる强烈なる信仰によるものであることを特記せざるを得ない。ユダヤ民族の生命は一にこのユダヤ教にある。ユダヤイズムからユダヤ教を引いたらあとに何が殘るか、零と云つていい。彼らの宗教はその昔に於いては多神教であつたやうであるが、何時かその多數の民族神の中からヤーベ（後にエホバと呼ばる）が選ばれて一神教となり、今日に至つてゐるのである。彼らは元來說教と云ふ事を餘りしない。從つて宗派の閥を立てない。これは一つの大いなる特徵である。尤も彼らの中には最も熱烈なるオルソドックスと稱する正統派があり、或は自由主義かぶれをしたのもあるにはあるが、對立抗爭すると云ふ事はない。從つて彼等はキリスト教徒の現狀を嘲笑する。舊教と新教、舊教の中にオルソドックスあり、ローマンカトリックあり、更に又新教の中にも幾多の宗派が分立してゐる。爾餘の宗教に於いてもみな一宗一派を立てゝ對立し鬪爭して醜態を晒してゐる事に變りはなく、全く見苦しい限りであるとなしてユダヤ教の純粹性を絕對性を自負する。彼らの經典としては舊約聖書が主なるもので、その他に新約としてタルムードがある。舊約のバイブルをコーランと稱してゐるが、タルムードとコーランが彼らの經典である。ユダヤ教の根底をなすものである。

舊約聖書は何人も之に餘り疑ひを持たずキリスト教徒もまた常に無批判にそれを使用してゐるのであるが、かのキリストは舊約に慊ずして新約の教を說いたのであり、舊約を尊重しこれを信奉する事は、究極に於いてはキリスト教の精神に戻り、首尾一貫せざるに至ると云ふ事が、この頃のヨーロッパに於いても唱道せらるゝに至つた。「舊約を燒いて仕舞へ、然らざれば遂にユダヤ人の天下となならう」と。

これは餘談であるが、日本の或る一派のキリスト教徒に、「君のやうなことを云つてゐるとユダヤ人の天下になるではないか」と質問すると、「それはなりませう」といふ。「舊約聖書にさう書いてあるからユダヤ人が天下を統率するやうになるのは當前であらう」と答へる人があるが、是は眞に遺憾の極みである。

舊約は元々モーゼが神から直接啓示をうけて述べたといふことが

中心をなしてるのに對し、新約は後にキリストによつて說かれたものであつて、根本精神に於いて全く舊約とは異るものである。そこで反ユダヤのキリスト敎を撲滅せんが爲に西曆五世紀頃までに多數のユダヤ人僧侶の手に據つて編出された尨大なるユダヤ聖典がタルムードなのである。天文學、醫學を始め、學問の一切の分野を抱擁してゐるものではあるが、目的とする處がキリスト敎排擊にあつたが故に、他民族を攻擊する事に於いて痛烈を極めてゐる。これが又今日他民族との間に非常なる溝を作つた源因でもあるが、例へばタルムードの中には、この世の中の諸民族の中で人間と稱し得べきものは獨りユダヤ民族だけである、その他の民族は人間にあらずして獸類なりと書いてある。「他民族の所有するものは結局ユダヤ民族に歸すべきものである、故に之を今より汝らの手に回收すること何等差支へなし」。彼等は異敎徒をさして「ゴイ」と呼ぶ。元來ヘブライ語は右から左へ文字を書くのであるが、今日於ても彼らは右から左へ書いても左から右へ書かない。英語は左から右に書くが、その中に入つてゐるヘブライ文字は必ず右から左へ書いてゐる。決して風習を變へないといふ傳統を重んずる點に於ては天下之に類するものはない。「ゴイ」とは獸類といふ字で、又豚をも意味するのであるが、彼らは豚を非常に嫌ふ。豚の肉は斷じて食べない。國際聯盟へ行つて各國の高官連と食卓を共にした事があるが、ユダヤ面らしい顏がづらりと並んでゐるなと思つてゐると、果して、豚料理が出て來ると食べない。見るもけがらはしいと云ふ顏付で、ボーイに「持つて行け、持つて行け」といふ始末である。仲々上等の料理であるが、食べないのだ。事程峻烈に彼等は戒律を守つてゐる。この「ゴイ」がユダヤ人を殺した場合に於いてはその責任を問ふが、ユダヤ人が「ゴイ」を殺した場合に於ては何ら責任を問はないといふこともタルムードの中には書かれてゐる。封建時代の武士が百姓町人を斬捨てゝも差支へがないといふ以上の途方もない事柄が公然とユダヤ敎徒にのみ許されてゐるといふことになつてゐる。

私が十年程前ヨーロッパにをつた時に、ユダヤ人がパリ大學町の角でロシヤ人をピストルで殺し裁判沙汰になつたけれども、陪審裁判で到頭三十分ほど會議した後無罪放免になつた。それはつまり、辯護士が有名なユダヤ人で盛んにまくし立てた結果、白晝天下の公道で人殺しをしてもユダヤ人は無罪放免になつたといふ譯である。そんなことが現實に行はれてゐるのである。さういふわけで、このタルムードには隨分他民族を刺激する文字がある、これでは工合がわるいと云ふので、彼らもその不利益なることを悟つて近來はそれを削り、そのことがハッキリ書いてあるのは、世界に二ヶ所、一つはアムステルダムの寺院に、その他もう一個處にある筈であるが、我々の手に入るのはさういふことを除いてある。が、これ等のもの、

と雖も、彼らが優秀民族であつて他民族とはまるで異ふものであることをハツキリと記載してゐる。

私がロンドンで一千九百二十五年、「今出たばかりであるから之を買へ」と云つて買はせられたタルムード讀本といふ子供用のものに於いても、歷々とユダヤ選民思想の鼓吹を指摘し得るのである。

「此の世の物資は他民族の爲に神樣がお拵へになつたものでない、ユダヤ人の爲にお拵へになつたのである」といふのであるから、ハツキリ云へば「世界を掌握すべきものはユダヤのみである」といふことで、前に云つた他民族の所有するものは結局ユダヤに歸すべきものであるといふことになる。故に今より之を汝らに回收しても何ら差支へなしといふことなどはその一句に總べてを置いて見ることが出來るのである。イタリーに於けるシオニズムの機關雜誌に、今から十一年前であるが、ユダヤ民族の中にはユダヤ民族と他民族との融和運動を行つた馬鹿者があつた、併しそれらの人間は、水の中へ油を入れて之をかきまはして融和したと思ふ馬鹿者だ、一時融和したやうに見えるけれども、結局に於て油が上になつて水が下になつてゐるのだ、それと同樣に、優秀なるユダヤ民族が上層になつて鈍重なる他民族が下積みになるといふことは當前のことなんだといふまでに放言してをる位、彼らの自信力は强烈なのである。そしてそれらは總べて皆彼らの信仰から出發してゐるのである。

## 四、蛇の如き民族意識

それは大正十年であつたと思ふが、ハルピンに於て彼らの正月に二三お寺を歩いた。彼らは朝の十時頃會合するのだが、決して男女席を同じくせずして、熱心なる聖書の朗讀のやうなものをやる。聞いてゐると段々聖書の有難いところに行つたものであらうか、先づ感情の高い婦人席からすすり泣きの聲が起り、ハンケチを出し、それが男子席に傳はつて遂に全會集がしく〳〵泣き出す。それが聲を立てゝ泣くのである。終には體を激しく搖動かして慟哭狀態になり、何しろ五六百人もの會集が泣き叫ぶのであるから見てゐた私は少なからず薄氣味わるい樣な氣がした。その時私はヘブライ語も少しは始めてをつたが、彼らの節をつけて讀むやうなのは中々わからないから英譯のを見てゐたが、どうも泣かないでいいやうなところだつたので、不思議な氣がして隣の爺さんに、「オイ〳〵何處だ、泣くのを止めて敎へてくれ」といふと、「此處まではもう讀んだのだ、それはまだ先にかいてあるのだが今の所はお前の本にはないのだ」、つまりさういふ肝要のところは英譯などのには省略してしまつてあるのである。それでぼんやり私は聞いてゐたが、實に彼等は正月の元日から一堂に集まつて泣初めをしてゐるのである。その神に泣いて奉仕する有樣は到底日本などでは見られない熱烈なものであつた。

日本では正月元日の九時頃はお屠蘇も濟んで廻禮にでも出掛ける頃で、一杯機嫌の廻禮に直線行進が出來ないでじくざくでやつてゐる。彼等ユダヤ人が如何なる理由で斯くも眞面目に一堂に會して朝から宗教行事に浸るのであるか、是は前に云つた如く、彼等の歴史がさせるのである。彼らは至る所で迫害をされ先祖代々凡ゆる苦難に會つて來てゐる。彼らユダヤ人の頼りとするものはエホバだけだ、と感激の涙に咽ぶのである。我國の如く絶海の孤島の中で惠まれたる生活をし、内亂とか色々な戰國時代とかはあつたにしても天皇陛下の御稜威に育くまれたる所謂浦安國民である。我等に較ぶる時は思ひ央ばに過ぐるの感なきを得ない。

彼等の結婚式に參會した事もあるが、結婚式は寺で行ひ、他民族と同じく酒を用ふる。第一の盃は新郎新婦が酌み交はすが、第二の盃は、他日、失はれたるエルサレムが再び我が民族の手に神からお返しを願つて、世界に平和が來た時に初めて之を飲むのであるといふので、五分位の祈禱を行ひ、エルサレムが囘復されぬ間は斷じて飲まぬ。と、婿は床へコツプをそのまゝ落すのである。中には足でそのコツプを粉々に碎いて彼ら民族の滅ぼされた恨を深く認識し、イスラエル囘復を念願しつゝ結婚生活に入るのである。この結婚生活たるや實に臥薪嘗膽の結婚生活であつて我が國のやうに「高砂や」を歌つて鴛鴦の夢を結ぶ樣なことはないのである。その意識が今日のきんちやく切のやうなユダヤ人を作り上げたことになるのであるが、それは實に注目しなければならぬ問題である。彼等は今にそれを續けてそうした習慣を止めないのである。

もう一つ宗教上のことに就いて云はねばならぬことは『イザヤ書』第六十章五節に「そのときなんぢ視てよろこびの光をあらはしなんぢの心おどろきあやしみ且ひろらかになるべしそは海の富はうつりて汝につきもろもろの國の貨財はなんぢに來るべければなり」これは財政經濟に於てユダヤ人が世界の牛耳をとるといふことを書いたのである。その次の十節には今度は最後の豫言が書いてある。「とつくにはなんぢのために石垣をきづきかれらの王達はなんぢに事へん」これは正しく政治的豫言である。即ちこの異邦人はユダヤの爲に石垣を築き、つまりユダヤの殿堂ダビデの王座を建設する爲に石を刻んで石垣を築き、それが出來上れば、今は帝王政治といふものが各國に君臨してるけれどもこれは遂に顚覆し、現在は各國に於てユダヤ人は制壓されてをつても終には各國の帝王が金權を持つユダヤ人に屈服し、王等が之に事へるやうになるといふ意味が含まれてをるのであつて、刻下事情を思ひ起す時、實に深甚の警戒をしなければならぬ重大事實なのである。

私のユダヤ人問題研究の開眼をしてくれたのはフランスのアンドレ・スピールといふユダヤ人であるが、『世界大戰とユダヤ人』とい

ふ著書の中にその文句を引いて彼ら獨特の過激さをもつて、先般の世界大戰の意義をハッキリさせたのである故に是らの事は決して看過されてはならないのだと信ずるのである。

## 五、世界革命手段としての他民族第一線主義

彼等の言語、風俗等に就いても述べたいものであるが、それは紙面の都合で省略するとして、彼らの歴史の中で最も注目すべきものを拾つて見たい。或るユダヤの研究者はユダヤ人問題はフランス革命以後のことを述べればいいのである、それ以前のことは大した問題でないと唱へてゐるが、既に私はこれまでに彼らの發生から民族の離散にいたる歴史を述べた。從つてその中間を省略してフランス革命について言及して見よう。

フランス革命は學者の說によると、その原因は貴族、僧侶の墮落横暴であつたと云ふ。事實はそれに違ひないが、それをしからしめたのはやはりユダヤ人の差金に依つてゐたのであつた。ルイ十六世を斷頭臺に送つた後に年號を改めたのであるが、而もユダヤの歴史に因つて改め、ユダヤの正月元旦即ち九月二十二日を以て始めてゐる。國際聯盟は毎年九月の第一月曜から三週間位開かれるが、その間に必ずユダヤの正月が入つて來るやうになつてゐる。併しながらユダヤ人がユダヤ人として乘出したかといふとさうではない。あの時にはフリーメーソンといふ秘密結社として現れて來てゐる。元來ユダヤ人は少數民族であるから それが多數民族を動かして行くといふ場合自分自ら先頭には立つことは出來ない。從つて彼らは他民族を何時も先頭に立てるのである。他民族第一線主義(ジェンタイル・フロント)を立てゝ、自分はその背後にゐて常に糸を引くのである。このヂェンタイル・フロントといふ主義を實行する爲には一つの結社を作り、他民族を先頭に立て、而して巧みに自らを韜晦する爲の煙幕を張展しなければならぬ。その煙幕の役目を果しつゝあるのが秘結密社即ちフリーメーソンなのである。

## 六、フリーメーソンとは何か

それでつまりユダヤの陰謀を曝露する爲めには順序としてフリーメーソンの解剖を行へばいいのであるからそれを述べることにする。フリーメーソンは今世界に四百四十八萬人の會員がある。世界大戰の始まつた時には二百三十五萬人しかなかつたが。その後だんだんと殖えその中の大多數が居住してをるのが米國合衆國で三百三十一萬人も集つてゐる。即ち米國はフリーメーソンの國であつて、フリーメーソンに逆らつては政治も經濟も成り立たない。大統領も必ずフリーメーソンの機嫌をとつて初めて當選をすると云ふ風である。故に代々の大統領はワシントン以來フリーメーソンで固めてを

ると云つていい。ルーズベルト君は大統領になつた時、彼は大の日本理解者であるから、日米關係は好轉するであらうと云はれたけれども、獨逸から來た情報によれば彼はフリーメーソン秘密結社の三十二階級に屬し、最上級から次の位であるが、その位にをる人がフリーメーソンの大物である以上はフリーメーソンの決議によつて動くほかはなく、餘り當にはならぬ人物だと思つてゐるがこのことは參考までに附言する。

このフリーメーソンは何時頃から如何にして出來たか。フリーメーソンは本年を以て五千九百三十七年と云ふ年數を數へてゐる。キリスト紀元に四千年を加へて、「五千九百三十七年。」だと彼らは云つてゐるのである。その詳しいことは古いことなので沓として考へられないが、エヂプトのピラミッドも彼らが拵へたと稱してゐる。元は石屋の組合であつたのだが、石屋と云つても石ばかりでないが、「メーソン」といふ言葉は煉瓦、コンクリートなどの工事に從事するものをメーソンと云ふのである。大寺院などを建てる時には非常に高い足場を要する。その上にのぼつて仕事をし、工事の監督をなすには極めて性質のいい正直な立派な人物、而して技術の熟練したものでなければならぬ。若し監督不行屆で手抜きでもされて、萬一の事があつてはならぬと云ふので、非常な人選を要した。さうしてその中でも本當に信賴しうる職人は幾人もない、だから優秀な人物であるならば外國人でも差支へないといふので國境を越へて民族を問はずにそれを詮衡したのである。即ちそれがフリーメーソン、自由なメーソンである。これらは全く兄弟附き合をしてをつた。以後西暦一千七百十七年まではオペラチーブ・メーソンと云はれる實行的メーソン、即ち石屋の組合であつたのである。ところがその頃になつてそれに政治的色彩を入れてスペキュラチーブ・メーソンとなり、イギリスのスコットランドに於て第一回の政治的フリーメーソンが結成されて今日に及んでゐるのである。

## 七、フリー・メーソン秘密結社の目的とその罪惡史

彼らは何を目標としてゐるのか。即ち總べての帝王政治を破壞して共和政治となし、而も彼ら一流の治め方で行かうといふのである。イギリスで最初に結成されたのであるが、それは大陸からつまり宗教上の反逆兒の少數派が向ふへ遁れてそして拵へたのである。彼らは何を標語としたかと云ふと、友愛（ブラザーフッド）、慈善（リリーフ）、眞實（ツルース）を三つの標語として進んできた。間もなくそのイギリス製のフリメーソンが今度は逆輸入をして大陸に行き、大陸フリーメーソンと云ふものが出來た。それは何をモットーとするかと云へば、自由、平等、博愛である。その行き方の違ふ點はその標語を見たゞけで既にその動向は

分るのであるが、イギリス派の方はエボリューションを主張し、大陸派は一擧に急角度の囘轉をしようといふレボリューションであつて、革命的フリーメーソンが大陸の方であり、徐々に之を行はうといふのがイギリス派であつた。それは幾多の事象となつて現れて來たのであるが、大陸フリーメーソンが自由平等博愛の旗を以てフランス革命を先づ最初に行つたのである。今でもフランスに於いては寺院、官衙、學校、裁判所等へ行くとこの三つの標語が刻み込まれてゐて明かに彼らの功績を殘してあるといふわけである。このフランス革命が終る頃、それと殆ど引續き米國の獨立革命があつた。首謀者はジョージ・ワシントンであるが、彼はフリーメーソンの三十三階級ある中での最上級の者であつた。あれはフランスからラファイエット將軍が應援に行つてやり遂げたのであつて、あの獨立革命の凱歌の中にはユダヤ人の努力が非常にある。つい十數年前に書かれた本の中にもユダヤ人の偉力は非常なものだと讃へてあるが、資金を提供したり色々な盡力をして、アメリカ合衆國が英帝國の領土であつたのをその規範から脫出せしめてやつたのである。

前世紀になるとマルクスが出て來た。彼は本名をモルデカイと云ふユダヤ人である。ドイツ名を取つてカルル・マルクスと名附けてはゐるものゝ本名はモルデカイ・マルクスである。彼の父はユダヤ教の宣教師であつてフランスでフリーメーソンに加はり、「人權尊重」といふ名の附いた秘密結社員であつた。彼等が前世紀即ち一千八百四十八年にヨーロッパに革命を起した。有名なる『共產黨宣言』を書き、『資本論』なるものを書いた事は、衆知の事實である。四十八年の革命は美事に失敗に終り、千八百六十年に全世界ユダヤ同盟と云ふものをパリーに結成し、順次に根據を固くして、陣容を整へて現はれたのが第一インターナショナル即ち國際勞働者同盟であつて是は一八六四年九月二十五日にロンドンで發會式を擧げた。これが最初の勞働者インターナショナルである。これを以て愈々大衆を獲得し彼らの目的を達成せんと乘出して來たのであつた。その後第一インターナショナルは一八七二年に自然消滅を遂げたが、第二インターナショナルを一千八百八十九年即ちフランス革命の滿百年の記念祭を機會にパリーで結成し、革命への火の手を擧げた。この第二インターナショナルの創立などといふことは歷史としては極めて歷れたることであるけれども、併し世界大戰に於ける彼らの潛勢力に想到する時、重大なる意義を持つものである事を知らなければならない。歷史的事實の背後に於けるフリーメーソンの暗躍は、かくの如くであるが、一體フリーメーソンとユダヤ民族との關係はどうであるか、これには色々議論があつてフリーメーソンはイギリスのものだといふ說もあり、ヨーロッパに於てはその事に關する著書も出版されてゐるが、併し私はこの說には肯けないのであ

る。どうしてもフリーメーソンはユダヤ人の拵へたものであるといふ說を取る。アメリカの敎育者でフリーメーソンに加盟しその內實の何物であるかを知るに及んで脫退した人の著書に「予は如何にしてフリーメーソンに加盟し何故に脫退せしや」といふのがあるが、その著書によれば、彼が三十三階級中の十五階級まで擧げられて最後に書記長位まで登用されるに及んで、看板と違ふ處の一大事實を發見し、脫退すると同時に、その暴露をやつたのである。その人の著書には、フリーメーソンは上の階級に行くに從つてユダヤ人の占有する處となり、我々が如何に努力すると雖も上の階級にはなり得ない、しかも一切の事實を綜合するに、彼ら一團の意圖を實現する爲の一個の機關以外の何物でもないことを喝破してゐるのである。それを讀んで大體の見當が附いてをつたのであるが、次にユダヤ人のエンサイクロペヂュアを見ると、彼ら自ら秘密結社の最高級の幹部なるものは、大部分、若くは全部ユダヤ人であることを公然と言明し告白してをるのであるからこれほど確實なことはない。ユダヤ民族は彼らの目的を達成せんが爲に如何にカモフラージーを施してゐるかはこれらを以てしても瞭然たることである。

## 八、ユダヤ民族の獨立運動

前世紀末、一千八百六十年に全世界ユダヤ同盟が結成された當時から、彼ら民族の目的を達成する爲の政策を確立することに焦慮して三つの法則を審議した。その第一は、我々が何時まで經つても神樣の思召に添へず、目的が達成出來ぬといふのは土地がないからである。須く土地を何處にか獲得し、その土地を根據としてユダヤを確立し、支配權を成就して行く事でなければならぬといふ論であつて、それは遂に今のイギリスの總理大臣チェンバレンが外務大臣の當時に、具體的な話となり、イギリスの支持によつて、アフリカのナイル河の上流、ウガンダ地方の割讓を受け、そこにユダヤ國家の再興を圖るといふことになつて、その一派のものは滿足しようとした。ところが世界のユダヤ人の大部分は强硬にこれに反對した。そんな土地を貰つて其處でユダヤ人解放が出來たと思つて滿足する事こそ却て前途の障害である。むしろ短刀直入、一番解決のしやすい所、効果の多いところへ行くのがよい。それは何處かと云へばヨーロッパのロシアとドイツとオーストリーの接合點である。兎に角ポーランドとロシアとドイツを合せばユダヤ人口は六百萬以上に達するのであるが故に、その所へ益々ユダヤ人を移住せしめて、近隣諸國の政治狀態を變化せしめる。端的に云へば其處を據點となしてロシアとオーストリーとドイツとに革命を起させるのが一番宜い、全世界のユダヤ人の約半數がそこに集つてゐる、其處に於いて事を擧げるのが最効果的であるといふ論者が出て、第一歩として前世紀の

終りにポーランドにブンドを作つた。これが今日の過激派の元祖をなすものである。それから第一論第二論とは別に、その土地を獲得するといふ點に於いては第一論者と同じであるが併しながらそのウガンダは海岸線が幾らもない全く山間の僻地で、人間と猿の間のホッテントットを相手にしても始らぬ、そんな原始時代のやうな土地を取つても駄目だ、土地を得るなら、須らく我々の祖先が嘗て國家を爲したパレスタインでなくてはならない。パレスタインは神樣からお前達のやり方がわるいからと云つて叩き出されたが、神樣の敎を守つて忍苦をしてをれば必ずその土地も返してやるといふその約束の土地がパレスタインではないか。プロマイズド・ランド即ち我々の再興すべき土地ではないか。かくて結論は、パレスタイン復興と、ロシア、オーストリー、ドイツの革命を遂行すると云ふこの二點になつたのである。

## 九、ユダヤ賢人會議とシオン議定書

これは前世紀末即ち一千八百九十七年、明治三十年八月二十九日から三日間スイスのゼネバの北方バーゼルへ全世界から民族復興の熱狂者が集まつてユダヤ賢人會と稱する會議を開き甲論乙駁したのであるが、最後に二十四ケ條の決議をしたと云はれてゐる。彼らが發表したものは上述の如きパレスタイン復興を計企したやうな決議になつてをるが、彼らが秘密に出版したものゝ中には二十四ケ條の議定書（プロトコール）がある、これが問題の陰謀文書「シオン議定書」なのであるが。（後掲のシオン議定書並びに解說を參照されたし。）それは暫く現れずゐたのであつたが、ロシア革命の後即ち一千九百二十年五月ロンドン・タイムスが之を暴露した。ユダヤ人は非常に狼狽して、それは怪文書である、ユダヤ人は決して左樣なものを書いた覺えはない、それはロシアのニールスがユダヤ人を壓迫する爲に拵へたものでユダヤ人を誣ひるものだと反駁し否定してゐる。併しそれは私もシベリア派遣軍にあつて幸ひ彼らの怪文書なるものを見る機會があつたが眞に徹底したものであつて、餘りの事に世人は半信半疑であつた。從つて夙に問題とされ、大いに研究されて、最も世人が認識を怠つてはならぬユダヤ人問題が、閑却されてしまつたのであるが、由來、全世界を席捲し、腐蝕しつゝあるユダヤ國際主義民族運動は、このプロトコール即ちユダヤの誓約といふ議事錄を指導方針として組織され展開されてゐるのであるにも拘らず、而もこれを隱蔽せんとするユダヤ人が有ゆる手段を盡して、之を僞文書、怪文書なりと極力否定したことが日本の有識階級にまで浸み込んで行つたが爲めに當然重大問題化すべき筈のユダヤ人問題が暗默の中に葬り去られて來たのである。

我々に取つては、その僞文書、怪文書といふもの、つまり明治三

十年の議定書なるものを彼らが否定するならば否定したとて一向差支へはないのである。只、問題なのは、その決議書に書かれてある事柄が如何に今日の世界情勢を裏付け、今日の時局に符節を合してゐるか否かといふことが問題なのである。假令それが創作の小說、稗史であつても構はぬ。それに書いてある事柄が如實に現はれて來るならばそれは重要なる文獻として再讀三讀しなければならぬものである。之に反しユダヤ人のアブラハム・ハーンが書いたと彼ら自らが之を告白し證明しても、其處に議決した事柄が今日の時勢と離れて無稽のものであるならば是はナチスにでも燒いて貰へばいい。併しその二十四ケ條なるものは今日の時勢に合致して來てをるものであつて、彼らの計畫的の策略が既に半ば實現しつゝある事實は斷じて否定出來ないのである。故に是は書いた本人が自白しようとしまいと大いに尊重しなければならぬものと私々は思慮する。不幸にしてその眞疑論が先に立つたが爲めに、今日、日本に於ては相當達識の人達までがユダヤ人問題といへば、何だかわけのわからないものだとして敬遠し、之を追究しないと云ふのは非常なる間違ひである。要するに、現實の事柄を不問に附して、理論的に、出發點から演繹的に論じて行く時は、そんな馬鹿な事がと否定されるかも知れないが、逆に歸納的に現在の事實を綜合しつゝ、檢討の鉾を進めると云ふ立場に立つて私は今日まで研究して來たのである。

## 十、日露戰爭とユダヤ人

要するに、前世紀末にさういふものが出來て、それから日露戰爭が起つた。その日露戰爭とユダヤ人との關係が如何なるものであるか。日露戰爭は起るべくして起つたのである。併しあの時日本に金を借して扶けてくれたのは確かにユダヤ人であつた。高橋是清氏が財務官として國債募集に行つた時、二億五千萬圓の金を借して來れたのはヤコブ・シッフといふアメリカのユダヤ人銀行團の親玉であつて、これがためヤコブ・シッフは勳二等に叙せられてゐる。このことは本で讀んだゞけではいけないので、私はかつて政友會の幹部のところで話をした時に、私の話は私が申上げるよりか、高橋さん御自身がおやりになつたのであるから如何でございますかと云つたら、いや間違ひがないといふことであつた。それ位彼らは日本に財政的援助をした。そこで之を以て一知半解のユダヤ人問題を研究した人は、彼等は日本に對して好意を持つたではないか、それに對して論議するのは恩知らずであるといふのであるが、金を借してくれたことは有難いが、利息はチャンと取つてゐる。何故貸したかと云へば、前世紀末に於て彼らが考へてをつたロシア、その時ロシアにはユダヤ人が六百萬人も居住してゐたが、それらを解放する爲には日本を扶けてロシアを敗戰に導き革命を起させることが大なる目的

であつたので、日露戰爭の終末頃にはロシアに革命が起り、當時レーニンやらトロツキー等が暗躍をして事も明白な事實であり、また、レーニンもトロツキーも共にユダヤ人である事も事實だ。左樣に日露戰爭に就いてもユダヤ人問題は匿れた事實として現れて來るのである。その革命は中途半端で失敗に終つたが、更に今世紀に實行されるに至つたのである。

## 十一、ユダヤ世界支配の序曲としての世界大戰

世界大戰に於ける彼らの動きは、フリーメーソンとユダヤ人の方とを一括して述べることにするが、大正三年六月二十八日オーストリアの皇太子フエルヂナンド二世が、サラエボといふ——人口四萬の中五千人のユダヤ人が住んでをる——町を通り掛つた際、かねて隣國セルビアから潛入してゐたユダヤ人プリンチップなるものゝ爲めにピストルをもつて、フエルヂナンド二世殿下を暗殺した事が直接の起因となつて、世界大戰の火蓋が切られたのである。その下手人プリンチップの思想系統は、大陸フリーメーソンの一派にして、根據地をパリのカセイ街十六番地にもつ處のグラントリアン系統に屬する祕密結社員であつたのである。これが因をなして世界大戰は始まつたのであるが、オーストリアのウイヒテル博士の著書によれば、フエルヂナンド二世を犧牲にし之を以て世界大戰を惹起せしむると云ふ事は、一千九百十二年、即ち大正元年五月二十四日、ドイツの祕密結社の會議に於いて既に決議され、死刑の宣告は二年も前にフエヂナンド二世の上に下つてゐたのである。その決行は翌年の一千九百十三年にやるべき筈であつたけれども不準備と手違ひの爲に遲れて一千九百十四年になつたのである。かういふことが書かれてゐる。フリーメーソンが世界大戰を起したといふ事實は只一篇の著書のみでなく、セルビイア裁判所に於てフリーメーソンのプリンチップを調べた裁判記錄までウイヒテル博士は示してゐる。彼らは決して自らフリーメーソンだと名乘ることをしないが、それがこの裁判記錄にハツキリと現れてゐる。司法官が「お前はフリーメーソン祕密結社員か」と訊ねれば「何故さういふ訊問を私にするのか、この訊問に對しては私は答へる義務はない」と云ふ。裁判官は、彼等は祕密結社員であることを決して云はないのを知つてゐるので訊問の形式を變へて「この問に對して答へなかつたならばお前はこれを肯定するものだと認める、改めて訊く、お前はフリーメーソン祕密結社員か」——被告は默して答へない——「よし然らばお前を祕密結社員と認む」裁判長はかう云つてきめつけた。それに對し抗議も何もしない。他人が認めるならば勝手だ、自分の口から祕密結社員だと云はないことになつてゐる。だから外國から同志や兄弟が

やつてきても、そこでやはり一應の訊問をする、一番長老が「お前はフリーメーソン祕密結社員か」「人は私を左樣に呼びます」と答へる。自分からは決して云はないのである。

それらは餘談であるかも知れないが、要するに世界大戰は祕密結社の手によつて始められたのである。而してその大戰を終らしめたのも彼ら祕密結社である。一千九百十七年、つまり大正六年六月二十八日、フェルヂナンド二世暗殺の滿三周年の日に、プリンチップの屬してをつた系統のパリ、カデイ街十六番地の本據に於て、有力なる結社員の集會があり、「如何にして戰爭を終熄すべきや」の議題の下に會議をしてゐる。戰爭が擴がつて來て、世界大動亂の總豫備隊のアメリカまで參戰したのであるから、大體此の邊で終局をつけなければならぬ、如何にこの世界大戰の結末をつけるかといふことの下相談をしたわけである。フリーメーソン自ら火をつけてゐながら今度は消防を自分で考へてゐる。その議事錄と結論とを、私はこの前あちらへ行つた時に手に入れて來たのであるが、その內容には、今ぜひとも國際聯盟といふものを作らなければならぬ、そして現代の如く各國の君主が主權を持つてゐてはどうしても我々の思ひ通りにはならない、それで各國の主權の上に更に一つの國際的の會議を置き此處へ各國の代表を集めて議論をした結果その決議には絕對に如何なる國も服從するといふ規約を作つて超國家主義にしなければならぬ、今の國家主義のまゝでは我々の意志は遂行出來ない、各國は既に四年間の永きに亘つて戰つたのであるから、今は疲勞の極に達して居り、みな平和を待ち望んでゐるに違ひない、これからは國際聯盟と云ふものによつて戰爭を防止すると云へば如何なる犧牲も忍んで行かうといふので、必ずやこの國際聯盟に多くの應募者が出來て成立するに違ひないといふ決議をした譯である。而もこの國際聯盟規約草案なるものは十三ケ條ある。現行の規約は二十六ケ條あつて、丁度草案はその半分程であつたが、骨子はその時の決定したもので大體成り立つてゐる。あとは規約上のこととか、阿片取締法などが附け加へられてゐるに過ぎないのである。

世間では、國際聯盟の創立者は米國大統領のウイルソンであると考へてゐる向きもあるが、これはつまり祕密結社が作つたのだと云つては世間に出せないから、フリーメーソン結社員であつて米國大統領といふ看板を持つてゐるウイルソンが提唱したことにして、徐々に彼等がでつち上げて行つたのである。

國際聯盟の石壁には「國際聯盟創立者 米國大統領ウッドロー・ウイルソン君に敬意を表す」と書いて毎日の樣に花輪を捧げたりしてゐるが、實はこれは「祕密結社」に敬意を表してゐるのであつて、ウイルソンはその看板に擧げられたのに過ぎない。

その證據には米國は脫退して今も聯盟に加はつて居ない。これを

見ても判る樣に國際聯盟は明かにフリーメーソンのものであり、それは取りも直さずユダヤ民族の不逞なる目的を達成せんが爲に拵へたものであることは明瞭である。私共は陸軍代表の任命を受けて歐洲に赴く前から裏面の事情を知つてゐた。行つて見ると、正に我々が調べてゐた通りである。當時の事務總長のドラモンドを始め、現在の事務總長に代つてゐるアブノールとか、リットン卿の調査員で裁判長になつてゐるハースとか或は支那を焚きつけてゐたライヒマンとか、かう云ふ連中がずらりと政府委員席にユダヤ面を竝べてゐる。實にその光景は氣味の惡い程であつた。而も不愉快なことには、彼等は私共がユダヤ問題を研究してゐることを知つてゐるので事毎に色々な妨害を加へたことである。

だが、翻つて思へば、あの未曾有の戰禍とも云ふべき世界大戰を起し、更に彼等が之に結末をつけたといふことはその善惡は問はないまでも、現世紀に於ける彼等の恐るべき大きな働きであつたと云はねばならない。

## 十二、ユダヤ思想の日本に及せる影響

フリーメーソンが先に述べた如く、彼等の結局の目的たる共和國を拵へようとして、その共和國を聯盟的に、云ひ變へればデモクラシー的にやり遂げようとしてゐる、その實行方法に就いて述べねばならない。これにも又、百パーセントの手段を講じてゐると云つて宜いのである。學界方面に於ては共和主義を注ぎ込んでゐる。これは一昨年あたり日本でも喧々囂々と論議された、例の「天皇機關說」この問題も元を糺せば卽ち彼等の拈出したものである。つまり急激な轉囘ではなくて逐次に徐々に國家主義の思想を變革して行かうと云ふ一つの方法がこれである。今日では既にさう云ふ思想に憑かれた人は恐らくなくなつてゐるであらうし、私もこの反國家的な不敬思想を繰返して論議したくはないが、只この思想の種を打開ければあれはドイツのユダヤ人エリニック博士が編み出した憲法學の一種が日本に傳はつて來たものである。これが段々と年を經て約三十年間、全く我國の國體に背反せる正體を現はし始めて、漸くこの思想が一部の學者によつて唱へられるに到つたのである。これは實に許すべからざる國犯思想である。私の友人菊池男爵によつてこの不敬問題の處置が提唱され、早急にしてこれが一掃する事の出來たことは實に幸ひであつた。

又文學方面等に於いては、頽廢と臘奇とを取り交ぜた軟文學を鼓吹して人心を妄逸遊情に導かうとしてゐる。故人厨川白村は、ユダヤ人を非常に尊敬した文學者で、大正十二年五月の「改造」に數名の自由主義者と筆を揃へて、「ユダヤ人問題」を發表して、之を徒らに研究したり攻擊したりすることを罵倒したものである。「日本人が

何の自覺があつてユダヤ人問題を論議しようとするのか、ユダヤ人は實に優秀なる民族である、殊にイギリスのイスラエル・ザングヴイルといふ文學者を見よ、國境を越へての激しい戀愛——『メルテイング・ポオット』といふ名作を讀んで見よ」と云つた調子で、我々は何もユダヤ人のことを知らない癖に唯だ聖典とユダヤ人の人種的問題を論議してをると云つて罵倒した。實に彼は文藝方面に於ける當時のユダヤ崇拜の第一人者であつた。

私共が大正九年頃から決死の努力をもつて、暗殺されることまで覺悟して歐洲を巡り、ユダヤ人の家庭に入つたりして研究した血の滲む樣なこれらの努力をかうした一派の人達は安易な流行雜誌に據つて非常に妨害したのである。イスラエル・ザングウイルを解剖して見たにしても、彼は軟文學の泰斗であつて實に名文家であり、Children of Ghetto とか Ghetto Tragedies など云ふ色々な著書もあるが、私共も少しは讀んでゐる、併しそれらの作品は明かに共產主義に傾いた思想を藏してゐる。彼は先般イギリスのカンタベリー大僧正が抗日デモを司會したアルバートホール——八千人も入る大ホールでフリーメーソンの集會所で——そこで大正九年かに演說をして、「社會主義と共產主義とは結局に於いて同じものであり、この世界の指導者が我々ユダヤ人であるといふことを忘れてはならぬ」と云つて絕叫した有名な左傾の文學者である。この樣なものを日本の文學者は非常に推賞してをるといふ事柄が、だん〳〵と左傾思想を持つユダヤ人といふものは秀れた頭腦の持主だといふ風な考へを無意識に先入せしめた。彼らが軟文學を以て毒しようとしたことは人間の頭腦が哲學や宗教や學理によつて高く或は固くなつてゆくことを恐れたのである。米の種をコンクリートの上に播いた所で植付くことは出來ぬ、米の種を蒔く時には苗代に水を與へて柔かにして置いてそこに種を播かねばならない。軟文學を以て彼らの頭を柔軟にした上で、自由とか平等とか友愛といふ風な文字を、つまり毒素を僅かづゝ入れて置いて讀み易いやうに工風してある、讀んでしまつてあとに、どうもこの世の中は是正しなくてはならぬと云ふ所へ導いて行く。彼等の用ひた軟文學の用途がこれであつて軟文學を非常に流行せしめたことは赤化手段の一方法として彼らは既に考へてゐたのである。

## 十三、三S政策とは何か？

今一つ述べなければならぬことは、彼らの三S政策である。即ちSex. Screen. Sports の三つの頭文字を取つた民心攪亂の政策で、スポーツは立派なものでありスポーツ精神もあるが、併しながらこれに熱中して天下國家を憂へず、時局に對してもそれが爲に關心を失ふと云ふが如きに到る危險がある。これは丁度面白いものを見せて

置いて、懷中物をスリが拔きとるのと同じ樣にスポーツに熱中してしまつて、その中から大和魂とか日本精神とか道義心とか、さういふ懷中物を奪はれる危惧がないでもない。だが、これはその點を戒心すればいいのであるからスポーツについては私は敢て多くを云はない。

次にセックスの問題である。彼らが懸命にこれを以て目的達成への手段としてゐることは恐るべきものがあるが、日本にもこの魔手は入つてきてゐる。ごく最近、歐洲から歸つた友人の話によると、フランスの墮落した人民戰線一派の娯樂と云へば、芝居に行つても芝居の舞臺の上に寢臺を擔ぎ込んでゐる場面がどんな芝居の幕にも出て來るといふ實に頽廢の極に到してゐると云ふことである。

更にさき頃、前フランス總理大臣レオン・ブルムが、彼はユダヤ人で社會黨の主力者であり、共產黨と全く相通じた思想の持主であるが、先々月の『婦人公論』が彼のものを發表して、日本では發禁になつてゐる。處女の貞操觀念といふものを目茶目茶にすることを彼は新しい道德として平氣で書いてゐる。誰が考へても、これは腹に一物あつて書いてゐるとしか思へないものである。

尤も最近のヨーロッパから來た情報によると、「ブルムは不都合な奴だ」と云ふ攻擊があつて、フランス大通りの映畫館などでは、ブルムの顏が畫面に出てくると、口笛を吹いたりして排斥されてをるさうであるから、本家のフランスに於いても、心ある國家主義者などは憤慨してゐる譯だが、これは當然のことであらう。この樣なものを態々日本で飜譯したりして失態を演じてゐるわけである。

次にスクリーンであるが、詰り映畫を以て人心を塗毒する、目から入るものは耳より入るものに比べると遙かに印象が强く、この方法で徐々に人心を刺戟して道義心を頽廢さして了ふ目的としてこれをやつてゐる。今日のアメリカ映畫の大半を占めるものは淫美なるレビュー映畫である。

人心を浮薄に墮せしめる多くの要素を、文化と云ふ假面にかくれて映畫が果しつゝあることは誰しも認め得るであらう。

## 十四、彼等の持つ二つの顏と四本の手

次に擧げねばならぬ事は、彼等ユダヤ民族があのメーデーの創設者なる一事である。一千九百七十六年の五月一日に、ドイツのインゴロスタットフルで、五月一日に秘密結社で出來たのであるが、それが勞農ロシヤ邊でやつてをる秘密結社ボルシエビッキの元にもなつてゐる。この結社の綱領を見ると實に激越過激なことに驚く。例へば、「總べての宗教道德を否定せよ」と書いてゐる。かうしたものが今日の三S政策の因にもなつてゐるのであるが、併し、彼ら自身はユダヤ教に非常に熱烈でありながら宗教否定をするのはどういふ理

由かといふに、彼等自身は非常に内に堅固であり乍ら、外部のものに向つては破壞をもつてするのが彼等の常套手段なのである。

マルクスはあれほど喧しく「宗教は阿片なり」と云つて宗教打破を主唱して居り乍ら、自分はタルムードのトーラの縮刷本を何時でも懷中にしてをつて他人のゐないところでは讀んでゐた。かう云ふ表裏の策動が、彼らの常套手段であつた、今でも勞農ロシアのユダヤ人の中で宗教撲滅課といふのがある。その課長はユダヤ人がやつてゐる。しかしこれは決してユダヤ教を潰してしまふのではない。他の宗教は撲滅してしまはなければならぬが、つまり、自分達の目的達成の爲に障害になるものを打破してしまふことが信條である。彼等は常に斯くの如き手段を講じて己れの民族を固め、他民族をしては八方から革命が自然に發生せしめるやうに努力しつゝあることを見なくてはならぬ。

溯つて先般の世界大戰を觀察するに、何の爲の世界大戰であつたか。その結末として齎らされたものは何であつたか。前に述べた如く、國際聯盟は作るには作つたが、一方に於ては、ドイツ、オーストリア、ロシアの三ケ國の接合地に於いてブンドを拵へようとするユダヤ民族の前世紀からの決議であつたものを實現した。そして、一千九百十七年大正六年三月、ロシア革命が起る翌年十月にオーストリアに既に革命が起り、十一月にドイツに起り彼らの目的としてをつた革命運動は先づ過半は成功したと云はねばならぬ。即ち世界大戰の目的は革命にあつたのである。

革命の目的を達成せんが爲に、之ら政策をもつて人心を蠱惑し、道義心を喪失せしめ、或ひは民族個有の傳統、信仰といふものを打破しようとした、これらはすべてその手段であつた。

私はヨーロッパから歸つてきてからも常に「第二次世界大戰來る」を叫んで來たのである。彼らは先般の世界大戰に於て、半ば目的を達してゐるのであるが、しかし何時かは第二次世界大戰を始めて、現世紀に殘存する堅實なる國家を破壞しようと企策してゐる。之については私は大正三年頃、まだ軍職にあつたその當時から之を叫んで來たのだが、その頃の人は、徒らに警世の言を吐くといふので私を非難してゐたが、今日に於ては何人も第二次世界大戰來を憂へない人はないと思ふのである。

即ち先づ起つたのが滿洲事變である。之に先立つて大正三年ドイツの海軍少佐ドッセルが或る雜誌に「日猶間の大戰爭」といふ題名で一文を公にした。それには、支那問題を中心に日本とユダヤとが正面衝突するにいたるといふ警言をしてゐる。その後に於いて滿洲事變が起つたのである。滿洲事變勃發前に、私は大正五年末から六年初めにかけて上海、南京と漫遊し、彼地の要人とも會ひ、秘密結社員にも會つてきた。そして如何にも大事が起らなくては濟まぬと

感じたので、年賀狀を省略して挨拶狀に次の如く書いたことがある。

今回の旅行は短時日に候ひしが、海外に於ける我が國威失墜の實狀と世界動亂の兆有之候ことに關し從來の所信を深め候

その時の感じがたしかに的中した。昭和六年一月元旦に、蔣介石の唱へた祝辭演說が第二次世界大戰來である。その要旨を述べると「第二次世界大戰の時期が迫つて來て、之には歐米諸列强も參加するし日本は無論參加するのである。而して之がために一番多くの犧牲を拂ふものは我が中華民國である。併しこの大犧牲を忍ばなければ我が國威回復は到底出來得ないのであるから今よりその準備に取掛らなければならぬ」——といふのである。

それから少し經つて、當時の外務大臣王正廷が浙江省で演說して曰ふには、「今年こそは中華民國の國威を回復すべき年である、總ての不平等條約を廢棄し、平等條約を締結するのである。殊に日本に對しては南滿鐵道守備權を拋棄せしめ、南滿洲を我が手に回收するのである、この運動に對しては必ずや日本が極力反對するに違ひない、併しながら我々は今や軍略を練り兵器彈藥を準備して敢然として起つならば日本を必ず屈服せしめうる」といふ御托宣である。是は大分おだてられてゐるなと、私は思つた。そして彼等が何人によつてかくの如く躍らせられるのであらうかと靜かに考へて見ると、これは總て世界のユダヤ人にであり、直接には秘密結社がそれである。元來孫逸仙なる國民黨の開祖が、このヨーロッパで出版されてゐる本にも書いてゐるが、彼は東洋方面に於ける相當のフリーメーソンであつた。それを我が國では「窮鳥懷に入れば……」と云ふので、頭山、犬養氏等が彼を擁護してやつたが、遂に革命を起した。それ以來國民黨といふものは孫文の衣鉢を繼いで來てゐるが、それはすべてフリーメーソンである。

私は上海のユダヤ人の機關雜誌をずつと見てゐるけれども、それらを讀んで見ると實に齒の浮くやうな彼らの策動が、恰も手にとるやうに見える。蔣介石とか王正廷とか歐米派と稱する彼等は悉くフリーメーソンの加盟者であると斷定しても間違ひがないと思はれるのである。

是より先私がヨーロッパを去る頃、彼等フリーメーソンが世界政策を立てゝ曰く「ロシアと支那が打つて一丸とする經濟組織を作る、それが出來たならば印度も之に加はる、さうすれば八億の人口を抱擁するから世界の大半は我々の手に入るのである。さすれば日本が一億足らずの人口を擁して如何に軍備强兵を誇つて見たところで問題にはならない。又ヨーロッパ諸國が如何に反對して騒いだところ

で問題にならなくなる、我々はこの露・支・印三國の經濟ブロックを作ることに努力するのである」と公言してゐた。それが私の耳に入つたのが今より十年前である、私は之を頻りに唱へたが中々人々は承服しなかつた、併し事實は着々とこの危機に向つて進んでゐた。

## 十五、猶太サツスーン財閥は東洋に於て何をなしたか？

一昨年七月二十五日モスコーに於いて第七回コミンテルン會議があつて、三ケ條の決議が成立した。その第一條は、彼らが百八十度轉向のもとに、從來は第二インターナショナル即ち社會主義者をコミンテルンには容れなかつたのであるが、それと共同戰線を張ることにして、ファッショを排撃するものは、社會主義であらうと自由主義者であらうと、如何なる政黨員でも悉く我らの仲間に引入れ人民戰線を作るといふのが第一條の決議である。次の第二條は、赤化の主なる目標を日本、ドイツ、イタリー、ポーランドに選定して、イギリス、アメリカ及びフランス等の資本國とは接近すると云ふ戰術をとることを決定した。第三條は、日本赤化の手段として支那利用に力を注ぐこと。即ちこれを見てもロシアと支那が接近してゐることは極めて明かな事實であつて、これは我が國に取つて形式の變つた宣戰布告なのであるから之に對抗する爲に日獨防共協定なるものを拵へたことは當然のことである。しかし日本の自由主義者で、フリーメーソンを擁護しようとする者は頻りに之に反對をして、議會に於いてもあのやうな論戰をしてゐる有樣である。又昨年に於ては汎太平洋平和會議がハワイであつた、私の友人の中將が之に參加して歸つて來たが、話を聞くと、その議會の幹事達が準備して來た議案には、中華民國ソビエート政府と南京政府、中華民國とソ聯政府南京政府とを如何なる時期に合流せしむるを適當とすべきかと云ふ一案であつた。不都合千萬と云はねばならぬ、そこで「君達はまじめに之を提出するつもりか」と質問したところが、餘り緞幕が激しかつたのか、到頭議案を上程せずに終つたが、彼らは上程する積りでゐたのである。隨つて、露支を打つて一丸としようとする努力は着々と進んで來てゐたのである。

そこで今回の事變にもなつたのであるが、それに到るまでの彼らの手段を考へて見ると、例へばリース・ロッスといふ男はイギリスの永久財政顧問であるが、日本までやつて來て朝野の大歡迎を受けて歸つたが、彼はまさしくユダヤ人で、上海に大本據を有するサツスーンといふ大財閥の手中にある——サツスーンはロンドンに本家をかまへて居るが——そのサツスーンを中心とする猶太財閥の大會議が一昨年開かれ、その會議の決議を齎らして彼は東洋へやつてきて支那幣制改革を持出したのである。彼としてはフリーメーソン將

介石の位置を鞏固にし、彼を唯一の支那統一者にしてしはまなければ都合がわるいと考へたのである。支那を統一せしむるには先づ貨幣が別々ではいけない。そこで貨幣統一の手段として中央銀行から大量に紙幣を發行して之を北支へ配り、その代りとして北支にある銀を寄せ集めようとした。彼はこれに成功して、北支一帶には銀貨がなくなつたのであるが、併し中央政府の南京に銀が溜つたかと云ふに、勿論色々それには借金のかたもあつたであらうが、殆んどはユダヤ人が香港へ持つて行つてしまつた。北支から銀を捲き上げる一つの手段であつたのであるが、捲き上げたゞけではなくて、彼ら獨特の狡猾浚敏な頭腦をもつて、一石二鳥の案を考へたのである。つまり、一方には貨幣統一をして銀を捲き上げ、他面にはこれが蔣介石政權擁護の一つの手になつたわけである。紙幣を持たせられてゐる國民にとつては蔣介石が倒れては無効になつて仕舞ふので如何にしても南京政府を擁護しなければならぬ破目になる。その紙幣を賴みに中央政府を擁護し始めた譯である。

日本から經濟使節を派遣する樣になつて、經濟使節が蔣介石と會談して見ると、彼は「支那も經濟的提携を日本とやりたいことを希望する、併し冀東冀察の政權が北支にあつては到底我々の方はその提携は出來ない。だから冀東冀察の政權を解消し、もつと中央と聯繫が緊密に行はれるやうにしてくれないか、かゝる方法をもつてすれば經濟提携は容易に出來るだらう」と、却つて日本の經濟使節は彼に、云ひ聞かされて訓示を受けた樣な始末である。「私は貴國の澁澤さんに大變御恩顧になつたが、澁澤さんに『論語』を聞かされたが「己の欲せざるところを人に施すなかれ」——と教へられたことを憶へてゐる。澁澤さんの爲に二分間默禱をいたしませう」と默禱までやらされたさうである。そこで經濟使節が日本の政府に報告すると、政府もなるほどと考へて冀東政權の解消、五月中頃國旗を引降せといふ風なことまでやつて、冀東政權の方は中央との聯繫が濃厚になつた。これらの點を看破して、サッスーン財閥は奸策をめぐらしてゐたのである。

## 十六、支那事變の背後にて彼等はいかに暗躍してゐるか？

このたび、上海に於いて占領した復旦大學の教授の一人が、『日支戰爭未來記』といふものを書いてゐるが、その中で、「日本は人的資源が乏しいこと、物的資源の乏しいこと、財政について行詰りを招來すべきこと、等を述べ、反對に自分の國を實に過大に見積つて、日本に飛行機が多數あると云つたところで萬一演習でもすれば故障ばかり起してゐる。こんなものと戰つた所で凱袖一觸だと云ひ、日本は今や思想に於ても非常なる變調を來してゐるから、戰爭の第一

年はそれでいゝとしても、第二年になれば日本には必ず革命が起る、長期抵抗する覺悟であれば何等恐るゝところはない」と書いてゐる。是らは復旦大學の一教授が書いたものでもなければもとより調査したものでもない、彼等を唆かしてかゝる暴言を吐かしめたものは、イギリス帝國政府と云ふよりも、イギリス政府は全くユダヤ人の手中にあるのであるから、これらは全くユダヤ財閥のカラクリである。

昭和七年三月に停戰協定を上海に拵へてあつて、支那兵は入つて來ない筈であるのに、何故彼等が入つて來たかといふと、英米が之を默過してゐたのである。七月に蘆溝橋事件が起る前に彼地の形勢が怪しくなつたので日本の官憲から停戰協定に加盟した總領事を促して、形勢の不穩であることを述べ停戰協定を發動する樣に勸告した。ウースン砲臺を修築したり或は保安隊の服裝をしてどん〳〵正規軍が上海附近に、停戰協定の線を越へて亂入して來てゐる。默つてゐるわけには行かない、みんで調査する樣に幾度も云つたのであるが、彼等は日支間のことは日支で善處すればいゝといふ態度で中々乘氣にならなかつた。遂に併し之を促がして六月二十三日第一回の會合をしたのである。かうして、徐々に衝突が起る頃になつて英國は急にあはて出した。

今にして考へれば、彼等が支那兵の闖入を默過してゐた理由は、支那があの手薄な日本の陸戰隊を黃浦江へ叩き込んで、上海の日本居留民を絶滅さし全く根據地を奪つた上で、日本の南支へ掛けた手を全部引かしてしまふ積りであつたらしい。それらについてはサッスーン財閥の番頭格であるアノールドが大活躍してゐる。この事件について此處に詳述する事は出來ないが、例のヒューゲッセンといふ今も英國大使をしてゐるユダヤ人が、あのインチキ極る報告を出して問題を紛糾せしめ實に日本に迷惑を蒙らせたが、日本海軍は頑として之を否定してたので有耶無耶に消えてなくなつたあの事實。その他、現地に於けるイギリス政府のやり方を見ると憤懣に堪へないものばかりである。イギリスの中にも、之を反省してゐる人はゐるのであのリットル海軍提督などは、長谷川司令官が見舞に行つた時に、「私の方の大使があゝいふ區域を通るのに貴國の方に御通知もしないで通つた點に於いて手落もあるから宜しうございませう」と云つて釋然としたさうである。が、このことまで英外務省は承知しない、そんなこと云つた筈はないと云つて抗議して來てゐる。大體英國の外交官の系統を見ても判るが、ヒューゲッセンの前任者はカドガンといふユダヤ人であつて、それがロンドンの外務次官をしてゐるのであるし、みな同じ穴の貉がやつてゐるのである。

だが恐らく今日の如く我が皇軍が正義の軍を起し、破竹の勢で武威を振つてゐる前には如何なる彼らの魔の手も施しやうがないに違ひないが、我が軍が杭州灣に上陸する時でも、英國は後をつけて來

て、色々な卑怯なことをしてゐる。

此處で一言、私の親しく見た上海戰線について語りたいと思ふが私が上海に赴いた時には、陸戰隊は八月十三日以來千人足らずで、數十萬の敵軍に對抗してゐた。私は第一線の激戰直後に、色々と說明を受けたが、その時、二階と下で擊合ふ樣な異樣な物音を聞いたのである。二階でしきりに氣合を掛ける聲が聞える。見れば海軍の兵隊達が銃劍術の稽古を始めてゐるのである。私は胸を打たれた東鄕さんが「勝つて兜の緒をしめよ」と云つたあの戒めをよく守つて、更に來るべき戰鬪に備へんとして銃劍術を懸命にやつてゐる。實に有難い力强いことだと思つた。

又飛行根據地も見て來たが、陸海軍がお互によく協力して共同作業が實に巧く行つてゐる。殊に海軍に於ては、八月二十日、陸軍が例の勇壯な敵前上陸を敢行した際にも、陸軍としては非常な弱點を形成する場合であつて、運送船で敵前へ迫るのを敵に發見されて爆擊でも加へられたならば、如何とも施す手段はないのである。第二第三、第四、第五の常陸丸を出さなければならぬ。そこで、海軍としては、船から上陸させるまでは敵の一機をも近附けまいとして嚴重な警戒をしてゐた譯であるが、何處より來たものか、敵の戰鬪機が二十七機三機編隊で三段構へになつて上海の北方寶山の上空へ現れた。この時、我軍の軍艦から警戒してゐた艦上戰鬪機は僅か四機である、敵は二十七機數に於ては到底これは衆寡敵すべくもないが併しながら、一刻たりもと今は猶餘が出來ない、之を未然に防がねばならないので敢然として二十七機に向つて戰鬪を開始した。その中、遂に十三機を擊墜し、一機は行方知れずになつたが、あとの十三機は雲を霞と逃げ去つたのである。我が空軍の勇士達は如何にして戰つたか戰鬪の經過を覺えないと云ふ。これは本當だらうと思ふ擊墜する時の戰鬪法は普段霞ヶ浦等でやつてゐるのであるが、これが實戰となつて、目前の敵機に向つて行く時には體當りにぶつかる積りで行く。

日本の軍人には精神力が橫溢してゐる。まかり間違へば一つと一つで損はない覺悟で敢然と突擊するのである。向ふは反對に精神力が脆弱であるから、劍術で云へば所謂、氣合負けがしてしまつて、飛行機などでも我が軍機の突擊に對しては機頭をすぐ外らして仕舞ふ。そこで忽ち射擊する餘裕を與へる。この樣にして次々と落してしまつたと云ふ譯である。かうした呼吸は、身を殺して仁を爲す平生からの訓練と精神が生きてゐるのである。

これと前後として上海の東側の浦東に敵がユダヤ系統の抗日分子と結んで退かなかつたことがあつたが、これを飛行機で擊滅した時の水直急降下等を見てきたが、あの急降下爆擊といふものは、初めての人などがやると一時は氣絕する位激しい衝動を與へる。何し

ろ一秒間に百二十五米位の速さで矢のやうに下つてきて、目標の所へ見當を附けて置いてそこに爆彈を落してすつとまた上空へ返すのであるが、百二十五米と云ふ速力のついた機體を急に返すといふと弱い飛行機などは空中分解をしたりするのである。又、譬ひ飛行機の方は大丈夫であつても、人間の方は、頭がクラ〳〵して、骨と肉と放れ〳〵になる樣な氣がするものである。さういふ激しい訓練と膽力とを普段から着々と我軍はやつて來てゐる。それが今日、或は空中戰に於て、或は爆擊に於いて効を奏し、大勝利を博しつゝあるまた、これらの背後には整備員の實に圖り知れざる努力がある。整備員の働きたるや誠に大變な努力であつて、彼の人達は一心に飛行機を點檢し修理して、油を注すところには注し、ピンの折れかゝつたのを取替へたり、ネジの戻らないやうに色々調べた上、キチンと整備して、途中で故障を起したり、戰鬪中に自分の整備が不十分の爲に空中分解したりするやうなことがあつては相濟まぬといふので實に深甚の注意を拂つてゐる。不眠不休の努力である。第一回の點檢をすましてからも、もしも何處かに見落しがあつてはならぬと云ふので、又やり直す。司令がこれを見かねて、人間の體力には限度がある、まだ戰爭は續くのであるから十二時頃迄もやつてはいけないと云はれたさうである。彼等整備員の中には、もうこれ以上は神樣におたよりする以外にないといふので飛行機の前へ、自分の乏しい財布の中からお供への餅を買つてきて供へ、或る者はお守りを買つてきたりしてみな一心に「自分の點檢にあやまりがなく、この飛行機を以て百パーセントの働きをして無事に本隊へ歸つてきて貰ひたい」と祈願をこめて送り出すのださうである。

戰鬪をする搭乘者の熟練した技術と精神力、一死報國の無我の境に入つた精神力、それと同時に、この整備員の至誠神に通ずる努力とが渾然相合してあの空中戰に於て大勝利を博しつゝあるのであつて、私はこの實景を目前に見て、深く感銘した次第である。

我々國民は或る意味に於て確かに整備員である。この內地から陸軍海軍空軍を出して奮鬪して貰つてゐるのであるが、若し我々の心得がわるくて、內に整はざるところがあつて、前線の勇士をして後顧の憂を持たせるといふ風なことになつたならば我々は誠に相濟まぬ。個人的に云ふならば、出征者の家族或は遺族をよく訪問し慰藉し之を援助して後顧の憂へをなからしめるやうにしなければならぬ。又之を綜合して大きく云へば、我々國民の結束といふものは何處までも強い溫いものでなくてはならぬ。何處までも擧國一致してやるのだといふことも、向ふに行つてゐる兵隊はあれだけ實踐してゐるのであるから、我々も何處までもやつて行かなければならない。現在第一線にゐる將士から、「今度こそは私共は何處までも戰つて戰ひ拔くから、今度の事變の立派な結末をぜひともしつかりつけて貰

はぬと困る。我々は出て來た以上はいくらでもやるから、どうか國內に於いてもしつかりこの事變の處置をつけて貰ひたい」といふことを聞いてゐるし、又上海の實業家達も再びこんなことを繰返すやうでは困るからしつかり結末をつけて貰ひたいといふ、熱のある强い意見を伺つて、非常に心强く感じた次第であるが、國內に在る我我としても一日もこのことを忘れてはならない。

現在では社會主義、共產主義といふものも影を潛めてゐるが、萬一國論が二分でもしてくると、勢ひ頭を持ち上げて來ると思はれる。戰死者の遺族を訪れ、何の爲に犧牲になつたのだといふ風な賣國的なことを說いて徐々に國論を沸騰させて、色々の反國家的な思想をたきつける樣に努力して來ると思ふ。之を國際的に見ると、國際聯盟が前非を悟らず、今回の如く支那が聯盟に提唱するや、九ヶ國會議を開いて醜體の限りを盡くしてゐるが、これらは秘密結社のでつち上げた聯盟であることを考へるならばその歸結は當然のことと思はれるが、併し我々の寒心するところのものは、利害關係を持つ人達が長期戰爭を憂へ、或は第三國の干涉を恐れ引いては、國內的な分裂をも來す樣なことがあつては一大事である。今後は特に擧國一致の固めを決して緩めてはならない。我々は、東洋に於ける我々の正義を世界に證して、終局の目的を達する迄、あくまで奮鬪しなくてはならないと想ふる次第である。

（文責在記者）

## 日本は起たねばならぬ

日本の本當の中堅層を成し、日本の現在及將來を動かして行く日本人は絕對に正義のレールから外れた行き方はしないといふことを念願して居る。又そんな外れた行き方は將來絕對に有り得ないと信ずる。此の點をはつきりもう一遍認識を强めて載きたい。それは日本の歷史に祕密がないといふことそれである。日本の歷史は誰が聞かれても、誰が讀まれても、昔から今日まで正しいレールの上を各人が步いて來た歷史である。又今の吾々は次に來る人に此の心を移して皆進んで行くのである。日本は明治維新以來受けた文化中に非常に猶太文化の影響の多かつたことを初めて知つた。今それの訂正運動をやつて居る。御承知の〇〇〇事件、〇〇〇事件といふやうな事件が起るのも、詰りは其の訂正運動の一方の現れである。

現在の世界に於て大きな問題は猶太人問題であつて現在日本が當面してゐる支那事變も西班牙事件も皆猶太イズムから起されたもので、卽ち猶太イズムに對する戰である。此の猶太主義と本當に戰ひ得るものは吾々日本人であるといふことを今吾々は感じつゝある。日本こそ猶太人と決戰を交へ得るといふ資格を持つ。それは宗教的に、精神的に、彼等を壓迫し得る信念を持つて居る。乍併同時に彼等に猶太教の非理を徹底的に改善なさしめて彼等を救はんとする信念を我等は持つてゐる。（米國を動かす猶太人の勢力）より

國際思想戰の根幹を曝く

# 支那事變を繞る猶太問題の諸相

宇都宮希洋

## 一、事變と猶太問題の再認識（國際秘密力の研究第一册）

昨年十一月頃に筆者は『猶太問題を再認識せよ』なる一文を以て、これが我國の非常時對策上是非とも解決を要する重大事である事を力說したが、當時は我國識者の極めて小部分のみ、問題の眞相を感得して居たに過ぎなかつた。然し百聞は一見に如かず、支那事變は同人等が同じく第一、第二、第三册に豫見し、力說せられた國際秘密力を、何

人にも明瞭に認め得せしむる樣になつた。從來は努めて書かざらむ事をモットーとして居た大新聞も、急に關心を高からしめつゝある一般讀者の要望を滿す爲にこの方針を一擲し、大活字を以て特ダネ的に扱ふものも出て來た。然し彼等のは、要するに玉石混淆、或はつけ燒刃的悲哀を示すものが多いのは、吾等の遺憾に堪へないところである。

一方國際政經學會同人に對する、猶太問題講話の申込は、公私の有力團體より相次いで至り、これに應じ切れないと云ふ、一年前とはまるで變つた世界を展開して來て、吾等は多年の苦鬪を思つて、轉た感慨に堪へぬものがある。

然し乍ら今日の理解は、未だ同人の所期する所より遠い。今日世間で論議されて居るのは、多くは支那に於けるサツスンを繞る經濟侵略の一面が主であるかの如く見える。これ等は實は海面に出た氷山の一部の樣なものである。秘密力の操る思想戰の我國に及ぼせる明治以來の禍害は、これを認めしめる事に尙前途程遠く、吾等は更に一段の努力を要求されて居るのである。

卽ち我等は漸く、緖戰期に有利な戰勢を贏ち得たに過ぎない。猶太禍の事實に直面して、根據ある猶太禍否定論を携げて抗戰をなし得ざる猶太禍認識無能力者は、近來は、唯『何でも猶太禍に持つて行く』と難ずる程度の反抗を、蔭口的に力なく行ふに過ぎなくなつたとは云へ、彼等が今尙この態度を續けて居る原因は、遠く維新當時に發する禍根の深き事を示すものである。卽ちそれは、歐米の爲には都合の好い宣傳のみ聞知し、裏面の深刻なる思想的・民族的・宗敎的及び社會的鬪爭の暗黑面に就て知らされざりし西洋文明心醉の習が性となつて居る事を證するものである。彼等は要するに、大勢順應論者でなければ、從來の私見を改むるの勇氣なきものである。

思想戰的に見れば、後に說くが如く、世界は遂に、日本對猶太の對立となる運命にある。これは英米の硏究者は、旣に吾人にも、親しく來朝して說く所があつた。

近時益々この情勢は、具現化しつゝある。

更に「何でも猶太禍に持つて行くからあやしい」との猶太禍否定論者、若くは懷疑派の論據は、彼等自ら、よくよ

く自問自答すべきであらう。

即ち歐米デモクラシー諸國に於ては、金と言論及び宣傳諸機關を握つて了へば政治を動かし得べく、且つ一面知らしてならない事は、それが如何に、政治經濟若くは社會生活上重大なるニュースであらうとも、日本等には極く特別の方面（例へば官の情報機關）以外には行き亙らせない樣に出來る事を知るべきである。論より證據は日獨防共協定發表當時に於ける我國のインテリの常識の源泉たる言論界の支流たる大新聞、大雜誌が、如何に獨逸國情と歐洲情勢、否世界政局に對して、英米佛蘇側、即ちデモクラ人民戰線派の宣傳にのみ左右されて居たかを檢討すれば、明々白々である。

ワイマール憲法下のドイツの被つたユダヤ禍を、直接ドイツ人に就て聽取すれば、猶太資本帝國主義及び猶太ボルシェヴィズムの企圖する所は、一國の飽くなき搾取と專制である事、即ち猶人が一切を擧げ、何でも彼等の支配下に置かざれば止まない方針の下に行はれて居る事を知るのである。それは又、彼等の生活の指針を守る猶太教の教義である。だから、猶太だけから見れば當然なのである。玆に防共協定發表當時に於ける吾人の人知れぬ苦心と潛行的努力は、今日になれば嘘の樣で笑へぬナンセンスである事實も起因して居るのである。

## 二、國民戰線對人民戰線思想の對立結果と、宣傳性の重要性

日獨伊防共協定の成立により、人民戰線對國民戰線に、世界は二分され、思想戰が行はれつゝある事は、最早何人も否定出來ぬ。この人民戰線の背景は何ものであるか。それは昨年十月以來『國際秘密力の研究』各册に於て、筆者がスペイン人民戰線の起原等に於て、詳し過ぎる程力說し、警告し來つたところで明瞭である如く、又、フランコ將軍が葡國記者に對するインタヴィユで言明した如く、佛蘇を中心とせる猶太マソンの筋書の具體化に過ぎない。吾人は、人民戰線運動のイデオロギーが、誠に砂上樓閣的空理と矛盾せる主張羅列の上に建てられて居るに拘らず、これ

を世界的に擴大せしめ得た背後の秘密工作力、即ち獨太の宣傳謀略戰能力を重視し、對策を誤まらざらむ事を、我國朝野に再び警告を發せむとするものである。

殊に、戰局は今や武力戰勝効果を戰爭目的貫徹に結びつける時局收拾豫備工作期に達せむとして居るからである。有終の美は、英米佛蘇の裏面にある獨太勢力の宣傳謀略戰を擊破克服の如何にかゝる事大である。蔣介石長期抵抗思想の背後は、排日・抗日・侮日を多年に亙り注入した彼等の宣傳謀略戰力の成果である事を明確に認識すべきである。

人民戰線が獨太マソンの指導にある事は、イタリーが漸次排獨宣傳を强化し來つた事でも察知せられる。(前記各册情報參照) 又最近、ヒツトラーの日獨防共記念演說にも、例の如く「ボルシエヴーイキ卽ちユダヤ主義なり」との主張を明示し、又從來獨太國際金融資本の勢力を重視し、ナチスの排獨主義にブレーキをかけて居た唯一の政治家シヤハトが、經濟相を免ぜられた事は、獨太策が一層積極的ならざるを得ざる狀況に置かれた事を示し、且つその豫告と、一面に於て見るべきであらう。

## ○スペインフランコ政權承認の意義

日獨伊防共陣の表面關係は、更にフランコ政權を加ふ可く、又最近ポーランドも漸次その態度を現し、防共支援參加の意志表示とも見られる可きニュースもある。更に南米にも、ブラジルにも飛火を見むとするなど、國民戰線對人民戰線の兩陣營に、世界は二分され來つた事は、スペイン內亂に於ける兩陣營の勝敗が、歐洲を左右し、更に世界を左右する天王山なりとの吾人從來の主張を裏書する結果となりつゝある。ユーゴースラビヤの如きも、其の攝政殿下を初め主腦部は當然防共陣に參加すべき思想的素質を有して居る。

吾人は玆に、この兩陣營の思想戰的決戰は、更に激化され、遂に日本對獨太思想の對立と具體化し來る可きを豫言し、且つ確信するものである。

日本インテリ中の自由民主マルクス主義陣營は、結局その認識を猶太問題の正視に到達するに至つて、始めて本來の日本の姿を發見し自ら直視し得る自由を取り戻し日本人的思索を取り戻すであらう。

ナチス及びファッショの理想的全體主義をヨリ以上の形式に徹底して具現し、三千年來、實踐し來つたものが、實に一君萬民の皇道日本である。故にヒツトラー總統の限りなき日本皇室尊崇と、日本國民に對する絶大の信頼は、敢て親しく總統に接した邦人の說く所を待たずしても、その當然性を肯定し得るのである。思想的には、既に日本は獨伊を率ゐて居るのである。日本の足は、三千年來の事實の上に立つて居る。猶太人マルクス、エンゲルスの他民族呪詛階級鬪爭・破壞第一主義・建設プログラム缺除のマルクス、レーニン勞農主義魔術に眩惑されて未來の天國を夢見るものは、宜しく、蘇聯現下の暴露されつゝある悲慘なる現實を直視すべきである。

卽ち全體主義國民戰線の思想的中心日本と、人民戰線の隱れたる操縱者猶太マソンとは、結局思想戰的に見れば正面に出て對立を餘儀なくせられるのである。非常時は、事象を單純化する。

## 三、帝大自肅問題の發展性

神宮參拜問題と、矢內原教授著書發禁問題を動機として起つた帝大自肅問題は、右の意味に於て大なる發展性を有する。帝大の法經學者は、學問的に見れば一說を西洋學の上に立ち、それを以てまた生命として居る。而もそれが、多年新人會系を主流とするフリーメーソン禮讚思想・自由・國際勞農主義、隨て人民戰線思想の現實暴露の悲哀は、非常時局と共にテンポを早められ、惡足搔きをすればする程、自繩自縛的効果を來すは必然的な運命である。彼等の學術的調伏は、原理日本社同人各位の奮鬪により完成し、彼等も今や何等學術的反擊をなし得ざる窮狀は、識者の認める所である。彼等こそ、謂はゞ猶太禍の被害者である。彼等は宜しく君主機關說の張本、ドイツ系猶太人エリネツク、ボルシエヴイズムの元祖マルクスや、自然主義エミール、ゾラ戀愛至上主義ザングヴイル等を、ドイツ人フラン

ス人英國人なる僞裝國籍を除き、猶太民族なる正體を彼等の誇る科學的研究態度を以て研究すべきである。

この態度を以て歐洲文明史の裏面猶太民族策謀史を、猶太人の出版元によらざる眞の獨逸人、佛蘭西人、英國人等の、義憤と血涙を以て著した所に依て讀み直し、これを、ロシア、ハンガリー、スペイン等、ボルシエヴィキ革命に暗躍した猶太人共の行狀と對照せば、事實は雄辯に解決を與へてくれるだらう。

帝大より人民戰線の一掃は、防共日本の當然果すべき責務であるが、帝大內にも眞の日本人はある。自肅運動は當然發展すべく、然らざれば時勢の進運は、止むなく外よりの肅正を加へられるに至るであらう。何となれば、思想國防の國家的中樞である帝大が、人民戰線思想の溫床なる限りは、英米佛蘇支の謀略的宣傳戰の對象となり、戰線に於て、日夜幾百の忠死を以て顯揚せられつゝある皇國體の尊嚴も、對外的に効果を弱められ、擧國一致の威力を減損せられること假令小なりと雖も、忠死者並にその家族同胞國民に對し、默過し能はぬところであり、今日識者の一致せる輿論であるからである。殊に日本國民として許すべからざる事は、學問の自由獨立を惡用し、國家が與へて居る特權を亂用し、純眞なる學生に、反皇國非戰デモクラ人民戰線思想を、陰に注入しつあるものを見る事である。眞に學問の自由獨立を主張するならば、彼等の呪詛する帝國の與へて居る特權を辭退し、民間に下つて獨自の研究でも主張でも自由にやつて見る可きである。國民は正當に彼等の價値を評價するであらう。

## 四、帝大フリーメーソーン禮讃の因緣

今日、帝大法科或は經濟學部の人民戰線思想は、如何なる因緣によるのであらうか。こゝにその由て來る明確なる證據の一つを提供すれば、吉野作造纂輯、管村道太郎著「フリーメーソンリーの研究」と云ふ册子がある。これは嘗て官學系、又は官廳方面に相當廣く配布されて居るのであるが、これを見れば彼等新人會系の、徹頭徹尾フリーメーソン禮讃思想を、明瞭に諒解せられるであらう。卽ち『フリーメーソンリーの主張が世界平和の思想の一つの根底を

なしつゝ、遂に人類の國際的良心が、國際聯盟に依て覺醒せられしは慶賀に堪へず、然して人類平和の理想を思はゞ、前途遼遠なり。從て益々フリーメーソンリーがこの政治思想に寄與する所多かる可きを希望して止まず。然るに眞善美を直接に認めて進まんとする熱烈なる憧憬が、世界文化に貢献すれば底強き流れを爲すものになるが故に、フリーメーソンリーの絶望を欲するは人類の發達を望まざるに等しきが故に、益々この人道の嫩枝が成長せむ事を希望せざるを得ず』と記述せる如くである。

フリーメーソンの害毒に關しては歐洲愛國陣營の事實と經驗に依る反對及國家の公文書に依る陰謀證據暴露に依り明瞭である。宜敷此等の文献をも檢討する學者的態度を取るべきである。

更に吉野氏が、嘗て中央公論その他に載せたユダヤ禍迷蒙論は、研究者にとつては甚だ笑止千萬な淺薄さで、果してこれが官學の泰斗である博士であるかを疑はしめる程度のものがある。筆者はこれを今日敢て取上げ度くはない個人的感情を持つて居るのであるが、これ等の雜誌が思想的に重大なる影響を朝野――殊に官界に與へた大なる背後の勢力を持つて居り、隨て內容が、盲信的偏見に捉はれて居る低級なるものにも拘らず、大なる宣傳効果を發揮して居るので、この論據を完全に打破せざる限り、猶太問題は朝野の眞摯な研究の對象となり得ないので、止むを得ずこゝに取り上げたものである。

氏は先づ、猶太人の陰謀に關する所說と事實とを全部確實なる根據によらず單に一笑に付し、否定し、中にも滑稽なことにはプロトコールの出所に關して『猶太人の手になつたものでなく、英國人の揑造したものである。英國人は最近下層勞働階級の過激化するのを恐れたので、ボルシエヴイズムと猶太人とを結びつけ、プロトコールを揑造したものである』と至極アツサリ片付けて居る。所が甚だお氣の毒乍ら、同人安江氏や長谷川氏が歐洲に行つて確實に調査して來た如く、露國に於て一九〇二年にプロトコールの最初の版が公版され、一九〇六年には英國大英博物館にその一九〇五年版が藏せられてある。一方ボルシエヴイズムなるものが起つたのは一九一七年である。氏の言ふが如く

んば、英人の揑造は十一年以前に豫め造つて置いた事になると云ふ滑稽なる不合理を呑鵜みにする事を要する。これ等は只一例に過ぎない。

## 五、猶太妄信の日本クリスチアン・マルキストの揑辯を暴く

矢内原氏が猶太問題を研究した事のない爲飛んでもない猶太妄信を平氣で發表して居るのは帝大教授として誠に輕跳浮薄な態度であると識者の擯斥を買つて居る。其の一例として玆に二三を摘出して見る。

一、イザヤ神學思想に對する勝手なる我田引水論

彼はイザヤ書第卅章一五、六節を自ら譯して引證して

「汝等立かへりて休み事が救であり
　靜かに信賴する事が力である」

即「平和行爲即救ひ即力」の如き主張をして居るが從來から存する標準和譯聖書の譯文は

「汝等立かへりて靜にせば救ひを見
　平穩にして依賴まば力を得べし」

で即「靜まつて神の援助を待てをればきつと神から救と力とが得らるゝ」と云ふ意見で此の救と云ひ力と云うのも敵に對して强くなると云ふ事である。ヘブライ語譯を參照して見ても矢内原氏の如き譯は誤譯と學者に認められて居る。即ち彼は自己の平和至上主義を主張する爲に勝手な譯をして居る結果となつて居る。

二、猶太民族の理解を缺く

彼は又「猶太民族は領土を與へられ主權が組織せられさへすれば今日でも國家を恢復し得べき狀態に於て二千數百年を持續し來れる事實はイザヤ等の豫言者に依りて國家の理想が維持せられたが故に外ならない」と云つて居るのは

何を根據として云つて居るのか。事實を云へばユダヤ人は古往今來豫言者を嫌ひ之を迫害するのを常とした民族である。何故と云ふにイスラエルの罪惡を痛烈に責められるからだ。事程左樣に彼等は道德的缺陷を持つて居るのだ。之に引き換へ復讐的意味の詩篇は大に愛誦する强烈な報復心を持つて居る。卽ち矢內原氏が妄信するが如き豫言者的な國家理想を維持して居ないのだ。猶太人は餘りにも偏狹排他的性質の持主なのである。

三、猶太人は代々豫言者を迫害して居る

何れの社會に於ても先見の明ある人士が不遇なのは世の習ひであるが、恐ろしく强い反抗心を抱くユダヤ人社會では世流に迎合せぬ先見者の運命は誠に悲慘なものであつた。猶太人の傳說を集めた舊譯聖書外典の「イザヤの昇天」第五章二節に依れば豫言者イザヤは鋸で挽かれて殉敎した。又豫言者エレミヤの悲慘な境遇に至つては隱れなき事實として知られて居るのである。此等は猶太民族性が平靜を缺き偏狹な證據だ。

四、猶太敎の精神は排他的である

猶太敎は律法主義（戒律主義）の極端な宗敎であり、極端な排他獨善主義的敎理を有するのが特長とすべきである。彼等は他民族をゴーイと呼び自分等と同等な人間の扱をしない。自分等はエホバの律法（トーラー）の民族だからエホバの特別な眷顧を蒙るもので世の終末に於ては先づ彼等が特別にエホバの庇護を受け、エホバと共に萬民を審くのだと考へて居る。卽ち矢內原氏の妄信とは相去る事遠き理想を有して居る。殊にゴーイである所の日本人に對し彼等は殊更に感心すべき何等の理由を持つて居らぬ。

五、ユダヤ人の復讐心は强烈である

之れには特別な意味がある。「復讐」と云ふ事は彼等の間では神聖なものと考へられた。充來彼等の祖先はアラビア砂漠を橫行したセム族で此の時代の民族意識や精神が永く民族性を支配し、殊に宗敎を特徵づけた。それは砂漠生活は部族の分散消滅し易き故に之を防ぐ强き團結を必要とし玆に「血の契約」卽ち部族は卽一個の生命體と信ぜしめ他

部族の爲に失はれた一生命に對しても部族を擧げて復讐に値ひするものと考へさせ、被害者の最近親者は「復讐者(ゴエール)」と稱して失はれた生命を贖(あがな)ひ返す義務卽復讐の義務を有した。故にヘブライ語(猶太古語)に於て「復贖者」と「讐ひ人」とは同じ「ゴエール」である。

尙彼等の强烈なる復讐心を反映せる民族文より一例を取れば

詩編第百三十七編は彼等民族の異國に於ける亡國虜囚の境涯を述べて、

「我等バビロンの河のほとりにすわり

シオン(首都の代稱)を思ひ出でゝ涙を流しぬ」

と云ふ切々たる哀調を以つて始まり、最後は强烈なる復讐心に燃へて居る。卽ち

「亡ぼさるべきバビロンの女よ

汝が我等に爲しゝ如く

汝に復讐(ひくゆ)る人はさいはいなるべし

汝の嬰兒(みどりこ)をとりて

岩の上になげうつ者は幸福(さいはい)なるべし」

と恐るべき殘虐なる復讐心を吐露して居る。

以上說く如くユダア民族は矢內原氏が賴まれたかと思う計りに禮讚する民族とは違ひ大和民族の明朗性と正反對なる陰の民族である。

矢內原氏は神を信ずるクリスチャンなるに拘はらず基督敎を敵視する猶太民族を禮讚するのみならず、唯物マルクス主義をも信奉すると云う奇怪なる無信念表明的存在である。此の秘密は何に起因するか、新人會一派のフリーメーソン妄信、禮讚、無批判的態度に依るものと爲す以外に不可解である。

## 六、支那搾取の猶太工作機關國際聯盟

事變は又、聯盟に對する日本國民の認識を深からしめた。聯盟が猶太帝國主義の世界政治操縦並に自由國際主義の宣傳機關である事は、歐米の研究者が世界大戰平和會議以來警告し來つたところであるが、日本の國際聯盟脱退事件以來、我國の達眼の士には容易に看取し得られた所である。

### ○猶太の支那開發計畫と結果

英國猶太財閥サツスン一家を中心とする在支猶太系米獨佛財閥の協力に依て、支那再投資五十年計畫の大方策が、幣制改革の基礎工事の上に着々として實施され、十二年後、上海香港より南支を横斷し、ビルマを通り、印度洋に拔ける大鐵道を根幹とする中南支開發となり、之れが計畫通り成就すれば、誠に歐洲の天地を追はれても猶太民族の爲には世界無比の物資に富む植民地並にボロイ儲け、飽くなき搾取の投資地となつたであらう。而してこれが、軍閥の頭首、蔣介石、財閥の代表者宋子文の國民政府政權に結びついて、猶太民族一流の策謀を逞しくする時、支那は全く彼等の掌中のものとなり、歐米派の天下となり、第二の印度となり、デモクラ人民戰線の東洋制覇の根據地となり、日支親善は愚か彼等は支那をして、皇道日本の永久の敵たらしめ、東洋平和は永遠の疑問符となつたであらう。

事變の進展は、彼等の投下した資本と權益に大鐵槌を加へる事に、期せずしてなつて了つたのは天祐と言へる可きであらう。

### ○國際聯盟は猶太の工作機關なる實相

さてこれ等の大計畫は、如何にしてその基礎調査を實施し得たか、如何に彼等のこの調査を、他からの妨害なくし

て行ひ得たか、そのやり口を見れば、そこに猶太人一流の巧妙なるカモフラージュと術策を見出し得るのである。

即ち讀者は又、こゝに國際聯盟が猶太の商賣道具であると云ふ、その嘗て世界の國際主義自由禮讃者をして、追慕措く能はざらしめた裏面には、巧妙な仕組があるを發見する事であらう。在支猶太財閥は、この國際聯盟に對華技術合作調査委員なるものを作り、これを國際諮詢委員會により銓衡せしめ、二重のカモフラージのもとに支那に派遣したのである。これ等の各技術家は、ジュネーブの各技術機關の中から選拔されたと云ふ口實の下に送られたものである。而して彼等派遣員の經費の大部分を何所から出したかと云ふと、ジュネーブに組織されて居る技術研究機關から出資させてゐる。而してこの國際技術研究機關に供給される資金はどこから出るのかと云ふと、その供給者は米國を除き、英佛獨三國の猶太財閥から支給されて居ると云ふ說を、有力に裏書するに足る事實が、支那に於て行はれる各種の建設事業の外國關係に於て現はれて居る。要するに國際聯盟の國際諮詢委員會は、英米佛獨その他各國に於ける猶太財閥の諸事業に要する技術專門家の紹介機關の如く、又ジュネーブの技術研究機關は猶太の事業の爲に要する技術を研究する機關であつて、支那が日本を袖にして國際聯盟に縋りつき、各種の援助を仰ぎつゝあるに對して、國際資本主義の猶太財閥が支那の寶庫を開發し、支那の豐饒なる利潤を搾取する爲に、國際聯盟と稱する猶太の工作機關を利用し、猶太の搾取事業の技術者を、聯盟の名に於て支那に派遣して、建設事業を技術的に調査し、次に資金を提供し（對支借款）利權を獲得し、利益を搾取する。それ等の費用は、當然彼等が支拂つて居る事に於て何等の不思議はないのである。故に支那に派遣する技術合作員の八十％は、猶太人技術家であり、然らざれば猶太財閥の事業に使役されて居る技術者（猶太人ならざる白人）に限られて居る。

隨てその經費の如きも、英・佛・獨の猶太財閥から供給されて居るのであるが然し乍ら表面に於ては、國際聯盟は支那の開發建設に同情し、援助して、後進國を良導すると云ふ人道主義を振り廻して、世界を魅惑して居るのである。

國際聯盟の對支技術合作員派遣費用の出所に就て、上海の某機關の調査によれば、左の如き系統と機關が實行者で

あることを立證されて居る。

支那に派遣する技術合作員の銓衡は

外人顧問により建議され

連絡

國民政府は

國際諮詢委員會に廻附し、委員會は

ゼネバの技術研究機關に人物を銓衡して派遣する事を委託す。經費は猶太財閥より支給す

## 七、國際技術研究機關を組織する猶太財團の內幕

（イ）フランス

ロチルド團（英語讀み、ロスチヤイルド）

英・佛を各國に於ける大事業に關係さす。

資產百億フラン。

スペイン王族と特殊關係を有す。

ドレフユース商事團

資本金約二十億フラン。

フランスの穀物の王樣と稱せられ、雜穀市場の實權を掌握し、佛領印度支那の鐵道に投資して印度支那の農產物界に偉大なる權力を有す。

滿洲、ハルピン、大連に出張所を有する。

政治方面に於ては、フランス下院の中に勢力を有し、ラントランシジヤン紙を發行す。

最近に於ては中支横斷鐵道中四川省の成都より貴陽に至る川黔鐵道に投資す。

（ロ）　オツトー・カーン會社

オツトー・カーンは、クーンロエブ會社の重役にして、主としてフランスと英國に於ける商事を擔任す。媾和談判にウイルソンを米國から引張り出したのはカーンであつた。カーンは、ジヤコブシツフ（クーンロエブ會社長）と共にウイルソン大統領を握つて居た。現在佛領印度支那、その他の植民地に投資す。

オツトー・ヴオルフ商會

ドイツに於ける工業界巨頭として知られ、金屬工業、船舶工業を經營し、實業界に雄飛す。

ヴオルフはロシア籍猶太人であるが、ドイツに資本を投下し、メキシコ鐵道にも投資し、ユーコン金鑛會社を經營す。

スペーア會社

アペーア會社の前身は、ドイツのフランクフルトスペーア銀行で、同行がクーンロエブ會社に合併後、別にスペーア商事會社を創立して、セリグマン會社と提携した。

スペーア氏は、フランスのロスチヤイルド家、及クーンロエブの支配人オツトー・カーンと親戚である。

フエリツクス・ワーブルグ會社

クーンロエブ會社々長ジヤコブ・シツフの娘と、ワーブルグ家の長男ポールと結婚し、近親關係に立ち、ドイツ財閥巨頭として總ての有利事業に關係す。

ヒルシユ男爵家

ドイツ系猶太の豪族にして、トルコのヒルシユ鐵道經營は有名なり。

男の財産は四億ドルと稱せられ、世界ユダヤ人同盟運動資金を提供し、エドワード七世に寵愛せられ、アーネスト・カツセルと協力して、英國に猶太民族發展協會を創立した。彼の政治思想は、猶太民族の世界征服である。クーンロエブ社長ジヤコブシツフの財産は、殆んどヒルシュ男爵から提供されたものと言はれる。

（八）英國サツスーン財團

サツスーンの先代は、フランス第一の豪族ロスチヤイルド家の番頭としてロシアに特派せられたが、アレキサンドル三世御即位後、ロシア國内に於ける猶太人排斥に憤慨してロシアを引き上げ、後アフリカに特派せられて、猶太植民協會經營の銀行に勤めて事業に關係し、財産を作り、日露戰爭後印度方面に財産を移動し、ロスチヤイルド家に取り入りて、印度の搾取に成功し、一八九二年に財團本部をロンドンに置き、ロスチヤイルド家との融資關係を決濟して、新たに佛獨系の猶太財閥を勸誘して、サツスンバンキングコーポレーションを組織し、第二世サツスンたるE・D・サツスンが頭取となつたのである。

サツスーンの支那、印度に於ける事業は著名なり。支那幣制改革、借款銀行の經營等今や支那の金融經濟を全く手中のものとしてしまつて居る。

以上說く如く要するに國際聯盟の對支技術合作は、國際聯盟を構成する猶太人財閥の支那に於て行はむとする搾取事業の工作機關として創設された感がある。聯盟より支那に派遣されたる技術家は、彼等がジュネーブに於て創設せる技術研究機關の技術者であり、その費用は、その機關を組織する猶太の國際資本財團に依て支給されて居るのである。

## 八、上海稅關接收問題

上海の稅關は、實に上海猶太の生命線である。上海の猶太財閥巨頭は、この稅關を巧みに操縱し、勿論それには腹

心の部下を入れ、そして彼等の密輸入を容易にし、或は輸入品に對する課稅に手心を加へ、反對に日本品に對しては甚だ意地の惡い取扱をやつたり、不當な評價をしたり合法的な排日貨策を、これに依て惡辣に行ひ、これが爲上海の小實業家は、日本に陳情團を派遣して其の非道を訴へに來た事さへある。

尙、彼等猶太財閥の狡猾さは、三井物產等の日本の有力會社に對しては事を構へるの不利を覺つて、魔手は敢て振はないで居る。從つて前記小商人連はごまめの齒軋り的憤慨をし、もがいて居る同情すべき被害者であつた。

一體猶太財閥の密輸は古來世界的に有名なのであつて、巧妙なる國際的組織を持ち、强固なる結社的統制の下に行はれて居るので、滅多に暴露されたりする樣なヘマな事はない。これ等の一端を雄辯に示すものに、阿片の密輸入がある。一體阿片は印度で約五億圓を產出されて居るのであるが、その中の大部分、——研究者は、これを三億五千萬圓と推定して居るが、——支那以外にこんな大きなはけ口はない。所が一方英國は、國際阿片會議と云ふ樣なものを拵へてその音頭をとり、他國に對しては法律的禁止をし乍ら、その裏面に於て密輸入による巨利を獨占搾取すると云ふ正直な日本人にはとても考へつかないトリツクをやつて居るのである。帳面上支那稅關を通過する量は、先に言つた國際阿片會議で議定された數量で、少いものであるに拘はず、支那國內至る所に、最も尊重される印度阿片がふんだんにある事實は雄辯に密輸の事實を語つて居る事とは猶太人の裏と表の使ひ分けの一例である。

勿論この阿片は殆ど大部分は香港、廣東の經路から入るものであるが、上海も亦その幾分は輸入されて居る譯である。かの有名な阿片戰爭は如何にして起つたか、誠に英國猶太の惡辣橫暴は、これを正直な日本人から見れば諒解するに苦しむ位である。尙上海は、この阿片戰爭の結果ゴルドン將軍が占據したものであるが、ゴルドンは猶太人であつて、彼が印度から、今日上海の基礎を築いた有力且つ腕利きの猶太人を呼び寄せて、ここに國際都市上海の基礎を築き上げ、今や工部局、稅關、その他公私の幾多の政治經濟上の機關は彼等に依つて操縱され、「上海は極東の猶太王國なり」との評をかち得て居るのは蓋し當然な因緣であり、結果であると云ふべきである。

そこで稅關接收問題は、彼等の生命線であるから、英國を動かし、或は現地に於て幾多の陰謀を逞しうし、英國獨力の無力を知つて米佛等を動かし、却々日本戰勝の結果を認めず、之に妨碍を加へ阻止せんと必死となれるは察するに難くない。

## 九、上海租界接收問題

支那に於ける英國猶太の、安心して支那に發展し、根本を下して居られる所以は、實にこの租界による治外法權の存在によるものである。この租界なくして、彼等は過去數十年に亙る數多の經濟搾取、或は政治工作を如何にして實行し得られるであらうか。租界の治外法權こそ彼等の支那投資開發の根本條件である。故に支那幣制改革に依て始つた猶太の、支那再投資計畫の策定に當つては、英國政府に對して將來如何に支那が主張するとも、この治外法權租界は、決して支那に回收せしめられる事なき條證を要求したと傳へられるのも、蓋し當然である。工部局の支配する上海共同租界に於ける彼等の權益財產たるや、實に驚く可きものがある。上海銀座の南京路を中心とし、その附近の土地は殆ど彼等の手中に入れられてある。今回の事變に於て血迷つた支那飛行機投爆の犧牲となつたカセイホテルも、上海第一のサツスンビルの一部にあるのであるが、このサツスンビルこそは、サツスンが支那搾取の大根據地として巨額の建設費を投じて建築したものである。尙その建築資金の三分の一は、蔣介石の出資にかゝると云ふ、事實は現地の調査機關の報ずる所である。玆にも國民政府首腦者蔣介石の背て相場師であつた求利第一の支那人根性を發見し得る。

## 十、在支猶太財閥の對日政策の概觀

サツスン財閥を根幹とする、印度を引き上げた猶太財閥は、彼等の定石である五十年計畫をもつて一八六〇年頃よ

り支那に向つて投資し、一九〇〇年以後は利益回收時代に入つて居る。從つて此の回收遊資の運轉上支那再投資計畫が數年前にその決定を見たものである。一體何故支那に再投資をなすに至つたかと云ふと、利益回收時代に入つて來た遊資を次に何所に投資すべきかと云ふ問題になつた時に選定したのが、當時極東のホープとして生れ出でた滿洲帝國であつた。これは、ドイツで猛烈にシャツトアウトを食つた猶太同族を避難せしむべく五十萬人滿洲移民計畫と併せて投資の絶好の對象となつた譯である。

所が滿洲投資並に植民は、日本現地官憲の容るゝ所とならざる結果となつたので、止むを得ず再び支那に投資すべく決心したものである。

所でその投資計畫を實施する際、彼等は當然日本の東洋安定勢力を考慮に入れ、計畫を實行すべきであつたに拘らず、猶太民族獨特の排他的宗教思想に災ひされて例の如く獨占主義を採用し、且つ日本に妨害されざる爲に、支那をして極力日本に近寄る事を妨げる日支離間工作を採用したのである。而もそれに當つては、表面は飽く迄日本の協力を冀ふ如きゼスチュアを示し、日本朝野を油斷せしめ、恰も日本の助力なくして、支那幣制改革その他の經濟工作は、猶太財閥と雖も成功しないであらうと云ふ樣な宣傳をも行つた。このカモフラージュの下に、彼等の工作を安全に進め來つたものである。

而も支那に於ける英字新聞を巧みに操つて（後に說く如く支那に於ける英字新聞は直接或は間接的に全て猶太の操縱下にある）日支離間宣傳を支那國民及び上海を中心として國際的に發展せしめた所、これが又彼等の意圖せざる結果を招來し（彼等の意圖は、今でも、戰はずして日本を徐々に屈伏せしめようとする謀略的方策である）遂に日支武力戰爭にまで發展して、文字通りの自業自得、自ら彼等が資金を供給し、購入せしめた支那飛行機に依て爆擊せられる如き悲境に立ち到つたのは天罰と云うべきものであらう。

そこで北支に蘆溝橋事件が勃發した前後には、彼等は頗る狼狽し、彼等宣傳機關を動員して『支那は未だ日本に對

して武力戰爭では勝味がなく且その時期ではない。この際は隱忍自重し、經濟建設事業を整備し、國力及び軍備の充實を先にすべきであつて、然らざればこの建設事業は中途に挫折すべく、支那（實は彼等）の爲にならない』と力說したのである。

一方宋子文一派浙江財閥をして、極力南京政府部內に戰爭反對の論爭を行はしめた。これ等は、その當時の我國新聞にも明瞭に一端が報導せられて居るから、讀者も御存知の事であらう。そこで日本が不擴大聲明を出した事は、彼等にとつても誠に有難い仕合せであり、極力彼等も戰局擴大せば日本は經濟的破綻を招來するから日本の爲に取らない等不擴大主義の世界的宣傳や工作を進めた。蔣介石も亦大局を察し得ざるが如き愚者ではないので、事變の不擴大に對しては關心を持つて居つたと推せられる事實を認められるのであるが、多年スターリン專制コミンテルンに依て煽動されて居つたヤングチャイニース、少壯軍人、或は宋慶齡、等の人民戰線派の强硬抗日論が大勢を決し、蔣も今更藥の利き過ぎ後悔も及ばず、望まざる戰鬪を、止むを得ずして行はざるを得ざるに立ち至つたのである。戰火が上海に飛ぶに及び、不擴大絕對不可能の大勢は決せらるゝに至つた。

更にヒューゲツセン大使負傷事件が起り、而も日本の擧國一致は强化し、彼等の支配する國際的言論機關の動員による日本軍部攻擊軍民離間策も所期の如くでないとなつて、彼等の策動は大體左の樣な形となつて現れて來た。

一、經濟戰による牽制

(a) 日本の對外爲替に對する工作、日本が金現送方針を取りつゝある間は、その減少及び爲替の低落を目指し常に操作を爲すと同時に、一方これを彼等の國際的宣傳機關を通じて日本に宣傳し、日本財界首腦を通じて政治上層部を動かし、支那武力徹底擊破主張を牽制し、戰爭を中止せしむるに努めた。

(b) 貿易金融關係、ヒューゲツセン負傷事件後特に注目される事は、ロンドンに於ける爲替決濟を漸次取扱はざる如き態度を示して來て、間接巧妙に、我出先の外交當局及び正金三井銀行等を通じ威嚇牽制するに努めた。

我對外貿易額の七割の爲替手形がロンドンで決濟される現狀に於ては、これは實に我國貿易に大支障を與へるのであるから、この威嚇に反應したのは當然である。

二、當時英米主要新聞の對日論調の惡化は著しく、第一上海に於けるロイテル及びアバス通信は、終始支那に有利日本に不利のデマを飛ばし、特に日本軍部攻擊を多く宣傳した事は、これ等通信會社と資本的に關聯を有して居る猶太財閥の意圖を忠實に反映したものである。これは基隆事件等、從來の例に徵しても明瞭である。

これ等の目的は、日本に對する離間的効果を狙つたものであつて、特に軍民離間を主とし、武力行動の中止を狙つて居る點は、國民の關心を有する點であつた。九月二十一日頃から上海の英字新聞ノースチヤイナ、デーリーニュース、上海イーブニングポスト等は、一勢に平和論武力中止論を揭げ始め、この傾向が明かに增大して來た。

三、「世界の勞働團體の使嗾、平和反戰主義團體結社による日本軍民離間工作」——米國に於ては勞働團體及び平和反戰運動團體の組織は、巧妙に猶太人に握られて居る事は、米國識者の憂ふる所であるが（國際政經學會講演錄「米國を動かすユダヤ勢力」參照）當時米國に於て勞働團體の一部が、反日デモを行ひ又日本チヤータ米國船員のサボタージュ等が惹起された事は（二）項と同樣な、彼等の日本國內離間策であつて、且つ間接に支那援助正當論の世界に對する宣傳工作の一つであつた。この傾向は日本の武力行動進展に隨つて增大し、果然九月十四日、華府U・P通信が「アメリカンフェデレーション・オブ・レーボア大會に於て」日本品ボイコツトの決議案が提出されたるを報じ（又事實その通りになり）同じく十一日、アトランティツク・シティーに滯在のC・T・O系勞働組合幹部の會合に於ても、日本品ボイコツト問題が討議せられ、その後決議された。これ等決議案は、抗日意志表示の世界的宣傳としては、洵に有効なる結果を期待し得るものである。

四、「國際聯盟利用宣傳」——從來國際聯盟事務局は猶太人が多く實權を握り、又民國十八年以來頻々として支那

に派遣された對華技術合作調査員は、その國際諮詢委員會の詮衡に依て資格づけられ、特派せられるものである事は前に述べたが、これ等の關係を有する國際聯盟を利用し、猶太人が排日宣傳工作をやる事は蓋し當然であつて、九ケ國會議の如きものも、この國際聯盟の策動に依つて結成された事は「イーデン」の口吻で今日明かとなつた。

そこでこの聯盟による各種の宣傳、九ケ國會議に依る各種の排日宣傳は、世界的に傳播され有効なる排日宣傳効果を得た事は、當時の歐米の新聞を見れば一目瞭然である。

序でに國際聯盟事務局關係の猶太人の名前を擧げれば、

ドラモンド（前事務總長）　アブノール（現事務總長）　ハース（交通部長）　ライヒマン（衞生部長）　ソルター（經濟部長）　コンメン（宣傳情報部長）。

尙現在の支那關係の著名の猶太人名を擧げれば

ヒューゲツセン（英國大使）　ナジヤール（佛國大使）　フエツセンデン（前上海工部局長）　アーノルド（前工部局市參事會議長）　カニンガム（元上海米國領事）

## ○日本武力の威力發揮と猶太人の內訌

以上現在までは大體猶太人の宣傳は排日又は日本內部離間工作を行つて居たのであるが、上海戰線に於て日本軍の威力徹底し、支那の敗戰明瞭となるや、從來の如き排日的宣傳をなす事は、現地猶太財閥の金持喧嘩せず的心理を反映し、又彼等から見れば當然な歸結である可き排日宣傳に對する日本軍部の報復的態度を恐れること甚しく、彼等はこゝに急に、その態度を豹變し、左翼系猶太人の世界的排日工作、卽ち勞働團體の排日決意、平和團體の行動、宗教團體の策動に對し、現地では反對の態度を粧うに至つた。卽ち上海猶太有力者コーヘンは、左記の如く九月下旬から

意志を表明して居る。

「英國に於ける排日運動の魁けをして居るものは、英國の勞働黨であつて、保守黨は自重して居る。又實業家方面でも、英國の富裕商人を中心とする新興勢力で、猶太人が大部分を占めて居る反蔣聯盟は、排日貨に贊成して居らない。又商業會議所も冷靜である。我等東洋植民地に行く猶太人は、排日貨には不合意であるが、然し事變が永續きする事から生ずる損害を恐れて居る。云々」

左翼系猶太人の策動の一例を擧げれば、九月中旬頃英國より英國勞働黨總務ネケル(ユダヤ人)が上海に來り、支那要人中の歐米派、孫科、王寵惠、施肇基、羅文幹、祭元培等と氣脈を通じ、更に上海猶太人有力者間に奔走し、徹底的に日本を苦境に陷れる、或策動をした。これと呼應して英國勞働黨に對してボイコットを煽動し、一方上海のキリスト教團を動かし、英米本國の排日運動を促進させるに努力して居る事が判明した。

更にこの機會に於て上海の猶太團體の主なるものを紹介して見よう。

(一) 反日的團體

上海猶太倶樂部、猶太通商研究會、上海猶太機務總會、猶太改進協會、猶太民族擁護同盟、「オルト、オヅ」協會、秘密結社「ブナイ、ブリス」(猶太人のみが入るフリーメーソン結社)

(二) 對日中間的團體

上海シオニスト會、猶太支那自治會、猶太慈惠協會、猶太公共基金管理會、マカビアン倶樂部、エスコツト乘馬倶樂部及び學校、上海猶太體育會、上海萬國體育會、上海引翔競馬會社

## 十一、猶太人の關係する上海の言論機關

上海に於いて發行せらるゝ外語新聞社の主なるものは殆んど猶太資本或は編輯は猶太記者の占むる所で「ノース・

チヤイナ・デリー・ニユース」「チヤイナ・プレス」「シヤンハイ・タイムス」「イヴニング・ポスト」「ジヤーナル・デ・シヤハイ」「ダツチ・シヤハイ・セイタング」及び通信社ロイテル支社等々悉く猶太が關係する故、政治に思想に幾多猶太精神の鼓吹を見る。

（一）China Press

一九一一年米人トーマスミラードの創刊にして米國總領事館に登記す。營業所を上海愛多路一三〇號に有し資本金墨銀二十八萬弗、米支合辦事業なり。本社重役の中には米國豫備陸軍大佐マーシ氏、元張學良の顧問たりしW・H・ドナルド氏等あり注目を要す。主なる重役次の如し。

ウイリヤム・フインドレー博士
米國陸軍大佐マーシ
魏道明博士　徐新六
董顯光　揚光注博士
播志銓　程霖生
張竹平　吐月笙
ドナルド（張學良の出資株を代表して）

編輯部員の中にて猶太人は

主筆　F. T. Durdin
市内版主任　T. D. Haummond

の兩名にして毎金曜日の朝刊には特別猶太欄を設けて、イスラエル民族の宣傳をなしたが、民國二十年、米支合辦事業となりて以來この特別猶太欄を削除したが、最近又々復活して居る。

沿革

一九一一年八月ミラードは故孫文(フリーメーソン結社員)、伍廷芳等の革命鼓吹を目的に創刊せられ、革命後ミラードは國民政府顧問となり、民國七年上海猶太の富豪エドワード・エズラ之れを買收し、エズラ病歿後義弟テオドラ・アーサー經營し社長にフェツセンデン（現工部局事務總長）を置きて經營に努力したるも民國十四五年頃より支那人間に新聞事業續々と生れ、爲めに同社の經營に影響あり兎角營業不振に陷り遂に民國二十年二月に至り同社は米支合辦に改組せられ、吐月笙は國民政府出資を代表して重役となり、ドナルド氏は張學良の資本を代表して重役となり同社の權利株（猶太人投資の）を代表してフインドレー博士、ハモンド等入社して主筆となり市内版主任となりて編輯を掌中に握る。同紙の發行部數は六千部内外にて支那人學生會に讀者を有し論調極めて排日的である。

(1) North China Daily News

一八五〇年英國人 Shearman 氏の創辦で香港政廳に登記す。營業所を黄浦灘路十七號に有し資本五十萬弗、株式會社にて代表者は猶太の富豪サー・H・E・モーリス家である。

本紙は中國に於ける英字新聞中の最大權威で英國政府の機關新聞でもあるが、主として支那現地の英人利益擁護を目的とする關係上屢々英本國政府の對支外交政策と相反する記事を掲載して氣焔を吐く事あり、日本人問題に對して排日を露出せざる迄も批判的態度を採り、北支問題では現地の英人利益と衝突する特殊貿易に對して痛烈に反擊を加へて居る。本紙の記事を通覽して猶太味を第一に感ずる事は字句が猶太人獨特の用語或は文法を發見する事で他の猶太人の印刷物中にある難解なる文字と同樣の字句を書いて居る點で猶太味を現して居る。

同社の重役 Sir H. Ernest Morriss, Gordon Morriss, R. W. Davis, Harldposter 等々容易に猶太の姓名を發見し得る。

試みに社員名を列記すれば

Haward　Criffin　Hoste　Strachan　Hirsh　Saupson
Meisting　Bates　Willam　Gaiving　Mockett　Arnold
Sapojinkoff　Puelain　Sthenoff　Evereot　Hoslom
Bruce　Dovy

（以上何れも主任級高級社員なり）

## 沿　革

一八五〇年八月三日即ち上海海港開放後七年、清の道光三〇年六月シャールマン氏創刊し、併せてーノスチヤイナ・ヘラルド（北支捷報）を一八五六年に發行したが一八六〇年シャールマン病歿し、エドウイン・ピツクウツド氏繼承し、一八六四年七月に航務商業日報を發行す。一八六六年（同治五年）エドウイン氏本國に歸りて病氣靜養中夫人代理して經營せるも一八八〇年エドウイン・ピツクウツド死亡し次に上海に於いて成功せるモーリス氏（仲買人）之れを買收し一九〇五年に至り同族のヘンリー・モリス氏に讓り株式會社に變更香港政廳に登記して社名を

North China Daiy News & Herald Ltd.

と改稱し改めて英國商業會議所上海稅關及び上海工部局の機關新聞に指定せられた。發行部數八千五百部內である。

同社は一九〇五年株式會社に變更後內部に兩派對立した事がある。理由は全部英國人なるも其の中猶太資本と英國資本の二派あり。當時同社の米國籍猶太人ソコルスキー氏主筆に對し純英國人株主の中にはソコルスキーを快しとせず、猶太排斥の聲をあげ遂にソコルスキー氏は職を辭して米國にかへり、市俄古市の新聞社に入社したが、

排斥せられた猶太人の方に於いては之れを不平として對抗戰を張り市内の商店會社（猶太人の）を煽動して廣告の撤回同盟を結び全部廣告を拔いて終つた爲め忽ち同社は營業不振に陷り、今度は純英人側の方から頭を下げてソコルスキー氏の呼び戻しを以て妥協を申込み、猶太側はソコルスキー氏を再び米國より呼び返して問題解決を見たが、其れ程に猶太人の經濟實力は上海に於いて表現せられて居る。英國租界に堂々林立せる商館は殆んど猶太資本ならざるはなく、猶太人に結束せられては如何なる新聞雜誌社も經營不能に陷り言論の死活は猶太財閥に掌握せられ居るのである。

(三) Shanghai Times & eSunday Times

一九一五年ノッチングハム氏の創辦にして英國總領事館に登記す。營業所を上海エドワード路一六〇號に有す。資本金墨銀七萬弗で組織は匿名合資會社である。

主筆 A. Morley 主任言者たる P. Palemauntain 及び採訪記者 Goldbery 其の他秘書 Stella Myers 等は皆錚々たる猶太の文章家である。發行部數は三千部以内なるも字林報、大陸報に次ぐ有力新聞である。同社の色彩は近時日本側に不利益に變調しつゝある。

(四) Shanghai Evening Post & Marcury

本紙は民國十八年四月十六日、陳友任の創刊せる上海カゼット紙が翌年上海マクユリー紙を買收併合したもので一九二八年米國新聞聯合のシー・オー・スタール氏が七五%出資、ウツドヘツド二〇%、サカレー五%の三名出資合資組織となる。

同紙は中國國民黨中央宣傳委員會より補助を受け上海に於ける新聞中最大の抗日新聞なり、夕刊大美晩報は中國人に歡迎せられ發行一萬部に及ぶ。

同社の經營はサツカレー、ウツドヘツドの二人に託し社主スタール氏は專らソ聯との連絡に活動し、昨年ソ聯は

ウツドヘツド氏を露西亞に呼び寄せて方針を協議したる事あり。ウツドヘツド氏外社員は大部分猶太人にて占めて居る。

發行部數は英文朝刊六千部、中國文夕刊一萬部、上海市外配布約六百部內外なり。從業員中外國人は次の者である（×印は猶太人なり）。

×C. O. Stuer　　×T. O. Thackrey　　Randall Could（主筆）
D. C. Buick　　×G. W. Woodhead
×M. C. Ford　　×G. D. Johnson
×Z. Casind　　×A. Myers
H. Addass　　J. Alquiras,
×C. W. Schooss　　×A. P. Nicktin
G. C. Buice

（五）Reuters Ltd.

猶太資本最大の世界的通信機關にして已に定評がある。上海に於いては一八七一年（同治十年）に創辦され、當時は僅かに英人の唯一新聞たりしノースチャイナ・デリー・ニュース社に材料供給に過ぎなかつたが民國元年に至り支那紙に供給する爲め支那語飜譯を設け C. T. Cox 氏は一九一二年より一九三二年に至る長年月同社の業務擴張に活動し上海ロイテルの今日あるは全く氏の努力である。氏は目下東京支社に移動しをり上海支社は E. J. Chanoelor 以下編輯十名營業部はモウル氏以下二十五名の大世帶である。

同社は本年二月より中央通信社と相互協定成立し社內より中央社發行の支那通信を發行し又フランスのハバス通信社とも協定成立しロイテル、ハバス、中央通信社の三社相互協定の成立は注目すべきである。主なる社員は

支配人　C. J. Chanoelor
主筆　Geoffrey Imeson

## 十二、支那武器借款の眞實性と警戒すべき點

十一月二十九日「東日」特種(トクダネ)となつた一億磅武器借款問題は、猶太問題研究から見れば至極當然な九ケ國會議の產物であると思はれる。何となれば之に依つて問題は日本對參加諸國の表面的問題ではなくなつて此等に共通して存在する國際金融資本家と普通敬稱されて居る猶太勢力と日本との對立問題即ち見へざる敵との戰爭となつて來るからである。

問題が斯くつかまへ所のない國際秘密力の問題となつて來ると、譬へ武力戰で支那に勝つても、思想、經濟、宣傳、謀略戰から見れば、何等解決されてない結果を殘すから戰爭目的の達成は更に此の方面の戰爭に勝つ事が必要で我等は一層東洋百年の平和の爲に長期戰の備へを固める事を要求される次第である。「戰爭の八割迄は經濟戰だ」と數年前から宣傳して居る猶太人は此處を日本の最大弱點と見て居るのである。從つて此の據點を攻擊する各種の宣傳謀略戰を世界的に行ひ日本を內から崩さうとするのは至極當然な常套手段である。

## 十三、戰爭は猶太の懷を肥やさずには濟まぬ

世界大戰で勝つた國も負けた國も多大の借金で首が廻はらなくなつた。然るに國際金融資本家は、文字通りの國際性を遺憾なく發揮してふんだんに儲けた計りでなく、二千年來の宿願、結婚式に於ける夫婦の固めの言葉にさへ、異邦人の手から取り戻す文句を入れる事を忘れなかつたエルサレムを、英國政府の首腦を手に入れる事に依つて、猶太の「ナショナル・ホーム」として祖國を恢復したのだが、大戰中英國のアレンビー將軍の率ゆる埃及遠征軍には特に

猶太人のみにて編成した英國軍下の猶太聯隊を加へ攻略入城に參加させる程の熱望が、平和會議で正式に「ナショナル・ホーム」として認めらるゝや、全世界の猶太人は文字通り欣喜雀躍嬉し泣きに泣いたものである。

今度の事變で彼等は不動産及び商業其の他の損害は現地の消息通では約一千五百萬弗と概算されて居るが、一方大なる不當利得をやつて居る事が最近歸來の同人の話に依つて判明した。即ち上海に戰火飛ぶ前後、支那人が奥地に避難する爲と日本の逆産處分を恐れ、土地家屋等不動産を初め食糧品其の他商品ストツクを猶太人に泣き付いて買入を賴んだのを二束三文に値切り倒し、此等の内船で輸送可能のものは八、九、十月にかけて悉く香港に送り出し、保税倉庫に收めて置いたのを皇軍上海包圍で食糧物資の補給困難で物價騰貴するや、再び之を送り返へし暴利を博し、尙皇軍に依つて治安維持さるゝに至るや一層之れに拍車をかけ輸入し忽ち數倍の利益を擧げ其の利得は三千五百萬元を超ゆるものと推算されて居る。斯の如きは彼等の上海香港に於ける特種の聯絡と巨大な資本の動員に依つて初めて可能であるので他國商社の企て及ぶ所でない。

斯の如く損失を恢復して餘りある外武器輸入で又懷を肥やし近頃彼等は頗るほく〳〵して居る樣は現地では明瞭に看取されて居るそうであるが、一方日本に對して表向きには巨億の損害賠償を吹きかけるべく、各種の準備をして轉んでも只起きない一流の手口を發揮して居るそうである。日本は餘程愼重なる調査を以て彼等の手を封ずる心構へが肝心である。

憐れを止めたのは支那官吏要人で市政府附近は土地繁榮策として市政府が半ば强制的に彼等の俸給から月賦で買はせたのであるが、今や殆んど猶太の土地會社の二束三文に踏み倒し買ひ占めとなつてしまつた事である。今後はどの位値上りするか分らないから彼等の不當利得は問題となすべきである。

## 十四、極東に關する限り對英問題は對猶太問題である

支那事變を繞る極東の諸問題は極東に於ける英國の權益卽ち猶太系財閥の權益である事實に依つて必然的に對猶太問題であると云ふ認識を持つ事が、今後懸案を解決する上に於て肝要である。ロンドンタイムス元主筆ウイツカム・スチードが其の自叙傳に歐米の政治外交は猶太勢力を度外視したら大なる見當違ひを招くであらう事を「學者も外交官も猶太問題の認識なき者は未成品である」と喝破して居る。彼は大戰中英國の宣傳機關を指揮したノースクリツフ卿の下にあつて對墺洪國宣傳部長として民族自決の僞裝の下に謀略的宣傳戰を指揮し、ユーゴースラヴィアと云ふ國を作り上げ、墺國崩壞從つて獨逸敗戰の緒を開いた功勞者である。彼が此の成功を克ち得た背後には謀略的宣傳戰に於けるノースクリツフの能力否其のバツクに控へて居る國際秘密力の歐洲政治外交に及ぼして居る威力である事をタイムスの主筆としてノースクリツフに永年接して居た時代を通して感得した譯である。

その一例證として彼れが主筆をして居た時代タイムスは一九二〇年五月二十日號に二段抜きの「シオンのプロトコール」に關し長文の評論を掲げ猶太派が之を僞物として論難する根據薄弱なるのみならず其の內容に就て敢て論じない態度を責めて居る

更に一九二一年五月八日號にも一論文を掲げ「之を僞作とすれば現在の事實を豫め描寫する豫言的天賦を何と說明するか。我等は何故に數年に亙つて獨逸の帝國主義と鬪つたのであるか。それは單に獨逸以上に危險な侵略に打突かる爲に過ぎなかつたではないか。吾等は猶太人の征服に屈從する爲に獨逸の征服から逃れたのであらうか」と云つて居るのは我々日本人は一層注意を要する。支那事變背後の國際秘密力の研究と對策こそは、日本が更に前進する爲に、世界に日本精神の精華を發揚する上に於て重大なる關係がないと云へるであらう乎。

筆者は我國の士が更に一層の研鑽と努力に依つて極東政局に關する限り對英問題は對猶問題である事の事實を究められん事を祈つて已まない。

## 十五、結　語

極東に於て、今後彼等猶太勢力は、何う云ふ手を打つであらうか。彼等は今後の謀叛の態度が强硬であるか、或は彼等をして乘ぜられるが如き不徹底な態度であるかに依て、彼等の手方も亦當然變つて來るのであるからして、要するに吾人は他の鼻息を氣にする事は止め、英國人がどう言つたとか、米國が斯うだとか、蘇聯がしか〳〵だとか云ふ樣な他力本願的態度を一擲して、日本を救ふものは日本自らであるとの確信を以て、善處せなければならないが、今のところ、彼等の策動の氣配を見ると、現狀に於ては大體次の樣な方策がとられるであらう事は、餘り無理のない豫測であらう。

(1)滿洲投資乘出し。——彼等が現在に於ける悲境を打壞する一つの逃げ途は、どうも滿洲にあるらしい。本年四月頃から上海の猶太言論機關は、例へばイスラエルスメツセンヂヤーの如きしきりに、滿洲に於ける猶太投資の有望なる事を宣傳して居る。由來滿洲は、彼等が日露戰爭以來活動して居る囑望の天地である。彼のハリマンが滿鐵の取扱策を講じて、小村外相の一蹴に會つて、怨みを呑んで引き下つたが、彼等は却々そんな事で諦めるものではない。支那再投資計畫確定前は、滿洲を狙つて居た事は前述の如くであるが、今日、日產の外資輸入にからんで、モルガン、クーンロエブ等、米國猶太系資本が動かんとして居るとの消息は、强ち火のない所には煙は立たん例への如くであらう。

そこでこの手は、彼等の常套手段である敵味方共その陣營に入り込むと云ふ手でもあり、又多年希望して果さなか

つた宿望を達する事でもあるし、吾々から見れば當然だと思はれる。唯、彼等が獨占的搾取慾に燃えて居ると云ふ事は、簡單に唯資本を利用すると云ふだけでは濟みさうもないと云ふ事は、少しく彼等のやり口を研究した者には考へられる所である。ナポレオンやビスマークでさへ彼等の金力を利用せんとして反對に手ひどい反擊を蒙つた前轍を踏まない丈け、日本は研究が普及して居る乎。歐洲の二大覇者を凌ぐ腕前を果して發揮し得るであらうか。簡單に米國人の資本家と思つて無研究の失敗をなさば、同胞の血を以て守りし權益を如何せん。筆者は徹底せる研究と對策に當事者が萬全の努力を惜まざらん事を望んで已まない。

(2)「經濟的壓迫」——これは既に多言を要せぬところである故に省く。

(3)「日本牽制思想宣傳戰」——彼等は當然、彼等が世界的に優勢を誇る各種の言論機關、宣傳機關その他、例へば各種の國際的團體例へば國際ペンクラブ等の如き外廓團體から初まつて（フリーメーソン結社、ロータリークラブ）等、迄も動員するであらうし打つべき手は澤山にある。

これ等の詳說はこゝに略する。

要するに彼等の根本的狙ひ所は、武力戰以外の各種の工策により、日本の對國際關係を惡化せしめ、經濟的不安を增加し、平和渴望的思想の助長等、日本國內の各種勢力の分裂離間を目指すもの以外にはない。故に彼等に對する對策の要點も玆に存せしめ、擧國一致目的に向つて勇往邁進するの實勢を調へ、又氣勢をあげる事を主として思想國防陣の整備、思想戰對策の確立等に向つて一層の努力が要求される。

（以　上）

# 日本を救ふ道

## 經濟行使力のユダヤ支配を脱却せよ

谷口雅春

### 國家主義と國際主義

今は國家主義と國際主義との戰ひの時代である。國際主義とは各國家の主權の上に國際的協議による超國家的な支配權を認めんとするものであつて、國際會議、九ケ國會議等はいづれも非ユダヤ民族國家の上に超主權を有する支配機關を設けて、非ユダヤ民族の國家を支配せんがために、ユダヤ民族が考案せる世界支配策謀の現れであつたのである。ユダヤ民族は現在國家的オーガニゼーションを有せず、その一千數百萬の人口を以つてしては如何に結集するも、武力を

以ては他國家を支配することが出來ず、從つてユダヤ民族が世界を支配せんがためには、各國家の上に位する超國家的合議機關を設け、その合議機關の決議は如何なる一國家の肆意よりも公的なものであるから如何なる國家もこれに從ふべきものであると云ふことを承認せしめ、而してその實際上合議する各國の代表が實はユダヤ民族（是迄國際會議等々で國際協議をリードした各國の代表者は二重國家に屬する國民であつて、表面は何某國家の代表使臣であると同時に、實はユダヤ潛行國家の民族であつた。）であることに成功すれば、ユダヤ民族は國家を有たずとも各國家の主權を支配するところの王の王たることを得て、イザヤの豫言を實現することが出來るのである。そして、此のことは既に五十パーセントは成就してゐるのであるが、獨逸のユダヤ人放逐、日本の國際聯盟脱退、日獨伊防共協定の成立等によつて、その國際支配權が停頓しつゝあるのは甚だ結構である。

## 金本位の國內通貨政策は經濟主權の侵害に他ならぬ

併しながら各國家の主權の上に位する超國家的支配權なるものを、國際聯盟のやうな合議機關ばかりだと思つてはならないのである。凡そ國際的承認を得ずしては一國の實力を行使し得ない事項は、一國の主權管內から盜み去られて、國際的管理機關にその支配權を移管されたと同樣なのである。この點に於て一國の經濟も觀察しなければならぬ。國際貨幣たる金の多寡によつて國內の經濟循環機能たる紙幣發行を制限せられる如きは、一國經濟を國際管理に置かれてゐると同樣である。

凡そ一國の主權を觀るには、その主權の所在（靜的主權）ばかりを云爲して、主權の實際的行使狀態（動的主權）を明瞭に觀ないときは主權の實體を把握したものと云ふことは出來ないのである。主權が單なる其の所在の位置を示すに止まらず、その機能たる實力行使の絕對性を保持するためには、一國に於ける經濟行使も他國に依存せしめてゐてはならないのである。

今迄主權の神聖は認められて來たが、一國の經濟行使の獨立性が唱へられなかつたのは驚くべき目こぼしである。一國主權の神聖は一旦緩急ある場合は軍隊の威力によつて保持せられるのであるが、軍隊の威力は何によつて行使せられるかと云へば、經濟力によつて行使せられるのである。だから一旦緩急ある場合には充分なる軍事豫算がなければ軍隊は充分に活動することが出來ない。其處で主權の神聖の完全なる維持は獨立せる完全なる經濟力無しには是を完うすることが出來ないことは明かである。ところが一國の經濟的實行力が國際貨幣であるところの『金』の大小によつて掣肘を受けるやうなことでは、其の國は經濟行使力の國際管理を受けてゐるのと同樣なのである。

一國が獨立せる完全なる經濟力を維持するためには、國家は國內の經濟開發の媒介となるところの貨幣を國際通貨にのみ規準して發行してはならないのである。換言すれば『金』がなければ國內の勞働力を動かすことが不可能のやうな狀態に置いてはならないのである。

こんなことは當然のことであり、何人も氣が付いてゐることであり、現に、日本銀行の兌換券は金準備八億圓に對して十五億餘圓を發行してゐるのであるから、實質に於ては既にこれらの紙幣は不兌換紙幣であつて、現に國內の通貨は『金』を標準としては發行されてゐないと云ふ人もあるであらう。併し、これは程度の差であつて、現在、紙幣の發行額が『金準備額』に支配され、それ以上に餘りに多くハミ出ることが恐れられてゐるのは事實である。國家が國民の勞働力を動かすのに、國民から公債を募つて、その公債證書と引換に國民の間に散らばつてゐる通貨を引上げた上で、その通貨を使つて支拂をしなければ、軍需品の生產代價としての貨幣が足りなかつたり、增稅などゝ稱して、民間に散在せる通貨を回收してゞないと、軍需品の代價に支拂ふ通貨がないと云ふのは、國內の通貨が國際貨幣たる金の保有量に支配されてゐる證據である。換言すれば一國の經濟主權が著しく國際管理下に置かれてゐると云ふことである。斯くの如くして『金保有量』に拘束されたる通貨の不足により國民保有の通貨の回收（增稅も公債募集もこれである）を行はなければ國內の生產力又は勞働力を動かすことが出來ない結果は、民間資金の梗塞となり、國內產業の購買力不足となり、

平和産業の壓迫となり、最初の一二回の公債には好成績に應募し、増税に耐へ得る通貨が民間には殘つてゐるにしても、やがては民間保有の貨幣量が軍需産業關係者一部にのみ偏在して、一般國民は公債應募にも租税増徴にも應じ難き狀態となる虞があるのである。茲に私は軍事費の増徴を公債又は租税に賴らず、國家に功勞ある者に購買權を與へる意味に於て軍事紙幣を發行し、軍事産業及び應召者の生計を應召前と同收入に維持するための支拂をその軍事紙幣を以てし、それを日本銀行兌換券と同價を以て國内に通用せしめんことを慫慂したのである。それでは公債又は増税はどうすべきかと云ふとインフレーションの浸潤狀態に應じて通貨を引絞める調節する目的のために、軍需景氣の特殊部面にのみ、公債の强制引受又は増税を行へば好いのである。（拙著『軍事紙幣を發行せよ』參照）

## 平和産業壓迫より失業者を出してはならぬ

戰時に於ける平和産業の壓迫は、建築抑制にて鐵材が建築に用ひられずして軍用に用ひられる如く、軍事資材となるべきものが平和産業方面に移行するのを防ぐためと、平和産業に從事すべき勞働力を少くして軍事産業方面にその勞働力を自然轉換せしむることに役立つのであるけれども、平和産業の壓迫は概ねその方面の勞働力を遊ばせる結果になり、その方面の從事者を窮迫に陷れるだけであつてその勞働力を軍需方面に移動せしめることは事實上不可能である場合が多いのである。例へば、京都の西陣織物工場では絹織物の賣行不振のために概ね休業又は操業短縮してゐて、その織物從事者は體力弱きものが大多數を占め重工業方面への轉業不可能であつて、組合の救濟扶助金をもつて給料の一部分を支拂つて生活費に當てゝゐると云ふことである。

これは政府が西陣機業を直接壓迫した結果ではないが、應召者家庭の一世帶宛收入の激減と、政府が一般平和産業方面の購買力たる購買資金を軍費方面に引上げる方針をとつたために、平和産業方面の購買力が激減を來したゝめの犧牲であるのである。西陣のみならず全國到るところの絹織物關係業者はいづれも大なり小なり打擊を被つて多少なりと

も操業短縮を見、國内生絲の不消化を來しつゝあるのである。一方事局將來の見透し難より、米國産業界は衰頽し、米國に於ける生絲の需要は激減し、日本國内の生絲消費の激減と相俟つて、生絲の値段は落勢沼々底知れずの低下の傾向をたどりつゝある。婦人子供にも出來る農村の副業として、最も收益多かりし桑作及び養蠶業の收入も急激に減ぜざるを得ないのである――これは、農村の中心勞働力が應召したる後の農村經濟に實に大なる打擊を與へるものだと云はなければならないのである。政府は是に對して如何なる對策があるか。たゞ『困苦缺乏に耐へよ』の掛聲だけでは餘りにも無策である。あまりに國民が困苦缺乏に陷れられる時には、其の時こそ『赤』の暗躍烈しくなり、戰爭に勝つて而も國内思想に分裂を來すが如きことなきかを憂へるのである。

## 紙幣を民間から回收する政策は國民大多數の窮乏を來す

冷靜に觀察する時は右の如き事態は必ずしも絹織物工業部面のみならず多くの産業部面に於て行はれてゐると云ふことである。それは應召者家族、軍費獻金者、公債應募者、租稅被增徵者など國民大多數者の保有通貨の激減により、一般購買力が減退し、一般購買力の減退は一般産業（軍需産業を除く）從事者の收入を激減せしめ、それは更に一般購買力を激減せしめ、それは更に農業從事者の收入を激減せしめ……それは更に等々……となつて將棋倒し式に一般産業の不振と國民收入の激減とを來さんとする虞れがあるのである。斯くの如き情勢を招來せんとするのは、軍事産業に支拂ふべき貨幣は、國民の間に散らばつてゐる貨幣を、獻金、公債應募、租稅增徵等の形式で一旦回收してからでないと支拂ふことが出來ないと云ふ迷信から來てゐるのである。軍事産業及び從軍將士家族を扶助する支拂は、國家に功勞ある人々に國家が購買力を報酬する意味に於て、軍事紙幣を發行し、獻金、增稅、公債等により通貨回收を行ふことなしに豐富に支拂ふことを以て特策とするのである。現在の如く困窮せるカード階級の應召家族一世帶宛××圓の生活扶助金の如き狀態では、一般生産品の購買力が衰へ、一般産業は將棋倒し式に萎靡沈滯するのは明かである。私の住んでゐる

澁谷區内でも政府の扶助金等では行き屆かないから×萬圓を町民有志に割當てゝ、區内の應召家族扶助、傷病兵慰問、遺族扶助費となしたのである。これは醵金する人にとつては善事をなすので結構であるが、それだけ區内の購買力が減じたことであり、延いては各營業者の收益に影響を及ぼす。現在の如き戰爭初期時代の國民精神昂奮の頂上に於ては、これにても耐へ得るが、持久狀態に入りて戰時的昂奮の冷却して來る場合に到つては、一般國内の經濟不振と生活窮迫とが深刻なるに於ては潛行する『赤色』の暗躍を誘導し、戰爭に勝ちながら、國内に幾多の不祥事を誘起するかも知れないから、そんなことのないやう民間の通貨引上を來たさないで、應召家族、遺族、傷病者保護の方策を樹立し、今よりも、もつと豐富に扶助金を出し得るやうな經濟對策を講じ置くべきことを、私は先憂獻言するのである。

## 軍事紙幣は何を擔保に發行するか

日本銀行兌換券は少くとも金準備を擔保にして發行せられたる融通券である。軍事紙幣は何を擔保に發行するのであるか、擔保なき紙幣は世界大戰後の獨逸マルク紙幣の如く、その價値激減して經濟界の混亂を惹起する恐れがあると考へてゐる人もあるやうだが、世界大戰後の獨逸マルク紙幣の價値激落は、擔保なき不換紙幣なるが故にその價値が激落したのではない。獨逸國自身の屈服的講和により、獨逸國の收入の根源たる植民地は取上げられ、幾百年かゝつても支拂つても支拂ひ切れない程の賠償金を支拂はされ、マルクの價値を保證する國家そのものゝ價値が激落したが爲にマルクの崩落となつたのである。日本に於ては事情が異るのである。日本は支那事變の戰勝により北支その他の見込利權の增加に伴ふ日本國富總體としての擔保力は激增したのであつて、その擔保力を基礎にして軍事紙幣を發行するとも、それは『金兌換紙幣』ではないけれども、擔保力を背景とする『國富兌換紙幣』なのである。國内に流通する紙幣の總量は、國富を基礎として發行するときは決して不換紙幣ではない。『いつにても此の紙幣を持參する者に國家が管理權を有する（例へば北支）某々地域の利權幾…と交換致すべく候』と表記せる『金兌換券』ならぬ『土地利權兌換券』を發行

してこれを軍事紙幣とし、これを軍事産業方面、遺族扶助方面等に支拂ふならば、租税の増徴も、民間引受の公債増發も、獻金の奬勵も不要であつて、軍費は幾百億でも必要に應じて整ふのであり、購買力低下に伴ふ國内到る處の産業と西陣織の操業短縮の如き不合理なる勞働力の浪費を引起す必要はないのである。國家に必要なのは紙幣と云ふ印刷物ではなく、或る媒介物を通して潜在せる勞働力を浪費なく國富の生産に驅り立てると云ふことである。

## 北支開發銀行を創立せよ

尤も北支の土地に伴ふ利權は戰後の講和條件が整うてゐない現在に於ては、とらぬ皮の褌であり、今後どうなるか賴りないと思へるかも知れぬが、併し斯かる北支の利權を擔保として發行せる軍事紙幣を國内全般に廣く行使せしめて置くと云ふことは、日本全國民をして、北支の日本利權に緊密なる利害關係を持たしめ、支那事變の究局的勝利に到るまで日本全國民の後援をして緊張狀態に維持することが出來るのである。斯かる紙幣を握らされてゐる以上、好い加減な成果で支那事變を形附けて了はれては自分の握つてゐる紙幣が無價になる虞れがあるし、支那事變に徹底的成果を得れば軍事紙幣所持者はその紙幣の値上り利益をも豫想することが出來るのである。かくて日本全國民は、究局まで徹底的なる軍事及び外交成果を得るまで、日本の軍事行動及び外交行動を支援せざるを得なくなるのである。かくの如く、北支の利權を擔保とせる『土地利權兌換紙幣』を發行することは國内平和産業の不振を防止し、國民の生活窮乏に基因する『赤』の策謀を未然に防ぎ、更に日本全國民を長く擧國一致的緊張に持續する一石二鳥の効果があるのである。

併しながら、まだ自國のものとは確定してゐない北支の利權を公然擔保としたる軍事紙幣を發行することは如何にしても外國に對して氣が引けて出來難いと云ふならば、『軍事紙幣』を北支の土地又は利權を擔保として發行せずに、獨逸のレンテン銀行のレンテン・マルクのやうに、日本全國の未抵當土地の土地所有者に不動産出資を出さしめ、日本全國の土地所有者の土地共同出資による北支開發銀行を設立し、出資者は出資土地の土地抵當證書を銀行に提出して、引換

に出資の土地價格だけの株式の交附を受け、北支開發銀行はその保有せる土地抵當證を保證として、その保證額だけの軍事紙幣を發行することにし、國家は軍事に必要な額だけを此の銀行より發行せる兌換券（軍事紙幣）で借りて使用すれば好いのである。（即ち、斯くの如き目的で設立せる北支開發銀行にのみ軍事公債を引受けせしめて、民間の通貨を增稅、献金、公債引受等の形で回收しないのである。）斯の如くするときは此の北支開發銀行發行の軍事紙幣は不兌換紙幣とならずして『土地兌換紙幣』となる。更に北支開發に要する資金は優先的に此の北支開發銀行より供給を受けることに便宜を與へるならば、日本全國の土地所有者は無駄にその不動產を寢かせて置くことにならず、國家的北支開發事業に貢献しながら、有利の利廻りに投資してゐることになるのである。日本全國の土地所有者の提供せる土地出資で北支開發銀行の資本金が足りないときには、日本全國の有力產業會社の株主より動產出資として株券を提出せしめて銀行の資本金とし其の保有株券の時價總額範圍で紙幣を發行しても好い。玆に一石三鳥の喜ばしき經濟循環を得ることが出來るのである。

## 北支の開發に外國資本を流入せしむるは絕對不可

更に北支開發銀行の創立による一石四鳥の効果、而も最大の効果は、北支の開發に外國資本の參加を防ぐことが出來ると云ふことである。今度の戰爭は形は支那軍との戰ひであるけれども事實はユダヤ財閥との戰ひであるのである。ユダヤ人は國土を持たず、兵力を持たず、從つて自國の兵力を持つて世界を掌握することが出來ないから世界の金力を掌握してその金力によつて他國を先頭に立てゝ相戰はしめ、戰ふ兩者の疲弊せる頃を見計らつて、國際會議（實はユダヤ人會議）によつてユダヤ民族の世界掌握の段階過程を進めんとするのである。而もその武器たる正金をユダヤ民族は全世界の七割を掌握してゐると云はれてゐる。若し北支の開發に外國資本を介入する時は、外國資本の名に於て實はユダヤ資本が混入し來るのは當然のことであるのである。若し北支の開發に日本が外國資本を借り入れる時は、いつまでも

ユダヤ財閥の北支進出上の據點を與へて、將來の禍根を殘すことになるのである。

ユダヤ民族の世界支配のためにユダヤの聖賢たちが集つて議定したと云ふシオン議定書の第二十議定には、

現下の紙幣發行は一般に各自の要求に適當しない。從つて全勞働者の需用を滿たすことが出來ない。貨幣の發行は人口の增加に適合せねばならぬ……諸君承知の如く、金貨本位は之を採用したる國家にとつて滅亡の原因である。

と說き、全世界が紙幣發行を金本位に縛られてゐることを嘲笑し、金本位を規準して紙幣を發行してゐるがために、外國資本の流入を必要とし、世界の金の七割を所有するユダヤ財閥に頭が上らなくなるのだと云ふ意味を諷し、

外債は蛭であつて此の蛭は、自ら落ちるか或は國家自ら彼をもぎ取らない間は、國家なる體から何うしても離すことが出來ない。然しながら非猶太各國は常に之を自分の體にひつ付けて取らうとしない、それであるから任意に迸る血潮にまみれて必然滅亡せねばならぬ。實際に於て國債殊に外債とは如何なるものであらうか。國債とは卽ち借用元金に應ずる利子を含めた政府の信用手形に外ならない、若しも國債が五分利附とせば二十年後國家は借用元金と同額の利子を支拂ひ、四十年目には其の二倍を、六十年目には其の三倍を空しく拂ふ事になる、而も借金は全然消却されず、其の儘殘つてゐるのである。此の計算からして國家は債權者たる外國の富豪に拂ふ爲、一般課稅に依り年貢として納稅者たる貧乏人から、最後の一文まで取上げることになるといふことは明瞭なことである。國債が內債であつた間は、非猶太人は單に金を貧乏人の懷から富豪の懷に移したに過ぎなかつたが、吾人が非猶太人を買收して國債を外債に移さねばならぬ樣にした時、全國家の富は吾人の金庫に流れ込み、そして有らゆる非猶太人は臣下として吾々に貢を奉り始めた……云々。

と書いてゐる。シオンの議定書は　　が全譯して本號に完載されることになつてゐる由であるから、これ以上は引用しないが、幾十億の軍費と、×萬の生靈とを犧牲にして贏ち得た北支の經營のために外資の參加又は外債を募るやうなことだあつては將來に甚だしい禍根を殘すことになるのである。北支經營には日本人の勞力が足りないのではなく、

（既に西陣、伊勢崎その他……の操業短縮で、補償金の給與を受けつゝ勞働力を遊ばしてゐる日本人が澤山ある事實を見よ）勞力を驅つて働かせる紙幣發行額が足りないに過ぎないのである。紙幣の發行を金本位（少くとも準金本位に）してゐるために、國内産業の不振から生ずる勞資の反目や、貧民の怨嗟をまねかねばならぬ。併して又、全世界の七割を掌握してゐるユダヤ財閥から經濟行動の國際支配を受けなければならぬのである。大戰後獨逸のマルクが激落し、一兆マルクがたゞの一馬克の價値しかなくなつたのも、それは金のない國の金本位のマルクであつたからである。獨逸は斯くの如くして破産したのである。その破産を救つたものは何であるか、土地や鐵道を抵當として發行されたレンテン・マルク紙幣であつた。金の少い國が金本位を持續する限り、その國の經濟は全世界の大部分の金を掌握する民族にリードせられねばならぬ。これは當然のことである。金本位の經濟世界では金は經濟軍隊であり、金の少い國は金の多いユダヤ財閥の支配する國にしてやられねばならぬ。その意味に於て日本は、已むを得ない國際貿易以外に於ては、金本位でないところの實際の國富本位の紙幣を流通させて、それによつて自由に交換經濟を成立たせてユダヤ金閥の支配から免れるやうにしなければならない。『金』が無ければ紙幣が出せないと云ふやうな迷妄から吾々は目覺めねばならないのである。全世界が『金』をもつて經濟戰に立つてゐる時、少い産金國である日本が『金』を武器に經濟戰爭に立つても勝つことは出來ないのは當然である。吾々は武器を代へて戰はねばならぬ。吾々が金本位の經濟から脱退して、國富本位の紙幣を以つて國内經濟を動員するならば、全世界は今迄とは標準の異る經濟武器を以て戰はねばならぬから、今迄の見當が外れて、吾々を經濟戰によつて打破ることは出來なくなるのである。『金』と云ふ國際的なものを標準にして國内の經濟循環までも國際的に縛られてゐるやうなことでは、國内の經濟支配を國際管理の下に置いてゐると同じことなのである。吾々は國際聯盟を脱退したと同じやうに、國内の經濟支配を、國際管理的性質のある金本位から脱退せしめねばならぬ。そのためには前述するが如き北支開發銀行を金資本以外の資本にて創立して、そこから金本位以外の國富本位の紙幣を發行してこれに購買權を賦與しなければならないのである。

## 國際收支の均衡を得るために絹織物生産消費補助金制を設けよ

併し國際的には尙、金本位經濟が今は持續するのであるから、海外の收支決算の均衡を得るために吾々は出來るだけ國內品を使用して國外品を輸入することを避けねばならぬ。そのためには更に更に絹織物の生産を奬勵せねばならぬ。そして益々絹織物其他國內製品の消費を奬勵しなければならぬ。絹織物が高價であるからとて外國輸入の棉製品を買ひながら、絹織物工場の勞働力を操業短縮によつて休ませてゐるが如きは、紙幣を大切にする結果、生産力を空費してゐる愚である。されど人は云ふであらう。棉織物は一反五圓であるのに絹織物は一反二十圓である場合には献金や公債應募で貨幣をなくした貧しき人は絹織物を買ひたくとも買ふことは出來ないと。こゝに献金奬勵や、公債應募奬勵で民間の貨幣を政府に回收するなどのことをするよりも、民間に、貨幣を殘して置いて購買力を刺戟する方が、國民の勞働力を操業短縮せしめることなく、從つて國家全體の富の生産力を停止せず國富の增進を得ることになることを明かに示してゐるのである。だから政府に軍需品を注文するための紙幣が要るならば、決して民間の紙幣を政府に引上げる面倒な方法を講ずる必要はないのである。否それよりも、前述の如き北支開發銀行の如き銀行を創立して、其の銀行から必要なだけの額の軍事紙幣を發行せしむれば好いのである。又、この特殊紙幣は國民が輸入品（たとへば棉布）の方が安價であるが故にとて國産品（例へば絹布）を買はず、輸入品（棉布）を買ふと云ふやうな場合に却つて國産品を購入せる者には、その代金の差額をば政府が此の特殊紙幣を以て補償する代金補償制度を設くれば、國民は喜んで國産品を安價で買ひ、賣る方の商工業者も顧客から貰へない『代金の殘額』を政府が支拂つてくれるのであるから、賣る方も買ふ方も損失なく、買ふ方は一層美しい絹物を得て而も貨幣は棉布代だけ支拂へばよく、國産品の生産を奬勵することが出來るのである。判りやすく例を以て示せば、一反二十圓の絹布を生産せる場合には、政府は豫め一反每に十五圓の絹織物生産補助金を北支開發銀行發行の軍事紙幣にて支拂ひ、一般には一反五圓で賣出さしめるのである。更に洋服などは百貨

店經營者と新聞社主とを政府に招んで懇談し、絹織物の洋服流行を宣傳せしめ羊毛着用者は時代遲れだと宣傳せしめる。民衆はその宣傳に乘つて羊毛の服を着ず絹織の洋服を着る。政府はそれらに必要な紙幣を北支開發銀行（名稱・暫定）から增發せしめねばならぬ、併し軍事紙幣の發行額は北支開發銀行の保有する土地出資の擔保證書及び株券出資額以上に出ては無論ならない。その限度を超えればインフレーションを起すから、その限度を超える恐れがある時には始めて增稅でも內國債募集でも行つて好い。もうその時には軍事紙幣は全國內に遍く豐かに行き亙つてゐる筈であるから、可成りな增稅にも應じ得るし、公債發行にも應募し得るのである。農村は霑ひ、棉花と羊毛の輸入は殆ど零にまで激減し、この兩品目の年十億の輸入額の大部分を削減し得、日本は常に輸出超過國となるのである。一方、絹物着用奬勵が過ぎると棉絲紡績界が不振で困るだらうと云ふ人があるかも知れぬが、これは先づ北支と經濟合作を行つて、北支に棉花栽培を奬勵し、やがて全支の棉を輸入して、これを加工して全支那に賣出せば好いのである。こゝに支那との經濟提携が完全に行はれ、支那は產業的に日本なしにはやつて行けぬことになる。此れは餘論になつたが、何と云つても紙幣發行額を現在のやうな金本位又は準金本位に置く限り、國內の一國經濟力行使を國際財閥の管理下に置くと同樣になるのである。吾等は一國主權の完全なる自主を確保するために、その主權の實行力の保證であるところの自國の經濟行使を、現にあるが如き國際的管理性から脫却させなければならぬ。これこそ唯一の國家經濟を、そのユダヤ支配から脫却せしめる道であると思ふ。

谷口雅春著（いのち文庫第三篇）定價五錢 送料三錢

**軍事紙幣を發行せよ**

武力戰は同時に經濟戰だ。著者の周到緻密、しかも卓拔、時宜を得たる經濟眼に驚嘆しない者はない。續いて本書を讀まれよ。これは經濟戰必勝の書だ。

# 猶太主義の文化的擬態

増田正雄

ロンドンタイムスの元主筆ヴイツカム・スチードは『猶太の動きを見ずして外交や政治、經濟を判斷することは非常な冒險だ』と云つた。我が國でも猶太問題の重大性は相當古くから叫ばれてゐたのであるが、問題の內容が餘り廣範なのと複雜性を帶びてゐるのでどうもピンと來ないやうであつた。殊に歐米のやうに猶太禍が露骨でないのも、重大性を認識させる妨げとなつてゐることは爭はれない。その實、明治維新後の氣狂じみた自由民權の叫びや又高等教育が國情や國民性を外れた自由主義で培はれて來たことや、又共產主義の輸入といひ、階級的な勞働運動の擡頭といひ、外交では國際聯盟や華府會議、ロンドン條約は申すに及ばず、滿洲事變に對する歐米の反日態度又經濟では日本の外債や社債を種に不當に爲替を叩かれたり、輸出を妨害されたりする諸般の問題の裏に『猶太の動き』が嚴然として存在してゐるのであつて若し政府當局がこの動きをよく知つてゐて對策を講じたなら、どんなに損害を防止し得たかと、つくづく考へさせらるゝのである。併し乍らこの認識不足も無理のない點もあるのであつて、日本は歐米のやうに皇室や政府機關が猶太人に動かされてゐるといふのでは勿論なく、財界も言論界も猶太力の侵入が少ないので、猶太問題の重大性と云つても適切に痛感し得ない實情であることは一應肯定し得るのである。

◇

處が今回の支那事變で痛切に猶太問題に當面する事となつたのは南京政府を動かしてゐるのは英國の猶太財閥であると云ふ事と、此の事變に對する歐米の輿論を反日的ならしめてゐるのは、獨伊を除く歐米の新聞、通信の殆ど悉くが猶太人の經營によつてゐる事、更にコミンテルン卽ち共產主義運動が其の實、猶太運動の一つの表はれである事等が曝露された結果、支那事變の解決にしても『猶太の動き』を除外して到底考へられない今日の實情となつて來てゐるのである。今迄は日本の

行動が彼等歐米猶太人を刺激する事は割合少なかつたので、彼等も日本に對して割合に甘く見て居た樣であるが、日本國運の進出が支那を基點として大陸に伸びるに從つて、當面に彼等と衝突する事が避け得られない今日に於ては、彼等も獻身的に日本に對する敵對行動に陰に陽に乘り出して來るものと我等は覺悟すべきだと思ふのである。

◇

乍併、日本に於て彼等の遣り口を心得て毅然として此れに對すれば、戰ひは深刻なりと雖も、結局此を逆擊し且つ逆用することが出來ることは確信として一點の疑ひを持たぬ處である。

それにしても、猶太問題とは何か、明瞭に心得て置かなければならないのである。そこでその要領を簡單に叙述して見やうと思ふ。

## 一、猶太國

猶太問題の一大要點は、猶太國の存在と云ふ事である。歐米では『地底政府』と別稱してゐるのであるが、それは全世界の猶太人が國籍は英、米、佛、蘇、又は諸外國にありと雖も、何れも猶太教を信條として固く團結し、先づその國籍國の政治、經濟、外交の支配權を獲得し（猶太人は財界と言論機關は表面に出て支配してゐるが政治方面は表面に出る場合もあるが大體裏に隱れてその國人を操るのが定石である）更に進んで全世界を猶太人の支配下に置かんとする、所謂メシヤ觀念による團結を意味するもので、主としてヘブライ語を以て連絡し、殊に相互扶助が行はれてゐることは最も特異な點で且つ重視を要する點である。此の世界征服觀念による彼等の世界的團結から種々複雜な行動が起つて來るのである。

## 二、猶太教

猶太人は猶太教に對しては絕對的狂信である。此の猶太教が猶太問題の核心を爲すのであつて、猶太教を離れて猶太問題はないのである。

猶太教とは何ぞ、一言に云へば民族神教であつて猶太人のみが神に選ばれたる民族であつて他國人即ち非猶太人は結局猶太人によつて支配さるゝものである。と云ふ信條を堅持し更に道德正義は猶太人にのみ適用さるゝもので、非猶太人に對しては凡ゆる嘘言、權謀慘逆が神より許されてゐると云ふ厄介な信念を持つてゐるのである、猶太問題の複雜性は此處から出發するのであつて、興味ある一例を擧ぐれば、蘇聯の宗教破壞に狂奔せる猶太人が極めて祕密に猶太教のトーラ（神典）による信仰を每日捧げてゐる事は曾てモスコーで聞いた事がある。又基督教に改宗を粧へる猶太人が祕密に猶太教を固信してゐる事は幾多の例證がある。

◇

一體猶太人の如き沙漠民族であるセム人種は宗教に狂信的なものであるが、猶太人の猶

太教に對する如きは類例少きものと思ふのである。(猶太教に對しては他日詳述したいと思つてゐる) 此の猶太教に對する狂信から猶太人の特異性があるのである、それは非猶太人との非妥協性である。此は能く心得て置くべき點であつて自ら支配力なしと信ずる間は妥協を粧ふも、内實は決して妥協はしてゐないのである。從つて權力を得た時は猛然として非妥協性を發揮するのである。此は實に悲しむべき信念で大戰後に於けるドイツ、イタリー、蘇聯、ハンガリー、ブルガリヤ、等の實例は此れを證して餘りあり、而もそれが結局反動を誘致して排猶運動の起れる事亦今日の實情が實證してゐるのである。此の非妥協的の征服觀念が彼等から到底脱けない間は、即ち獨善的で排他的な猶太教を信ずる間は、世界民族は猶太人との爭鬪を續けて行く事と思ふのである、所謂人民戰線、共產運動、自由主義又は國際主義等の名に隱れた彼等猶太運動と各民族並に國家戰線との血みどろな戰ひが複雜な形ちで延長さるゝ事であらうと思ふ

## 三、世界征服の一般方略

### (イ) 金融と言論の支配

猶太人は、よく諸外國から迫害された事を訴へる。成程猶太人の歷史は正に被迫害史とも云へる、併し、其の迫害國が如何ばかり猶太人から迫害された事は割合に知られてゐないのである、獨逸がナチス擡頭前即ち歐洲大戰後政治機關を猶太人に依つて占領された實情は重な役人の八十パーセントが猶太人であつた事だけを擧げても此を證する事が出來る

◇

況んや猶太人は其の國を征服する手段として先づ第一金融と言論機關を掌握して民族の武力抗爭を骨拔きにする。同時に一方、新聞雜誌、通信等によつて特權階級に對する民衆の不滿を激發する、又議會の選擧に當り、自己に都合よき人物を當選する爲めに、金と言論機關を活動させると共に都合悪しき人物を言論機關を總動員して悪罵排斥する、議會は猶太人並に猶太人の金と言論機關によつて當選した味方によつて當然多數が占められる。從つて政府機關が彼等の勢力によつて動かされる。

而して他方、金融界はいふまでもなく彼等の金で占領されてゐるので、國民を段々貧乏にして猶太財閥が太つて來る。此の事は詳述しないと分り難いかも知れないが、一例を擧げればフランスは大戰前から殆ど猶太勢力が横行していたのであるが大戰後は決定的に猶太國となつたといつてよい狀態である。その證據は前内閣のレオン、ブルム首相以下公然猶太人が政治機關に乘り出し、更に今のショウタン内閣と雖もショウタン氏自身猶太の番頭である事は有名なスタヴイスキー事件以來著名な事で、しかもレオンブルム氏が依然副總理で居據つて居つて猶太の牙城はビクともしてゐない。

處で此のフランスの猶太勢力が大戰後フラン

ス國民に對して何をしたかと云へば、平價の切下げを二回に亙つて續行したのである。大戰によつて歐米の金は大部分猶太人の手に歸したと云つてよい、しかも彼等は連絡し團結してゐる、歐米猶太人の團結した金の力に對抗する勢力が何處にあるであらうか、そこで世界を自己の征服下に置く爲めに其の國民を徹底的に貧乏にせなければならぬ、國民の貧乏は猶太人が太ると云ふ事である。その結果金本位なるが故國民は紙の紙幣が與へられ、其の紙の紙幣の價値を猶太金權あるが故に自己の財產が保たれると云ふ事になる、こう云ふ意味で、フランスの猶太金權は平價切下げを續行する度毎にフランス人の金を取り上げて來てゐるのである。これは說明が拙いので分り難いかも知れないがそれは別に詳述する事として、彼等が平價を切下げる毎に爲替の投機で巨額の利益を博すると共に、フランス人を貧乏にしつゝあると承知して頂きたい。

◇

英國でも米國でも金融と言論機關は完全に猶太人の手中にある、唯彼等は平素其の國民を瞞着せんが爲め自己に差り障りなき時は其の國人の聲を發表するが、自己の計畫に必要ある場合は國人をして其れに從はせんとして通信や記事を滿載して國人をしてそれに導くのである。例へば今次の支那事變は彼等猶太財閥にとつて近來にない大打擊であり、支那經濟獨占の野望が、將に危機に瀕するのであつて、此に對して如何にかして日本を世界の敵に作り上げて世界の共同戰を誘致すると共に日本の擧國一致を破らんとして先づ支那から英國のロイテル、フランスのアバス、米國のユーピー、エーピーが共同戰線を張つて日本に對する惡意的であり、作爲的である電報を打つて反日輿論の製造に努めた事は衆知の事である。

處が此に彼等にとつて最も苦手があるのである。それは民族の團結と武力の行使と云ふ事である。彼等が金融と言論を掌握する事は即ち此の民族の團結を破り武力行使を封ぜんとする事だが、これに敗退今又日本からも痛擊を受けんとしてゐるのである。そこで作意的の反日輿論を鼓吹しても今直に武力戰に出るには都合が悪いとなると、他國を煽動して當らせるか、若しくは輿論の急轉回を平氣でする、そして相手の氣を拔いて置いて、更に間隙をねらつて其處に猛然と又進擊すると云ふ工合である。前述した通り正義人道は彼等同志には通用するが、非猶太人には通用しないと云ふ憲法を我等が心得て置く必要がある。但し彼等は此れを何時でも適用するすると云ふのではなくそこは臨機應變なのである。

こう云ふ樣に彼等が各國で金融と言論機關を掌握せる實情を知れば、ナニ猶太人なぞ利用すればよいぢやないかと、甘く單純に見る日本の一部の人々も、少しは考へ直す事であらうと思ふ。

### (ロ) S・S・Sの工作

次に彼等が世界的に工作してゐる事は三S政策である、それはセックス、スクリーン、スポーツによつて其の國の道德の破壞と國際主義の昂揚と猶太人の優秀を誇示する事である。

彼等が言論機關を獨占する野望からは當然映畫事業の掌握に延長さるゝ事は納得出來る事である、今日英米佛で猶太人以外の映畫經營者があるであらうか、其處で作り出さるゝ映畫は何を目的としてゐるかは映畫觀賞家の少しく考ふれば分る處である。それは極めて自然に、しかも何人にも氣のつかぬ樣に、性道德の破壞、ギャングに對する興味、戰爭に對する悲慘感よりの忌避的感情の煽動其他猶太人に對する同情等が盛られてゐるのである。今日日本に米國から輸入さるゝ映畫に對する青年子女の魅力の素晴らしさは驚くべき程である。其の映畫の語る影響について爲政家は考へた事があるであらうか。

◇

又性道德の破壞については、論文に小說に近來彼等は努力を傾けてゐる樣である。最近元佛首相のレオン・ブルムの『幸福な結婚』と題する論文は此の代表的なものと云へるのである。それは今歐米で問題の渦卷を起してゐるのである、日本でも某婦人雜誌が其れを得々として揭載して、忽ち發賣禁止となつたものである。處女が結婚前に〇〇する事が幸福な結婚を招來する、等の事を如何にも尤もらしく論理付けた處は、以前米國の猶太人にして判事たるリンゼーの『友愛結婚』と同一轍の行き方である。此に對して我等は、猶太人が如何に結婚に對して嚴格なるかを對照して考ふべきである。猶太人は同族の結束上男は猶太人の女に非らざれば妻とすべからずとなつて居り、女は猶太人の他國人同化政策から他國人に嫁してもよいが、但し其の國人をして猶太人に好意を持たし得る判斷ありたる場合に限るとなつてゐる、のみならず猶太人の男に嫁する妻は處女たる事を要求する事日本と變りはないのである。其の猶太人が他國人に對して性道德の破壞を煽動する意圖は、即ち其の國の傳統を破壞し軍民離間を目的とする彼等の憲法に準據するものなのである。

（因に、佛元首相レオンブルムは佛國に於ける富豪にして、而も佛國共產黨の隱れたる首領である。猶太の動きは『渡し』と『受取り』を心得へなければ了解出來難いのである。『渡し』とは社會主義、共產主義等によつて相手國の民族團結を破り、其の國の富を奪ふ事を意味し『受取り』とは其の國の破壞されたる富を猶太財閥が受取る事なのである。此については別の機會に述べる）

三S政策の內のスポーツに猶太の意途が侵入されてゐる意味は複雜の樣ではあるが、如何にも猶太的らしい處に興味がある。それは國際主義の昂揚と云ふ立前からである事は無論であるが、弱少民族に優秀性を持たせるといふ事に彼等の匙加減があるのである。

例へば米國で猶太人はニグロの團體には努めて交渉を持ち、且資金の援助をしてゐる。その故は猶太人は今米國で大統領を始め支配階級の大部分は此を操縱し得る力を持つているが、その動かし方がともすれば猶太自體の利益を主眼とする爲め、眞正米人の反猶意識は徐々に且根强く張られつゝあるのである。そこで明敏な猶太人は將來の反猶ファッシズムの勃發に備へて己の味方とすると共に、弱少民族をして優秀感を持たしめ、米人との間に意識的無意識的に摩擦を起さしめんとする猶太特有の革命煽動理論から、特に選んだのがスポーツで、陸上競技は元より拳闘等に白人をして黑人と闘はしめ黑人優秀感意識を製造せんとしてゐるのである。オリンピックにフインランド其他弱少民族の參加を援助し來りし事は同一筆法の表はれである。

## 四、支配階級の支配

猶太人が相手國に對する征服手段の第一は其の國の支配階級の支配と云ふ事である。一例を英國に見る。猶太人が英國を支配するに至つた徑路は英國皇室の周圍の貴族侵入から始まつてゐる。尤も金融と言論の支配が先づ行はれた事は何れの場合も共通の定石である事は云ふ迄もない。

英國皇室を如何にして虜にするかの問題は英國貴族を如何にして虜にするかの問題から始まつたのである。先づ皇室に最も關係の深い貴族の中の財政　かならざる者に目をつけ、此に接近して所要の金錢を無擔保で貸し付けて、而も期日が來ても決して催促をしない。更に必要あれば又貸す乍併必ず利子を付した證文は其の都度取る事は決して忘れないのである。かくして段々親密の度を深めて行く間に若し其の貴族に弱點あれば此を知つてそして其の前後策を引受けて祕密裡に處理する。其の貴族は其の猶太人に頭の上がらぬ樣になる中に、猶太の女を紹介して交際させる。猶太女の怜悧さは知る人ぞ知る。そこで最後の策が出て來るのである。それは借金と弱點と猶太女の爲めに其の貴族の要求されるものは猶太女との結婚である。中には現在連れ添ふ夫人の離緣を强要して猶太女との結婚を强要する。若し應じない時は猶太人は言論機關で强迫すると云ふ姿態を示す。もう此處まで來れば萬事猶太人の言ふ通りになる。其の中皇室と接近する。現在英國皇帝を圍る貴族中猶太人と英人との混血が如何に多數なるかは最近英國にて出版された『猶太人の英國貴族侵入』の一書に明白にされた處である。そして別の手は代々の政治家中に同じ樣な方法で延ばされて行くのである。最近に見ればロイドジョウヂである。彼及び夫人は純英人であるが、彼の政治費用は從來悉く猶太人の貢ぐ處であると云はれてゐる。其の代償として彼の背負つたものは彼の祕書の猶太人である。猶太人は目指す政治家に金を貸すと共に必ず祕書を付ける。

それは一切の機密に參劃する事である。若し事あつて其の政治家が猶太人の要求を拒否する時は忽ち新聞によつてスキヤンダルが起るのである。讀者は曾てロイド・ジョウヂの金錢に關するスキヤンダルがタイムスを賑はした事を想起して頂きたい。そして其後更にタイムスによつて彼の潔白さが堂々と表明された事と彼此合せて其の間の消息を前文によつて悟らるゝ事であらうと思ふ。昨今殊に滿洲事變以來彼の排日演說は抑々何を語るか。更に現外相イーデンの祕書は猶太人である。更にカンタベリー大僧正が一昨年の敎書で猶太人の爲めに祝福した事や、エチオピヤ問題で伊太利を批難した事や、滿洲事變で日本を難詰し更に又今回の支那事變で日本に毒付ける事等悉く如上の消息の語る處である。

又米國大統領が周圍の猶太人の意の儘に動ける姿は最近米國のエドモンド氏の發表せる處に明かであるが今は其の恕說を省く。

猶太人が皇室に接近する唯一の理由は最高支配權中に侵入する事と共に此に君臨不統治に導き、議會中心に移行させる根膽である。歐米の議會の選擧が主として金と言論機關の支配下たる事は云ふ迄もない。(現英國皇帝はフリーメーソン會員なり)

## 五、兩方侵入

猶太運動の特性の一は兩方侵入である。此を最近の例に見る。エチオピヤ事變で最初伊太利を難詰し聯盟をして經濟斷行を爲さしめたのは即ち英國猶太人である。エチオピヤの油田、苛性曹達其他の天然資源を殆ど獨占せるものは猶太人であり、更にエチオピヤ銀行は皇帝と猶太人との共同出資であり、エチオピヤの大商業機關マホメツト、アリ商會は猶太人が皇室と聯携して經營せる處である。此の猶太人が伊太利の侵入を恐れて聯盟をして威嚇せしめたのは一應當然と見るべきである。然るに狀勢の推移は到底伊太利を屈服せしめ得ずと見るや、佛國猶太富豪たるロスチヤイルドは直にムツソリーニに敵を通じて軍費四億五千萬法の貸與を申出でムツソリーニの此を受諾するや、右エチオピヤの猶太人の從來の利權たる天然資源は遂に伊太利の支配する處とならず依然として猶太人の權益に屬してゐる現狀は、彼等の兩方侵入の好例である。猶太人は多くの場合敵、味方兩方に侵入して最後の機會を睨むのである。基督敎を亡ぼさんとして基督敎會に多額の金錢援助をし又自らの猶太敎を隱して基督敎牧師となれるもの多數ある如きは、少しく手の込んだ兩方侵入の例である。

## 六、對外投資

金權と言論機關掌握によつて世界支配を目指す上からは獨裁國と猶太金融の支配力なき國が彼等の敵と云ふ譯である。猶太の對外金融は大體國債社債の投資と事業資本の投資の二つに別れる。前者は主として政治

的又は金融的意義の下に取扱はれ、後者は政治的意義の外に結局支配權を確立する事を目指してゐるのである。

日露戰爭の時猶太財閥によつて引受けられた日本外債に對して貸主の一人なるシッフは公然と發表してゐる『我等は日本に對する好意によつて貸付けたのでは斷じてない。唯帝政露國を倒さん爲めの一手段としてゞあつた』と。

近頃日本で、滿洲、北支の開發に猶太資本の輸入を要望する聲を聞く、外資の輸入は必ずしも拒否する必要はない。乍併考慮さるべき前提があるのである。猶太資本の鐵道其他重大工業への輸入は日本權益の分割を意味すると私は信ずるのである。斯く迄しなければならぬ程日本資本は果して滿洲北支の開發に堪へ得ないであらうか、堪へ得ないと斷ずるものあらば、日本財政の眞相を知らず又其の運用を知らざる痴漢であつて、更に滿洲、支那に進展しつゝある日本國運の眞意義を沒却せるものと思ふのである。戰爭による一ヶ年の消費が何程なるかを想ひ、冷靜に考慮すべき問題と思ふのである。門戸開放とか、國際資本利用とか猶太言論機關の放送に徒らに乘る前に、從來歐米又は各殖民地に於ける猶太投資が結局支配權を獲得せる實例を檢討する必要があると思ふのである。かく云へばとて外資輸入を原則的に反對するのでは決してない外資輸入によつて日本の權益が侵かされない用意が果してあるか否やの考慮を求むるのである。

○

猶太ばなしは書き出せば際限がない。併し乍ら此の複雜な猶太の動きも煎じ詰めれば『世界を猶太人の支配下に置かう』と云ふ所謂メシヤ思想からであり、從つて一時的には相手方と妥協的態度を採つても內實的には決して『同化しない』と云ふ彼等の特性をよく心得て對策を講じなければならないのである。

○

一昨年來朝した米國英國の某名士も、昨年來朝した米國の某名士も猶太ばなしの結句は偶然にも同一であつたのである。

『我等は最初、猶太人は利用し得ると思つた、然るに遂には彼等に利用され、且つ支配されるに至つた』と

「甘露の法雨」と共に、「生命の實相」の眞理を要約せる結晶的長詩。

聖經

天使の言葉

六拾錢(送料・三錢)

發賣所 光明思想普及會

東京市赤坂區溜池町五

振替東京五五一九

# 理念の實現

## —闘争より建設へ—

（一九三七年九月九日ニュルンベルクのナチス黨大會に於ける演説の譯抄）

アルフレット・ローゼンベルク

ナチスの最初の闘士達がアードルフ・ヒツトラーの下に集まつたとき、彼等の凡て及び後に加入して來た人々の心中には期せずして、自分等が一九一八年以來潜つて來た世界はその邊にざらにある革命の如きではなくて、生死を決定する世界の轉回期であつた。といふ感情がひし〳〵と迫つて來た。このやうな本能は必ずしもはつきりした意識ではなか

つたかも知れないが、このやうな本能が存したといふ事實だけで獨逸國民の性格は決定され得る。飢餓と困窮とヴェルサイユの屈辱的條約といふあの恐ろしい强壓の下では他の國民なら恐らく破滅し終へたであらう。然し獨逸は、十五年の短時日によく最惡の崩壞を最大の更生に變ずるだけの餘力を自分の中に藏してゐた。かくあり得たのには諸他の條件も存するであらうが、余の信ずる所に從へば、之は偏に、國民社會主義運動の判斷及び行動に人生の事實に對する內面的眞實性が決然と存してゐたことが我戰史に歷然たることに因るであらう。

我々は臆せずに運命を睨み、そのうちどうにか良くなるとか、民主主義的政治家の下にあつて社會的並びに政治的壓迫が弛むだらうとか、二、三年中に「協和」がやつて來るだらうとかいふ卑怯な空辭で慰め合つたりはしなかつた。**むしろ我々に明かであつたことは、昔の國々と同じく獨逸も亦生死を決する轉回點の眞只中に在るといふ事實であつた。**

夫故に國民社會主義運動は事實の勇敢なる檢討に向つた。その結果、只何れか一つの領域が危險に瀕してゐるといふのではなく政治・社會・文化一般經濟等のあらゆる領域に亙つて分解現象が顯はれ來つてゐることが益々明かになつて來た。然もこの檢討は引續いて行はれ、かゝる一般的分解作用を起した條件と原因とを吟味させるに到り、この點に國民社會主義の歷史的一大任務があることが明らかになつた。社會的に之を見れば、最近百五十年の經濟的個人主義こそは、混沌の宣傳者に味方した連中の培養基であつた。彼等は何代も續いて經濟的個人主義の勢力に屈服してしまつたのであるが、國民社會主義の確定し得た所に依れば、この社會的條件の他に尙ほ政治的な條件が加はつて、經濟的個人主義に政治的援助を與へたのであり、之は世界觀的にはマルクシズム運動と離れてゐるやうに見え乍ら、實際には血統に基づく國民精神を否定する點で猶太人的マルクシズムと同系のものなのである。かくて中央黨とマルクシズムとの間には奇怪な共同關係が結ばれ、我が獨逸帝國に敵對する共同戰線が張られるに至つた。そしてこの共同戰線の背後に思を致したとき、國民社會主義は最近數十年のみならず、數百年の發展を洞察せざるを得なかつた。

そしてその結果として國民社會主義の主張せざるを得なかつたのは、かゝる恐るべき精神的並びに政治的情勢よりの脱出は、必要とあらば萬事を獨立して敢行する勇氣ある性格を基として、始めて可能である、といふことであつた。

## 世界觀の勝利

このやうな運命を決する一大事の際に何か運動を起さうとするには、少くとも本當に大きな仕事をやらうとする限り、どうしても從前の政黨を振出しにしては駄目だ、精神的にも主義の上でも新規に土臺を据えねばならぬ。つまり、その運動は成立の中心を敵派のイデオロギー以外に有する世界觀を指導原理としなければならない。世界史上の多くの戰爭は一方の軍事的勝利に終つたが、然しこの勝者側もその世界觀を敵から得てゐたために、結局は敗れてしまつた。例へばアルバ公にしてからが、折角法王軍を破つたのに、終には法王の足に接吻せざるを得なかつた。近代の例を取れば獨逸宰相ベートマン・ホルヴェークは戰後その回想記に書いて、獨逸は西歐列强の標語に匹敵すべき標語を有しなかつた、と言つてゐる。つまり獨逸の最大難局を負つて立つたこの宰相も自分が守つた獨逸帝國の內容と形式を信ずることが出來なかつたことになる。

我々はこの觀點から始めて當代の歷史的情勢を正しく把握し得る。嘗て一七八九年の佛蘭西革命は舊政府を倒壞し、暗にその軍勢を驅つて歐洲を征服し得た。この民主々義的革命軍に對して王政黨側の所謂神聖同盟なるものが結ばれ、諸獨裁君主の昔乍らの戰力を示さうと頑張つたのであるが、この神聖同盟の陣營內に既に佛蘭西革命の熱烈な讃美者が交つてゐて、之がため多くの要塞が安々と陷ちたのである。つまり要塞の守備兵達は佛蘭西軍の思想に深く感染してしまつて戰はずして屈したのであつた。

この傾向は數十年間に更に進展し、人口の增加、世界的大都市の勃興、猶太的要素の强化に伴つて、民主主義的理念からあらゆる形成力の瓦解が生れてきた。世界大戰以後凡ての國民は根底から崩壞の厄に遭ひ、ボルシェヴィズム的世

界革命が破壞の松明をかざして進軍して來た。

**而して世界史的に之を見るとき、嘗て神聖同盟が民主主義的革命に對して無力であつたと全く同樣に、今日デモクラシーはボルシエヴイズムに對して無力を極めてゐる。**

蟒に睨まれた兎とは、ボルシエヴイズムの世界的暴虐を前にした民主主義者の態である。自分自身のイデオロギーを有してそこから歸結を引出して來る點で彼等はボルシエヴイストの敵ではない。

**侵擊する集中力に對する民主主義的拱手傍觀は、性格的にも政治的にも時代の諸力を抑制する力を持たない。**

## 流血の混沌に對抗する形成力

「ボルシエヴイズムでもなくフアツシズムでもない」といふのは、節操の最も簡潔な表明である。ボルシエヴイズムの世界的危險に對する民主主義者の態度は、愼重なる熟慮の結果ではなくて、現代の問題を見る力を內に有しない證據である。我々が一九一九年遭遇したやうな運命的大問題はそのまゝ今日の歐洲、今日の全世界に迫つてゐる問題である。ボルシエヴイズムは言はゞ一大病巢であり、その病菌は風に乘つて世界に傳播し、到る處抵抗力なき國民の體內に侵入して破壞と侵蝕を逞しくする。今や歐巴の東部及び東南部の國民文化國がこの病菌に倒れ、二國民は既に全滅に瀕してゐるとすれば、それは諸國民の滅亡する過程を示す恐るべき例に他ならない。尤も國民は一朝にして亡ぶものではなく、それには數十年、百年餘を要するであらう。古代羅馬は數週にして沒したのでなく、國民的創造力を失つた後も、植民地から人を連れ來つて尙ほ餘力ある風を裝ひ、返り咲きの樣を見せたこともある。そして今日の歐巴に於ても亦諸國民はかくの如く生存の戰を續けてゐるが、**而も此處二、三十年にして、我が老大陸が尙ほ傳統的文化形態を保持し、現世紀に抵抗力ある新生活態をおくる力を有するか否かの決定を見得るであらう。かくて流血の混沌に對して形成力が、變色し易く且つ非創造的なデマゴーグに對して創造的勞作が、我が生活に痂皮する寄生的組織に對しては生存の新形成意**

**欲が夫々戰を宣言して爭ふのである。**

當代の權力爭奪戰に於て、我々は明瞭な二つの極を見出し得るが、それは一方は國民社會主義であり、他方はボルシェヴイズムである。前者は獨逸の歷史と價値のみならず歐巴全體の庇護者であり、後者は凡て偉大なる形式と價値の破壞者である。之は全く現代の事實であり、力のリズムであつて、近視眼的政治家連が如何に抗議しようとも動かし難い事實である。歐州が既に一つのブロツクによつて破壞されつゝあるのに、今更歐州のブロツク化を彼等が抗議するのもグロテスクであり、同じ政治家が「大民主主義諸國」を動員して自由主義時代の遺產を防衞せんとするのが既に一箇のブロツク形成たることに氣がつかぬのは尙ほグロテスクである。

昔羅馬は、地中海に跋扈して盛に羅馬の破壞工作を行ひつゝあつたカルタゴを滅して一流の文化國を建設し得たが、血統上から見てこの國の本來の建設者たるものの力が弱まつたために、折角の大帝國に生物學的結論を與へ得なかつた。然し我が國民社會主義こそは同じやうな猶太的破壞工作を政治的に絕滅した上に、尙ほ世界史上始めての例として、政治的勝利から生物學的結論をも引出し得てゐる。かゝる結論を嘲笑すべしとしてゐる政治家や學者の輩は、精神的優越を示す所か、嚴密な歷史的、生物學的洞察並びに性格の偉大さを缺如してゐることを曝露してゐる。

## ボルシエヴイズムの流血簿

ソヴイエト政府は此の數年間に、白海運河とモスカウ＝ヴオルガ運河の二大事業を完成したと自負してゐる。この大事業は政治犯の手によつて行はれたのであるが、この事件及びその他のこの種の大工事には、ボルシエヴイズム組織に屈しない善良なロシア人や赤色帝國主義の下に呻いてゐる諸他の人民達もまた集結されて全聯邦中から使役場に送られた。彼等は歐露では之等の大運河工事とか軍事工場建設に動員され、極東では就中、日本の大砲の射程外にある鐵道線路敷設の事業に向けられ、日本に對する極東軍の進出を容易ならしめようとする。このバイカル線で働いてゐる囚人と

政治犯八十萬人は、ウクライナ、コーカサス地方、コザツク地方から連れて來られたもので、出來るだけ遠くその故郷から離され、屢々零下五十度乃至六十度の寒氣の下に酷使されてゐる。白海運河沿岸の强制勞働場では三十萬からの囚人が畜生のやうな待遇で働き、彼等が勞働期限內に死ぬと直ぐ新しい囚人や追放者が補充されるわけで、此中には獨逸植民地出のものも交つてゐる。此處で强制的に働かされて後に逃亡したある者は、**全ソヴイエト聯邦中、猶太人政府に反對して强制勞働及び流刑の宣告を受けたものは、五百萬人を超ゆると算定した。白海運河の工事では過去數年間に十萬の人命が犧牲にされた。**コミンテルン中央機關紙（一九三六年九月八日附『モスカウ・プラヴダ』）はこの人間虐使に就いて、白海運河は「手と鋤」で作られたと彌次つて居り、赤軍中央機關紙（一九三七年四月二九日附『クラスナヤ・セヴスダ』）は、この世界史上未だ嘗て見ざる人間虐待を呼んで、「社會主義的人道主義」の偉大な勝利であるとした。かゝる人民勦滅を社會主義及び勞働者解放の名の下に敢行したのは反革防止部長猶太人ヤゴダであるが、彼は財物を提供したものには待遇を改善したり、終には搾取財物を他國に持出したりした。ヤゴダの下役の猶太人モーゼス・ベルマンは全聯邦の强制勞働所の管理を委ねられたが、**このベルマンは嗜虐症とも言ふべき殘忍さを以て全蘇聯から囚人をアジアの氷原や白海に驅逐し、或ひは何萬となくシベリアの集合宿營地で命を終らしめた。**

之等前古未曾有の殘虐を敢てする倒錯せる猶太人的本能の發露とその政治的計畫とに就いては猶太人側の告白に據つて我々は屢々中外に宣報するに努めて來たが、我々は此處でもう一つ重要な資料をお目にかけようと思ふ。之は一寸考へると妄想かとも思へる思想であるが、ニュー・ヨークで出た書物で Now and Foreever といふのがそれである。此書は猶太著作家サムエル・ロートとシオニズムを奉ずる政治家イスラエル・ツアングヴイルとの間に交はされた對話である、ツアングヴイルは此書に序文を書き、現イスラエル大學總長に捧げてゐるが、兩ヘブライ人は猶太人とその將來について論じてゐる中からロートの言を引けば次の通りである。

「**其後我々猶太人（ロシアの）は自由を獲得し大復仇をやつてのけた。ポグローム（ロシアに於ける猶太人迫害）に耐**

**へて來た甲斐があつた。我々を迫害した政府は忘却の塵にまみれて希望もなく反輾してゐる。嘗ては壓制と迫害を受けてゐた我々が今日は誇らかに思ふさま他を迫害する身である。**」

更に兩人の對話（一三六——一四二頁）は論じて曰く、何時かは、歐洲に於て上位に居た者が下位に落ち、昨日の首長が今日は手下になり、「歐羅巴の心臓が在りし所にその肝臓がゐる」やうな時代が來るべし、と。また曰く、「猶太人は今後も世界中に分散するだらうし、將來米國に於ても反セミ主義と渡り合ふに至るであらうが、然し猶太人の幸先は良いのだ」と。「私は、我が國民が全國に勢力範圍を擴張したとなした。卽ち、都市から都市に我々は我が勢力圏を廣めて行つた。然して之を爲し得たる主たる理由は何かといふに、それは、我々がその建設に參與した所の米國に於ける反セミ主義の首都たるデトロイトに手を入れたが故である」と書かれてゐる。

## 猶太人の憎惡

大英帝國は亡ぶべしといふ豫言を見ると、パレスティナに於けるシオニズムの本意が奈邊に存するか合點が行く。兩猶太人の夢想する所によると——イスラエル・ツアングヴィルは指導的な猶太人である——猶太人は東南方に、印度及び支那に手を延ばすが、そしてパレスティナは明かにその跳躍板を成すのである、といふのである。

「**何時かは歐洲に對する復仇の指導者たるべき人が現はれるであらう。彼は衣服の中に毒菌のフラスコを抱き歐洲に不可癒の病毒を撒布する人々を派遣するだらう。**かくて歐羅巴國民の身體は口と目と皮膚から病毒を吸込んで、敗血症を呈せざるを得なくなる。

**ロシアでは乳兒と無筆者、文盲の輩のみが手を觸れられぬのみで殘餘の者は大墓地と化したモスカウとペトログラードに埋められる。**

波蘭とウクライナは咆吼する猛獸と化し、此地の婦人は殺害の前に悉く之を凌辱して、嘗て猶太人が受けた迫害に應

へてやる。ダンツイヒの船渠は毒血を振り撒く。

**白耳義と獨逸を復仇者は屠場と化してしまふから、和蘭は新しく高い堤を圍らす必要に迫られる。又彼は佛蘭西中を吹きまくつて穀田を渡る火事のやうに燒き拂ふ。」**

此書は、何といふ悪魔的な憎悪が之等の人間の中に燃えてゐるかを示すが、それは誠に恐るべきものである。所謂大民主主義國家の中に表面は如何にも殊勝氣に同化してゐ乍ら、內心ではツアングヴイルとかロートと全く同樣な反歐洲的本能に驅り立てられてゐるのが猶太人の眞相である。かゝる恐ろしい事を一度知つた者にして、始めてあの腰の据らぬ政治家達がボルシエヴイズムの害を知らなかつたり、知つても恐怖のために知らぬ振りをしてゐる癖をよく理解し得るのである。

## 基督教々會の無力

このやうな優柔不斷な態度を取つてゐるのは民主主義國の政治的指導者のみではなく、文化と宗教とを庇護すべき役目の教會も加はつてゐるといふ現狀こそ歐羅巴の眞相を顯はすもう一つ別の印である。

**教會は決して諸國民を奮起せしめて、無神論的好血的ボルシエヴイズムに對する解放戰をなさしめることが出來なかつた。それ所か教會幹部等はこのボルシエヴイズムに基督教的理念ありと强辯さへしてゐる。**

カンタベリイ大僧正は說教壇から宣言して、自分はモスカウの諸君に敎へて「諸君は、基督敎と一線に立つ意識的一宗敎を所有する」と言つた。そしてこの信ずべからざる言葉の故に攻擊されるや、彼は英國のボルシエヴイズムの機關紙に書いて曰く、スペイン及びロシアに於ける憂慮すべき事實の間には尙ほ本源的に基督敎と見るべきものが多々存することを否定することは出來ない、と。卽ち「經濟に於ける收益主義の代りに奉仕主義を置代へ、各市民に平等の安全を與へ、階級の相違を廢止せんとする、」のがボルシエヴイズムであるといふのである。また彼によると、ロシアのかゝ

る理念の背後には非基督教的とは言はれ得ぬ個人主義及び普遍主義が存し、而して之等は基督教的なるが故に中歐に於て排擊されたのである、といふのである。大僧正は更に附加へて、「余は之等の理念が英國にも來らんこと、而も神が欲し給ふならば、暴力を以てゞなく平和的に之が此の地に認容されんことを望む、」とも言つてゐる。教會幹部たるものが此處では他の國々で教會を破壞した輩の辯護人となつてゐる。然し乍ら大僧正が、我々國民社會主義者がその基督教的內容の故にボルシエヴイズムを排擊したと認いるとき、折角のデマもすつかり光を失ふ。抑も教會燒却や僧侶殺害を平和的に英國に輸入するとは如何なることであるか、說明を乞ひたいものである。

羅馬加特力教派の著名な一在獨著作家は、その著「世界の王座としてのヴアティカン」に於て次の如く言つてゐる。

**「反基督者は救濟者の身振りを示すボルシエヴイズムと異教型の國家信仰たるフアシズムの形を取つて生きてゐる。羅馬加特力教會はその本質上、過激社會主義よりもむしろ第二の反基督者により多く和解の困難を感ずる。何故なら第二の者は人間への意志を有し、第一者は單に權力への意志を有するに止まる故である。」**

而も獨逸の新教界は之に對し、「新しい敵（新異教主義）は舊敵（反宗運動）よりも遙に危險である……」と反應したのである。

## 教會幹部の精神的混亂

過去の精神界の代表者達がどうしてかゝる精神的混亂を示すかといふに、彼等は成程マルクシズムを憎むには違ひないが、彼等は自由主義、秘密結社主義、マルクシズム等の中に何等深刻な形成力を認めないから、國民社會主義程永くはそれを迫害しないのである。彼等と雖も、他人を罰し、所得を保護し、旅行や會合の安全を保證する確實な國家を希望する。

**然し乍ら彼等は全國民を打つて一丸として自己の守備たらしめる世界觀を掲げるやうな國家を欲しない。夫故に彼等**

**が新運動を排撃するのは基督教信仰の立場からではなくて、單に國民内に於ける彼等の支配欲の立場からである。**

國民社會主義は生活の新形成のために戰ひ乍ら、信仰を失ひ厭世的となつた人民に再び自己に對する信頼と從つて又現世の勞作を喜ぶ心とを與へてやつた。我々は一人として自分の勞作が單なる物質的活動ではなく、何時如何なる處でも全獨逸人の全體勞作に編入されるものだと考へぬものはない。獨逸國民のこの新しい態度の象徴はこの大きな力の記號であり、精神的過去世の代表者達はそれを持たうとしない。彼等は即ち

**獨逸國民が勞苦を凌いで獲得したる勞作心を再び破壞せんとする。我々は此場所でそのことを明かに言切つておく。**

**我が勞作心を破壞せんとする試は世界の猶太的、マルクシズム的怠業と等しき犯罪である。**

彼等の態度には全く近視眼以上のものがあり、國民社會主義は彼等の助力を要せずして勝利を得、獨逸人に勞作の眞の意義を教へ、而して單に政治的問題のみならず、獨逸國民の精神的教育の上に於ても、彼等の破壞的、混沌的なる指導を無視したのである。

## 歐羅巴の傳統を擁護す

我々は冒頭に於て我が生活の破壞的事實と之を可能ならしめる諸制約とを檢討した、が我々は尙ほ此處に於て、

**苟も他國に於ける宗教及び文化の掌握者が世界を破壞するボルシエヴイズム運動を排撃しないのみか、歐洲の傳統を擔はんとする我々に反抗せんとするならば、彼等も亦、諸國民の滅亡を準備するかの條件及び原因に力を借したことになる。**と斷言しておかなくてはならない。

もしカンタベリー大僧正が望む如くボルシエヴイズムが英國に到來して、數百年後にこの國が亡びるに至つたら、必ずや歷史家は書いて、この滅亡の原因は直接の進入軍のみでなく、意識的に歐羅巴の形式と內容を破壞せんとする敵に自ら門戶を開いた人々にもあることを指摘するに違ひない。

本ナチス黨大會のモットーを創造的勞作なる語で示すとき、我々は眞の目醒めたる勞作と奴隷的勞作との相違を注意しなければならない。

**獨逸にアードルフ・ヒットラー街が出來るときそれは新しき創造と美意慾との印である。競技場の巨壁と會議堂とが此處ニュルンベルクに於て數年のうちに出來上るなら、それは國民の高き自尊心の象徵であり、不撓なる勞作力の表はれである。**

## ボルシエヴイズム的奴隷制度の實例

之に反してモーゼス・ベルマン、サロモン・フイリン、及び仲間の指導下にボルシエヴイズムのソ聯が二大運河及び極東線を完成したとすると、それは一國民が全く慘めな奴隷に墮したことを示すに他ならぬ。之等運河や鐵道の一キロ一キロには何千何萬といふ飢餓と殺戮に倒れた反モスカウ派政治犯の名が刻まれてゐる。この一例だけでもオツクスフオードの教會々議が獨逸と蘇聯とを一緒にしてゐる愚劣さが明かとなる。こんな輩には世界の事象に對する理解力が缺けてゐて、少くとも目を深く据えて見れば、獨逸と蘇聯との間の精神的前提は全然相異つてゐることが解る筈である。

自由主義的世界觀とその庶子たるマルクシズムとは血統を外れた個人主義から出發し、議會主義的選擧と暴制によつて個人を集結出來ると思込んでゐるが故に、一頭他を抽んずる人格を總て潰してしまひ、この人格勦滅法に反對する者を滅してしまふ。政治的に絶對的獨裁を行ふ所では之はよく行はれることである。

**モスカウの獨裁者がその部下に片端から死刑を宣告した事は、人格と創造と眞の勞作との自立性を壓制せねばならない獸的な考へ方が內面的法則に從つて達した最後の歸結である。**

夫故に個人主義と大衆主義の最後には常に暴君が來る。之に反し國民社會主義は、世界史上の偉大なる創造的事業は常に一定の人格の刻印を持するといふ考へから出發する。この人格とは血統、故鄉、歷史的運命から分離せる存在では

なくて、

**却つて國民精神の具體化であり、頂點である。人格と國民とは從つて有機的な相互聯關に立つてゐる。夫故にその尖頭に立つものは暴君ではなく、指導者である。**

此の點から見ても國民社會主義とボルシェヴィズム、勞作と混沌、形成と民衆煽動とは不俱戴天の敵たるべきである。勞作とは單なる奴隷でも無意味な活動でもなく、自分一個と同時に全國民のための勞作であり、行爲と理念との間の眞の聯關である。行爲に顯はれぬ理念は危險であり、思想の指導なき行爲は單なる醉生夢死である。兩者の統合こそ我々の望む眞の創造である。我々は權力鬪爭を終へて理念の具體化を主とする時代に入つてゐるのである。

**以前には鬪爭が國民社會主義運動の指標だあつたが、今日では勞作がそれになつた。**

## 國民社會主義の使命

我々の各々が各自の地位に於てなす勞作は各人相互に尊敬し合ふべきものであり、此處からして共同勞作が我々に何を意味するかも明かになる。獨逸の兵士は世界大戰から戰友的精神の體驗を持歸つた。國民社會主義運動がその鬪爭から得た最も貴重な成果もまた同じ戰友的精神である。

**この戰友的精神から勞作の僚友關係が生ずる。**

之こそ國民社會主義者の凡てにとつて連結點となる大戰の遺產であり、觸るべからざる聖物である。各黨員はもし迷ふ事のある時は僚友の助力で正道を發見し、又僚友が躓くのを見る時は手を延べて助けてやる義務がある。之はかのセンチメンタルな饒舌とは何の關係もなく、我々が皆必要としてゐる創造的生活力の訓練であつて、我々は之を來るべき後裔に遺產として傳へようと思ふ。强烈な本能と明朗な意識との連結、內心の眞實と當代の運命との結合は僚友關係の勞作に於てのみ遂行され得るものである。

——終——

# 英國政府と米大統領を圍る猶太色彩

☆インペリアル・ファシスト誌
☆米國・エドモンドソン著

長谷川泰造譯

## 米大統領ルーズヴエルトと其の取卷き猶太人達

（一九三七年一月調）

最近米國人エドモンドソンに依つて米大統領**ルーズヴエルトの系圖**が發表された。又昨年十月十五日發行リヴィラー誌にも同様の發表があつた。之に依つてルーズヴエルトが猶太系である事が明かにされた。

其れは偖ておいて、**ルーズヴエルトの取卷き**が猶太人で占められてゐる事も衆知の事である。猶太人の團體、猶太人會等に對して祝福の公電を彼が送つて居る事實も廣く知られてゐる。

彼の取卷の中の第一の有力者は米國の事實上の大統領とも云はれる猶太人**バーナド・バラク**である。大戰中にウイルソンは彼を米國經濟の最高獨裁者に任じた。彼はウオール街の立役者である。

次に有力なのがNRAの會長代理であり、獨逸の社會民主黨の創設者ベルゲルの名付け父である猶太人**ドナルド・アル・リツチバーグ**である。次の有力者は墺太利生れの猶太人**フエリツクス・フランクフルター**教授である。彼は大統領の首席法律顧問であり、ハーヴアド大學に於けるマルキスト教授として令名があり、物價法の創案者である。彼

は共產黨關係の「米國市民自由權同盟」の會員であり、一九二七年には死刑の宣告を受けた猶太共產黨員サツコーとヴアンゼツチとの辯護人であつた。

大統領ルーズヴエルトの右腕は大統領の非公式の顧問たる猶太人**サミユル・ジエー・ローゼンマン**である。

大藏大臣**ヘンリイ・モルゲンソウ**は駐土米大使たりし猶太人ヘンリイ・モルゲンソウの子にして國際銀行家ワープルグ家とは密接な關係を持ち、國際政治の基調をなす英佛其他との貨幣協定は實にモルゲンソウの父は獨逸生れである。

大審院判事猶太人**エル・デイー・ブランデイス**も大統領の私的顧問となつてゐる。彼と夫人は共にアーカンザス州のミナ聯邦大學の出資者である。此の大學は共產的傾向を以て知られてゐる。ブランデイスは全世界の猶太人を支配するシオン賢人會の役員になつてゐる。

ブランデイスの娘、**スザンヌ**は紐育州の教育會の會員であり、紐育の共產黨の集會のあるユニオン・スクエーアでも有名である。彼女は此處で數回の演說を試みた。

ルーズヴエルトの其他の取卷きを次に列擧しやう。

（全部猶太人）

**ベンジヤミン・エヌ・カードゾオ**

大審院判事、自由公認議員

**レーモンド・モーレー教授**

嘗てはルーズヴエルトの氣に入り顧問、現在公職より退き雜誌「今日」を發刊、反猶的獨逸政府攻擊に從事。

**ハーバト・フアイス**

フランクフルター教授の子分、米國國務省內の重要人物

**レツクス・ジー・タツグウエル**

コロンビア大學教授、マルクス主義者、農務省書記、A・A・A（農業修正案）の創案者、ソ聯の讃美者。

**ジエロム・フランク**

R・F・C（財政再建委員會）の委員。

**モルデカイ・エゼキイル**

農相の經濟顧問、前記A・A・A（農業修正案）の共力者

**エドワド・エー・フイリーン**

大統領私的顧問、米蘇商業會議所員。

**マリナー・エス・エクルス**

F・R・B（聯邦準備銀行）頭取

**イ・エー・ゴルデンワイザー**
ロシア生れ、聯邦準備銀行支配人。

**デヴイド・イー・リリーソタル**
ブランデスの子分、官營モーター電力工場アネセー・ヴレー・オーソリテイ支配人。

**バジル・マンリイ**
聯邦電力の社長代理、モルデカイ（マルクス）團ガーランドの會員。

**ジョール・デヴイド・ウオルフソーン**
國立電力政策委員會書記長

**フランセス・ハーキンス嬢**（事實は某氏夫人）
勞働大臣、特に獨逸より追放された猶太人の就職事務を管理。パーキンス嬢自身は猶太系たる事を極力否定しをるも、或時猶太系たるを肯定しエホバに忠實なる事を力說した事がある。

**エー・ジエー・アルテンマイヤー**
勞働大臣代理。

**フランシス・ジヤーコウイチ**
勞働大臣代理。

**シー・イー・ワイザンスキイ**（若）
フランクフルターの子分、勞働省附辯護士。

**ウイリアム・シー・バリツト**
元駐蘇米大使、現に駐佛米大使、大統領顧問、米國の蘇聯承認の蔭に活躍した人物。國際猶太金權委任者として歐洲中を大手を振つて歩ける人物。

**ジエツス・ジエー・ストラウス**
駐佛米大使（最近死歿）

**ローレンスス・テーンハート**
駐スウェーデン大使、大統領顧問。

**ロバト・フエツチナー**
市民豫備軍（C・C・C）隊長

**シドニイ・ヒルマン**
リトアニア生れ、N・R・Aの會員。

**ニユートン・テイー・ベーカー**
大統領の私的顧問

**ヂエラード・スウオープ**
工業問題に對する大統領の私的顧問。

**レオ・ウオルマン教授**

勞働爭議調停委員長、モルデカイ（マルクス）團ガーランド會長。

**エーチ・エフ・ダゲンハイム**

國立航空委員會委員。

**ハロルド・エス・イツクス**

內務省祕書官、「米國市民自由權同盟」の奬勵者にして共產黨員として有名。

**ロイド・エヌ・ランドウ**

フランクフルターの子分、土木省事務長、元同省首席辯護士。

**ヘンリー・テイ・ハント**

元シンシナチの市長、マルキストとして有名。一九二七年に死刑を宣告された猶太共產黨員サツコーとヴアンゼツチの辯護人の一人。土木省の現在の首席辯護人。

**サミユル・ウンターマイヤー**

大統領私的顧問、獨逸商品排斥運動首領、シオン賢人會の會員として有名。

**エー・エー・バール**

若い此の政治家はブランデイスの子分として大統領の私的顧問を勤めてゐる。「猶太國」の著者である。

**ジヨゼフ・ビー・イーストマン**

同じくブランデスの子分にして鐵道布設調整者。

**ステフエン・ロースヘンブツシユ**

軍需品委員會檢查員、マルキスト傾向の辯護士。

**ルイ・テー・カーステイン**

相談役の一人。

**ウイリアム・エム・ライザーソン**

ロシア出身、國立勞働委員會祕書。

**ローズ・シユナイダーマン女史**

ロシア出身、同じく國立勞働委員會書記、共產黨のシンパ。

**エス・エー・ローゼンブラツト**

N・R・Aの會員。

**イジダー・ルービン**

紐育市勞働局統計課長。

**ナザン・マーゴルド**

フランクフルターの子分、內務省附辯護士、「米國市民自由權同盟」の一員。

**アドルフ・ジエー・サバツクス**

ボヘミア出身、國會議員。

**ヘルマン・ピー・コツペルマン**

ロシア出身、國會議員。

**ハーバト・エーチ・レーマン**

紐育州知事、大統領の親友、國際的猶太金融家とも密接な關係を有つ。

**アーヴイン・ステーングツト**

紐育州會の論士。

**アンヌ・エム・ローゼンバーグ女史**

N・R・Aの理事其他兼任。

## 英國政府を圍る猶太色彩

**首　相　ネヴイル・チエンバーレン**

ネヴイルの父は猶太人のお蔭で出世をし、その謝禮として彼は、英國の移民が東阿弗利加に於いて他に自由地を獲得せず、入國に當つては保證金を納めなければならない時代に、東阿弗利加内の貴重なる自由地を猶太人のために提供した。ジョセフ・チエンバーレンの叔母は猶太系（アンドレード）であり、彼自身も亦母系（ハーベン）より猶太の血を受けてゐるものと信じられてゐる。オーステン・チエーバーレン卿は猶太仲間よりは眞の猶太の戰士として尊敬されてゐる。

**國璽卿　ジョン・シモン卿**

一九〇四年に逝去した猶太人ジョン・サイモン卿と混同し易いが現在のジョン・サイモン卿は全く猶太の血の混らないアリアン系であると公言してゐる。彼の夫人は自ら猶太系でないと主張してをりながら、長い間シオニスト運動に關係してゐる。彼女は猶太人の會合で、シオニスト運動に熱心なために『妾はみなさんと同族と見られてゐます』と話した。

猶太系銀行家エル・フランクリン卿（ケーザー商會）と非猶太人の婦人との結婚式（一九三〇年七月八日）にジョン・サイモンはシナゴーグに出席した。ソ聯の大使猶太人マイスキイは一九三五年二月二十二日にサイモン卿のために晩餐會を開いた。ジョン・サイモン卿は毎も猶太人と交友し、彼の顏も猶太的であり、其の點非常に難

解である。

**樞密院議長　ハリファックス侯爵**

彼の嗣子はロスチャイルドの孫女と結婚した。

**尚　書　ヘールシヤム侯爵**

彼の弟マルコルム・ホツグ卿は猶太人のゴンパーツの孫女と結婚した。

侯爵の終身秘書役は猶太人のクロード・シヤスター卿である。

**內務卿　サミユル・ホーア卿**

クエーカー銀行の家族の一員であり、『第四の封印』の著者である彼は、猶太禍については早くから悟つてゐるのである。然るに彼が同僚の猶太禍について語らなかつたのは何故であらか、彼のみぞ知る。

彼の議會書記は猶太銀行ハンボスの頭取の甥ダブリユー・ダブリユー・アスターである。アスターの母は倫敦の猶太銀行ラザードの頭取オノラブル・アル・エチ・ブランドの姑である。

**外務卿　アンソニイ・イーデン**

イーデンは波蘭系のフランセス・シヤフアルツキイの孫である。彼はロスチャイルド家とフイリツプ・サツスーン卿と親交がある。

隱匿猶太人モリス・ハンケイの息子は彼の副秘書である。イーデンは二人の議會書記をもつてゐる。一人は猶太人バーナル・オスボルンの孫を娶つてをり、ソ聯の猶太大使マイスキイより恩惠を受けてゐる。

**國璽卿　デ・ラ・ワア公**

P・E・Pの市場掛に密接な關係を持つてゐる。

**自治領卿　マルコルム・マクドナルド**

獨身の彼の父ラムゼイは長い間猶太美人ローザ・ローゼンベルグを私的秘書として雇つてゐる。

マクドナルド父子は共に猶太人シツフのP・E・Pに密接な關係を持つてゐる。一九一七年に赤露の例に倣ひ勞働者を困窮せしめたのはラムゼイ・マクドナルドである。

マルコルムの次官はハーチングトン子爵である。子爵はアライアンス保險會社の經營のために猶太人ロスチャイルド及びベアステツドと關係した人物である。其の上子爵はスコツトランド系のフリー・メーソン結社員であり、一九三六年に猶太財團の資金に依つて開催された博

覽會の行政委員の一人であつた。

**印度ビルマ大臣　ゼツトランド子爵**

子爵は有力なフリー・メーソンである。彼の夫人は皇帝戴冠式に當つて猶太女イー・ジュダなるものを紹介した。彼の次官はスタンリー卿であり、スタンリーの妹はロスチャイルドの子息と結婚した。

次官助手は猶太人セシル・キツシュ卿であり、スタンリーの顧問として猶太人エチ・ストラコツシュがある。

**植民卿　ダブリユー・オームスビイ・ゴーア**

熱心なるシオニストである。グランボー伯爵とハーティング侯爵夫人との義弟である。此の全家族は猶太人專横の支配的階級に屬する。

**國防大臣　テイ・イ・ンスキツプ卿**

辯護士。帝國國防委員長は隱匿猶太人エム・ハンケイ卿である。卿の曾父は一八一六年に本名アラースからハンケイと改名し、ジヤマイカの奴隷所有地の抵當權者であつた。

**海軍卿　エー・ダツフ・クーパー**

ロシア革命に資金を提供したクーン・ロエブ會社の重役、故オツトー・カーンはクーパーの息子の名附親である。彼の祖母の名はステインと云つた。またクーパーの妹は猶太人のレヴイタと結婚した。

ダツフ・クーパーの議會書記はシツフP・E・Pに熱心なエチ・ダブリユー・ケーアである。

**陸軍卿　エル・ホア・ベリシヤ**

猶太人。英國と獨逸との關係を考慮しての任命であるから注意を要する。次官はトレーディング・カンパニイとヘルバート・ワツグ商會との店主の弟のストラスコナ卿である。ヘルバートの本名はイスラエルである。

會計主任はヴイ・ワレンダー卿であり、その私的秘書は猶太人ノイマン家と結婚したアル・ヴイ・グリムストンである。

**空　相　スウイントン伯爵**

彼の財產は結婚に依つて轉げ込んだ。彼の夫人はマシヤム男爵よりジヨゼフ・メイヤーの財產の一部を相續したのである。彼はサツスーン家やシオニストの首領故ナホム・ソコロフより恩惠を受けてゐた。

次官は長い間フイリツプ・サツスーン卿であつたが、

最近エー・ジエー・ムアヘツド中佐と更迭した。

**スコツトランド卿　ダブリユー・エリオツト**

猶太人モーゼス・シツフのP・E・Pの最初の創立者の一人である。

**貿易大臣　オリヴアー・スタンリー**

彼の姉はロスチヤイルドの子息と結婚した。一九三三年一月に白耳義から避難したものであると陸軍官憲を騙したアーネスト・シツフをクーン・ロエブのシツフ家の一員であると曝露したのはスタンリーである。

彼の議會係次官は親猶家のラテイエンス夫人の娘と結婚したデイ・ユアン・ワレス大尉である。

主席經濟顧問は問題の人猶太人エフ・ダブリユー・リース・ロス卿である。彼は國際金權の支持者である。

議會書記兼鑛山係エフ・シー・クルツクシヤンク大尉はスコツトランド系のフリー・メーソンである。

**農漁業大臣　ダブリユー・エス・モリソン**

猶太關係の人物。辯護士。

**文部卿　スタンホープ公**

英國フリー・メーソン大結社前大頭梁の未亡人アムプシル夫人の從兄である。

議會書記は猶太人モーゼス・シツフの秘書と、そのP・E・Pの書記を勤めてゐるケネス・リンドセイである。リンドセイは嘗つて南米エル・ドラドに英人の植民を奬勵した猶太人シュウエルムのヴイクトリア植民會社の書記も勤めたことがある。リンドセイの私的秘書役はテルマ・ガザレツト孃である。彼女の兄は熱心なシオニストの代議士である。

**衞生大臣　キングスレー・ウツド卿**

一七三七年二月二十三日マンチエスターに於いて彼は猶太人を以つて最も賴もしき民族と言ひ、英國民は常に此の民族と共存したき希望を述べた。P・E・Pの小賣標準會ではウツド卿は猶太人エフ・マークイス卿を强力支持してゐる。キングスレー・ウツド卿は自らの聲明を實行する。そのためには議會書記として猶太人アル・エチ・バーネーズ副書記として猶太人エル・インフイールドを活動さしてゐる。

**勞働大臣　イー・ブラウン**

ソ聯の大使猶太人マイスキイから恩惠を受けてゐる。

彼の主任書記は猶太人のハンバート・ウオルフである。

**運輸大臣　イー・エル・バーギン博士**

猶太人であるか否かは不明であるが、バーギン或はバーカンは猶太名である。

議會書記のエー・ユー・エム・ハドソン大尉は非常に親猶的である。

**土木委員長　フイリツプ・サツスーン卿**

猶太人である。母はロスチヤイルド家の出身である。

**恩給相　エチ・ラムスボサム**

ラムスボサムは猶太女デ・スティンと結婚した。彼の終身秘書アデーア・ホア卿は陸軍卿猶太人ホア・ベリシヤの繼父である。

**ランカスター公宰相　ウインタートン公**

一九三五年五月七日下院に於いて彼は彼の祖先に猶太人があつたかどうかは知らぬが、若しあつたとすれば誇らしいと述べた。

**遞信大臣　ジー・シー・トリヨン大佐**

彼の顧問として、猶太人で、シオニストの先覺者である貯蓄銀行の取締役エル・シモンを任命してゐる。

## 英國ファシストリーグの指導者 アノールド・リース氏は語る

英國に於けるファッシズムは、消極的にはデモクラシーに對する愛國的反抗であり、積極的には眞のステーツマンシップを復興創造せんとするものである。我々ファッシストは、猶太財閥に依つて代表せられる金權政治に對抗して『英國人の爲の眞の英國政府』を再建せんとするものである。

我々は猶太的デモクラシーのスローガンである自由平等博愛を否認する。我々は英國民の高貴なる歴史傳統の裡に涵養せられ繼承せられて來た人種的本能(インシチンクト)をあくまで尊重し之を保持せんと欲する。この本能の命ずるところ、人間は決して平等なるものでなく、先天的に決定せられた指導者と被指導者との素質區別が、自然と認識せられなければならない。

從つて我々の敵は、人類平等主義と僞善にみちた國際主義の美名にかくれて英國大衆を搾取し、且つボルシエヴイズムと國際聯盟と國際決濟銀行と金本位制とを自己の武器として各國民の個性を破壞せんと欲する猶太人である。今日英國と佛國とが提携して居るのは、決して眞の民族的提携ではない。それは兩國に於て政治の擂機を握つて居る國際的猶太財閥の結束に外ならないのだ。

英國が東洋に於て帝國主義的政策をとつて居るのは、本來の英國民族の意圖するところではなく、その實猶太人が英國の名に於て行つて居るのである。若し自分達が政權を取るならば、オーストラリアの如きは、日本に割讓してもかまはない。

★右記の一文は、**いのち十月特大號**の卷頭論文に**藤澤親雄**氏が執筆されしもの丶一部、いのち十月特大號はかゝる國際問の根本問題を滿載せる貴重なる文獻として江湖に絶讃のもの、光明思想普及會宛申込になれば特に一部九拾錢としてお頒ちします

# 『シオン議定書』解説

愛宕北山

此處に譯出した「シオン賢人會の議定書（プロトコル）」は、凡そ猶太人問題に就いて、その片鱗でも窺つた人なら、誰でもその存在を知つてゐる筈のものであるし、また苟も猶太人の世界支配に就いて語る場合には、到底逸することの出來ない重要資料の一つである。我が國でも既に包荒子（解說末尾參考書第一）及び長谷川氏（參考書七及び八）に依つて完譯されて居り、その他の猶太人問題に關する諸著及び雜誌等にもその一部の抄譯乃至解說又は批評の類が載つてゐるので、然かく耳新しい資料でもないかも知れないが、然し專門の猶太人問題研究家の間で常に重要な資料として省られてゐる場合に、一般人士の耳目にこの內容が觸れる機會は未だ未だ少な過ぎるのではなからうか。それで本誌が「猶太人問題」を特輯するに當つて、諸方面からの檢討と並んで本資料を附錄とすることは大いに有意義であると確信する。

本譯の臺本は「シオン賢者の秘密」と題せられた、ゴットフリート・ツール・ペーク編の獨逸版（一九一九年初版、一九三六年二十一版）である。

「シオン賢者會の議定書」は一八九七年八月瑞西のバーゼル市で開催せられた第一回シオン會議の議事錄の摘錄であり、二十四回に亙る集會の議事を記述したものを後述のやうな經緯のために止むを得ず抄錄したものである。本議定書はその題目からすれば、當然シオニズ

ム運動と關係し、當時西歐諸國の癌であつた猶太人をパレスティナ或ひはその他一定の地に集結して猶太國家を再建する方策を議したものの如く見えるのであるが、その實はシオニズムとは全く違つた、猶太人の世界支配を實現することを目的とする、恐るべき秘密畫策に他ならない。また之が單にシオニズム運動の議案であるとすれば、猶太人はあの樣に之を秘し隱して極力その公表を阻んだり、又は暴力を揮つて出版書を押收したり、終に之が公表されるや、之は全く非猶太人の揑造なりと宣傳するに努めたりする必要が何處にあらうか。例へば一八九六年ヴィーン市で出版されたテオドール・ヘルツル著「猶太國」は正面からシオニズム運動を論じ、その周到な猶太人理解と合理的な猶太國建設案とにより、單に猶太人側からのみでなく、非猶太人側識者から絶讃を博したではないか。ヘルツルに依ると、猶太人は元來アリアン民族の如く他國民中に容易に同化し得ない國民であることは有史以後數千年の事實であるし、又一方に於いて猶太人は凡ての革命黨の指揮官であると共に他方では恐るべき國際財力の支配者であるために、猶太人の居る所必ず猶太人問題が起り、猶太人問題の無い所には猶太人が新に問題を持つて來るのであり、夫故に之が解決は、パレスティナか或ひはアルゼンティンに猶太國を建設して、非猶太人及び猶太人自身を現在の不幸から救ふより他に路がないといふのである。

ヘルツルのかゝる提案は世界の歡迎を受け、「猶太國」はシオニズムの原據とも目されて、二十餘箇國語に飜譯されて全世界の猶太人に配布されるに至つた。確かにこのシオニズムは猶太人の根本意欲の一つであり中心課題の一つであるが、然し之がその全部ではない。シオニストの連中は爾後ヘルツルの肝入りで一八九七年八月（二十九日から三十一日）の第一回シオン會議を開催し、以後毎年一回、數年前からは隔年に之を開いて、聲を大にしてシオニズムを叫んでゐるが、之は代表的ならざる少數者の希望であり、而も之が意味を持つのは、この絶叫の背後にある秘密の諸畫策を實現しようとしてゐる點に存するのである。シオニズムはむしろ一つの陷穽であるとも言ふべく、公衆の注意をこの運動に惹付けてその背後を見ないやうに屏風を周らし、世界の政治的權力及び財力の支配者たらんとする彼等が之を名目として時處を論ぜず、平時戰時の區別なく會合し得る看板である。猶太人をパレスティナに集める手段の考究を名として世人の疑惑を避け又各國の喜を喚起しながら、彼等はその背後で、大陰謀を畫策してゐるのである。

一九〇三年のシオニスト第六回會議で既に世界大戰が豫想されて、その推移と結果或は平和會議で採るべき態度と方針さへも大體決定を見てゐたといふ事實は、今日に於いてはもはや猶太人問題研究に於ける常識であるが、この一事實のみを考慮しても、猶太人の眞の目

標は上述のやうな局限された一國家の建設のみにあるのではなくて、數千年來豫言者によつて約束された世界支配を達成するにあることは、非猶太人中でこそ少數の者しか知らぬであらうが、猶太人にとつては自明の方針であり、またその本能的欲求であると言つても決して過言ではない。新國家シオン――パレスティナと西比利亞との二個所にある――は勿論全く無益ではない。それは貧しいプロレタリア猶太人の過剰を收容して之が世界猶太人社會の重荷とならぬやうにするには、丁度好都合の施設であるが、然しそれ以上に、之は後になつてから、世界猶太人網の中心となり本家となつて、彼等の世界支配の足場として役立つものなのである。

歐洲諸國は當時未だシオニズム運動のこのやうな巧妙な戰術に迷はされてゐた。そして第一回シオニスト會議のプロトコルこそはこのやうな傳統的世界支配計畫の背景を負つて着々約束された國を實現しようとする猶太人指導者の大戰術を解く鍵なのである。

さて「シオン賢者の秘密」が秘密の議事錄であることは言ふ迄もないが、之が如何なる經路を辿つて公表されるに至つたのであらうか。以下主としてベークの獨逸版の序文に依つて述べて見よう。

一八九七年バーゼルにシオニスト會議が行はれるといふ事が新聞に出たとき、時の露國政府は數千年來の猶太人及びフリーメーソン結社の陰謀を知つてゐた關係上、之に疑惑を抱いたものか、ペーテルスブルクの或省で長く上位の地位を占めてゐた人を密偵としてバーゼルに派遣し、たさうであるが、之は巴里の露國牒報局長を勤めてゐたラチュコフスキーといふ人が獨逸人に語つた實話である。さて密偵はバーゼルに急行し猶太人幹部の信任を得てゐる男を買收して、此猶太人がシオン會議終了後に非猶太人には未知のある議事錄をフランクフルト・アム・マイン市にある結社「曉光クラブ」に屆ける役を命ぜられたのを知つた。この結社は一八〇七年八月十六日設立され、約百年以來猶太人の本據地として佛國猶太人とも連絡してゐたのである。露國密偵は好機逸すべからずとして、この使者が途中或小市に夜宿した際に、豫め集めておいた筆記者數名と此處で待ち受け、徹夜して佛文で書かれた議事錄を寫し取つたのである。然し之は全文の書寫ではなくて、一夜で寫し得るだけの摘錄であると言はれてゐる。

このやうな經路で寫本は露國內務省に收められ、セルゲイ・ニルスはこの佛文寫本を受取つて、時の貴族團長スホーティンからその譯譯を委任されたといふ。このスホーティンは其後間もなく沒したが、當時露國人間では、スホーティンは猶太人の齒醫者に毒殺せられた

のだと取沙汰されたとのことである。

一九二三年六月に逝去した露國元帥クルロフは一九一〇年頃は内務省の警保局長を勤めてゐて其頃「シオン賢人會の議定書」を見てゐたが、或時ベークに語つて、自分は或日のこと當時ペーテルスブルクにゐたラチュコフスキーを呼び寄せて、どうしてこの議事錄を手に入れたか、その經路を話してくれないかと聞いた所、ラチュコフスキーは、もはや十二年以前のことで細かい事は一々記憶にないが、之に關する當時の詳細な記錄が家にある筈だから、二、三日中に詳しい報告を致しませうと言つて辭去したが、その後彼はラチュコフスキーの姿を見ることは出來なかつたといふのであつた。二人の會見中丁度二つの傍室に通ずる扉が開け放してあり、訖度立聞きされたに違ひないと言はれてゐる。クルロフ元帥は更に、ラチュコフスキーの死は確にこの委任事件と關係があるのだと斷言した。そして此事件の秘密はラチュコフスキーの死で消失したのでなく、巴里にゐる後任者が知つてゐて、書類も遺つてゐるといふことである。

之等の事情は兎も角として、「議定書」はニルスの露譯で一九〇二年に第一版が發刊された。題して「小事中の大事、及び明かな國法上の可能性としての反基督者」と言ひ、初めての公表である。之と同年に「モスコフスカ・ヴィドモスチ」(モスコー日報)紙はその拔萃を揭載し、一九〇五年にニルスの第二版が出ると、之と殆ど同時に作家ゲオルク・ブトミが「現代の禍根」の題名でニルスとは別の露譯を出した。ブトミ譯の終には「一九〇一年十二月九日フランス語から譯す」と書いてあり、之によると一九〇一年に出てゐるらしく見える。ブトミは更に一九〇六年と同七年に新版を出し、一九〇七年版は「人類の敵」を題として「ペーテルスブルクの盲啞院にて印刷、第四版」と記してある。

ニルス本は更に一九一一年に第三版、一九一七年に第四版が出た。ニルスは友人を介してベークに報じて言ふには、一八九九年と一九〇〇年に自分はプロトコルの手寫複寫本を友人間に配つたと、ニルスとブトミとでは一見すると順序も違ひ、全然別な原本に據つたとさへ思はれる節もあり、ニルスは全篇を二十四章に分けたのに對して、ブトミは佛語原本に據つて二十七章に分つてゐるし、同じブトミ本でも一九〇五年版と一九〇七年版とでは配列も違つてゐる。かく版によつて外面の相違はあるだらうが、言はんとする所は結局どの版でも同じであるらしい。

本和譯の臺本たるベークの獨譯本は「猶太人對抗同盟」の所有に係る一九一一年のニルス版を主として、更に一九〇五年と一九〇七年

のブトミ版を參照してゐるし、又ニルスの親戚の人が一九一七年のニルス本を借してくれたことになつてゐる。露語の新版は其後一九二〇年に二つも市場に現はれたが、その一は「光線」なる雜誌の五月號（ベルリン）に載つたニルスの一九一一年版の新版であり、他の一は筆名オヴォッドといふ人が出したものでクリムで印刷された。更に露語の原本としてはベルリンで出た一九二二年の「秘密の世界陰謀、シオン賢者の議定書」があり、之には元老院議員ロゴヴィッチュの序言が附いてゐる。

さて議定書の著者に就いては長い間知られてゐなかつたし、また之が秘密會議の議事錄であるとすれば、著者名の附いてゐないことは別に不思議でも何でもないが、猶太人側からすれば、この點が、議定書を否定する恰好の口實ともなる譯である。例へば一九〇五年露國に革命騷ぎの起つた時などは、警察が叛亂者を罪に處するために作つた反猶太宣傳著書だと宣傳して廻つた程である。然し之がかゝる揑造ではなく、眞物であり、而も猶太人の手になるものであることは、內容を吟味すれば立所に明かになることであり、猶太人側の駁論も常に內容分析から出發しない、單なる辯駁に過ぎないのである。

議定書に述べられた綱領は、米國の自動車王ヘンリー・フォードがその猶太人問題の好著で言つてゐるやうに、口演を行つた際に準備したものではなく、寧ろ宗教上の遺言めいた論調が多分に全體を貫いてゐて、恰も特に信賴するに足る人物が歷代相傳へたものであるかの如き觀を呈してゐる。從つてその叙述も激越に「我々はかくしなければならぬ」といふやうな煽動的言辭を弄することは少なく、むしろその全體は數世紀以來確認された事實と長い間隱穩に積み重ねて來た經驗と實績とによる安定感が重に支配してゐる。そして例へば第一又は第十三議定に於ては、明かに彼等の意志が古い時代からの相傳的秘密計畫であることが示されてゐる。このやうな點から察しても本議定書は數世紀間の猶太賢人の總意が統合して出來たもので、單に一箇人の發意のみで案出されたのではないことは確實であるが、然しそれだからと言つて之は數人の合作でもなささうであるから、結局は何人かゞ右の傳統的總意を體得しつゝ、案文したものに違ひないと考へられる。この中で「余は……」と稱してゐる指導的な人物は然し果して何人であらうか。

一九二一年巴里發行の雜誌「ラ・ヴィエ・ユ・フランス」四月號でエル・フリ夫人は「議定書の眞證、アハード・ハ・アムとシオニズム」なる論文を書き、議定書の筆者は激烈なシオニスト指導者たるアハート・ハ・アムこと本名アスヘル・ギンツベルクであると指摘し

た。一部の人々がそれ迄この書の著者を、「猶太國」の著者テオドール・ヘルツルに擬することをしたが、現今では專らギンツベルク説が有力に支持されてゐる。ギンツベルクは非猶太人間には餘り有名でないが、猶太人殊にシオニスト間にはよく知られてゐる重要人物であり、「猶太百科全書」には二欄を費してその功績を讃へてゐる位ゐである。彼は一八五六年八月五日キエフ近傍のスキヴラに生れて幼時からタルムード學校に學び、非常な天才であつた。八歳にして既に露、獨兩語を自由に操り、長じては西班牙、羅甸の兩語と歴史、數學等を習ひ、又ヘブライ語にも堪能であつた。一八八二年ヴィーンに來り、一八八三年の冬に初めてベルリンに移り、一八八四年四月にはオデッサに轉じた。此地で彼は「シオンの友會」の中央委員となつたが、之はシオニズムの一結社である。翌年彼は一八六〇年以來兩親の住んでゐたゴピスヒッツアに移つたが、一八八六年には此處を引拂つてオデッサに定住するに至つた。彼は秘密のシオニスト結社を結んでその長となり、一九〇五年の露國革命を始めとして屢々各國の革命を煽動したのである。

さて「ラ・ヴィエイユ・フランス」誌によると、ギンツベルクは當時この議案をヘブライ語で案文し仲間に朗讀して聞かせたが、一八九七年秋バーゼルの第一回シオニスト會議に際して之を佛譯し、ヘブライ語を解しないテオドール・ヘルツルやマックス・ノルダウその他の人士の便に供したのであると言ふ。但し會議に關する公開の報告にはこの議定書に關して一言も觸れてゐない許りか、ギンツベルクは公然と行はれた會議には表面に立たず、單に出席者名簿に名前が出てゐるに止まるのであるが、既にその著書等によつて猶太人に知られてゐる一方の雄たる彼が遥にオデッサから出掛けて行つたのはたゞ退屈な會議の傍聽だけを目的としたのではないであらう。「猶太百科全書」には明かに、「彼は一八九七年八月バーゼルのシオニスト會議に列席したが、ヘルツル博士の陳述に係る思想には大てい反對した」と出て居るのに、公の報告にはこの事に就いて一言も觸れてゐない。之に依つて見るのに、ギンツベルクとヘルツルとの間に大論戰の展開されたやうな秘密會議が別に行はれたに違ひない。

其後佛、英、米の諸雜誌はフリ夫人の說を採つて之を紹介したり論じたりしたが、ミュンヒェン發行のナチス黨機關紙「フェルキッシェ・ベオーバハテル」三十九號（一九二一、五、十九附）とベルリンの「ドイツ日報」九十五號（一九二一、八、二三附）とがギンツベルクを以て、プロトコルの執筆者であると言ふや、ギンツベルクは早速「フェルキッシェ・ベオーバハテル」紙の主筆とレヴェントロフ伯を相手取つて誣告の告訴を提起した。前者の告訴は、ミュンヒェンの猶太人辯護士シュトラウスが原告代理として訴へ出たのであるが、實は二新

聞共「ラ・ヴィエィュ・フランス」の記事を據所としてゐるのであるから、告訴はむしろこの方に向けられるべき筈のものであつたにも拘らず、この事は全くなかつた。而もギンツベルク自身は二度共ロンドンから告訴してゐるので、被告側の要請に應じてミュンヒェンの裁判所が原告に對して居所の明示と八千マルクの保證金提出とを命じた所、シュトラウスは、告訴委任者がパレスティナに移住したといふ理由で告訴を取り下げた。一方レヴェントロフ伯に對する告訴の方は一九二三年四月示談によつて解決を告げた。

本訴訟事件は著者問題には何等影響する所がなく、却つて彼ギンツベルクが著者たることを確信させるに役立つ。レヴェントロフ伯に對する告訴の際にギンツベルクの代理グローネマンは、委任者ギンツベルクは決して議定書の著者ではないと斷言したが、レヴェントロフ伯は之に對して、自分は此說を佛國の雜誌から引用して來ただけの話で正否の斷定は自分にも出來ないと言つた。グローネマンといふ猶太人は同じくシオニストであり、有名なシオニスト指導者アルフレット・クレーの仕事を手傳つてゐた男である。ギンツベルクは一八九九年に猶太人秘密同盟「ベネ・モスヘー」を結び、過激なシオニズムを提唱して、露國、ルーマニア、ガリシア、パレスティナ、獨、英、佛の諸國に支部を設け、猶太國民意識の强化、パレスティナに於ける國家建設、猶太人の世界支配の完成等をモットーとして盛に宣傳に努めた人であり、此點に於いてヘルツル及びノルダウ一派の比較的穩健なシオニストとの間に意見の相違を來してゐた。それが第一回のシオニスト會議に至つて表面化して、兩者の爭は愈々激化したのであるが、公然たる報告には之に關する記載が少しも無い。この會議以來ギンツベルクは自分の提案を拒んだヘルツル一派に對して憤慨し、一九〇三年正月の自分の月報「ハ・シロア」には、ヘルツルを罵る文が載つたといふ。猶太人の間でギンツベルクが極めて重んぜられて、一面偉大な哲學者であると見做されてゐると共に、實際的にも猶太人の運命と方向を規定するやうな目ざましい活動を示したことは、ヘルツル及びノルダウ等の事蹟と並んで興味ある題目であるが、此處ではそれに觸れてゐる餘裕はない。只ギンツベルクが議定書の著者であるといふ說が最大可能の說たる事を裏書する材料を彼の事蹟が提示してゐることを念頭に入れて置きたい。

さて以上の訴訟事件のあつた頃フリ夫人は二、三年米國に住んでゐたが、この事件を聞いて獨逸の猶太主義對抗同盟協會に聲明書を送つてゐる「ライヒスアルト公報」二四號（一九二三）に公表されたその文面に依ると、一九二〇年九月に「フリー・プレッス」紙の發行者たる猶太人ベルンシュタインは、「ディアボーン・インデペンデント」誌發行者を訪れて、ヘンリー・フォードの秘書リーボルト立合の

下に、カメロン氏に向つて、自分は既に二十五年前オデッサでヘブライ語で書いた「シオン賢人會の議定書」を見たことがあると言つたさうである。此處にいふ議定書は前述したギンツベルク案のヘブライ語原本のことであらう。

以上で議定書の著者がギンツベルクであることは殆んど疑なき所となつたであらうが、若し萬一さうでないとしても、之が猶太人の手になる眞物であることは内容から見て動かすべからざる事實であらう。最近雜誌「世界戰」の一五九號（一九三七、三月號、ミュンヒェン）でベルクマイステルといふ人が三人の猶太僧の之に關する證言を集錄してゐるのは、外面上からの重要な證據たるを失はないので簡單に紹介しよう。

第一例は、波蘭のショッケン市で一九〇一年頃猶太僧ルードルフ・フライシュマンがその友人たる同市の副檢事ノスコヴィッツに對してなした證言である。フライシュマンは自分の許嫁が上役のヴァイルヒェンフェルトに暴行された事件を訴へ乍ら、猶太人の内情を曝露し、其際、當時露國で知られてゐた「プロトコル」が實存のものであり、之は決して僞作でなく猶太人の手に成るものだと確言したといふのである。

第二例は、同じくノスコヴィッツが一九〇六年、波蘭のスヴルツェヴにゐる猶太僧グリューンフェルトに宛てて直接「プロトコル」の眞僞を尋ねた所、グリューンフェルトから「貴下は餘り好奇心が過ぎ、餘りの大事を知らうとなさる。この件に就いて私共は語ることを許されて居りません。私は語るを得ませんし、貴下はお知りになつてはいけないのです。何卒事は愼重にやつて下さい。でないと御生命に係はりますよ」といふ返事を受取つたといふ。

第三例はもつと立入つてゐる。之は露國騎兵大尉ゲオルク・エム（特に名を秘してある）が一九二四年二月に、ユーゴースラヴィアに亡命してゐた露國系猶太人サヴィエリィ・コンスタンティノヴィッチュ・エフロンを訪問して聞いた證言であるが、エフロンは青年時代ヴィルナで猶太僧を勤めてゐたが後に基督教に改宗し、ペーテスルブルクの鑛山技師になつた人である。彼は又文筆の才もあり、「リトヴィン」なる筆名で物を書き、月刊雜誌「光明」を編輯したり、「密輸入者」なる戲曲を書いて猶太人をやつつけたりしたので、猶太人の迫害を受け、ボルシェヴィズム革命が勃發した時に、生命の危險に脅かされて所々を亡命し廻り、終にセルヴィアのシャバッツ縣ベトコヴィッツエ近傍の修道院に救はれ、一九二六年此處で沒した。

騎兵大尉ゲオルク・エムが議定書は本物かと尋ねた時エフロンは答へて、自分はずつと前基督教側の出版物に公表される數年前から、「プロトコル」の內容をよく知つて居りますと言つた。ゲオルクは此件に關する詳細な報告を書面に記し、一九二八年十月巴里のロシア教會の司祭長の前でこの報告の眞なることを堅く誓つた。筆者ベルクマイステルはエフロンの件に頗る興味を感じてどうかしてエフロンの知人に遭ひたいと思つてゐる中、ペトコヴィッツェでエフロンと交友してゐたヴシリイ・エス（之も名を秘してある）なる男を發見して此男からエフロンが議定書に關して書いた露語の一文を受取ることが出來たといふ。之はエフロンが、一九二一年巴里でブルツェフが出してゐた露國亡命者新聞「アプシュチェイ・ディエロ」に宛てゝ送つた公開書簡であり、クプリンといふ男がこの新聞で議定書の眞を否定し、猶太人にはこんな反基督教的文書を作れるわけがないとしてその僞作たる事を斷定しようとしたのを見て憤慨の餘り、その辯駁を書綴つたのである。此處でこの手紙を細かく紹介する必要もないが、兎に角エフロンは積極的に議定書の眞物たることを主張するよりもクプリンの蒙を啓いて僞物說を打破らうとしてゐるのである。ブルツェフは之を沒書にして新聞には載せなかつた。尙ほ之に關係してヴシリイ自身が一九三六年十二月十五日に議定書を周るエフロンとの經緯を詳しく書いてゐるのはもつと重要であらう。その中でヴシリイは、エフロンの言葉を一々記憶してゐないが、今でも覺えてゐるのは、この議定書が實際の所原本そのものでなく、單に原本の壓縮した內容目次であると言ひ、又原本の由來と存在については全世界で自分を含め十人しか之を知るものがない。もし君が時々自分の所に來てくれるならこの秘密を漏らして上げよう、と言つたさうである。然るにヴシリイはその後間もなくベルグラードに職を得て去り、遺憾乍ら右の秘密を聞かず終ひだつたのである。この時エフロンはもう七十二歲の老人であつた。

以上三人の猶太僧の證言は何れも本議定書が猶太人の手に成る眞物であることを證明するものであり、殊にエフロンの言葉にある原本說は、ニルスが一九一一年版の「小事の中の大事」五四頁で述べてゐる推測「一九〇一年に入手した原稿は之よりもつと重要な本文書の斷片であり、その頭初の部分と中の部分部分の多くとは失はれてしまつたか、或は元來見つけられてゐないものらしい」といふのと符節を合はせる所があると思はれる。

最初露國でニルスの譯が現はれたとき、猶太人側は大いに狼狽して、之を僞作なりと宣傳する一方、默殺、買占、押收等の擧に出たが、殊に一九一七年ニルスが第四版をペーテルスブルク近傍の聖セルギウス僧院で印刷させた時の話は極端な暴力沙汰である。同年二月二十

八日政變によつてフリーメンソン員たるルヴォフが政權を握つた直後、三月二日か三日にニルスの本は書店に渡される手筈になつてゐた。そして鐵道貨車に荷物が積込まれた時、突如武裝した一隊の暴徒が驛を襲ひ、この書籍全部を衢上に散亂して火を放ち、一部も餘さず燒終るのを見てから他の荷物には手も觸れずに立去つた。第一版から第三版迄も書店に現れるや忽ちの中に姿を消してしまひ猶太人に買占められた。猶太人ケレンスキーが政權を握つた後に、早速ペーテルスブルクとモスコーの本屋で議定書の有無を探索し、之を見付け次第沒收した。露西亞革命前にこの本は三〇ルーブルから四〇ルーブル位ゐだつたのに、革命後は五〇〇から六〇〇ルーブルに上り、今日では何百萬ルーブルといふ高値であるといふ。

露國の恐怖政治の下に數年を過した露國人の語る所によると、所持品中にもしブトミやニルスの譯した議定書を發見されようものならみな虐殺されたといふし、或露人がベークに語つて、一人のクールラント人が一九一七年シベリアでニルス本を獨譯しようとして二年の禁錮に處せられたといふ。また前述したクルコフ元帥が內務省警保局長の地位にゐた頃この本を知つてゐたが、元帥は一九二一年次の體驗を物語つた。彼が嘗てミンスク知事だつた時有力なシオニストたる一猶太人と懇意にしてゐた。所がこの人の息子が叛亂罪で逮捕され、死刑かシベリア追放かの何れにしても重刑を免れぬ所、元帥は、友人の誘惑に乘つたのだといふ父親の證言を信じて息子を釋放してやつた。この猶太人はそれを非常に德としてゐたが、後二回程、クルロフ元帥を狙つた暗殺計畫を未前に內報して呉れたといふ。クルロフが一九二一年ベルリンでこの猶太人に遭つて「シオン賢者の秘密」が世間に擴まつてゐるがどう思ふかね、露國ではブトミ、ニルスの本をすつかり買占めたり、押收したり出來たかも知れないが、猶太人の政權を握つた今、獨逸や英、佛、伊、米、瑞典等にどしどしこの本が出てゐるのはどうしたものかね、と尋ねて見た。するとこの老猶太人は確信ある微笑を浮べ乍ら、「私共は數千年以來手に入れようと努めて來たものを達成しました。シオン賢者の秘密が曝露されたつて今となつては少しも痛痒を感じません」と言つて退けた。獨逸でもベークの第一版が出たとき猶太人側では早速之を嗅ぎつけて、ある猶太人商會の外交員がこの出版に勢力を持つてゐると思はれる人に向つて、この本が出ないやうにしてくれれば、五十萬マルク上げると言つた。之は一九一九年のことである。それでも此本が市場に出るや猶太人辯護士タルノフスキーは政府に向つてその押收方を提議したが、之は實行されなかつた。實を言ふとこの版は印刷者の名を入れるのを忘れたので、六ヶ月以內に發見されゝば出版法にかゝつて押收處分に遭ふ筈である。然るに出版後二十一ヶ月後の一九二一年八月六

日に始めて在庫品押收の處分があり、初―三版が一九一九年、四―六版が一九二〇年とあるので、一九二一年八月には出版法抵觸も時効にかゝつてゐる筈なのに、ベルリンとシパンダウの出版發行所の在庫品は皆押收されるに至つたのは、當時獨逸の政權を獨裁してゐた猶太人の策動であつた。猶太人が編者ベークや發行所に對し散々悪口を言つたことは言ふ迄もない。

版毎に買收、押收の厄に遭つたニルス版の中で一九〇六年の第二版が偶然にもロンドンの大英博物館に入つて、登記番號三九二六D一七號の下に保管されてゐたが、誰も之を讀むものがなく、獨逸譯が世に出てから始めて英國人はこの所藏本に氣がつき、之を英譯して、政府の御用印刷所「イアー・アンド・スポッティスウッド」が印刷し、「猶太禍」の題で出版した。どんなに壓迫されても、出るべきものは何時かは出る。「シオン賢者の秘密」も、その出現の當初から創作者の意志を裏切つて、數奇な路を辿りつつ全世界に傳播されるに至つた。

佛國ではニルス本の佛譯が二つ出たし、米國にも二譯が現はれ、その他、瑞典、デンマーク、波蘭、伊太利等でも夫々自國語の飜譯を備へ、浦鹽斯德には又ニルス、ブトミとは別の露語版が出てシベリアに傳播し、この系統でわが國に入つてゐるのもある。墺太利、洪牙利、ユーゴースラヴィア、ルーマニア、フィンランド、レトランド、瑞西、和蘭陀等では言葉の親近關係から獨逸版を買込んで、夫々世人の耳目を聳動する所があつた。この本の世界に傳播した系譜を詳細に探究したならば驚くべき表が出來るに違ひない。

★　★

以上に依つて「シオンの議定書」の由來の大體とその眞僞の問題に觸れたが、最後の斷定は神のみに許された特權であるとしても、この議定書が眞實に猶太人の手に成る世界支配の計畫書であることは、何等かの意味に於て猶太的國際財閥又は猶太的コミンテルンの使徒たる者に取つての外は、最早殆んど疑ふ可からざる事實であらう。少なくとも最近百五十年の世界歴史（佛蘭西革命以後）を冷靜に繙く者は、凡てがこの畫策のプログラムに從つて行はれてゐることに今更乍ら一驚を喫し、この現實が又一方には數千年に亙る猶太人の陰謀計畫とその世界支配の意慾の結晶たることに想到して竦然たるものがあるであらう。

議定書は前にも言つた如くに、一人の人間が案文したとは言へ、その内容は數千年來の猶太精神の顯現であつて、その根本精神は、遠く舊譯聖書、タルムード、トーラ等の聖典に淵源を發してゐるものと見られる。今は一々文獻的に考證してゐる場合でないが、更に近世

に至る迄にこの議定書に現はれた思想先驅者となつたものは何であるかといふに、ベークの擧げる所に從へば、立法者モーゼを始めとして、十二世紀ではモーゼス・ベン・マイモン、十七世紀ではマナセー・ベン・イスラヘル、下つてはスピノーザ、ヴェッセリ、モーゼス・メンデルスゾーン、アブラハム・ガイゲル、イザアク・ペルナイス、モーゼス・ヘス、ツァハーリアス・フレンケル、ヴォルフ・ルンツ、モウリス・ジョリイ等が夫々多少の差はあれ、猶太人意欲と思想の代表的指導者として議定書に影響を及ぼしてゐるのである。

議定書の價値はその眞僞にあるのではなく、寧ろその內容にあるとはよく言はれる言葉であるが、實際之は恐るべき人間心理の洞察書として人間の弱點を遺憾なく解剖剔抉し、その精神的、心理的、動物的な根據から出發して更に思想、經濟、宗教、政治、娛樂等の廣汎な文化範圍に亙つて現代の國家、社會を批判し、而も單なる批判に止まらずに、夫々の對應手段を講じて、結局は非猶太人の精神及び國家組織を破壞すると共に、一歩一歩世界猶太國の建設に向つて針路を取る所の計畫を表はしてゐる。陰險な猶太式平和戰法は一方に秘密結社フリーメーソンの如きを世界に網の如く張り周らし、財力と宣傳機關とを一切自己の掌中に握り乍ら、時には恐怖政治や革命陰謀を自由に勃發せしめ、宣傳に最も敏感な知識階級或は利害のみに動く政黨を自由に驅使して、各國民をその主權者から分離すると同時に、各國民相互の團結力を撲滅して自滅の道を辿らしめやうとするのである。

書中で非猶太人（ゴイ＝豚）と稱せられる世界各國民は、このやうな猶太人自身の計畫網に取卷かれつつ、着々猶太人の世界支配を完成に導きつつある。そして猶太人の第一目標たる西歐の猶太化は世界大戰を以て完成を告げ、彼等の使ふ國際共產主義と國際資本主義との兩刃の劍は完全に西歐を——その後この支配を脫しまた脫しようとしてゐる國家があるが、それ等は猶太の宣傳によつて事實無根の惡評を浴びせられてゐる——切り伏せたのである。第七議定に於ける計畫中、日本、米國、支那の三つの軍隊を使つて西歐の猶太人壓迫に戰を挑むといふ大膽な計畫は、最近の世界歷史に於いて到る處その象徵的な意味を見出し得るが、然も今や日、米、支の三國は猶太人の眼から見れば西歐の非猶太人に對して第二次の非猶太人でなければならない。而も米國は既に完全に猶太人の獨裁下にあることを考慮すれば、東洋こそは現在及び未來に於ける猶太人の目標であらう。なほ支那もまた既に英（資本主義）及びソ聯（ボルシェヴィズム）等の傀儡として、背後の强壓力に驅り立てられて、抗日、排日のお先棒を擔いでゐる。そして背後の强壓力がかの猶太權力にあることは、猶太系通信機關のみを宣傳の眞理なりとする無批判の徒以外の者に取つて餘りにも自明の事實である。この事情は暴支の黑幕となつてゐる英

及びソ聯もまた米及び佛と同じく猶太主權の傀儡たることを知る時、一層明白になるのである。日支事變以來に於ける英ソの媚態的交情は兩者を背後より操る同一勢力を假定してのみ完全に理解され得る。日本の聯盟脱退も防共協定も、はたまた暴支膺懲も、その根本意義はかの二頭の毒蛇に對する伸び行く正義日本の神聖なる反撥に外ならない。それ故に現代としては、侵略的猶太資本主義の横暴を制御し、猶太的自由主義乃至人民戰線を超克して、今なほ猶太資本主義乃至ボルシェヴィズム宣傳機關の觀ある知識階級向卑俗雜誌の敵國内應的敗戰主義を清掃することは、猶太的宣傳に躍ることを「進歩的」又は「科學的」と迷信せざる者の責務である。茲に特に興味ある一例を拾ふならば、英國の一基督教大僧正が何故に常にボルシェヴィズムの辯護者であり、また最近には何故に排日、抗日のチンドン屋の先頭に立つに至つたかも、上述の背景を考慮するとき、何等の不思議もなき必然的現象となるのである。この連絡より見る時には、「眞理と戰爭」といふ如き幼稚なる對立概念に狂喜する程度の盲目的宗教家の如きも、意識的の猶太の使徒ではないとしても、なほ和製のカンタベリー大僧正であるに過ぎない。かくてかの二頭の毒蛇は、今なほ國の内外にその牙を磨きつつあるのである。そして猶太金權の獨裁下に於てのみならず日本に於ても猶太人問題をして威力あるタブーたらしめ、少數なる猶太人を排擊することの非人道的なることのみを强調して、この少數者が世界十幾億の非猶太人を金力と魔藥とテロとによつて虐待しつつあることを默殺せしめてゐるのである。然してこれ等の事情の謎を解くものが、實にこの「シオンの議定書」に外ならない。

それ故に此の議定書は、單に歐洲諸國のみに關係するものではなくて、今や皇國日本にも深き關係を持つてゐるのである。此の意味に於て日本人的日本人諸賢の熱讀を切願する。

## 參考書（外國書及び入手困難のものは略す）


包荒子　世界革命の裏面（大正十三年二酉社）

ヘンリーフォード著　包荒子解説　世界の猶太人網（昭和二年二松堂）

安江仙弘　革命運動を暴く（昭和六年北斗書房）

同　猶太民族の世界支配？（昭和八年　古今書院）

同　猶太の人々（昭和九年　軍人會館事業部、國際秘密力研究叢書第一編として增補新版、政經書房）

鹽田盛道　皇國大日本と其使命（昭和十年　健國講演會）

長谷川泰造　ソ聯の要路を占むるユダヤ人の極東攻略？（昭和十一年　人文書院）

柳沼七郎　國際秘密力の研究　一、二、三（昭和十一―十二年、非賣品、國際政經學會）

同　米國を動かす猶太人の勢力（昭和十二年　非賣品、國際政經學會）

武藤貞一　日支事變と次に來るもの（昭和十二年　新潮社）

平凡社編　時局解說百科要覽（昭和十二年　平凡社）

谷口雅春　生命の實相（萬教歸一篇、常樂篇）（光明思想普及會）

同　戰爭と日本精神の倫理（昭和十二年　光明思想普及會）

その他雜誌「日本及日本人」、「大亞細亞主義」、週刊新聞「日本」、日刊「帝國新報」等にもこの問題に關する論說等が掲載される。

全譯

# シオン議定書

愛宕北山譯

## 第一議定

我々は單なる空語を弄することを止め、その代り各思想の意義を論議して、比較法と推理法で事態を吟味することにしよう。斯くて我々の計畫が猶太人と非猶太人との兩見地から見る時如何なるものとなるかを明かにしよう。

善良な性質の人間よりは、天性不良な人間の方が數に於て優ることは常に忘れてならぬことである。それ故に學理上の議論に依るよりは暴力を揮つて用捨なく事を運んだ方が、遙に政治上の好成績を收めるのである。人は皆權力を求める性があり、誰でも出來さへすれば獨裁者たることを欲する。從つて自己の

利益の爲に一般の幸福を犧牲にすることを敢てしない者は極めて稀である。

**○正義は權力にあり。**

人間と呼ばれる猛獸を今日まで檻に繫いでゐたものは何であるか？　人間を之迄指導して來たものは何者であるか？　社會秩序の當初に當つて人間は粗野にして盲目的なる自然の暴力に服したが、後には法則に服したのである。しかしこの法則としても同じ暴力が假面を被たものに外ならない。以上から余は結論して、自然の法則より見る時、正義は權力にあり、と言ふ。

**○自由とは一つの思想——自由主義**

〔政治自由とは一つの思想であつて、實際ではない。一黨派が政權を掌握してゐる他黨を倒さうと思ひ、思想といふ好餌によつて民心を自黨に惹き寄せようとする時には、この自由の理想を巧に適用する術を知らねばならぬ。〕もしこの時政敵自身が誤れる「自由」の概念、所謂自由主義に感染して、この概念のために自己の權力を拋棄しようとするならば、右の仕事は頗る容易となる。此處に於てか我が教說は明白なる勝利を得る。即ち政權の手綱が地上を這ふに至れば、自然の法則に從つて他の者がそれを取り上げて引くに至るものである。何故ならば、盲目な人民大衆は一日と雖も指導者なくては濟まされないから。自由主義に侵蝕された舊權力に代つて此處に新權力が登場する。

**○黃金——信仰——自治**

今日の時代では金力が自由主義に取つて代つてゐる。以前には信仰が一世を支配した時代もあつた。自由の概念は元來實現され得ないものであつて、何人もこの概念を適當に使用する術を知らない。人民に暫時の間自治を許して置くならば、この自治は變じて放縱となる。この瞬間から軋轢が起り、この軋轢はやがて經濟的鬪爭となる。かくて國家は動亂の巷と化し、その威信は灰燼に歸するに至る。

**○金力の支配**

さて、內部の革命によつて力盡きるのであらうと、或は內亂の爲に外敵の手中に陷るのであらうと、兎に角國家が滅亡に瀕

するに至るならば、それは我が掌中のものとなる。我々のみが自由になし得る金權は、その時國家に對して觸手を伸すが、政府にして救はるゝ所もなく奈落の底に沈むことを肯ぜざる限りに於ては、否應なしにそれに取り縋らなくてはならないのである。

## ○內　敵

自由主義の立場からかやうな考を不德義であると思ふ者があれば、余はその人に次の如く反問する、「各國が內外の二敵を有する場合、もし外敵に對しては如何なる戰爭の手段を用ひることは、例へば攻防の計畫を敵に知らせず、夜陰に乘じて優勢な軍勢を以て襲擊することも許されて而も不道德と非難されずに濟むとすれば、社會の秩序と安寧とを紊す更に惡質の敵に對しても同樣の手段を執ることが何故に不道德と稱せられねばならないのであるか？」と。

## ○大衆——無政府主義

反抗といふことは、假令それが無意味に見えようとも、淺薄な判斷しか出來ない人民にとつては面白いものであるが、かやうな反抗の可能性が人民に與へられてゐる時、その人民衆を理性的根據や厚意的說得によつてうまく治めるといふやうなことは、筋の通つた健全な考方をする人ならば決して期することはない。專ら淺薄な情熱、迷信、習慣、傳統、多感な敎說によつて動かされ易い大衆といふものは、黨派的精神に迷はされ易いものであるが、この黨派的精神なるものは、健全な動議に基いてなされる意志の疎通をもすべて不可能にして了ふものである。大衆の決定はすべて偶然的な多數或は人工的に集められた多數によつてなされるものであるが、この多數なるものは、政治上の權謀術數に通しないために馬鹿氣切つた決議に驅り立てられ、かくて政治の中に無政府主義の芽を萠ざさしめる。

## ○政治と道義

政治と道義とには何等共通點はない。道義に依つて統治しようとする支配者は政治の何たるかを知らぬ者であり、從つて一瞬もその玉座を確保することは出來ない。苟も統治せんとする者は、奸策と僞善とを用ゐなければならぬ。高貴な國民的性質——誠實と公明正大——は政治上の暗礁であつて、其故は、之

等は最強の敵にも優つて確實に王位より轉落せしめるからである。之等の特性は非猶太國の特徴となつても差支へはないが、我々猶太人は決して其等に導かれてはならぬ。

## ○强者の權利

我々の權利は强さに存する。「權利」なる語は人工的に作られた概念であつて、何物によつても證明されてゐない。その意味する所は、「わが欲する所のものを吾に與へよ。そは我が汝達よりも强きことを證せんがためなり」に過ぎないのである。

權利は何處に始まるか？　それは何處に終るか？　權力の統制が宜しくなく、自由主義の無數の權利によつて法律も支配者も無力となつてゐる國家に於ては、余は新しい權利を汲み出す。即ち、强者の權利に從つて、行政權に襲ひかかり、法律を侵し、あらゆる施設を改造し、「自由主義」のために自ら進んで我々に自己の權力を讓渡した者共の支配となるのである。

## ○猶太的フリーメーソン結社の無敵性

現在に於てはあらゆる權力が動搖してゐるので、我々の權力は他の如何なる權力よりも無敵であらう。何となれば、我々の權力は如何なる奸策も之を葬り去り得なくなる程に强力化される迄は姿を現はすことはないであらうから。

## ○目的は手段を神聖化する。

我々が目下止むを得ず惹起せしめてゐる一時的な災禍は、やがて搖ぎなき政府といふ善事を生むであらうが、この政府は、自由主義によつて破壞された所の國民的生存の規則的運行を舊に復せしめるであらう。目的は手段を神聖化する。それ故に我々は、我々の計畫に於ては、善と道德とにではなく、必要と有用とに一層多く注意を向けようと思ふ。

我々の前には、戰術の規則に倣つて攻擊線を描いた計畫がある。もし我々がこの計畫から離れるとすれば、それは數世紀に亙る事業を臺無しにする危險を必ず伴ふのである。

## ○大衆は盲目なり

我々の活動に對する有効な計畫を立てやうと欲するならば、我々は大衆が下賤、無定見、無節操であることを悟得しなくて

はならぬ。我々は、彼等が自己の生活や幸福の諸條件を諒解しまた批判する能力を缺いてゐることを考慮に入れなくてはならない。また我々は、大衆の力は盲目で、非理性的で、判斷力が無く、從つて左にも右にも耳を傾けるものであることに注目しなくてはならない。盲人が盲人達の案内役を勤める時、必ずや皆を滅亡の淵に陷れる。從つて大衆の中の者共又は人民の中からの成上り者は、如何に多才の者であらうとも、一たび政治に喙を容れ或は指導者として登場する時には、必ずや全國民を滅亡の淵に陷れないではおかぬのである。

**○政治のイロハ**

年少の時から自主獨立の教育を受けた者のみが、政治のイロハから成立つてゐる之等の言葉を理解し得るのである。

**○黨　爭**

或國民が自分自身に、換言すれば大衆の中からの成上り者に身を委せる時、その國民は、權力と名譽との爭奪によつて生み出される黨爭及びこの黨爭から生ずる騷擾によつて自滅するに至る。大衆が平靜にまた嫉妬なしに判斷したり、個人的利害との混同を許さぬ國運を導くといふ如きことが可能であらうか。また大衆は外敵に對して國を禦ぐことが出來るであらうか。そんなことは思ひも寄らぬことである。群衆の頭數と同じ數の部分に分裂した出師計畫は統一を失つてしまひ、從つて譯の解らない實行不可能のものとなつてしまふからである。

**○政治の最も有效なる形式は獨裁政治である**

獨り獨裁君主のみが國家行政上の諸計畫を明確に處理して、國家機關の機構の萬般を正しく區分する秩序を仕上げることが出來る。從つて一國の最も適切な國家形式が見出されるのは、責任ある一個人の手に國家行政が委ねられる處に於てである。絕對的權力なしには文明は存續し得ない。文明は大衆に依存するものではなくて、如何なる人間であらうと兎に角彼等の指導者となる者の事業である。大衆は、あらゆる機會に自己の野蠻性を示す野蠻人達より成立つてゐる。大衆は、自由を手中に握るや否や、それを無政府狀態に變へてしまふが、これは野蠻の最頂點をなすのである。

**○酒精、人道主義、惡德**

酒に醉ひ痴れてゐるアルコール中毒の動物を見給へ。無制限に飲酒する權利は、自由と同時に與へられるのである。然し我民族をそんな狀態にまで陷らしめてはならない。非猶太民族はアルコールで頭が濁つてゐるし、またその青年達は、古典を過度に勉强することによつて頭が鈍くなつてゐる上に、我々の手先たる者共——富豪の家に雇はれてゐる家庭教師や奴僕や保姆、それから商店の番頭等——によつてのみならず、なほ又非猶太人の娯樂場に出入する猶太婦人達によつて、若年のうちから惡德に誘惑されて馬鹿になつてゐる。所謂「社交界の貴婦人」と稱せられる連中もこの部類に入るのであつて、惡德と虛飾を自ら進んで模倣する連中である。

**○猶太的フリーメーソン結社の原則**

我々の合言葉は權力と僞善である。國法上の問題で勝を制するのは獨り權力のみであり、一國民を指導するのに必要な材能ある者にこの權力が藏せらるる時は殊に然りである。權力が基礎となることは言ふ迄もないが、或種の新權力の代表者にその王冠を蹂躙させることを欲しないやうな政府に當る時には、奸策と狡猾とが權力手段の役目を勤める。この惡事こそは、善い目的に達する唯一の手段である。それ故に我々は、我々の計畫の遂行に役立ちさへすれば、買收、詐欺、裏切等に尻込みしてはならない。政治上では、他を屈服させまた權力を獲取するに役立つ限りは、猶豫なく他人の財產を奪はねばならない。

**○恐怖政治、テロ**

平和的征服の道を取る我が政府が、戰爭といふ恐怖すべき事柄を避けて、その代りに目立つことは少ないがしかしそれだけに一層効目の多い死刑の法を用ひるのは當然であつて、盲目的且つ絕對的服從を强要するために、この處刑法によつて恐怖政治がちやんと維持されねばならないのである。公正にして而も假借なき峻嚴さは、國家の權力の最良の支柱である。單に利益のため許りではなく、殊に勝利のためには、義務としても暴力と僞善とを吾々は固執しなくてはならない。冷靜なる打算に基く吾々の主義は、それによつて適される手段と同じく强力であ

る。それ故に我々は、之等の手段そのものによつてといふよりもむしろ我々の不屈不撓な主義によつて勝利をとり、あらゆる政府を我々の超政府の許に屈服せしめるであらう。銘せらるべきは、あらゆる反抗を除去するために我々が假借なく事を行ふといふことである。

### ○自由、平等、博愛

我々は既に古代の諸國民の間に「自由、平等、博愛」の叫びを響かせたのであつた。爾後この言葉は、かやうなおびき聲に釣られて四方から集まつて來た愚かな鸚鵡達によつてしばしば繰返された。之等の言葉は、世界の安寧を破り、以前には大衆の壓迫を免れてゐた所の眞の個人的自由をも破壞した。賢明で分別ある非猶太人でさえも、この言葉の本來の意味を解しなかつたし、またその内部に含まれてゐる矛盾を見拔くことが出來なかつた。彼等は、自然が平等を知らずまた自由を與へ得るものでないことを知らなかつた。自然そのものが、悟性と性格と能力との不平等を創つたのであるし、また自然の法則に屈服するやうに仕向けたのである。非猶太人は、人民大衆なるものが盲目の暴力であることを考慮せず、また、その選ぶ所の成上り者も民衆自身と等しく盲目であることをも考慮せず、また奥義を授かつたものは假令馬鹿でも統治が出來るのに、奥義を授からぬものは如何に非凡の才があらうとも政治を少しも解する所はないことを考慮しない。彼等非猶太人は、之等すべてを看過してゐる。

### ○王侯政治の原則

兎に角、王侯政治の據所は何であつたかと言ふに、政治上の知識が父子相傳となつてゐて、王家の人々にのみは知られるが、その秘密は何人によつても被支配民に漏れることがなかつたといふのがそれであつた。しかし政治の眞の内容をかやうに傳授することの意味は時と共に失はれ行つたが、これが同じく我々の事業の成功に役立つのであつた。

### ○非猶太貴族の特權撲滅

「自由、平等、博愛」といふ言葉は、我々の秘密の手代達の助力によつて、世界の隅々に至るまで、無數の人間を我々の味方

に引入れたが、この連中は我々の旗幟を感激をもつて押し立てて廻つた。その間にも之等の言葉は蛆虫の如くに作用して、非猶太人の安寧を喰ひ破り、到る處非猶太人の平和、無事、協同心を喰ひ盡し、それによつてその支配力を土臺から覆すのであつた。諸君、御覽の通り之が我黨の勝利を到來せしむるに到つた事情である。そしてこの事情が、最後の切札を手に入れることを我々に許したのである。即ち、貴族の特權の破壞、もつとよく言へば非猶太人の貴族政治の本來の本質の破壞をこの事情が吾々に許すに至つたのであるが、この非猶太人の貴族政治こそは我々の攻擊に對して非猶太國民並びに國家を守る唯一の防禦壘なのであつた。

### ○新貴族

古き血族的並に世襲的貴族の廢墟の上に我々は我々の知識階級の貴族、即ち金權貴族を建てた。そして我々はこの新貴族を創造するに當つては、我々に依存する富と我々の賢者達の指導する科學とを標準としたのである。

### ○人間的弱點の打算

我々が利用し得た連中との交際に際して我々が常に人間精神の最も感じ易い側面に働きかけたことも、我々の勝利を一層容易ならしめるのである。即ち吾々は、金錢の打算、利慾、飽くなき物質慾等に働きかけたのである。之等の人間的弱點は何れも、人間の意志を彼の活動を金で買ふ者の意の儘に歪げさせることをするので、人間の決斷力を殺すには誂へ向のものである。

### ○自由の概念

自由の概念は大衆を說服して、政府とは國の所有者即ち人民の委任管理者であるから、この管理者は古手袋の如く取換の利くものであると思ひ込ませることが出來た。

### ○人民代表者の交替

人民代表者なるものは自由に取換への利くものであるといふことは、彼等を騙つて我々の手中に陷らしめたので、彼等の任命權も謂はば我々の手中にあるやうなものである。

# 第二議定

## ○經濟戰は猶太人優勢の基礎

我々の目的にとつては、戰爭が出來るだけ領土的利益を齎らさないやうにすることが絕對的に必要である。さうすれば戰爭は經濟的領域に移されることになるが、この領域に於ては我々の優勢の威力を諸國民に認識させることは容易である。かかる事態によつて兩交戰國は、如何なる邊陬の地までも分散してゐる我々の手代連の手中に陷つてしまふが、而も我々の手代達は何百萬の眼を自由に驅使して、國境によつて活動を阻止されることは決してないのである。その時我々の猶太法は諸民族の法律を抹殺して、現在諸政府の權力が國民相互の關係を律してゐる如く彼等を統治することになるであらう。

## ○行政官吏と樞密顧問官

彼等の奴隸的能力に應じて我々が公民中から選んだ行政官吏は、決して行政能力を準備してはゐないであらう。それ故に彼等は、我々の將棋に於ては容易に「歩」に墮してしまひ、幼時から全世界支配のための教育をうけてゐた所の、訓練と天才とのある我々の顧問の掌中に全く收まつてしまふであらう。諸君も知られる通り、之等の專門家はその政治上の知識を我々の政治的計畫、歷史の諸名訓、現代の觀察等から取つて來たのである。非猶太人は、歷史を基礎とする冷靜な觀察を練ることを知らず、吟味的比較などはしないで結果のみを求めるやうな科學的熟練を事としてゐる。それ故に我々にとつては、彼等のことを意に介することは無意味である——たとへ彼等が、いよいよの時が來る迄、新たなる歡喜を希望して生きようと、過去の喜を追憶して生きようと、そんな事は問題ではない。肝要なのは、科學の命令だとして我々が彼等に吹込んでおいたものを彼等が堅く信じ込んで疑はないといふことである。それ故に我々は、始終印刷物を利用して、この命令に對する盲目的信仰を鼓吹する。非猶太人中の利巧な連中は自己の知識を誇りとして、「科學から」得た知識を巧妙に實現しようとするであらうが、然もそれの知識を論理的に吟味もせず、またその知識なるものが、人

間を我々に必要な方向に教育するため我々の手代達によつて作り上げられたものであることには氣がつかないのである。

**○破壞的教義の成果**

我々の主張を空論なりと思つてはいけない。我々が仕組んだ所の、ダーウイン、マルクス、ニーチエの教說の徹底的成果に注意なさるがよろしい。非猶太の人心に及ぼした之等の教說の破壞的作用は、少くとも我々には明白になつてゐなくてはならない。

**○政治上の適應力**

政治と行政とに於て失敗を犯さぬために、我々はよく時代精神と諸國民の性格及び氣持等を考慮に入れなくてはならない。我々の教說は、我々が接觸する諸國民の性情に適應させられなくてはならないが。その永續的成功は、それを實人生に適用するに當つて過去の教說と現代の要求とを統合する時にのみ得られるのである。

**○新聞紙の任務**

現在の諸政府の手中には國民の中に思想運動を喚起する一大威力が握られてゐる——即ち新聞紙である。新聞紙の任務は、必要らしく見える要求を指示し、人民の訴へを表現し、不滿を表明しまた喚起するにある。自由に關する饒舌の勝利が、新聞紙といふ姿で具現してゐるのである。然し政府共がこの威力を利用することを知らなかつたので、それは我々の手中に歸した。新聞紙によつて我々は勢力を得たが、然し我々自身は背後に隱れてゐた。新聞紙のおかげで我々は黃金の山を掌中に收めたが、それが血と淚の流れから汲み取れなくてはならなかつたことは氣に病みはしなかつた。

**○黃金の價格と猶太人犧牲の價値**

それは多くの同族を犧牲にした。然し我々の側の犧牲一人は、神前に於ては、非猶太人千人の値があるのだ。

## 第三議定

## ○蛇の象徴とその意義

余は今日もう諸君に知らせることが出來るが、我々の目的までは最早餘す所幾何もないのである。この上なほ一小歩すれば象徴の蛇——わが民族の象徴である——の環は完全に接合するのである。この環が先づ接合されると、それはやがて全歐洲諸國を強力な箍で締め付けるのである。

## ○憲法の不安定、宮廷を脅かす恐怖の亡靈としてのテロ

現代の憲法の天秤皿は間もなく顚覆するであらう。何故といふに、我々はその天秤を、それが安定しないやうにと、不正確に据えておいたからである。我々は、天秤の挺子が磨り減つてしまふ迄その天秤が動揺を止めぬやうに心掛けてゐる。非猶太人は、天秤の竿を充分丈夫に鍛えたと思ひ、天秤がやがて釣合を取るであらうと期待してゐた。然し天秤を支へてゐる竿は、かの無制限且つ無責任な權力を振つてあらゆる愚行をやつてのける民衆の代表者達によつて不安定狀態におかれてゐる。然も彼等がこの無制限且つ無責任な權力を獲得するのは、宮廷内に侵入した恐怖的行動——テロ——に依つてである。支配者達は人民の心を摑むことが出來ないので、人民と和解することは出來ず、また權力を求める野心家達から身を守ることも出來ないのである。我々は主權者の目に見える威力と大衆の目に見えない威力とを引離してしまつたので、兩方共その意義を失つてしまつてゐる。何故なら、どちらも一方だけでは、杖を失つた盲人にも等しく無力であるから。

## ○權力と名譽欲

我々は權力者達を騙つて彼等の勢力を濫用させるために、彼等の自由な獨立欲を伸長させることに依つてあらゆる力をして鬪はしめて來た。この意味に於て我々は、あらゆる企業心を唆つたし、あらゆる黨派に武裝をさせたし、またあらゆる野心の目的を支配力の獲得に向はしめるやうにし向けた。また我々は、あらゆる國家を叛亂の巷と化したのである。それ故になほ少しの辛抱をするならば暴動と崩壞とは一般的現象となるであらう。

**○國會の演說**

倦むことなき饒舌家達は、國會並びに國家行政の會議を化して演說競技會の會場とした。厚顏な新聞記者及び無恥な讒謗文の作者は、每日、政府の當路者を攻擊する。權力の濫用は遂には國家の基礎を搖がせ、瓦壞を準備する。凡ては煽動された大衆の攻擊の下に微塵と碎け去るであらう。

**○宣傳用小册子**

諸國の人民は奴隸制度又は農奴制度よりも激しい苦しみを與へる貧窮によつて苦役の宣告を受ける。彼等は、奴隸制度や農奴制度からはあれやこれやの方法で解放されることが出來たが、然しかの貧困からは到底脫することは出來ない。我々はまた憲法中へと、大衆に對して空想的な意義はあつても實在しないやうな諸種の權利を挿入しておいた。所謂「民權」なるものは凡て空想界のものであつて、決して現實界に持つて來られることは出來ないのである。

**○主權の濫用**

幾何かの饒舌家が辯舌を弄する權利を賦與されたとか、新聞記者が眞實の報道と一緒にあらゆる讒言を書集めることを許されてゐるとかいふやうなことは、苦役に露命を繫いでゐる多忙な勞働者達にとつて何の役に立つであらうか。實際の所憲法が勞働者達に提供してゐる利益は貧弱なパン屑位のものに過ぎないのであつて、このパン屑は、勞働者達が我々及び我々の代表者に投票してくれる代償として我々の食卓から投げ與へられるのである。共和國に於ける「民權」なるものは、貧民に取つては實際の所苦々しい皮肉であるに過ぎない。貧民には「民權」なぞを正しく行使する能力はない。何故なら、彼等は必要な生活資を稼ぐにも足らぬ苦役に日々齷齪してゐるのだから。如何なる勞働者も定まつた報酬を確實に當にすることは出來ないのである。工場主による操業停止や勞働仲間の罷業に左右せられる身の上だからである。

**○貴族と成上り者**

人民は我々の感化をうけて貴族の支配を破壞した。貴族は、人民の安寧の基礎と不可分の關係にある自己の利益に基いて、

もともと人民の自からなる擁護者であり養ひ手であつた。然るに貴族を滅ぼしてからは人民は、成上り者の成金連中の支配下に立つやうになつたが、この成上り者連中は、勞働者に無慈悲な奴隷制度の軛を課するに至つたのである。

**○猶太人のフリーメーソン結社軍**

我々は言はば勞働者をこの奴隷狀態から救ひ出す救濟主の如くに出現するのであるが、それは我々が彼等を招じて我々の社會主義者、無政府主義者、共產主義者の陣營に引き入れるからである。我々は之等の方向の諸主義を原則上支持するのであるが、その際に我々は、我々の社會主義的フリーメーソン團の一般人間的義務に依つて制約を受ける同胞愛の諸規則を表向きの看板にするのである。貴族が勞働者の仕事を自己のものなりとするのは正當であるが、その爲めにも貴族は、勞働者が滿腹し、健康で、頑健なことを望んだのは自然であつた。

**○非猶太人の頽廢**

然し我々は正にその逆を——即ち、非猶太人の頽敗を欲する。我々の權力は、勞働者が常に營養不良と衰弱であることによつて保持される。此の狀態に於ては勞働者は我々の意志に屈服するに違ひない。何故なら、彼等は最早我々に反抗する力も勇氣も失つてしまふから。

**○饑餓と金權**

饑餓は金力に對して勞働者を支配する確かな力を與へるが、その支配力は、王の合法的權力が貴族に與へた力よりも遙かに確實である。困窮とそれから出て來る憎惡とによつて我々は大衆を動かす。我々は群衆の力を借りて、我々の進路を阻む者をすべて片附けてしまふのである。

**○大衆と世界王の戴冠**

我々の世界王の戴冠式の時日がやつて來るや否や、その同じ大衆は、なほも我々の進路を遮ることの出來さうなものを悉く掃き去つてしまふであらう。

**○未來のフリーメーソン小學校に於ける教授要目**

非猶太人は我々の科學的助言なしに物を考へることを忘れてしまつてゐる。それ故に彼等は、我々の世界支配が達成された曉に我々が一歩も讓歩することなく確保するであらう所のものが如何に痛切な必要事であるかを認めぬ。即ち小學校に於ては、唯一の眞實な科學、何よりも重要な科學、換言すれば人生の社會的構造に關する學說が說かれなくてはならないのであつて、この人生の社會的構造が、分業を要求し、その結果として人間が階級又は身分に分類されるに至るのである。また何人の頭にも必ず叩き込まれねばならないのは、人間の各種の活動が平等ならぬ重要さを持つ結果として、人間の平等なぞは決して存在し得ないといふことである。法律に對しは夫々違つた責任が生じねばならない。何故ならば、その行動によつて全階級を害ふ者と、ただ自分の名譽を傷つけるに止まる者とでは、その責任も違つて來なければならないからである。

## ○人生の社會的構造に關する學說の秘義

我々が非猶太人に秘してゐる所の、人生の社會的構造に關する眞の學說の教へる所に依れば、神的活動も肉體的勞働も一定範圍の人間に限らるべきであつて、然らざる場合には、豫備教育と職業との間の不調和から人間苦の源が生ずるからである。もし國民がこの學說を受け入れたとすれば、國民は自から進んで主權と主權が立てた國家秩序に屈服するであらう。科學が現狀の如くであり、又それが我々が與へた方向を取つてゐるので、人民は盲目的に印刷物を信じ、また印刷物に含ませられてある迷論を信ずるので、從つて人民は、その蒙昧さのために自己の價値を誤認して、自己の上にあると思はれる階級のすべてを憎むのである。

## ○一般的經濟不安(危機)

あらゆる取引業及び工業を萎靡せしめる經濟的不安がやつて來れば、この敵愾心は更に大いに烈しくなるに違ひない。我々は、我々に可能である限りのあらゆる陰謀と、完全に我々の手中にある金力とによつて、一般的經濟不安を惹起し、同時に全歐洲諸國に於て勞働の大群を街頭に投げ出すであらう。さうすれば之等の大衆はその單純な心持からして幼少以來嫉視してゐた人々の血を洗すのを喜び、その人々の所有物を奪ひ取り得る

であらうと考へる。

**○我が黨は安全**

然し我々の仲間は、之等の大衆によつて襲はれることはないであらう。何となれば、我々には襲撃の時刻が豫め分つてゐるので、時期を失せずに我黨の者の保護策を講ずるであらうから。

**○秘密結社の專制は理性の國である**

我々は、進歩が非猶太人を理性の國に連れて行くであらうと說明して來た。然し我々の强壓政治は、理性の峻嚴さによつてあらゆる暴動を鎭壓し、國家生活のすべての部門より自由主義を驅逐する手段を心得てゐるであらう。

**○指導者の倒壞、フリーメーソン結社及び佛蘭西大革命**

人民は、自由の名の下に種々の讓步を獲得したことに氣が付いてからは、自己が支配者であると信じて、權力を無理やりに手に入れた。然し勿論人民は、凡ての盲人と同じやうに、多くの難關に突き當るやうになりながら、自力ではその難關から脫することが出來なかつた。そこで指導者を探しに出かけたが、以前の指導者の許に復歸することには思ひ到らないで、むしろその全權を我々の足下に置いた。諸君は、我々が「大」の字を附けて呼んでゐる佛蘭西革命のことを思ひ起し給へ。この革命の準備の秘密はすべて我々には解つてゐるが、それは、あの革命は我々の手でなされたものであるからである。

**○シオンの血を享けた帝王**

あの時以來我々は諸國民を幻滅から幻滅へと導いてゐるが、それは彼等が我々からも離叛して、我々が全世界の王として準備してゐる所の、シオンの血を享けた王を歡呼して迎へるやうになることが望ましいからである。

**○フリーメーソン結社の鞏固なる立場**

現代に於ては、世界的勢力としての我々は不死身である。何故なら、もし我々が或る一國家から攻擊されるならば、直に他の諸國家が我々の味方になつてくれるからである。我々の鞏固な立場を促進したのは非猶太諸國民の限りない卑劣さであつ

て、それは權力の前には叩頭するが、弱者に對しては無慈悲で、過失には嚴罰を加へても、犯罪は之を寛大に斷罪し、自由な社會秩序の矛盾を我慢することはしないが、大膽な支配慾の暴虐には殉教者となつても顧みぬ程の忍耐を以て對するのである。彼等は現代の獨裁者即ち首相や國會議長の權力濫用を忍耐してゐるが、しかしかやうな濫用の最小なのに對して首の二十位は刎ね兼ねまじい有樣を示したこともあつたのである。

**○フリーメーソン結社の秘密連絡の任務**

この奇妙な現象、即ち、同一の外觀を持つ事象に對する大衆の態度がかやうに首尾一貫してゐないといふことは、如何に說明されるであらうか。その說明はつまり次の如くである。即ち獨裁者達は手先を使つて、自分達が故意に國家を害してゐるのは一層高い目的の達成のためであると、人民の耳に囁かしめるのである。そしてその目的とは、人民の一般的安寧、四海同胞、相互的責務（協同）平等であるといふのである。然しかやうな結合はただ我々の支配下に於てのみ組織されるであらうといふことは、勿論彼等に告げられることはない。かくて人民は正義の人を斷罪し、有罪者を無罪とする。また人民は次第に增長して、自らの欲することは凡て成し遂げられるものと確信するやうになる。このやうな事情の下に於ては人民はあらゆる着實な發展を破壞して、一歩毎に新たなる無秩序を喚起して行く。

**○自　由**

「自由」なる語は人間社會を驅つてあらゆる權力と抗爭せしめ、神及び自然の威力に對しても鬪爭せしめる。我々が一たび王座に昇るならば、我々はこの言葉を人類の語彙の中から抹殺してしまふであらう。何故なら、此の言葉は、大衆を血を好む猛獸に化せしめる所の、動物的暴力の結晶であるから、然し之等の猛獸を流してしまへば、眠つてしまふので、さうなれば容易に鎖に繫がれることが出來る。然し血を吸はせないでおく時には、彼等は眠らないで戰ひ狂ふのである。

## 第四議定

## ○共和國の發展

あらゆる共和國は幾つかの發展段階を經るものである。第一段階は、盲人の氣狂じみた行動がその初期には右から左へよろめく程度であるのに類似してゐる。第二段階は人民爛動の時代であつて、此處から無政府狀態が生れて來る。この段階は必ず專制政治を到來せしめるが、之は最早公的合法的認知を受けてゐないものであるから、何の責任をも最早負ふことはしない。そしてこの際に勢力を振ふのはむしろ目に見えない未知の權力であり或は一つの秘密結社であるが、この結社は裏面で活動するものであるので、その手段の選擇に當つては何の拘束を受けることはないし、また到る處手先を忍び込ませるが、その手先を度々交替することによつて損するといふよりもむしろ得をするのである。即ち、手代を度々交替することによつて長年の忠勤の報酬に金錢を支出するのを免れるといふことだけでも、既に儲けものなのである。

## ○「世俗」界に於けるフリーメーソン結社の活動

何人が、そして何物が果して目に見えぬ權力を倒すことが出來るのであらうか、我々の威力は取りもなほさず斯くの如き性質のものである。フリーメーソンの外面的（俗界に於ける）活動は、我々の威力とその目標を隱蔽するに役立つ。我々の戰法、否、我々の權力の所在さへ、民衆には常に隱されてあるであらう。

## ○自由と信仰

自由さへも無害たり得ることはある。自由は、國家生活に於て人民の安寧に對し、次の如き場合には不利を招くことはないであらう。即ちそれが、神への信仰と隣人愛に基づき、また隷屬を根本とする創造の法則と矛盾する如き平等思想と關係を持たないときには然りである。かかる神への信仰がある時には、人民は僧侶の指導に身を委せて、平和にまた謙讓に牧師に連れられて歩み、神の欲するが儘の地上財の分配に冷靜に服從するであらう。かやうな根據からして我々は、徹底的に宗教を破壞し神と聖靈とに關するあらゆる思想を非獨太人の魂から拔去つて、その代りに利慾の打算と肉體的欲求とを植附けねばならない。

### ○商工業に於ける國際競爭・投機

非猶太人に思索と觀察との時間を與へぬために、我々は彼等の頭を產業に向けなくてはならない。さうすれば、あらゆる國民は利得を追ふに急で、共同の敵を見逃すであらう。自由が非猶太社會を最後的に破壞し解體してしまふために、產業は投機の上に築き上げられねばならぬ。かくなる時には、工業が土地から獲得した財寶は、非猶太人の手から投機家のポケットへ、と換言すれば、我々の金庫へと移つるやうになるであらう。

### ○黃金崇拜

經濟生活に於ける優越を得んがための極度に緊張した鬪爭と市場の度重なる恐慌とは、幻滅によつて冷酷になつた一社會を生み出すに違ひない。否、上述のことは既に實現してゐる。此の社會は、高等政治と宗教とに對して徹底した嫌惡を感ずるであらう。彼等の唯一の相談相手は、利益打算の術即ち黃金であるだらう。彼等は黃金が呈供し得べき數々の享受を望見して、黃金を完全に偶像神化するであらう。そして事情が此處まで進む時には、非猶太人の下層階級は、何か善事をなすとか財產を積むとかの爲めでなく、單に上流階級に對する憎惡のみからも、我々に隨いて來るやうになり、我々の權力鬪爭の相手である有識非猶太人に刄を向けるであらう。

## 第五議定

### ○行政的統一の增大

贈賄が到る處に跋扈してゐる社會、巧妙な奸策或は半ばは虛僞の駈引によつてのみ富に到達し得る社會、無規律が支配し、道義はたゞ處罰令と峻嚴なる法律によつて漸く維持されるのみで決して自由意思より遵奉されたる原則に依つて維持されることのないやうな社會、祖國愛と信仰とが世界主義によつて息の根を止められる社會、このやうな社會に對しては如何なる形式の憲法が與へられることが出來るであらうか。かかる社會の憲法は、余が以下に於て諸君に說明しようとする如き權力政治に據る他はないのである。我々は在來よりも大なる統治權の統一

を樹立し、その力によつてあらゆる權力を我々の手に掌握するであらう。そして我々の臣下の國家生活の全部門を新らしい諸法律によつて機械の運轉の樣に調整するであらう。之等の法則は、非猶太人が許容しておいた寛容や自由を凡て除去するであらう。かくて我々の國の特徴とする所は無際限の權力政治となり、我々に不滿を懷く非猶太人の反抗を隨時隨所に於て未前に窒息せしめることが出來るに違ひないのである。余が述べてゐるこの權力政治は當代の進歩と合致し得ないものであると抗議される向もあらうが、然し余はかかる考の逆こそ眞であることを證明してお目にかけるであらう。

## ○猶太的フリーメーソン結社は如何にして權力を得しや

諸國民が未だその王侯を仰いで神意の啓示の如く崇めてゐた間は、彼等は進んで王侯の專制に服從してゐた。然し我々が彼等に對して、彼等にも權利ありといふ思想を注入した時に、彼等は帝王を普通の死すべき人間と見るやうなつた。王侯は神の恩寵を蒙むるものなりといふ事は、もはや何の意義も無いものと人民の眼に映ずるに至つた。我々が人民から神の信仰を奪つたとき、王冠の威力は地に墜ちてしまつた。其處で我々はその權力を公有物として拾ひ取つたのである。

加之、我々は、文辭を巧に驅使したり、巧みな社交の禮式を用ひたり、さては非猶太人には考へも及ばぬ諸種の手段を案出して、大衆及び個々の人間を我々の意の儘に操縱する術にかけては、全くの大家である。我々の行政の仕方は、極めて鋭どい觀察と分析とに基き、また非常に自由な推理に基づいてゐるので、何人と雖も我々とは太刀打は出來ない。我々の政治的計畫の結構及び我々の秘密結社の纒まりと勢力との點に於ても、何人も我々と比肩することは出來ない。ジエスイツト教團のみは或は我々と比較され得るかも知れないが、然し我々は、彼等をして無智な大衆の信用を失はしめるに成功した。そしてこの成功の得られたのは、自分達が秘密結社を作つて蔭に隱れてゐたのに、彼等の方では目に見える團體を作つてゐるからである。兎に角、世界にとつては、誰に支配されるかといふことは忽せに出來ない問題であつて、支配者が加持力教の法王であらうとシオンの血を享ける我々の專制君主であらうと何れでもよい、と云ふわけには行かぬのではなからうか。神の選民たる我々に

とつては、この事は決してどうでもよい事ではないのである。

**○基督教諸國家は何故に協調し得ないか**

一時的には凡ゆる非猶太人の世界同盟が我々を打負すこともあらう。然し我々のこの危險に對しては、非猶太人の間に深く根を下した超ゆべからざる葛藤が我々を保護してゐて呉れるのである。我々は二千年に亙つて非猶太人の間に、個人的並びに國民的對立或は民族的並びに宗教的憎惡を懸命に煽動して來た。かかる事情のために、何れの基督教國家も他の援助を得ることは出來ない。何となれば、他の諸國は何れも、我々に反抗する同盟を結ぶことは自己に不利であると考へざるを得ないから。我々は實際餘りにも強力であるので、何人も我々を無視することは出來ないのである。今日に於ては、列强が如何なる些細な協約を相互に締結する場合にも、必ず我々の手が秘かにそれに關係してゐないことはないのである。

**○猶太人——神の選民**

「諸王は我を經て王たるべし。」豫言者達は、我々が神自身によつて全世界の支配者たるべく選ばれたことを教へた。我々がこの大使命に堪えるやうにと、神自身我々に對して必要な天賦の才を與へたのである。たとひ敵の陣營に天才者が生れ出で、我々と戰を交へんとするやうなことがあつても、新參者は到底千軍萬馬の戰士の敵ではないから、結局彼は屈服するに違ひない。また敵と我々との戰鬪は、前古未曾有の激烈なものになつてしまふであらうし、天才者の出現も時季遲れとなつてしまふであらう。

**○黃金——國家機關の動力**

國家機關のあらゆる車輪は、その全部が我々の掌中にある力卽ち黃金によつて、動かされるのである。我々の學者達に依つて案出された國民經濟學は、既に以前より、黃金に對して優越せる威力を認めてゐる。

**○商工業に於ける獨占權**

無制限の支配權を得るためには、金力が商工業に於て獨占權を獲得しなくてはならない。見えざる秘密の手が、この計畫を

全世界に於て實現するために既に仕事を始めてゐる。かかる特權は產業家に政治的權力を與へるが、この權力は民衆の壓迫に役立つ。現在では、諸國民を戰爭に導くよりも、その武裝解除をする方が重要である。また燃え上つた慾望は之を消すよりも我々のため利用する方が大切であるし、他人の思想は之を排擊するよりもそれを受け入れて利用する方が重大である。

## ○我々の破壞的判斷力(批評)の意義

我々の行政の主要任務は、あらゆる出來事を破壞的に批評することによつて輿論の抵抗力を弱め、我々に反抗し得るかも知れない獨自の思索を人間から奪ひ、そして現存の精神力を誘つてる空なる辯舌の遊戲に墮せしめることである。

## ○見世物となつた演說場

諸國民及び各個人達は、あらゆる時代に於て、言葉を行爲と考へて來た。それで彼等は、單なる外見で滿足して、公的世界に於て約束に實行が續くかどうかといふことには氣をつけない。それ故に我々は人民に展覽會を開催して見せて、我々が如何に一般的進步のために盡したかを大雄辯で說き聞さなくてはならない。

## ○雄辯による疲勞

我々はすべての黨派と主義とのあらゆる自由主義的思想を我物とし、我々の辯舌家に委囑してその思想を長々と引伸ばして貰ひ、やがてその美辭美句の辯舌をもつて人間共を疲らせ、遂には人間共の心中にあらゆる雄辯家に對して嫌惡を抱かしめるやうにしたいと思ふ。

## ○如何にして我々は輿論を支配するか

輿論を掌握するためには、四方八方から互に矛盾する意見を發表させることによつて懷疑と不和の種を播かなくてはならない。さうすればやがて非猶太人は、この錯綜した事情に前後の見通しを失つてしまひ、次のやうなことを確信するやうになるであらう。即ち國法上の事柄に關しては、民衆は到底必要な見通しを得ることは出來ず、民衆を治める者のみが眞物の見通しを得ることが出來るに過ぎないのであるから、さうした問題に

就てはむしろ何等の意見をも持たないのが一番良いといふのである。之が我々の第一の秘策である。

我々の目的の達成に取つて之に劣らず大切な第二の秘策は、民衆の缺點や缺陷を出來るだけ增すことである。あらゆる惡習、欲望、社交上のあらゆる規則などは、すべて極端に走るやうになされねばならない。その結果は、何人もこの狂氣じみた混亂の中に於ては勝手が分らなくなり、人間共はお互に理解し合ふことを中止してしまふやうになる。かくて我々には、あらゆる黨派の中に不和の種を播き、未だ我々に屈服することを欲せぬ一切の力の集合を防げ、また我々の事業に何らかの妨害を與へ得る如きあらゆる個人的行動力を頭から骨拔きにしてしまふのが容易となるであらう。

## ○個人的行動力の意義

人格の威力に優る危險なものとては何もあるまい。之が創造的精神力を備えてゐる時には、それは、我々が不和にしておいた幾百萬の人間以上の仕事を遂行することも出來るのである。それ故に我々は非猶太人社會の教育を指導して、彼等が行動力と決斷力とを必要とする如きあらゆる任務に當面する時、自己の弱さに絶望して手を束ねるやうになるやう仕向けねばならぬ。行動の自由によつて喚起される緊張は、他の自由に遭遇する場合には、その力を萎微させてしまふ。そこから重大な道德的軋轢、幻滅、失敗が生じて來る。

## ○超主權

以上凡ての手段に依つて我々は非猶太人を疲勞困憊させるので、彼等は嫌でも應でも我々に世界支配權を獻上するやうになつてしまふであらう。我々は生得の全才能によつて、世界の諸國家の權力を嶮岨な道を通ることもなく我々の手中に收め、かくて容易に一つの超主權を樹立することが出來る。我々は、現在の諸支配者を退けて、その跡に超國家的行政機關と自稱する怪物を据ゑるであらう。この怪物の腕は鉗子のやうに四方に伸びて、强力な施設を構成するに至るので、あらゆる國民は我々の主權に屈服するに至るであらう。

# 第六議定

## ○非猶太人の安寧は猶太人の獨占權に依存す

間もなく我々は、巨大な獨占權を確保するであらうが、それはあらゆる他人の競爭を排除して、我々の、尨大な財源となるであらう。非猶太人の大財產と雖も此の猶太人の獨占權に依存するであらうといふことは、かかる大財產が、舊政府倒壞後の第一日に消滅してしまふこと宛かもその國家の支拂能力に與へられてゐる信用（國家信用）と同じであることを見れば分るのである。余は本席に御參列の諸國の經濟家に對して、この思想の意義を正しく評價あらんことをお願ひする。

あらゆる手段を以て我々は我々の超主權の權力を伸張しなければならぬ。まことの超主權は、自分が、自發的に我々に服從する者達の庇護者であり、恩人であることを萬人に向つて示さなくてはならぬ。

## ○貴族は土地を沒收せらる

非猶太人貴族は、國家的權力としてはその役を果してしまつた。我々はこの點では最早貴族を問題にする要はない。しかし貴族は、地主としてはなほ我々に有害である。何故といふに、貴族はその生活資源泉のお蔭で自立することが出來るから。それ故に如何なる犧牲を拂つても、貴族の土地を沒收する必要がある。その最良手段は、土地を抵當に入れさせるために地稅を引上げることである。この處置は、土地を全くの依存狀態におくであらう。非猶太貴族は父祖傳來の性質のために、僅少のもので滿足することを知らないので、間もなくそのために沒落するに違ひない。

## ○商工業と投機

同時に我々は、商工業に對しては以前にも增して保護を加へ、また特に投機を奬勵しなくてはならぬ。この投機なるものは、增大しつゝある產業の力に對する釣衡力として、我々に役立つのである。工業は地方銀行に抵當に入つてゐる土地を解放することも出來るので、投機が存在しない時には、工業は市民

の資本を增大し、また農業の勃興に貢獻するかも知れないのである。それ故に我々は、工業が農業から勞働力並びに金力を吸ひ取るやうにし、かくて投機を通して全世界の財寶を我々の手に引渡すやうに仕向けねばならぬ。さうすれば非猶太人は素寒貧となり、露命を繋ぐためのみにも、我々に屈服するに至るであらう。

**○奢侈への誘惑**

非猶太人の工業を破壞するために、我々は投機の他にもう一つ別の手段を用ひるであらう。卽ちそれは、非猶太人の間に、華美に對する强烈な慾望や、凡てを蕩盡してしまふ奢移への猛烈な欲望を唆り立てることである。

**○勞働賃銀の引上げと生活必需品の騰貴**

我々は勞働賃銀を引上げるであらう。然し同時に我々が日常必需品の全部の價格の引上げを惹起せしめるので、勞賃の引上げも勞働者に何の利益を齎すこともないであらう。そしてその際に我々の用ひる遁辭は、農業と牧畜の窮狀といふことである。

**○無政府主義と飲酒癖**

我々は勞働者に無政府主義と飲酒癖とを植ゑつけ、また非猶太人の高等な精神力のすべてを放逐することによつて、農業及び工業の生產力の源泉を人工的且つ深刻に攪亂するであらう。

**○我々の國民經濟學の秘義**

非猶太人が事の眞相を時未だ到らざる前に見破ることのないやうに、我々は愼重に眞相を隱蔽するであらう。その手段に役立つのが我々の國民經濟學であつて、此の學說からは、外見上では、勞働階級と世界的な經濟上の原則とを全力を以て保護しやうといふ眞面目な努力が現はれてゐる如くに見えるのである。

## 第七議定

**○高度軍備の目的**

軍備の强化及び警察制度の完備は、何れも旣述の我々の諸計

畫の實現に役立つのみである。我々は、あらゆる國家に於て、吾人以外にはたゞ無產大衆と我々に依存する數人の富豪とのみが存在し、その他には警官と軍隊のみがあるやうに配慮せねばならない。

**○全世界の動搖、鬪爭及び敵對關係**

我々は歐洲全大陸及びそれを基點として他の諸大陸に於て、動搖、鬪爭及び敵對關係を惹起せしめねばならない。之に依つて我々は二重の利益を得るのであつて、先づ第一には、あらゆる國家が、我々が何時でも思ふ儘に騷亂を惹起することも古い秩序を再建することも出來るのをよく知悉してゐるので、我々を恐れるやうになるであらう。あらゆる之等の國家は、我々を目して止むを得ざる惡と見るに慣れてゐる。第二には、我々が政治的或は經濟的協約乃至債券の力を藉りて各國の國政機關に連結させておいたあらゆる連絡の糸を、我々自身隱謀に依つて縺れさせるであらう。この目的を徹底的に達成するためには、我々は口頭での商議に當つては、大いに老狡と奸譎とをもつて事を運ばなくてはならぬ。之に反して外面的には、即ち所謂公式の文書の交換に於ては反對のやり方をして、終始正直な、迎合的な態度を示すであらう。我々がこの原則を守るならば、見せかけを本物と思ふ樣に慣らしておいた非猶太人の政府當路者や人民は將來もなほ我々を人類の恩人又は救濟主と考へるであらう。

**○非猶太人の抵抗を戰爭及び世界大戰によつて制壓する**

非猶太人國家が我々に抵抗を試みやうとする時には、我々は直ちにその隣接諸國を驅つてその國に戰を挑ませることが出來なくてはならぬ。然しその隣接諸國もまたその國と事を共にして我々に反抗する場合には、我々は世界大戰を勃發させねばならぬ。

**○政治の成功は意圖の隱蔽に依る**

あらゆる政治的成功の最大の要訣は、あらゆる企劃を嚴重に秘するにある。政治家の言說は、決してその行ふ所と一致する必要はない。

## 第八議定

### ○司法權の柔靭性

敵が我々に對して用ひ得る所の一切の武器は、我々の方でもまた備へねばならぬ。從つて我々は、諸法典の細微な點や煩瑣な手續きのすべてに通曉して、法外に大膽且つ不當にも見えかねまじい決斷を下す必要のある場合の爲めに備へなくてはならない。何となれば、之等の決斷が最高の道義的法秩序の流露である如くに見せかけることが重要だからである。

### ○猶太的フリーメーソン結社の援軍

我々の政府は、あらゆる文明の援軍を周圍に集めて、その中心に立つて活動すべきである。そしてこの援軍を構成するのは、就中、新聞記者、法律學者、行政官、政治家、それから最後には我々の特種學校で特種の豫備教育を享けた人々である。

### ○新聞紙と輿論

我々は非猶太人政府を强制して、既に豫期の完成に近づきつつある我々の廣汎なる計畫を强力に支持せしめねばならない。そのための手段として我々は輿論を口實に用ひるであらうが、この輿論は既に我々によつて秘かに所謂第八勢力——新聞紙——によつて我々に好都合なやうに作られてあるのである。大して問題にならない二三の例外を除いては、新聞紙は全部我々の手中にある。

### ○亞米利加、支那、日本——フリーメーソン結社の道具

歐洲にある非猶太人諸國家を屈服させるための我々の計畫を敷語に要略すれば、一國一國に對して我々の威力を知らせるためには、暗殺計畫即ち恐怖政治家、テロを以てするであらう。然し萬一全歐洲諸國が我々を敵として共同戰線を張ることにでもなる時は、米國、支那、或は日本の大砲が我々の名に於てその諸國に答へるであらう。

## ○我々の特種學校とその目的

之等の人々は、我々によつて社會生活のあらゆる秘密に通曉せしめられる。彼等は、政治上の文字や言葉を集めて作つた特種の言語を習得する。彼等は人性の凡ゆる深い奥底或はあらゆる敏感な絃に關して教へ込まれるが、それは彼等がそれ等の操縱法を會得してゐなくてはならないからである。そして之等の絃に屬するものは、非猶太人の特別な精神的傾向、その努力、缺點、惡德、良德、並びに各階級乃至身分の特質である。勿論、いま余が問題にしてゐる所の、我々の政府の精神力の强い協力者達が、非猶太人の陣營から採用されてはならないことは言ふ迄もないことであつて、此の非猶太人は、その職務を遂行するに當つて、その目的が何であるかといふことなどには思ひ到らず、また彼等が何故に必要であるのかをも考へることはしないからである。非猶太人官吏は、書類に目を通すことなどはしないで、盲判を押すことが屢々ある。彼等が國家に仕へるのは、一部分は野心のため、一部分は我欲のためであつて、本來の目的があつての上ではない。

## ○國民經濟從事者と富豪

我々は我々の政府を無數の國民經濟從事者で取り卷かせるであらう。何故ならば、國民經濟學に關する教育こそは、猶太人を教育するにあたつては最も重要な課目である。我々は、老大な數の銀行家、工場主、資本家を我々に近づかしめるし、特に重大なのは、百萬長者連の多數を我々に引き寄せることである。何故ならば、實際の所、萬事は金力で決定されるからである。

## ○國家の責任ある地位を何人に委ぬべきか

國家の責任ある地位を我々猶太人同胞に委ねるのが未だ危險と見える間は、その過去と人格がそれに適當と思はれるやうな人達にのみその地位を委ねるべきである。そしてその際の必須の要件は、彼等と人民との間に大きな溝を作つて置くことである。また我々は、萬一にも彼等が我々の指令に從はない時、死刑乃至追放を覺悟してゐるやうな人達にのみ、かかる地位を委ねても差支へないのである。かかる人々は、我々の利益を最期の息を引取るまでも擁護する氣でなくてはならない。

# 第九議定

**○諸國民の教育に我々の諸原則を適用すること**

彼等は我々の諸原則を適用するに當つては、その原則が働きかける國民の性情を考慮に入れなくてはいけない。我々の諸原則の一律的な適用は、我々流に教育されてゐない國民に於ては、成功を齎らすことは覺束ない。然し、愼重に仕事に懸るならば、極めて堅固な性格も十年そこそこで變へることが出來るのを知るであらう。かくなる時我々は、既に我々に屈服してしまつてゐる諸國民の間に新らしい國民を一つ編入することが出來るのである。

**○フリーメーソン結社の暗號**

我々は我々が主權を握ると直ぐに、要するに我々の結社によつて世界に廣められた舊い自由主義的暗號「自由、平等、四海同胞」を、單に空想を表現するに過ぎない言葉の群によつて置き換へるであらう。即ち我々は「自由の權利、平等の義務、四海同胞の龜鑑」などと唱へて、それによつて猛牛の角を矯めるであらう。法律上では未だ澤山の主權が存在してゐるが、實際上ではもう我々以外の主權は倒壞させられてしまつた。今日何れかの國家が我々に反抗するとしても、それはまだ形式上の事であつて、却つて我々の了解又は希望に從つてなされてゐるのである。

**○反猶太主義の意義**

下層階級に屬する我々の同胞を一致團結させるために、我々は反猶太主義を必要とする。然し余は、此の問題に關して既に我々が度々論じたことがあるので、茲では之に就ては詳述することを差控える。

**○猶太秘密結社の獨裁政治**

事實上我々にとつては最早何の障碍もない。我々が我々の超主權を行使する形式は超法律的であつて、それは普通に專制又は獨裁と呼びならはされてゐるものである。余は充分の確信を

もつて言ふが、我々は現在では唯一の立法者である。即ち我々は法の宣布もすればその執行權をも施行し、また處刑もすれば赦免をも行ひ、我々の全軍の司令官として馬上に颯爽たる姿を見せてゐるのである。嘗ては强力であつたが今では全く、我々に依存してゐる黨派の遺產を相續したので、我々は鞏固なる意志に依つて導かれてゐる。即ち我々は、抑へ難き野心、燃ゆる如き貪慾、假借なき復仇欲、用捨なき憎惡等を意のままに用ひ得るのである。

## ○妖怪——テロ

妖怪即ち廣汎なテロは、我々の手から出て行くのである。

## ○猶太秘密結社に仕へる者

我々に仕へるのは、あらゆる主義主張の人々であつて、王政を再建しようとする連中、煽動政治家、社會主義者、共產主義者、諸種の空想家皆然りである。我々は、我々の利益のために、彼等すべてに皆軛をかけておいた。彼等の一人一人は、夫々自分の場所にあつて、國家的權力の最後の支柱を倒し、既存の法秩序を倒壞せしめようとしてゐる。かやうな手段によつてあらゆる政府が苦しめられてゐる。各人は平和を求めて、懷しい平和のためならば萬事を犧牲にする氣になつてゐる。然し我々は、彼等が我々の世界的超政府を公然と無條件に承認する迄は彼等を休ませることはしない。人民は呻き乍ら、一般的國際協調に依つて社會問題の解決を求める。然しあらゆる國民は黨派に分裂してゐるし、またこの黨爭は大きな金錢を必要とするので、黨派と國民の總ては我々に依存するやうになる。その故は、金力は我々の獨占する所であるから。

## ○猶太人以外の世界に於ける目開きと盲目

猶太人以外の世界に於て支配者の明智力と國民の盲目力とが一致することがあれば、我々もそれを恐れるであらう。然し我々はかゝる可能性を妨げるために、あらゆる豫防方法を講じておいた。我々は兩力の間に、相互の恐怖政治といふ形態を持つて隔壁を設けておいた。かくて盲目的な人民大衆は何時までも我々の支柱となり、此の我々のみが大衆の指導者となつて、彼等を結局は我々の目的へと連れて行くであらう。

### ○我々と人民との共同

盲目の大衆が我々の指導から離れないために、我々は時々人民に最も親しくすることを忘れてはならぬ。個人的にそれを實行することが出來ない時は、最も信頼すべき仲間の手によつてそれを果さなくてはならぬ。我々の主權が先づ認知された曉には、我々は個人的にも人民と街頭や廣場で語り合ひ、國法上の問題に關しては、我々が正に必要とするやうな見解を取るやうに敎へ込むであらう。

村の學校で人民に何が敎へられてゐるかを細微に亙つて調査するのは不可能である。然し政府の當路者や支配者自身が人民に告げる事は、人民の口から速に四方に傳はるので、導火線のやうに全國に行き渡る。

### ○自由主義的放縱

非猶太人の諸施設を尙早に破壞することを避けるために、我々は大いに用心して仕事に取掛り、初めは、あらゆるものの原動力になつてゐる彈條の端だけに手をたけた。この彈條は、以前は嚴重に而も公正に部署分けされてゐたが、然し我々は、その彈條を除いて自由主義的放縱を取り附けた。このやり方で我々は裁判、選擧、新聞、個人の自由等を崩壞せしめ、殊にあらゆる眞の自由の支柱としての人民の敎育及び淘冶を毒したのである。

### ○僞瞞的理論

我々は非猶太人の靑少年を愚昧にし、誘惑し、墮落せしめた。我々がこの目的に達したのは、靑少年の敎育を誤れる原則と敎說との上に樹立したためであつて、我々は之等の原則と敎說との僞瞞性をよく承知してゐながら、なほそれ等を適用せしめたのである。

### ○法律の解釋

我々は勿論既存の法律を突然變更したのではなく、矛盾だらけの解釋で法律の意味を完全に歪曲したのである。このやり方で、我々は豫期以上の成功を收めた。先づ法は數多の解釋によつて曖昧にされ、次に漸次に反對の意味のものに變へられた。

すると政府當局ももう見通しがつかなくなり、終には政府自身この極度に錯雜して矛盾だらけの立法の處置が分らなくなつてしまつた。かかる事態からして法典主義裁判の代りに良心主義裁判の理論が出て來た。

**○首都の地下鐵**

諸君は或は抗議して、非猶太人が時前に事の眞相を發見するならば、武器を手にして我々に襲ひかかるであらうと言ふかも知れない。然しかかる場合に對しては、我々は恐るべき最後の手段を持つてゐるが、この手段たるや如何なる勇者をも戰慄せしめねばおかぬものであらう。やがて世界の全首都には地下鐵が蜘蛛の巣の如くに通ぜられるであらう。我々は我々の危急に際しては、世界の全首都をその全施設及び文書と共に、此の地下鐵の坑道から爆破してしまふであらう。

## 第十議定

**○政治上の外見**

今日は前に述べた事柄を繰返すことで始めよう。そこで諸君に思ひ起して貰ひたいのは、政府並びに國民は何れも政治上では外見をもつて滿足するものである、といふことである。實際彼等の代表者達は娯樂第一主義であるから、どうして彼等に事物の眞相などを認識することが出來ようか。此の事情を知つておくことは、我々には此上もなく大きな意義がある。國權の分化、言論と出版と信仰との自由、集會の權利、法律上の平等、財産及び住居の不可侵、間接課稅、法律の溯及力等に關する討議に際して、上述の事情の知識は我々に役立つ。之等の問題に關しては、決して人民を相手に公然且つ無遠慮に談じてはいけない。然しどうしても之等の問題に觸れる必要がある場合には、我々の細目に入らないで、たゞ一般的な言葉で近代立法の諸原則を認めればよいのである。かかる控え目な態度の意義は明瞭であらう。即ち、我々が公然と確言しない限り、何れかの點を例外とする可能性が我々に殘されるものであるが、もしも民權を一々數へ上げてしまふやうにでもなれば、それはもう既に認可されたもののやうに見えるからである。

### ○卑劣さに宿る偉大さ

民衆は政治家中の大物に愛と尊敬を持つものであつて、たとへ彼等が暴壓政策を遂行するやうな場合にも、「そいつは卑劣だが、實に巧くやつたものだ。そいつあ詐欺だが、腕前は大したものだ。厚かましさも茲まで來れば凄い」といふやうに批判する。

我々が既に久しい前から心に描いてゐた全く新しい國家の殿堂の建造には凡ゆる國民を贊成せしめることが肝要である。それ故我々は、我々の指導者が前例のない程の勇氣と精神力とを以て目的に邁進する人物であるように配慮しなくてはならぬ。さうすれば我々は、行手には如何なる抵抗があらうとも、それを破つて進むことが出來るであらう。

### ○フリーメーソンの國家革命は何を約束するか

我々が計畫通りに國家革命を遂行し終へた時には、我々は諸國民に向つて言ふであらう。「萬事困つたことになつて來た。諸君は困苦と悲痛の爲に困憊してゐる。そこで我々は、諸君の困苦原因である國民的隔絶、國境、貨幣本位の相違等を取除いて上げる。勿論、諸君が我々を審くのは勝手であるが、然し我々が諸君に與へようとしてゐる物を吟味もしないで審判を下すとすれば、その判決はどうして正當なものであり得ないのではなからうか」と。さうすれば彼等は、狂喜して我々を迎へ、熱狂して我々を胴上げするであらう。我々が支配權を獲得するために使つた投票の形式、また色々な集會を催したり協定を結ばせたりして人類の最下層者にも慣れさせておいた投票の形式なるものが、今やその最後の役目を勤めるであらう。即ち、投票は之を最後として行はれ、我々に判決が下される前に、我々ともつと接近しようといふ希望が滿場一致をもつて決定されるであらう。

### ○普通選擧

以上の目的を達するために我々は、先づ前以て階級及び貧富の區別なき普通選擧制を實施して、社會の有識階級からだけでは決して獲得出來ない多數の獨裁（專制）を創始しなくてはならない。

## ○自　治

かくして我々が萬人を自治思想に慣れさせた後には、我々は非猶太人の家庭の意義とその教育上の價値とを破壞するであらう。我々は傑出した人物が生れ出るのを妨げるであらうし、また我々の指導する大衆は、かかる人物が頭角をあらはすのを許さぬのみか、發言することをも許さないであらう。實際、大衆には我々だけに服從する癖が出來てしまつてゐるのであつて、それは我々が彼等の從順と親切にはたんまり金で酬ひてやるからである。かやうなやり方で我々に、盲目的に服從する勢力を獲得するのであらうが、この勢力は、我々が大衆の指導を委任した我々の代理者連中の意志に反した企畫をする力などは全く具へてゐないであらう。それ故に、人民大衆は、我々の代理者連中の支配に易々諾々として服するであらう。何となれば、あらゆる勞働と給與乃至すべての利得はこの代理者連中の心次第でどうにもなることを大衆は知るやうになるからである。

## ○フリーメーソン結社の天才首領

我々の政治計畫はただ一人の頭腦から生れて來なくてはならぬ。多數の頭腦がそれに協力を欲する時、その計畫は決して確乎とした威力を持ち得ないであらう。それ故に、遂行さるべき計畫の內容を知ることは許されてるにしても、我々は決してその計畫內容を審議してはいけない。然らずんば我々は、計畫全體の比類なき偉大さ、その各部の連關、及び秘密の意味を隱してゐる各細部の作用を傷ける恐れがある。もしもかかる計畫を多數の味方の審議と投票に附するやうなことをすれば、夥しい誤解の痕跡がその計畫に殘ることは避け難いであらう。全體の深い意味と前後の連絡とを究め盡すことが誰にも可能であるとは限らないからである。我々の諸計畫は鞏固にまた目的に叶ふやうに考案されてゐなくてはならぬ。それ故に我々は、我々の指導者の强力な精神から生れた仕事を有象無象に投げ與へたり、また少數の人々の間に於ても詮議立てを許してはいけない。

之等の計畫は現行の諸施設を當分は顚覆させることはなく、單にそれ等の經濟的基礎の變更と、之に關聯して、それ等の發展に關する計畫の變更とだけに止めるであらう。そして之によつて現行諸施設の發展は、結局我々の議定書の計畫通りの方向を辿るであらう。

**○諸國家施設とその任務**

あらゆる國家に於て、種々の異つた名稱の下に殆んど同一の施設がある。即ち、衆議院、各省、樞密院、大審院、立法府、司法府がそれである。今更諸君に之等の施設の相互關係を說明する必要はあるまい。諸君にはその事は充分分てゐるからである。只一つお願ひしたいのは、之等の施設の各々が國家生活に於て何等かの重要な任務を果さねばならぬものであることを確く記憶されることである。そして此の「重要」といふ語を余は官職に關してでなく、任務に關して用ひてゐるのである。從つて官職が重要ではなく、それが果すべき任務が重要なのである。諸官職は國家生活のあらゆる重要部門即ち行政、立法、及びその執行權を分擔してゐる。それ故に諸官職は國家體制に於て、丁度人體に於ける諸器官の如き働きをしてゐる。我々が國家組織の重要なる機關の一つを損傷するとすれば、國家は人體と同じく病氣になつて、死滅してしまふであらう。

**○自由主義の害毒**

我々が國家體制の中に自由主義の毒を注入してからは、國法上の全機關が變化をうけた。今日ではどの國家も死病たる壞血病に罹つてゐる。我々はただ最期の斷末魔の來るのを待てばよいのである。

**○黨爭の訓練所としての憲法。共和制時代。フリーメーソン結社の傀儡たる大統領**

自由主義は非猶太人の目標であつた專制政治を妨げて、立憲政體を立てた。諸君も御承知の通り、憲法とは何れも、憎惡と鬪爭との訓練所であり、國力を殺ぎまた國家生活の個性を奪ふ無益の黨爭の訓練所である。議場の演壇並びに新聞紙は、支配者より行動力と權力とを奪ひ、かくして支配者を無用の長物たらしめた。それ故に既に多くの國々では、支配者は王位より突き落されてしまつた。それ以來、共和制の時代が始まり、我々は傳來の王の代りに藁人形を置き、之を「大統領」と名づけ、人民大衆の中の我々に奴隷的に隷屬してゐる寵兒の間から選んで來たのである。之こそ我々が單に一國に限らず凡ての——余の言ふ所を信じて貰ひ度い——非猶太國民の地下に仕掛けた地

雷火であつた。

## ○大統領の責任

近々我々は、大統領はその行動に對して責任を持たなくてはならぬといふ原則を立てるであらう。その曉には、責任は全部我々の藁人形に轉嫁されることになるので、我々は何の遠慮も無く我々の計畫を遂行することが出來る。また我々に取つては、それによつて權力を求める人間の數が減つて來るのは、却つて好都合である。なほその上に、大統領の地位に適當した人物がなかなか見つからないといふやうなことのあるのも、豫見出來るのである。その結果は動亂が起るより外に道はないが、この動亂は諸國家に最後的な打擊を與へるであらう。

## ○パナマ。代議士と大統領の役目

我々の望み通りの此の結果を得るために、その過去に「パナマ」事件のやうな後暗い點を持つてゐる如き大統領を選擧するやうに我々は配慮するであらう。さうすれば彼等は、我々の指令の忠實な實行者となる。それは彼等が、一方に於ては、彼等をしてその地位を失はしめるやうな曝露を我々がするかも知れないと常に恐れないで居られないからであり、他方に於ては、誰でもさうであるやうに彼等もまた、一度獲得した權力を確保して、大統領に與へられてゐる特權と名譽とを出來るだけ長く享受しようといふ無理もない要求を抱くものだからである。衆議院は大統領を選擧し、擁護し、辯護するであらうが、然し我々は、法律を提案したりまた變改したりする權利を議院から剝奪して、それを寧ろ我々の手中の藁人形たる責任ある大統領の手に委ねるであらう。かくて大統領の權力は、兎に角、無數の攻擊の目標となるであらう。然し我々は大統領に對して、その自衞手段として議院を解散し、人民の再度の決定を改選の形で要求する權利を與へようと思ふが、此の國民たるや、その大多數は盲目的に我々の指圖の儘に動くのである。また我々は、之とは別に、戒嚴令布告の權利を大統領に與へるが、我々はこの權利の根據として次のやうな主張を立てる。即ち、大統領は一國の全國防軍の頭首であるから、何時たりともそれを動かすことが出來なくてはならないが、其の理由は、大統領は國家の責任ある代表者として新憲法を攻擊より保護しまた民主國の新ら

しき自由を防護する義務を有するからであるといふのである。

## ○立法者たるフリーメーソン結社

かかる狀況の下に於ては、聖殿の鍵が我々の手中にあり、我々以外に立法を指揮する者の皆無であることは、直ちに明かであらう。

## ○民主國の新憲法

民主國の新憲法を施行すると共に、我々は、國家機密の保護といふ口實を設けて、政府の國法上の處置に關して質問する權利を議院から奪取するであらう。なほ我々は、新憲法に於ける議員數を最少限度に制限するであらう。これによつて我々は同時に、政治的熱情及び政治生活への衝動を大いに冷却せしめることが出來る。而も豫期に反して此の少數者が反抗心を示す如きことがあれば、我々は國民に呼びかけてその反抗を屈服せしめるであらう。

議院及び元老院の議長並びに副議長の任命は大統領の任務となされるであらう。我々は議院の定時開會を廢止して、その代りに執行權の保持者としての大統領に、議會を召集したり解散したりする權利を與へようと思ふ。大統領は、議會を解散した場合には、新議會の開會を隨意に延期することが出來る。但し大統領が我々の諸計畫の成就以前に、言はば不法なかかる行動のために責任を問はれるやうになることを妨ぐために、我々は、大臣達及び大統領自身の周圍の高級行政官に策を授けて、獨立の處置によつて大統領の訓令を無視せしめ、その代りにまた自分達で責任を負ふやうに導く。茲に特に我々が推奨したいのは、かかる全權を殊に大審院、樞密院、或は閣議に賦與するといふことであつて、個々の人間には與へぬ方がよいと思はれる。

大統領は、諸種に解釋し得る現行法律を解釋する場合には、我々の意味に於て解釋するであらう。また彼は、我々が是非さうして貰ひたいと指示するならば、現行法を廢棄するであらう。加之大統領は短期間の新法律、否、憲法の變更をも提議する權利を有し、而もその理由としては、之等の處置が國家の繁榮のために必要だと言へば、それで充分である。

## ○フリーメーソン結社の獨裁への移行

かうして我々は、我々の支配の初期に當つて我々が民主國國家の憲法中に取り入れねばならなかつたものの凡てを、次第に濟崩し的に壞滅させることが出來る。そして氣の付かぬ間に憲法と名の附くものは最後の痕跡までも影を消し、終には我々が公然と我々の獨裁の名に於てあらゆる政治上の權力を我がものとする日がやつて來るであらう。

**○世界支配者たることの宣布**

我々の世界支配者を認知することは、あらゆる憲法を最後的に排除してしまふ以前に既に行はれることも出來るのである。さうした好機は、永年の動亂に苦しんだ諸國民が我々によつて無力化された彼等の支配者の面前に於て次の如く叫ぶ時に、到來したものと考へられてよいのである。即ち「こんな連中を片附けてしまへ。そして、我々すべてを統一し、かの永遠の鬪爭の原因——國境、宗教、國債——を除去し、我々が我々の支配者達や議會から求めようとして徒勞に終つた所の平和と安息とを遂に齎らすやうな世界獨裁君主を我々に與へよ」といふのがその叫びである。

**○フリーメーソン結社の手に依る疫病の傳播其他の奸計**

諸國民をかやうな絶叫へと誘導するためには永年の撓まざる勞作が必要であることは、諸君自身よく御承知であらう。我々は間斷なくあらゆる國々に於て、人民と國家との相互關係を毒さなくてはならない。また我々は、全人民を嫉視と憎惡、鬪爭と戰爭、或はなほ缺乏、飢餓、疫病の傳播等によつて極度に困憊せしめ、その結果非猶太人をして我々の金力と完全なる支配とに服從する外に何等の逃路もないようにしなくてはならぬ。もし諸國民に一寸でも息をつく暇を與へるならば、この待望の好機は恐らく決してやつて來ないであらう。

## 第十一議定

**○新憲法の原則**

樞密院は支配者の權力に對して緣の下の力持をするのであらう。即ち立法權の目に見える部分としての樞密院は、法律及び

指令の文句を個々の點に至るまで整備するといふ任務を帶びてゐる。かくて新憲法の原則が法律を作るのも法を司るのも共に我々人であるといふ點に成立する。そしてこの點の實行は、第一には立法機關の決議によつて遂行されるが、この立法機關に對しては「提案」の形式で必要な指令は我々の方から與へられるであらう。その實行は、第二には、大統領の一般的訓令、閣議の指令といふ形式を取る元老院及び樞密院の指令によつて達成せられるであらう。そしてそれは、第三には、クーデターに適する時期を巧みに選擇することによつて成されるであらう。

## ○來るべき革命の二三の細目

我々は我々の處置の方法を大まかに述べて來たが、なほ我々は、我々をして完全なる勝利を得しむべき二三の細目に就いて論じておきたいと思ふ。この細目とは、余の考へる所では、言論の自由、集會の權利、良心の自由、普通選擧權、及びなほその他に、クーデターの後直ちに人類の精神的兵器廠から消失するか或ひは根本的に變更されねばならない澤山なものである。クーデターこそは、我々の希望する憲法を一擊の下に招來する唯一の可能性を我々に與へるものである。クーデター後の目に着く程の變更は、非常な危險を孕むものである。もしかかる變更が新しい束縛を生じても、その變更が非常に嚴重に施行されるならば、人間は、なほ之以上にその生活狀態が悪化するのを恐怖して、絶望に陷ることもあり得るであらう。之に反してかの變更が從前の規定の緩和を伴ふとすれば、世人は我々が自分達の不法に氣がついたと言ふであらう。さうすれば、我々の絶對不過誤に對する信賴が永久に失はれてしまふであらうし、また我々が恐ろしくなつたのだと言つて、我々に迎合を強ひるやうになるかも知れぬ。然しさうなつたとて誰も我々に感謝することはないであらう。何故なら、皆の者がその緩和を我々の當然の義務だと思ふやうになるからである。それ故に、新憲法の變改はすべて我々の害となるのである。寧ろ我々は、非猶太人が行はれた許りのクーデターに頭が昏迷しまだ平常力を取戻さぬ間にこの憲法をそれ自身統一のある全體として彼等に强制すべきである。非猶太人に必ず認めさせねばならぬのは、我々が强力で、不死身で、强大であるので、我々は非猶太人なんぞを意に介する必要はないのであるし、また我々が、彼等の願望を無

視する許りか、感情の爆發なぞは何時何處でなされようとも不撓の力をもつてそれを抑壓する心算であるし、またその力もある、といふことである。非猶太人が、我々が全權力を把握してしまつてゐること、また我々がその權力を彼等と共有することをきつぱりと拒絶することを知るやうになれば、彼等は惑愕の餘り眼を閉ぢて、ただ茫然として來るべき事を待つほかに道はないであらう。

## ○非猶太人は去勢山羊なり

非猶太人は去勢山羊の群であり、我々猶太人は狼である。狼が羊の群に侵入する時、その羊の群がどうなるかを諸君は知つて居られるか。彼等は眼を閉ぢて、ぢつと靜かにしてゐるであらう。その理由は、我々は、前以つて平和の敵が悉く掃蕩されまた黨派がすべて倒されてしまつてゐさへすれば、今迄奪つてゐたあらゆる自由の返還を約束するからである。しかし非猶太人が何時まで彼等の權利の再獲得を待つであらうかといふことは、今更改めて諸君に申上げる必要もあるまいと思ふ。

## ○猶太人秘密結社の公然の虛言

我々は虛僞の國家論を考案して、倦まず撓まずそれを非猶太人に吹き込んで、彼等に反省の暇を與へなかつた。かやうな遣り方をした理由は、眞直な路を辿ることは分散した我々の種族の力には荷が勝ち過ぎるので、ただ廻り路をしてのみ我々は目標に到達し得るからである。そしてこの目的のために我々は、猶太的フリーメーソン秘密結社を結成した。誰もこの結社とその目的とを知らないが、一番知らないのは何と言つても非猶太人のうちの次のやうな鈍間であつて、我々が彼等を公然とフリーメーソン結社に參加させてゐるのは、その同胞の眼に砂を入れさせようとしてゐるのである。

神はその選民たる我々に恩寵を垂れ給ふて、我々を全世界に分散せしめ給ふた。わが種族のこの表面的弱點には、我々をして既に世界支配の門口の所まで進めてくれた我々の力のすべてが潜んでゐる。既に土臺は築かれたのであるから、この上は建築を仕上げることだけが問題である。

# 第十二議定

## ○猶太秘密結社の謂ふ自由とは何か

「自由」といふ言葉は幾標にも解釋され得るが、我々の解釋は、「自由とは法律の許す所を行ふ權利なり」といふのである。すると、この概念のかやうな解釋は、自由を完全に我々の掌中に歸せしめる。何故ならば、法律なるものは、我々が上述の方針に從つて希望する所のものを破壞もすれば建設もするものだからである。

## ○來るべき猶太人の世界支配の下に於ける新聞紙

我々は新聞紙は次のやうに取扱ふであらう。即ち、それは現在に於て如何なる役目を勤めてゐるかと言ふに、我々の望み通りに人民の熱情を焚きつけたり、或は利己的な黨派的目的を熾んならしめたりしてゐるのである。新聞紙は空虛で、不公平で、嘘吐きであるが、然し大部分の人間は、それが本來誰の支配下にあるのかを知らない。我々は新聞紙に馬勒を置き、そして手綱をしつかり緊めつけるであらう。我々は新聞以外の印刷物に對しても同じ取扱ひをするであらう。といふ譯は、假令新聞紙の攻擊を抑へても、攻擊文書の類に依つて我々の嘘を叩かれるとすれば、折角の努力は無になるではないか。我々は輿論の指導のために既に多額の金を掛けてゐるが。檢閲制度によつてそれを國家の財源に轉ずるであらう。また我々は新聞印刷税を實施し、新聞及びその他の出版事業の創始に際して保證金を徵集するであらうが、之によつて我々の政府は新聞紙の攻擊を完封することが出來るに違ひない。それでも尙ほ攻擊が起るならば、我々は容赦なく罰金を課するであらう。印紙税、保證金、罰金等の實施は、政府の大財源となるであらう。黨派機關紙は恐らく罰金は恐れないであらうが、攻擊二回に及ぶ時は、我々はそれに發行停止を申渡すであらう。何人も罰せられることなくして我々の主權と不過誤性とに容喙することは許されない。我々は新聞雜誌の禁止の口實としては、それ等が輿論を故なく煽動した、と常に主張するであらう。なほ諸君の注意を乞ひたいのは、我々自身の創設した新聞からも我々に對する攻擊がなされ

るであらうといふことである。然し此等の新聞の攻撃は、我々自身が變更を豫定してゐる點のみに向けられるであらう。

**○新聞、雜誌、書籍の內檢閱制度。情報局。**

如何なる情報も、我々の檢査を經ないでは、公表されないであらう。この事は或程度までは既に現在に於ても成就されてゐるのであつて、全世界からのニュースが少數の情報局に集められ、其處で手を加へられ、それから始めて夫々の編輯部、官衙等々に手交されるのだからである。之等の情報局は次第に悉く我々の掌中に歸して、我々が命ずる所のもののみ公表すべきである。我々は今でも既に非常な程度に非猶太人社會の思想界を支配してしまつてゐるので、殆ど全非猶太人は世界の事件を我々の與へた色眼鏡を通して見るやうになつてゐる。もう今では全世界の如何なる國家でも、非猶太人がお目出度くも國家の秘密と呼んでゐるもののすべてが我々の耳に筒抜けに集まつて來るのを防ぎ得ないのである。如何なる錠前、如何なる門も、我々の侵入を防ぎ得る程に丈夫なものはなく、如何なる秘密室も我々の探索に正體を曝露しないものはない。それ故に、もし我々の世界支配が我々の世界支配者の出現によつて一般に承諾される曉には、事情はどうなるであらうか。

我々はもう一度新聞紙の將來に就いて考へて見ようと思ふ。すべての發行者、印刷者、書籍業者等は、その職業に從事するためには、特別の許可證の下附を受ける必要があるが、我々はこの許可證を、彼等が如何に微細であらうとも我々の指令に違犯する時には、即時取上げるであらう。かやうな遣り方で印刷物といふものは我々の政府の手中にある教育上の手段となり、そして政府は、もはや人民が荒唐無稽な進歩の恩惠を求める空夢に耽けることを許さないであらう。

**○猶太秘密結社の謂ふ「進歩」とは何か。**

諸君は皆御存じであらうが、かかる無意味な夢は、朦朧たる自由主義的言說から生ずるのであるが、この夢のために人間相互及び人間と國家との關係に於けるあらゆる規則とが廢棄されてしまうのである。進歩、正しく言へば進歩の思想は、各種の形式の解放を招致したが、この解放は無軌道に陷つた。所謂進歩主義者は凡て、必ずしも行動上ではないが、少くとも思想的

には革命家である。彼等は皆何等かの自由の幻像を追求し、結局は放肆に墮するに至る、即ち單に否定を好むためにのみ現存の諸制度を原則的に否定するに至るのである。

## ○再度新聞雜誌に就いて

再び新聞紙に就いて述べることにしよう。我々は、新聞及び一般にあらゆる種類の印刷物に對して——保證金の他に——頁數による印紙稅を課するであらう。三十頁以下の書册には二倍の稅を課し、その名を特別の目錄に載せるであらう。この手段だけでも我々は、あらゆる印刷物の中で一番惡い害毒を流す雜誌といふものの數を制限することが出來るであらう。次に著作家達は大部の論文を書くやうに迫られるであらうが、その結果は、値段が高いといふだけでもう少數の讀者しか得られないことになるであらう。所が我々自身が、世人を我々の望み通りの精神的方向に教育しようとして出版するものは、非常に定價が安いので、莫大な賣行を示すに違ひない。稅金が人々の著書欲を抑へる一方では、著作家は罰則によつて我々の權限下におかれる。それにも拘らず彼等のうちに我々に反抗した文書を著はさうとする者があるかも知れないが、然し彼等はその著作を出版してくれる本屋を見出すことが出來ないであらう。何故なら、發行者や印刷者の凡ては、或る著作を受附ける前に我々の任命した官邊の出版許可を得る義務があるからである。かうした遣り方で、我々は、我々に向けられた攻擊を時機を失しないうちに耳にすることが出來るので、攻擊者と同一の事柄に關する書物をこちらの方で先に出版して、それで敵方の攻擊の鋒先を鈍らせてしまふことが出來る。

書籍と新聞とは二つとも最も重要な教育手段に屬する。この理由から我々の政府は、大部分の新聞及び雜誌の所有權を獲得するであらう。そして之によつて政府は、就中民間新聞の有害な影響を排除し、また人民の精神並びに氣分に極めて持續的な影響を及ぼすであらう。我々に遠い新聞或は雜誌の十に對して、我々は、我々自身が創設した三十を以て應對する。然し之は勿論公然と知れ渡つてはいけない。それ故に我々の方の新聞雜誌は外見的には頗る違つた方向に屬するものとし、それによつて事情の分らぬ非猶太人の信用を博し、彼等を一人殘らず陷穽に誘ひ入れて、遂に彼等を無害な存在に變へてしまふべきで

ある。

第一番目には政府系の新聞雜誌を据えられるが、その任務は、我々の利害を隨時隨處に代表することである。所がそのためにこれ等の影響は比較的小さいであらう。

第二番目には半官的な新聞雜誌を据えるが、その使命は、我々に對して無關心且つ冷淡な人々を我々の味方に引き入れることである。

第三番目に我々の据えるのは、表面上の反對黨であつて、それは少くとも一つは、外面的には、我々と極めて判然とした反對の態度を取る機關新聞を持つてゐなくてはならぬ。すると、我々の本當の敵は、この見せかけの反對を眞物と思ひ込み、反對を唱へる連中を同志と見て、自分達の秘密を彼等に示すであらう。

我々は、貴族主義、共和主義、さては無政府主義など、極めて多くの種類の傾向の新聞を援助するが、勿論それは憲法が存立してゐる間だけである。之等の新聞は、印度の偶像神「ヴィシュヌ」のやうに百本の手を持つてゐて、その一本一本が夫々或る精神的傾向の脈搏を感ずるであらう。もしそれ等の脈搏の一つでもが早くなるやうなことがあると、直ちに目に見えない手が動いて、この傾向の信奉者達を我々の目標の方へ引張つて來るであらう。といふのは、興憤のために最早正しく熟考する餘裕もない人間程に動し易いものはないからである。自黨の機關紙の意見を代辯してゐる積りのかの馬鹿者共は實際の所は、我々の考を祖述するか、或は少くとも我々に好都合な見解を口にするであらう。その馬鹿者共は、自黨の方針を遵奉してゐると妄想して、實際には、我々が彼等の前にひらめかせてやつた旗の後に蹤いて行進してゐることに氣がつかない。

我々の新聞軍をこの意味に於て指揮するには、我々はこの事業に特別の愼重さを以て臨まねばならない。我々は「新聞中央聯盟」なる名の下に、大抵は我々の創設した多數の著作家協會を集結するであらうが、之等の協會に於ては我黨の士が秘かに標語の生み出し役を勤めてゐるであらう。また我々の事業の評價に當つては、我々の機關紙は常に表面的たるに止まり決して事の根底に觸れたることはないであらう。また我黨の機關紙は、官報と口先き丈けの論爭を交はすであらうが、それは、官報に於ける最初の告示で通告するのが不適當に見えるやうな細

目の說明を我々に促がさんがためである。勿論この事にしても、我々にとつて有利な場合にのみ行はれるのである。

我々に對する表面だけの攻擊を許容しておくのは、人民をして彼等に完全な言論の自由があることを信じ込ませるといふ副目的をも持つてゐる。そこでもし我々が言論の自由を抑壓したといふ攻擊を本當に敵側の新聞から受けるやうなことになると、我々の腹心の者は仕事が仕易くなる。卽ち我々の腹心の者は、之等の新聞紙主張はナンセンスであつて、その故は、我々と我々の處置とに不利益な事實的根據を持つてゐないからである、と言ふであらう。

實際の事實は世間に知れるものではないから、我々はかやうな處置によつて人民の信用を得るであらう。そしてこの信用の支持を受けながら、我々はあらゆる國法上の問題に於て、その時その時の必要に應じて、輿論を刺激したり、鎭めたり、確信させたり、混亂させたりするであらう。我々は、情報が受け入れられる模樣に應じて、或時は眞實、或時は虛僞、或時は事實、或時は訂正を印刷に附さうと思ふ。足を地につける前にその地を用心深くさぐつて見るといふのが、我々の主義なのである。

出版物に對するこの處置によつて我々は確實に敵に打勝つことが出來るであらう。と言ふのは、敵側にはその意見を充分に述べることの出來る新聞が手に入らないからである。

加之我々は、彼等に最後的な辯駁を加へる勞さへ不要であるかも知れないのである。

第三番に據えておいた諸新聞（表面のみの反對派）に掲載される我々の探索的攻擊記事に對しては、その必要がある時には、御用新聞に於て手ひどく反撥を示すであらう。

## ○現代新聞界に於けるフリーメーソン結社の團結

既に現代では、佛蘭西新聞界に見られるやうに、フリーメーソン結社員の密接な結合が成立してゐる。その標語の頂點をなすのは、新聞業に從事する各員は職業上の秘密を相互に守る義務がある、といふのである。古の豫言者の場合と同じく此の場合にも、一般の決議が公表を許さない限り、各員ともその職業上の秘密を漏洩してはいけないのである。そして如何なる新聞記者も此の規定に背くことを敢てしないのは、過去に何等かの汚點を持つてゐる者のみが此の職に就くことを許されるからで

ある。もし職業上の秘密を一つでも洩らすやうなことがあると、直ぐかの汚點が萬人の前に曝露されるであらう。この汚點が少數の關係者にのみ知られてゐる限り、記者の輝かしい名聲は熱狂して蹤いて來る國人の多數者によつて支持されるのである。

**○地方諸州の要求**

我々は殊に地方諸州の助力を當てにする。我々は、地方人の間に希望と運動とを喚起し、それを何時も首都反對の力として用ひ得んがために、それは地方の獨立に對する希望であり願望であると言ひ觸らす。而もその出所は何時も同じであつて、我々の攪亂工作が即ちそれである。我々が必要なだけの豐富な權力を握る迄は、我々の手代によつて煽動された地方民の輿論によつて首府が强襲されるやうな狀態も屢々必要である。然しやがて決定的な瞬間が到來した時には、實行された事實が地方の多數人によつて是認されたものであるといふだけで、首府側ではその事實に對しとや角と文句を言つてはいけないのである。

**○新治世の不過誤性**

我々の主權時代の前に來る新治世の時代に於ては、新聞紙が公務上の破廉恥事件に嘲罵を加へる如きことを我々は防止しなくてはならない。むしろ新治世が、新たな犯罪の起るやうな機會を消滅させてしまつたほどに萬民を信服させてゐる、といふやうな信仰を世人に抱かしめなくてはならぬ。もし犯罪が生れて來ても、それはその犧牲になつた者とその偶然の目擊者との他には、誰にも知らせてはいけない。

## 第十三議定

**○日々の麵麭の心配**

日々の麵麭の心配が非猶太人をして默々として我々の從順なる下僕たらしめる。我々は彼等の中から、我々の新聞紙に使ふのに適當の者を探し出して來る。そして彼等の任務は、我々が官報に直接掲載出來ないやうな事項のすべても我々の指令通りに論ずるにある。爭論が惹起されさへすれば、我々は我々の處

置を悠々と遂行して、それを人民に既定の事實として押しつけることが出來る。所がその處置は從來の狀態の改良であると稱せられるので、誰もそれの廢棄又は改變を要求する勇氣はない。その時新聞紙は輿論を速に新しい種々の問題の方に向けるであらう。實際我々猶太人は人間共に敎を垂れて、永遠に新奇を求めて遂にはくたばつてしまふやうにと言つておいたではないか。

## ○國法の問題

人民の運命の愚鈍な指導者達は、之等の新問題の討議に懸命になるであらう。しかし彼等は、彼等自身が決定しようとしてゐる事が何であるかを少しも知つてゐないのに氣がつかない。一たい政治上の問題は、既に數世紀以來それを動かしたり監視したりして來た者のみに理解が可能なのである。

以上すべての說明で諸君もお分りであると思ふが、我々が人民の信賴を得やうとするのは、ただ我々の國家機關の運行を一層容易ならしめるために過ぎない。また諸君は必らず見逃されてはゐないと思ふが、我々が輿論の贊成を求めるのは、單に言葉が問題になつてゐる時か、或は我々自身が世の中に提供しておいた事柄が問題になる場合のみである。所で實際には、我々は我々の欲する通りに行動するのである。然し勿論外に向つて吹聽する時には、我々があらゆる處置に際して力の及ぶ限り一般の幸福に役立ちたいといふ希望と確信に則つてゐると常に言ふのである。

## ○經濟問題

政治に餘りに熱心な人士を政治上の問題の討議から遠ざけるために、我々はいはば政治上の新しい問題、即ち工業問題を前景へ押し出す。上記の人士は好きなだけこの仕事の範圍に暴れるがよからう。しかし大衆の方は、行動から離れ、また「政治的」活動（我々が前に彼等を敎育して此の活動に入らしめたのは、彼等の助力によつて非猶太人の政府に打克たうとしたからであつたのだが）からも手を引くことに贊同してゐるのであるが、その際の只一つの條件は新らしい仕事を得たいといふことであつて、我々としては此の仕事のうちに於ていはば半政治的な方向を彼等に指し示すのである。

**○娯樂と公衆歡樂場**

大衆が自然に事物の眞相を看破しないやうに、我々はなほ各種の娯樂、遊戯、道樂、歡樂場で大衆の注意を他に外らすやうにする。嘗て我が新聞紙には、諸般の技藝、運動、競技等の領野に於ける懸賞が現はれるであらう。かくの如く多數の娯樂があるので、大衆の頭はすつかりその方へ外れて行き、さうでない場合には我々が彼等とその實現に關して激しく爭はねばならないやうな問題の方はすつかり忘れられてしまふであらう。かく人間が漸次獨立の思索をする能力を失つて來ると、彼等はもう何もかもを我々の口眞似をして言ふやうになるであらう。さうなつた時に於てのみ我々は新傾向の思想を生み出すが、之は勿論、我々と關係してゐるといふ嫌疑など受けてゐない人々の手によつて行はれるであらう。

**○眞理は一つのみ**

我が統治權が認められると直ぐに、自由主義的空想家の役目は最後的に終を告げるであらうが、しかしそれ迄は彼等は我々に大いに役立つであらう。夫故我々は爾後も大衆の思想を導いて、表面的には進歩的とも見えるやうな各種の新らしい空想論に向はしめる。實際我々は之迄も進歩といふ言葉を使つて、巧みに非猶太人の空疎な頭腦を狂はして來たではないか。彼等の中には一人として、經濟上の發見に關して言はれる時以外には何時でも此の進歩といふ言葉は眞理を蔽ふものだといふ事を理解するだけの頭を持つてゐない。何故なら、眞理は只一つあるのみで、之には進歩の餘地などはない。あらゆる他の誤れる思想と同じ樣に進歩といふ言葉もまた眞理を蔽ふものであつて、それは眞理が、神の選民であり眞理の守護者である我々以外の者の手によつて認められることがないやうに定められてあるからである。

**○人類の大問題**

我々がすつかり權力を握つてしまふと、我々の辯舌家は、世界中を擾亂して結局それを我々の慈悲ある政府に引き渡してくれた人類的大問題の說明をするであらう。しかし之等の問題がすべて我々の手で、數世紀後にもなほ一人の非猶太人さへ感づ

かなかつた政治的計畫に從つて仕組まれたのである、といふやうな疑惑を誰が抱くであらうか。

## 第十四議定

### ○未來の信仰

我々が世界支配を達成した曉には、我々は我々の一神教以外には如何なる信仰をも許さないであらう。それは我々が、此の唯一神に結びついてその選民となつてゐるからであるし、またその神の手によつて我々の運命が全世界の運命と織り合はされてゐるからでもある。この理由からして我々は、他の信仰は凡て之を破壞してしまふ。之がために無神論者の數が一時的に增すことがあるかも知れないが、それは我々の意圖を妨げることはない許りか、むしろ我々のモーゼの宗教に耳を傾けようとする人々には良き見せしめとなるであらう。そしてこのモーゼ教は深慮ある强力な構造を持つてゐるので、恐らくあらゆる國民を我々の主權の下に服せしめるに至るであらう。また我々の成功も此の宗教の神秘力のおかげと言へるであらうし、また人類に及ぶあらゆる教育上の力はまたそれから發するとも言へるであらう。

### ○未來の奴隷制

我々は機會ある毎に論文を發表して、その中で我々は我々の主權の恩惠と過去の困難との比較を行ふであらう。平和から得られる恩惠といふものは、假令それが數世紀間の動亂によつて獲得されたものであるにしても、なほ我々の立法が祝福された精神を持つてゐることの證明になるであらう。同時に我々は非猶太人政府の缺點を出來るだけ强く描き出し、かかる政府に對する强烈な嫌惡の念を起させるので、人民達は、名前だけは立派な自由を與へられる代りに限りなく苦しめられて、自分達のやつてゐる事の罪の深さも知らずに搾取する山師共のために人生の源泉までもを乾上らされてしまふよりは、むしろ平和と秩序を與へてくれる奴隷制の方が千倍も好ましいといふことになる。我々が非猶太人の國家生活を根本から覆へすためにやらした出鱈目の革命は、その時に至るまで人民達には非常に不愉快

に思へるので、たとへ我々の手で如何なる奴隷的な待遇を受けようとも、この上二度とは戰爭と暴動の慘虐さには陷りたくはないと考へる。そこで我々猶太人は、殊に非猶太人政府の歷史的缺點を强調して、何が人間に適しまた何がその眞の幸福に役立つかに關する彼等の全くの無智のために彼等が數百年もの間人民達を苦しめて來たことを指摘するであらう。即ち、彼等は平等を目標とする社會正義に基く各種の大膽な計畫を追求したが、各社會層の相互關係はそれによつて善くなる所か反つて惡くなつたことを全く見逃したのであつた。所が、我々の主義と處置とは、頽廢した舊社會秩序に對する激しい對照として提示されるので、一層その力を發揮するであらう。

**○未來の信仰の秘密**

我々の思想家は非猶太人の信仰のあらゆる缺點乃至缺陷を發き出すであらうが、然し何人も我々の宗教をその眞相を摑んで批判することは出來ない。それは何人も我々の宗教を充分よく知つてゐないからである。之に反して我々の宗教の奧底にまで徹してゐる我々の仲間は、その秘密を曝露することを極度に警戒するであらう。

**○風俗壞亂文學と未來の著作界**

「進步した」と稱する國々に我々は、無味な、卑猥な、唾棄すべき文學を創始しておいたが、我々はこの傾向を世界支配達成後も尙ほ暫らくは放置しておくであらう。さうすれば我々の崇高な政治上の政策や言論は對照的に目立つて來るであらう。非猶太人の指導のために我々の手で教育しておいた我々の賢人達は言論と宣傳册子とを準備しておいて、それによつて人々の頭を我々が彼等のために用意しておいた學問と思想との方へ誘導して行く。

## 第十五議定

**○全世界の同時的革命**

我々が世界各國に同一日に勃發するやうに準備した革命が目的を達して、在來の政府の全然の無力さが一般に認識される迄

には、なほ多くの時日が、事に依れば丸一世紀の時日がかかるであらう。然し我々が終に主權を確立した曉には、我々に對しては決して謀叛の起り得ないやうな處置が出來るであらう。

## ○刑　罰

武器を手にして我々に反抗して來る者に對しては、我々は容赦なく死刑を加へる。何等かの新らしい秘密結社を創設するものには、同じく死刑を課す。現存する全秘密結社は我々によく知られてゐるし、之迄も現在我々の役に立つてゐるが、然し之等も全部解散させてしまふであらう。その會員は、歐洲からずつと離れてゐる大陸に追放さるべきである。

## ○非猶太系フリーメーソン結社員の運命

かくて何よりも先づ我々は、我々の結社の秘密に深く入り込んでゐる非猶太系フリーメーソン結社員に對しては同じ處置をする。何等かの理由で我々の恩赦を受ける者も、常に國外追放を恐れながら暮さなければならぬ。我々は、嘗て秘密結社の一員たりし者はすべて之を歐洲——我が政府の主要所在地——から追放するといふ法律を發布するであらう。我々の政府の決定はすべて終局的のものであつて、決して控訴を許すことはしないであらう。

## ○權力の深秘性

我々が不和と矛盾とを育てあげておいた非猶太人社會は、峻嚴な處置によつてのみ再び平和と秩序とに復歸させられ得るであらう。鐵拳を以て事に當りさへすれば政府は必ずその意志を遂行し得るものだといふことは、何等疑ひのないことである。未來の禍祉のためには、いくら犧牲を拂つても、そんな事は問題ではない。一般の禍祉を確保するためには、必要とあらば犧牲をも恐れないといふことは、むしろ政府たるものの避けられぬ義務であり責任である。その故は、政府の存在理由は、特權にあるのではなくて、義務に存するからである。政府なるものは、完全に確立された威力の後光で身を固めることが出來る程度が高いのに應じて、それだけその基礎は堅いのである。然るに莊嚴且つ確固不動の權力の自覺が最高度に獲得され得るのは、その自覺の本源が、例へば神の選民といふ場合の如くに、

神秘力の加護から發してゐる場合のみである。羅馬法王廳を除いては地上に於ける我々の唯一の大敵たる露帝の專制政治は、最近に至るまで、かやうな威力の自覺を有してゐた。諸君、かのスラの例を想起して見給へ。彼は恐るべき殺人罪を犯したにも拘らず、血を浴びた當の伊太利は彼に指一本觸れることはしなかつたのである。スラは、最もひどく彼の手で苦しめられた國民そのものによつて神として崇められたが、それは彼が比類なき完全な權力を樹立し得たがためである。彼の伊太利歸還は、彼を不可侵のものとした。勇氣と精神力とをもつて人民を威壓し得る者には、人民は決して刄向ふやうなことはしない。

## ○フリーメーソン結社の擴大

我々が未だ主權を握らないうちは、當座の處置としては、上述の原則とは逆に、全世界にフリーメーソン結社を能ふ限り擴大しなければならない。そしてその結社には、世間で主要な役目を演じ或ひは少くとも演じ得べき人物を凡て加入させるやうにし、それによつて結社の勢力を擴張するであらう。何故なら、その結社は主要情報局である上に、また大きな感化機關でもあるから。

## ○猶太賢人の最高司令部

全結社は、我々のみには解つてゐるが他の何人にも秘してある最高司令部、即ち我が賢人達の最高司令部の許に統轄される。各結社は、最高司令部の密令を身をもつて庇ふことの出來る代表者を戴くであらう。之等の結社には、あらゆる革命的並びに自由主義的運動の糸が集つて來るであらう。結社員は諸方面の社會階級に屬するであらう。それ故に政治上の如何なる秘密計畫も、その生れた當日に我々の耳に入り、直ちに我々の司令下に入るであらう。

## ○警　察　網

世界中の殆んどすべての警察探偵を結社に入れるであらうが、それは、彼等の活動は我々にとつて不可缺のものであるからである。警察は、我々に服從することを欲しない者をしばしば勝手に處罰することが出來る許りでなく、我々の行動の跡を抹消したり、不平の口實を作る等のことが出來るのである。

## ○あらゆる秘密結社の指揮官たるフリーメーソン結社

秘密結社に特に喜んで入る者は、冒險家、山師、野心家、及び一般に生來輕兆浮薄な連中である。之等の者を我々の仲間に引入れ、我々の目的に使ふのは、さほど困難ではない。世界が暴動に惱まされるやうなことがあれば、それは、非猶太人諸國家の非常に堅固な組織を破壞するために我々がどうしてもこの動亂を起さずに居られなかつた事を意味する。何處かに謀叛が起ることがあれば、その先頭には必ずや我々の忠實な下僕の一人が立つてゐるのである。フリーメーソン結社の活動を指導してゐるのは我々猶太人のみであつて、他の誰でもないことは自明のことである。その結社が何の目的に向つて進んでゐるかを知つてゐるのは我々だけであるし、凡ての行動の終局目的を知つてゐるのも我々だけである。之に反して非猶太人はかやうな事柄のことは何も知らない許りか、直接に直ぐ傍にあるものさへも見えないで、或る計畫の實行に當つて自己の我欲を一時的に滿足させることで甘んじてゐるのが普通である。彼等はどんな効果があるかなどといふ事には頓着しない。また彼等は、行動思想が彼等自身の發意ではなく、我々によつて吹込まれたものであることにも氣がつかない。

## ○世間的成功の意義

非猶太人が結社に入るのは、大抵は好奇心からである。また多くの人間は、この結社の力で有力な地位を得ようとする。また或者は、大きな聽衆の前で實現不可能な出鱈目の夢想を發表して見度いといふ願望に驅られて黨員に加はつて來る。彼等は喝采と拍手に餓えてゐるのである。無論我々は喝采と拍手とを惜しむことはしない。また我々は喜んで彼等にさうした成功を克ち得させてやるが、それは、その成功から生れて來る自惚を我々の目的に利用するために外ならない。するとこの連中は、お目出度くも何等の吟味なしに我々の耳語することを受け入れ、加ふるになほ、自分自身でその指導的な思想を生み出したのであるとさへ確信することもある。如何に賢明な非猶太人でも、自惚に陷つたが最後、自由自在に操られるやうになるといふことを、彼等は全く考へることが出來ない。また彼等は子供のやうな單純さを持つてゐるので、ほんの一寸した失敗、例へ

ば拍手を受けなかつたといふやうな事にも非常に心痛するので、彼等に新しい成功を約束して呉れさへすれば何人に對しても奴隷のやうな服從を誓ふのである。我々猶太人は、外面的な成功などは輕蔑して、我々の計畫の遂行のためにあらゆる苦心努力を拂ふのであるが、それに反して非猶太人は、極く小さい外面的成功でも得ることが出來るならば、あらゆる計畫を犧牲にしても構はないのである。非猶太人のかやうな性情は、彼等を我々の目的通りに動かすといふ任務を頗る容易にする。彼等は形は虎であるが、心は羊のやうに柔和であつて、その頭の中は全く空虛である。我々は彼等をたらし込んで、個々の個人は全體といふ概念の中に沒しなくてはならないといふこと、即ち共產主義になつてしまはなくてはならないことを敎へた。

## ○共產主義

非猶太人には、かやうな一切平等の夢が自然の至上法則に背くものであることを認める能力が明らかに缺けてゐる。實際、自然は、創世の時以來、種々の異種の物を生み出してゐるし、個性といふものに重要な役目を持たせてゐるのである。非猶太人をかくまでに眩惑することに我々が成功するとすれば、それは、彼等の知力が到底我々の知力の敵ではないといふことの驚くべく明白な證據である。之は我々の成功に對する最上の保證である。

## ○犧牲

重大な目的の達成は、手段を選ばずまた血を流させた犧牲の數に拘泥しない時にのみ可能であると我々の古聖賢の言つたのは誠に炯眼である。我々は非猶太人といふ畜類を犧牲にすることには少しも拘泥しなかつたが、また我々の同族からも多く犧牲を出さずにはすまなかつた。その代りに我々は同族の者に對して、彼等が如何に大膽な空想の中に於ても到底期待することの出來なかつた程のこの世での地位を今既に與へたのである。數多き同族の中の比較的少い犧牲で以て、我々は我が民族を滅亡から救つたのである。

## ○フリーメーソン結社員の處刑

死はあらゆる人間の不可避の終末である。それ故に、この終

末が我々事業の創始者の上にもやつて來るのを待つよりはむしろ、我々の事業に害を加へる人々にこの終末の來るのを早める方がいいのである。我々がフリーメーソン結社内で死刑を行ふ方法は、結社員以外には誰も、死者自身達すら、嫌疑を起さないやうに仕組まれてゐる。即ち犧牲に供せられる連中は、その必要が起り次第亡き者にされるのであるが、外見は自然死と見えるやうに處置されるのである。然し結社員には眞相が解つてゐるので、何か抗議を申出るやうな者は一人もゐない。我々はかやうな嚴罰によつて、結社内部に於ける我々の指命に對するあらゆる反抗を萠芽の中に窒息させてしまつた。我々は非猶太人には自由主義を鼓吹するが、同時に同族と腹心の者達に對しては嚴重な服從を強ひるのである。

## ○非猶太人の法律と權力とは威信を失ふ

我々は非猶太人の法律の施行を最小限度に局限することが出來た。我々の自由主義的な法律解釋に依つて彼等の法律は威信を失墜した。最も重要な國法上の問題及び其他の根本的意義のある係爭問題に於ては、裁判所はその判決を我々の指定通りに下す。また裁判所の物の見方は、我々が非猶太人行政官廳に敎へ込んでゐるのと同一の方向を取つてゐる。勿論我々は、行政官廳を導くに當つては、何等の絲故も持つてゐないやうに見える中間人物とか、新聞の言說とか、其他各種の手段を取るのである。元老院の議員や高等の行政官連中でさへも、盲目的に我々の獻策に從ふ。非猶太人の動物的頭腦には、概念を分析したり、一般に物を觀察する能力が缺けてゐる。その事に應じて彼等はある決議には如何に廣汎な推論が結び附き得るかといふことを豫見し得ないのである。

## ○神の選民

猶太人と非猶太人との精神的天禀上の大差が明示する所は何かといへば、我々猶太人は神に選ばれた民族であり、眞の人間である、といふことである。我々の額からは高い精神力が光を放つてゐるが、非猶太人は單に衝動的動物的智力を有するに過ぎない。彼等にも物は見えるが、豫見する力はない。彼等には、純粹に物的な事物以外には何も發明する能力がない。この事から明らかに觀取されるのは、我々による全世界の支配を自然自

身が豫定したのであるといふふとである。

**○未來國の法律は簡單明瞭である**

我々が公然と世界支配權を握る時が來た曉には、我々は我々の政府の恩惠を證示するために、法律を全的に改造するであらう。我々の法律は簡單明瞭にして不可變であらう。また我々は一切の解釋を許容しないから、何人もその法律を正確に記憶することが出來るであらう。

**○當局に對する服從**

我々の法律の最も著しい特長は當局に對する絶對服從の要求であつて、之を我々は最高度に高めるであらう。之に依つて各人が最高の國家權力に對して責任を負ふことになるので、あらゆる權力の濫用は無くなるであらう。

**○職權の濫用に對する處置**

中級及び下級の官吏による職權の濫用は極めて峻嚴な處罰を受けるので、何人も自己の職權を踏越えようといふ氣を起さなくなるであらう。國家機關の調整された運行を維持すべき行政官吏連中の活動を我々は最大の注意をもつて監視するであらう。もし此の方面に無規律がはびこるやうな事があると、それは直ちに世間一般の現象となるであらう。それ故に我々は、法律違犯及び職權の濫用のあらゆる場合に徹底的な峻嚴さをもつて處罰を加へねばならない。

**○刑罰の酷烈**

違犯者の苛酷な處罰の例さへあれば、行政官吏が職權濫用を隱蔽したり相互に寛容したりする現象は凡て直ちに無くなつてしまふであらう。我々の權力の威信を保つには、個人的利益を動機とするものは極微の職權濫用に對しても、目的に叶ふやうな處罰、即ち最も苛酷な處罰を必要とするのである。個人個人として見れば、恐らく相當以上に酷い處罰を受ける事もあらうが、しかし彼は兵士にも比せらるべきであつて、國家行政といふ戰場に於て法と權力とのために名譽の戰死を遂げたわけである。何故なら、法律と主權とは、國家といふ車の馭者である官吏達が一寸でも公安の正道から外れて私利の横道に入ることを

許すことが出來ないからである。一例をあげれば、我々の裁判官はもしその判決に於て餘りの寛大さを示すならば、それが國法の最高原則を毀損することになるのを知るに至るであらう。裁判は、如何なる犯罪に對しても見せしめのために必要な刑罰を課することによつて、人間に對して常に正道を辿るやうに教へなくてはならぬ。裁判は、裁判官のやさしい心情を示すために存在してゐるのではない。かやうな性質は家庭生活に於ては相應しいかも知れないが、公務執行の際に出て來てはならないものであつて、さうでないと公生活の教育力は全然失はれてしまふからである。

## ○裁判官の停年制

我々の裁判官は五十五歳迄は職に留まるが、その後は隱退させられることになるであらう。その理由は二つあるのであつて、第一には、老人は若年者に比して、先入觀念を固持することではより頑强であり、新しい指命に順應する能力の點ではより劣るからである。第二には、我々はかかる處置によつて、地位を頻繁に更迭して裁判官を一層多く我々に服從させることが出來るやうになるからである。卽ち、地位を保たうとする者は、我々に盲從せねばならないのである。

## ○裁判官及び其他の高官の自由主義

我々が一般に認容する裁判官とは、自分の任務が法律を適用しまた處罰を加へることであつて、國權の教育力を犧牲にして迄も自分達の自由主義を適用——非猶太人裁判官の多くは現在これを行つてゐる——することではないことを充分に知つてゐる者に限る。官吏の頻繁な更迭は、我々に取つては、官吏團の團結を打破るといふ利益を有する。將來の官吏は、その運命が全く國家主權に依存することになるので、一定階級の代表者といふ感じよりも國家の代表者といふ感じの方をより多く持つに至るであらう。次代を双肩に擔ふ若い裁判官達は我々の教育を受けて、我々の臣下相互間の堅固なる依存關係を破るやうな職權の濫用は決して寛大に取扱はれてはならないといふ意見を抱くであらう。

現代の非猶太人裁判官は、その義務に關して正しい觀念を有してゐないから、多くの犯罪者に對して餘りに寛大な判決を下

す。現今の主權者は裁判官の任命に當つて、彼等に義務及び責任の感情を叩き込み、また彼等が實際に果すべき使命を充分によく認識させる勞を取ることをしない。獸類がその仔を餌食探しに出すやうに、非猶太人もまた自分の味方の者に有利な地位を與へるが、一體何のためにこの地位が作られてあるのかを敎へてやることはしない。それ故に非猶太人政府の地位は、使つてゐる官吏連の活動によつて覆へされるのである。我々はかゝる態度の結果を我々自身の政府にとつての好い警めとしてよく覺えておくことにしよう。

我々は、原則として、あらゆる重要な行政上の地位から自由主義を驅逐するが、その故は、この地位にある者は大衆を敎育して、我々及び社會秩序に對し服從させるべきであるからである。我々はかかる地位には、我々自身の手で高級行政官向きに養成しておいた最も信賴すべき味方のみを任命するであらう。

## ○世界の金力

老官吏を退官させるのは國家に餘りに多額の出費を負擔させるであらうといふ抗議も兎に角出て來るであらうが、それに對して余は二つの返答を與へる。第一には、官職を失つた代りに當座の間公職でない仕事を見つけてやるやうにすべきであらう。第二には、我々は世界の全金力を支配するであらうから、我々の主目的に我々を近づかしめるやうな重要處置の遂行のためになら、我々の政府はどんな出費をも恐れる要はないのである。

## ○猶太人結社の專制權

我々は絕對的專制權を行使するに至るであらうが、その權力のあらゆる發動の形式のうちには、常に嚴重な首尾一貫性が認められねばならない。それ故に我々の斷然たる意志は、あらゆる個々の場合にも重んぜられ、有無を言はさず遂行せられるであらう。どんな不平や不滿があつても我々は平氣で無視して行くが、然し一たび行動を以て我々に反抗する者がある時には、嚴罰を以て臨むべきである。

## ○控訴權

苟も我々が任命した裁判官が誤つた判決又は不正な判決を下

すことがあり得るといふ意見が人民の間に生れて來てはいけないから、我々は控訴權を廢止して、かかる權利を專ら我々の支配者のために留保しておくであらう。然し萬一にもかゝる判決が下されるやうなことがある時には、我々自身その判決を取消し、同時にその裁判官を職務上違犯の科で嚴罰に處するので、さうした事は二度と繰返されることはないであらう。余は繰返して言ふが、人民が我々の行政に滿足するやうに、我々は我々の官吏の一擧手一投足を監視するであらう。人民達は、結局、善き政府からは善き役人をも要求する權利を持つてゐるからである。

**○我が世界支配政府の家長的外見**

我々の未來の世界支配者の出現によつて、我々の政府は外觀的には、臣下の禍福に對して家長的な關心を持つやうに見える。我が國民と臣下達はこの支配者を見ること恰も父の如くにして、彼こそはあらゆる事に心を勞し、凡てに通曉し、あらゆる窮狀を打開せんとし、臣下相互の關係及び臣下と最高支配者たる彼自身との關係を慈愛に滿ちた關心を以て見守つて呉れる者であると考へるであらう。

**○世界支配者の神化**

かくて人民達は、彼等が安心と平和の生活を欲する限り、この支配者の父の如き庇護と世話とをうけないではやつて行けないことを痛感するに至るであらう。また彼等は我が專制君主の絶對的權力を認め殆んど神化にも等しい尊敬の念を以て彼を仰ぎ見るであらう。殊に我々の官吏連がその權力を濫用すること出來ず、只かの支配者の命令に盲從せざるを得ないのに氣づくときには、人民達は尙更尊敬の念を增すであらう。彼等は我々が、子供達に義務と服從とを敎へる賢明な兩親達のやうに、彼等の生活を調整しておいたのを喜ぶであらう。實際、諸國民とその政府とは、我々の政治の秘密に對しては、永遠に未成年者の如く無知なままである。

**○强者の權利は唯一の權利**

諸君も御覽の通り、余は我々の專制の基礎を權利と義務との上におくのである。義務の遂行を强要するこの權利は、父が子に對して持つ地位をその人民に對して持つところの政府に取つ

ては、一つの主要任務である。此の政府は强者の權利を賦與されたが、それはこの政府が自分自身の爲めに人類を導いて、自然の要求する相互的服從の狀態に入らしめるためである。世界にあるものは凡て何物かに依存してゐる。卽ち人間に依存するのではないとしても、或は環境、或は衝動に依存するのであるし、何れにしても强者には必ず依存せざるを得ないのである。それ故に我々は、全體の幸福のために强者たらんことを欲するのである。

確立され世界秩序を破壞するやうな個々人を容赦なく犧牲に供することは、我々の義務である。惡に對して模範的に罰を加へることは、我々が必らず果さねばならぬ教育上の大任務である。

**○世界の族長としてのユダヤ王**

猶太王がその神聖なる頭に歐洲が彼に捧げる王冠を戴くとき、彼は全世界の族長、家長となるであらう。この事は勿論犧牲を要するが、然しその數は、非猶太人政府間に行はれた誇大狂と競爭とが數世紀間に人間に課した血腥い犧牲に比しては、物の數ではない。

我々の王は絕えず人民と接觸するであらう。彼は人民の前に現はれて、人民に向つて演說をするであらうが、その演說の名聲は、電光の如き速さで口から口に傳はり、全世界に擴がるであらう。

## 第十六議定

**○大學の無害化**

我々は我々の力以外の力の集合するのを防がうと思ふので、かやうな集合の第一段階たる大學を、それに新しい綱領を與へることによつて廢止しなくてはならぬ。大學の監理當局と教授連とは詳細な秘密計畫に從つてその活動の準備教育を施され、この計畫に違反する時は必ず處罰されることにしておく。また我々は、大學教授の任命には大いに注意を拂つて、彼等を完全に政府の支配下に置くであらう。

國法及び一般に國法上の問題に關する事は凡て之を教授要目

から除外する。之等の學科目は特に內情に通じた者の中から選んだ少數の優秀な人物の前でのみ講ぜられなくてはならぬ。悲劇や喜劇でも書く積りで憲法問題を揑ねたり、その祖先の人々さへも少しも解しなかつた政治問題を研究するやうな青二才が大學の門から出ぬやうにしなくてはならぬ。

大聽衆が政治上の問題を淺薄に研究するならば、その結果は夢想家や不良な臣下が生れて來るだけである。最惡の結果は、この方向に教育された非猶太人の場合に見られる。我々はこの革命の芽を彼等の教育に持込まなくてはならなかつたが、それに依つて燦然たる成功を收めたのである。然し我々が支配權を握れば、我々は教授要目から、破壞的な作用を及ぼし得る總てのものを除去するであらう。また我々は青年を教育して當局に對する柔順な子供に仕上げ、爲政者を平和と安全との保證及び希望なりとして愛せしめる。

## ○人本主義的教養の廢止

我々は人本主義と、善例よりも惡例を教へる古代歷史の習得とを廢して、その代りに、未來の諸方針の研究を第一とするであらう。また我々は人類の記憶から我々に都合の惡い歷史のあらゆる事實を抹殺して、非猶太人政府の缺點を特に目出たすやうな事實のみを殘しておくであらう。日常生活、社會的秩序、諸國民相互の關係等の問題、數多の惡の禍根である惡利己主義の撲滅、及び類似の教育問題が、我々の教育計畫の先頭に置かれるであらう。但し教授といふものは如何なる場にも一般化さるべきものではないから、この計畫も各職業によつて夫々異るであらう。教育制度をかく統制することは、特に重要事である。

## ○教育問題と階級問題

各階級はその價値と職業に相應して、嚴重な纏りのある教育及び陶冶を受けねばならぬ。特別の天才は高い身分や職業に昇ることが出來たし、また將來もさう出來るであらうが、かやうな少數の例外があるのを見て、高等な職業を劣等な才能の人間で氾濫させ、血統と教養の點から見て當然それを得る權利のある人の椅子を奪ふのは、馬鹿げたことである。かうした馬鹿なやり方が非猶太人に如何なる惡結果を齎したかは、諸君自身御承知であらう。

**○我々の世界支配者のためにする學校の宣傳行爲**

世界支配者がその臣下の心を摑むやうにと、我々は彼の活動してゐる間中、學校や人前で彼の意義とか事業とか、或はその仁慈とかを觸れ廻らねばならない。

**○教授の自由を撤廢す**

我々は教授の自由をすつかり撤廢する。生徒達はその親近者と共に學校及び倶樂部に集まる權利を有すべきである。便宜上祭日に催されるこの集會に於ては、教師達は恰も自由講義といふやうな體裁で、類例の繼起に關する法則とか、無意識の諸關係から生ずる混亂とか、最後には、世界に未だ發表されたことのない新學說の哲理とかに就いて講義をするであらう。

**○新學說**

講義は漸次にその本來の對象である所の、人類に未だ知られてゐない新時代の偉大な學說に移つて行くであらう。そして之等の學說を信仰個條にまで高め、それを我々の宗教に移る過渡的段階として利用するであらう。現在及び未來に對する我々の綱領の詳述が終結した後に、余はこの信條の根據を諸君にお話しするであらう。

**○見解の獨立性**

數百年間の經驗が我々に教へた所に依れば、人間の行動といふものは、教育によつて彼等に傳へられた或種の主義又は思想によつて指導されるといふことである。更にまた我々は、夫々の年輩に相應した操作さへ用ひれば、どんな年輩にもこの教育を延長し得るといふことを識つた。この豐富な經驗に基いて行爲する時、我々は、既に多年の間輿論を我々に必要な方向に教育して來た後であるから、獨立の見解なんぞはその最後の閃きに至るまで窒息させてしまふことに必ず成功するであらう。

**○實物教育**

思索力の奴隷化といふことは、既に所謂實物教育に於て實行に移されてゐる。實物教育の主な使命は、非猶太人を思索力の無い柔順な獸と化し、繪に書いて見せなくては物を理解するこ

との出來ないやうにすることである。佛蘭西では我が最良の腹心の一人である文相ブルジョアが既に斷然とこの實物教育に贊意を表し、それに基づいて全く新らしい教授要目を建てやうとしてゐる。

## 第十七議定

### ○辯護士

辯護士業は、冷淡で、殘忍で、頑固で、何の主義も持たない人間を造る。彼等はあらゆる問題に於て、單に事務的な、非人格的な立場を採る。また彼等は、その辯護が世の中の福祉に對してどんな影響を及ぼすかは考へず、あらゆる事を辯護に有利であるか否かを目安にして判斷することを學んだ。彼等は如何なる依頼をも拒絶せず、如何なる無理をしても無罪放免を目ざし、法律學の些細な隙に言ひ懸りをつける。かくして彼等は法廷の威信を葬つてしまふ。我々は辯護士の活動に最も嚴重な制限を設け、彼等を單に國家の執行官吏たらしめようと思つてゐる。我々は辯護士を裁判官と同じく、地位のものたらしめ、それによつて彼等をして黨派と接觸する權利を失はしめるであらう。彼等は裁判所のみより辯護の依頼を受け、その依頼を文書や調書に依つて審査し、最後に、法廷の訊問で確定された結果に從つて辯護依頼人を辯護しなくてはならぬ。辯護士はその辯護の結果の如何に拘らず報酬を受ける。かくて彼等は單に裁判の法律上の代表者として活動し、原告側を代表する檢事の對抗者の役を勤める。かくの如くにして裁判手續は短縮され、儲け主義ではなく確信に基いた公明正大な辯護が行はれる。かくてまた現在よく行はれてゐる遣り方、即ち相手方辯護士を買收したり、報酬の多い方に勝たせたりするやうなことはなくなるであらう。

### ○非猶太人僧職

我々の煽動によつて非猶太人僧職は人民の眼にもその權威を失墜し、大衆に對して何等の勢力をも持たなくなつた。もし彼等が未だ大衆を背後に率ゐてゐるとすれば、それは我々の計畫の遂行にとつて由々しい障害となるであらう。然し彼等の大衆

に對する勢力は日一日と目に見えて減退してゆく。

**○良心の自由**

現在では到る處で良心の自由といふことが公に認められてゐる。此事から推論すると、基督教的世界觀が、完全に崩壞してしまふ迄には、もう數年しかないのである。その他の諸宗教はもつと早く片附けられるであらうが、然し今もうそれに就いて語るのは少し早すぎる。我々が先づ主權を握る曉には、我々は非猶太人僧職を大いに壓迫して、彼等の勢力が彼等の以前の權力と全く逆比例するやうに仕向けるであらう。

**○法王の權力**

法王の權力を根こそぎに破壞する時機が到來すると、見えざる手の指が人民を法王廳へとさし向けるであらう。そして人民が其處へ殺到したら、我々は表面上は法王の保護者として登場して、流血の慘事を大きくしないやうにする。この策謀によつて我々は法王の最も奥の間迄も入り込み、法王の權力を完全に覆へす迄は其處を去ることはしないであらう。

**○猶太人の王は世界教會の眞の法王兼族長**

猶太人の王は猶太的世界教會の眞の法王兼族長となるであらう。然し我々がなほ過渡的段階の教義——之が漸次我々の宗教に移り變つて來るのである——で青年を教育しなくてはならない間は、我々は現存の非猶太的信仰告白を公然と排擊することは出來ないが、然しそれでも痛烈にそれを批判して、それによつてその破滅を招致するであらう。

**○猶太系新聞の任務**

現時の我黨の新聞の任務は、國家生活及び宗教生活のあらゆる領域に於ける非猶太人の無能さを證示することにある。そしてこれをするのに頗る不誠實な表現を用ひ、狡猾な我が民族のみがなし得る程度に彼等をこき下すのである。

**○警察制度の完備**

我々の主權はヴイシュヌ神を想起させるのであつて、この神は我々の主權によつて具體化されたと言ひ得るのである。即

ち、我々の主權の百本の手が社會的機關の彈條を一本づゝ支へてゐるのである。我々は警察の助力なしにも凡てを知ることが出來るであらう。と言ふのは、我々が警察を作つたのは非猶太人のためを思つたからであつて、そのためにそれは政府の目を遮るやうに法律で定められてある。我々の指針通りに、我が臣下の三分の一は義務感情から義勇奉公の主義に從つて他の三分の二を監視するであらう。さうなれば、國家のために間諜及び密告者の役を勤めることは最早恥づべきことでも不名譽なことでもなく、むしろ大いに賞讃に値する譽むべきことになるであらう。然しこの制度が濫用されることのないやうに、僞りの告訴をする者は嚴罰に處すべきである。

我が連類は最高及び最低の社會階級中にゐるであらう。即ち、道樂好きの行政官吏、出版業者、印刷業者、本屋、商人、勞働者、馭者、雇人、その他種々の人間が我々の連類であるであらう。之等の非合法且つ無力の警察は何等かの命令の實行に關係する公務行動をなすべきではなく、專ら間諜及び密告の仕事に就くべきであるが、彼等の慫慂の結果として逮捕が行はれることがあれば、彼等は全責任を負はねばならぬ。しかし本來の執行權は憲兵と都市警察との手に委ねられる。政治的領域で重要な陳述を怠つたことが判明すると、精神的隱匿罪で責任を問はれる。

## ○カハール（猶太長老會）の模範的間諜

我々の同信者は既に今、猶太人の信仰及び道德上の掟に背いたりした例や我が國民の共同の事業に違反した者を凡てカハール（猶太長老會）に申告する義務を有してゐるが、同樣に我々の未來の世界國に於ても、この報國の義務をこの間諜の仕事に於ても果すことは、忠誠なる全臣下の名譽ある仕事を目されるであらう。

## ○職權の濫用

この間諜及び密告の力で我々は、職權の濫用、收賄、その他我々が故意に非猶太人の間に助成しておいた諸弊害を除去するであらう。かかる諸弊害を助力する遣り方は、非猶太人の間に不平と暴動とを捲き起すための最も有効な手段であつたが、それは今なほ同じである。かく不平と暴動とを起させる最も重要

な手段の一つは警察事務に從事する我々の一味であつて、その破壞行爲の遂行に際して自己の惡癖、即ち我儘、專橫、わけても收賄等の罪を犯す機會が與へられるからである。

## 第十八議定

### ○防衛方法

防衛方法を嚴にするといふことは、政府の威信に對して腐蝕劑の如き作用を及ぼす。もし我々がかやうな手段を執らねばならぬようになつたら、我々は人爲的に騷動を起し、雄辯家を使つて人民の不幸を煽り立てるであらう。すると此の雄辯家達は夥しい群集を集めるので、騷動とか叛亂とかの外見は立派に生じて來る。これは我々に口實を與へるので、家宅搜索をしたり、非猶太人警察の內部に潛入させておいた我が腹心の者をして我々に都合の惡い連中を監視させたりするであらう。

### ○革命家の監視

革命家の大部分といふものは冒險と大言壯語が好きな爲めに行動を起すのであるから、我々は彼等が犯罪行爲に移らない間は放つて置くであらう。然しあらゆる事件を知つてゐるために、我々はすべての秘密團體の中に密偵を放つて、現狀を報告させるであらう。諸君に御記憶願ひたいのは、政府が餘り屢々自分に對する陰謀を發見するならば、政府の威信は失墜するであらうといふことである。即ちそれは、政府が自分の無能力、或はもつと惡いことには、自分の不法を告白してゐるのではないかといふ疑ひを起させるのである。諸君も御承知の通り、我々が非猶太人の王者達の威信を墜すのに用ひた手段は、手先を使つて屢々彼等の殺害を企てることであつた。この下手人共は我々の意の儘に動く家畜群の中の盲目の去勢山羊であるから、彼等を犯行に誘惑するためには、我々が自由主義的な言辭を二三使つて、その犯行に正しい理由に基くものであるといふ外見を與へさへすればよいのである。我々は非猶太人政府を强制して、自己のために公然たる防禦手段を取らしめ、それによつて却つて自己の無力を認めるやうに導くであらう。さうなれば、その威信は最後的に墜ちてしまふ。

## ○猶太王の防護

我が獨太王は全く人目につかぬ遣り方で防護されねばならぬ。我々は、猶太王が陰謀を速に撲滅する力を有たぬとか、陰謀から身を隱さねばならぬとかいふやうな考すらも生起させてはいけない。もし我々が非猶太人に做つてさうした考を許容するならば、その王自身に對してではなくとも、その後裔に對して死刑を宣告するのと同じことである。

我々の王は嚴密に意を用ひて、彼が權力を用ひるのはただ國民の福祉のためであつて、自己の利益のためでも自分一家の安全のためではないといふ外見を保つことが出來るであらう。それ故に彼の權力は國民によつて尊敬され、防衛されるであらう。また人民は彼を神化するであらうが、それは人民が、王の權力が國内の安寧秩序を保證し、從つて人民各自の幸福をも保證することを堅く確信するに至るからである。——王を外面的な權力手段で防衛しようとする者は、王の弱さを承認してゐることになる。

我々の王は、公衆の前に姿を現はすや否や、好奇心に驅られてゐる如く見える多數の男女に必ず取圍まれることになるであらう。彼等は偶然らしく見せかけ乍ら王の周圍に前列を作り、秩序を愛するからさうするのだといふ樣子を示しつゝ、彼等の後に續いて押し寄せて來る連中が餘り近づけないやうにする。この善い手本が、他の者達に、靜かに思慮ある行動を取るやうにとの警告となる。もし誰やら人民の中から押し進んで來て、王に請願書を差出さうとするならば、前列の連中は、それを受取つて、全人民の前でそれを王に取次ぐ責任がある。すると皆の者は、請願書が本當に王の手に屆き、王自身によつて審査されることを知るのである。權力の威信は、人民達が確信を以て「王樣が御存知なら」とか「王樣は之を御知りになるだらう」と言ふ時にのみ、維持され得るのである。

## ○權力の威信の深秘な源泉

公然と防衛の處置を樹立する時、權力の威力の深秘な源泉は失はれてしまふ。さうすると、必要なだけの大膽不敵さを有する者は誰でも、公々然と權力を侵す權利が自分にあると信ずるやうになる。また革命家は、自分自身の力を認めて、殺害の最

好機を窺ふのである、然し我々は、非猶太人には別な事を敎へておいた。それで今や我々は彼等の例を見て、公然の防衞方針を取ることが如何に彼等に惡結果を齎らしたことかを知ることが出來るのである。

**○最初の嫌疑で捕縛**

我が主權の下に於いては、多少共嫌疑を受けたものは直に捕縛される。過誤を犯すことを恐れて、國法上の違犯或は犯罪の嫌疑を受けてゐる者の逃亡を容易ならしめるのは、全く間違つてゐる。我々は此の方面では極めて峻嚴な處置を採るであらう。既に普通犯罪に於ても、行爲の動機に入つて述べることを許すには、或る程度まで被告に有利な先入見が必要である。犯罪者に何の關係もなくまた政府以外に何人にも事情の分らぬ問題に關係する國法上の犯罪に對しては、一般に何等容赦の餘地はないのである。政府ですら必ずしも常に眞の政治を解してゐるわけではないのである。

## 第十九議定

**○請願及び提案の權利**

我々は、大衆が國法上の諸問題に容喙することを禁ずるが、然し之に反して、人民が自己の經濟的情況の改善を目標とする各種の請願並びに提案を政府に提出するのは歡迎する。かくする時恐らく實存する弊害が我々の耳に入るし、之を改善することは我々自身にとつても望ましいことに違ひないのである。然し單なる妄想の類が問題にされてゐるやうな場合には、我々はそれを事實をもつて反駁し、提議者の近視眼的態度を完全に證明するであらう。

**○騷擾と暴動**

警察力を當にするだけではなく、人民そのものの中に權力の根を下ろしてゐる政府に取つては、騷擾と暴動とは大象に吠えかゝる狆の聲と選ぶ所がない。狆が象に吠えかゝるのは、それ

が象の偉大さと力を知らぬからである。兩者の持つ異れる意義を、教訓的な一例によつて證示するだけで充分である。さうすれば、象の姿を認めるや否や、狆は吠えるのを止めて尾を振るであらう。

**○國法上の犯人**

他人の爲めに身を犧牲にする英雄といふ外見を政治犯から奪ふために、我々は彼等を普通の竊盜犯、殺人犯、及び其他の低級な犯人と同一の席に就かせるであらう。さうすれば輿論は兩種の犯罪を一緒くたにして考へ、今迄低級な犯罪に對して感じてゐたのと同じ輕蔑の念で政治犯を罰するであらう。

**○國法上の犯人の讃美**

我々は、非猶太人が政治犯に對してかやうな態度を取らないやうに巧みに苦心して來た。我々はかかる革命家の似而非英雄主義を、新聞紙上の論文や公開の演說に於て、或はまた間接的には、巧妙に編纂された歷史教科書等に於て讃美し、彼等は一般の福祉のために身を犧牲にしたのであると賞讃する。このやうにして我々は自由主義の信奉者を多數に製造し、生死をともに我々に委ねてゐる去勢山羊の群に無數の非猶太人を加へることが出來た。

## 第二十議定

**○貨幣經濟と租稅經濟の原則**

今日の演題は貨幣經濟と租稅經濟の領域に於ける我々の諸原則に關してである。余はこの非常に困難な問題を故意に我が演述の最後に置いたのは、それが我々の全計畫の中心點たるのみならず、全計畫の成功も一々係つて之にあるからである。細部に入る前に諸君にお願ひしたいのは、余が既に暗示しておいた事項をもう一度想起して戴くことである。卽ち、「我々は殆ど全金力を專有してゐるが故に、我が事の成功は全く確實である」といふのがそれである。

我々が主權を握る曉には、我々の專制政府は、人民大衆に餘りに多額の課稅をするのを避けるであらうが、之は、我々が人

民に對して常に親のやうな相談相手又は保護者であるといふ外見を保持しなくてはならないからである。勿論國家行政には多額の金が要るから、それは何等かの方法で調達されねばならない。それ故に、租税を出來るだけ支拂能力に準じて割當てる方法を案出することが、特に重大となるのである。

## ○財産の累加税

我々の法律は、國領内に在るすべてのものは王に所屬するといふ前提から出發すべきである。それ故に我々の政府は、各種の所有財産を課税の目標にすることが出來る。また必要に應じては、通貨の新しい分配を行ふために、あらゆる通貨を回收することさへも出來るのである。國家の經費を支辨する最良の方法は、階段的に漸昇する累加財産税である。かかる調整に際しては、財産の額に相應する百分比例で税金が支拂はれる。それ故に、財産家は租税を負擔しても、無理に節約したり、甚しきは自己の經濟狀態を脅かしたりせずに濟む。富者は、國家が彼等に爾餘の財産の安全な所有と正當な增富權とを保證してくれるので、當然自己の過剩財の一部を國家に提供する義務があることを知らねばならない。余は明白に正當な增富權といふ。と言ふのは、蓄財を監督して、合法の假面を被た掠奪を許さないからである。

この社會改革は上流の人によつて行はれねばならぬ。何故と言ふに、この改革は時代の必然的要請であるから、それを遂行するならば、泰平と秩序とが保證されるからである。

之に反し貧民に對する課税は、不滿と叛亂を喚起し、國家の傷害となる。と言ふのは、國家は二三文の金を集めようとして民衆の信賴と好意とを失ふからである。さうしたこととは無關係に、資産の方は、個々人の手中にある財産の增大を阻止するのに貢献する。我々は目下の所、大財産の殆ど全部を我々の手に收めてゐるので、非猶太國家の大權力に對して國家貨幣經濟の最も重要な領域に於て對抗することが出來る。

財産の額に應じて累加される税金は、今もなほ行はれてゐる人頭税及び地租に比してずつと多額の收入を齎らすが、之に反し人頭税及び地租は、非猶太人間に不滿と騷擾を喚起するために我々の役に立つだけのものである。

我々の王が足場とする權力は均衡と平和の保證とによつて成

立するのであるから、資產家がその收入の一部を國家に讓渡し、それによつて國家機關の運行を安全にすることの必要なるは言を俟たない。國家の費用は、有り餘つた金を有するものや出す金のある人によつて負擔さるべきである。

租稅をかやうに分課することは、資產家が國費の殆ど總額を負擔し、それによつて平和と幸福とを促進してゐるといふことを貧者に知らせるので、貧者の富者に對する嫉視を除去してしまふであらう。また國費の殆ど全部が有產者の負擔とする所となり、之によつて有產者が秩序の確保に貢獻し、ひいては各人にも何等かの奉仕をしてゐるのを無產階級が見るならば、彼等も有產者の存在權を否定することはないであらう。

智識階級の納稅者達が新課稅に對し餘り苦情を申立てないやうに、我々は國費の使用に關する詳細な計算報告を彼等に示すであらう。然し勿論、我々が我々の王及び我々の行政官廳のために支出する額は、例外である。

國內に存するものは原則上すべて王に屬するが故に、我々の王は自分の財產を有しないであらう。然らずんば矛盾が生ずる。王が自分の財產を所有するならば、全民有財產の合法的所有權なるものは成立し得ないからである。

王家の人々のうちで國費によつて諸入費の支辨を受け得るものは王統の繼承者のみであらう。その他の人々は、公務に服するか、他の職業を選ばねばならぬ。王家の血統を享けてゐると言つて、國庫金を貰ふ特權はないのである。

## ○累加印紙稅

購買、金額受領、遺產相續等はあらゆる場合に累加印紙稅を賦課されるであらう。金錢乃至は諸他の有價物の所有權の名義上の讓渡をこの方式で申告することを怠る者は特別の處罰を受け、所有權讓渡の日から脫稅曝露の日までの期間に對して脫稅金額の一定の百分率を罰金として拂はせられる。所有權の此の名義上の讓渡に對しては特別の帳簿を備附けて、それに新舊兩所有者の姓名と住所を記入し、其他の稅務署に每週提出せねばならぬ。購買者を明示することは、一定の購買額以上に達した場合から履用を要求されるであらう。日常必需品の通常購買は、一定の百分率の印紙稅を支拂ふ義務を負ふのみである。

この方法による租稅收入が非猶太人國家の收入に何倍するか

を、諸君も考へて見給へ。

### ○國　庫

國庫は常に一定額の豫備金を保持しなくてはならない。然し此の額を超過した金の全部は、再び世上に流通させられねばならぬ。我々はこの超過額で社會事業を興すであらう。國家が自分から此種の事業を引受けるといふ事實は、國家及び支配者に對して勞働階級の信頼を獲得せしめるであらう。我々はまた以上の金額の中から、産業界に於ける發明とか特殊事業とかに對して賞金を支出することもするであらう。

詳密に決定して遠大な計畫の下に計上した金額以外には一文たりとも餘計な金を國庫に殘しておいてはならぬ。金錢は流通すべきものである。それ故に、一寸でも流通が停滯すると、國家をひどく害せられることもあり得る。金錢は國家機關の油であり、油が切れると、機關は止まらざるを得ない。

### ○一定利廻附有價證券と金融の停滯

流通資金の一部を一定利廻附有價證券で代へることが、かやうな金融の停滯をひき起した。この事情の結果は充分に知れ渡つてゐる。

### ○決　算

我々は會計檢査所を建て、其處で支配者が何時でも國家の出納を完全に透視し得るやうにしなくてはならないであらう。但し例外となるのは、まだ終つてゐない當月分と、決算書が未だ完全に到着してゐない前月分とである。

國庫を劫掠しても何等の利得を得る所のない唯一の人間は、原則上凡てを所有してる筈の國家の主權者である。それ故に彼が個人的に決算を監視すれば、國費を横領したり浪費したりする可能性は失はれるであらう。

### ○宮廷に於ける接見義務及び代表義務の廢止

宮廷の習慣上主權者は無數の接見義務乃至代表義務を課せられてゐるが、そのため貴重な時間が失はれる。我々は之等の宮廷義務を殆ど全部廢止して、主權者がその本來の使命、即ち國政を監督し、新方針を發議及び勘考するといふ使命を遂行する

のに充分な時間があるやうにするであらう。かくすれば、宮廷の壯麗華美にあやかつたりまた自分の利益を求めるために主權者に接近するが、國家の安寧などは少しも顧みないやうな奸臣連に主權者が取圍まれるやうなことは最早ないであらう。

**○經濟生活の停滯**

非猶太人に害を與へるために我々は、經濟生活に於て廣汎な停滯現象（危機）を惹き起した。それに際しては我々は、手の屆く限りの金の全部を金融界から引込めるといふ簡單な手段を用ひた。かくて巨額の金額が我々の手中に貯藏されたが、一方では非猶太人國家は資金が全く枯渴したので、結局已むを得ず我々に國債の引受を願はざるを得ないやうになつた。非猶太人國家はこの國債で多額の利子支拂の義務を背負ひ込むに至つたが、これは彼等の國家經濟の可成りの重荷となり、遂には國家そのものまでが大資本家に全く依存するものになつてしまつた。——手工業及び中工業が大工業へ移るに從ひ、健全なる國民のすべてのみならず、終には國家までもが、膏血を吸ひ盡されてしまつた。

**○金　融**

現在では國家が貨幣の流通を大いに制限してゐるので、流通貨幣の額は、人數に卽した需要に應ずるには充分でなく、從つて勞働階級のすべての要求に應ずるといふわけにも行かないのである。新貨幣の發行は人口の增加と步調を合はさねばならぬが、此の場合子供も——出生の日以來著しい貨幣流通の源となるのだから——また當然勘定に加へられねばならぬ。貨幣流通の新制度の樹立は全世界にとつて重大な問題である。

**○金　本　位**

諸君の御承知の通り、金本位制は、之を採用した國家にとつて破滅の基源であつた。我々が金貨を出來るだけ金融界から引上げてしまつたので、金本位制は益々諸國民の大きな貨幣需要を滿足させることが出來なくなつた。

**○未來の本位制**

我々の國家では勞働力の價値に基づく本位制を施行されなく

てはならぬ。その曉には、通貨は木製であらうと紙製であらうと、何れでも差支へない。我々は全市民の貨幣需要を算定し、出生者がある毎に通貨を增加し、死者ある毎に之を減じて行く。各縣各郡でこの算定を行はねばならぬ。

## ○國家財政

國家の需要に應ずる金の支出を停滯さしめないために、支出金額と支出期日とは主權者の指令によつて規定されるであらう。かくて大臣が一官衙を優待して他の官衙を虐待するといふことはなくなる。歲出歲入の兩豫算案は直接に並べて提出されるであらうから、相互に關聯する兩部の分離によつて國家財政が曖昧になるといふやうなことは今後は起り得ない。

我々は非猶太人國家の貨幣經濟を根本的に改革しなくてはならないが、しかしそれによつて誰もが何等の懸念をも抱かないやうな遣り方をしなくてはならぬ。この改革の根據を明示することは、非猶太人國家の財政が陷つてゐる支離滅裂の狀態を考慮するならば、別に困難なことではないであらう。我々は就中非猶太人の國家財政の主なる缺點を指摘するであらう。即ち、非猶太人は、豫算が年々恐ろしく增大して行く傾向を有すにも拘らず、各會計年度を通常豫算の編成でもつて始めるのである。それには勿論それ獨特の原因もあるのであるが、然し全年度分の豫算は年度の半ばで無くなるのが普通のことで、次いで第一追加豫算が請求されるが、之も四半期で支出されてしまふ。それから第二、第三の追加豫算が續き、この全處置の結末をなすものは矢張追加豫算要求である。次年度の豫算は常に前年度の總決算に准じて編成されるのであるから、之が少くとも五〇パーセント超過されるのが常であると考へてもよいのである。然も豫算は、十年後にやつと調整されるに過ぎないのである。非猶太人國家が輕率にも蔓延させた此の習慣によつて、その國庫は何時も空である。そして次に續く國債經濟は、かかる國家に完全に止めを刺した。今日では非猶太人國家の全部がひどく國債を負つてゐるので、彼等の貨幣經濟はもう一般に崩壞したと言つても差支ない。

諸君は、我々が非猶太人に敎へ込んだ此の經濟を自分で採用することは戒めねばならぬのを完全に悟つたと思ふ。

## ○現代の國債

あらゆる國債は、當該國が不良な行政を行ひ、またその主權を正しく行使することを知らない明瞭な證據を提供するものである。國債は宛もダモクレスの劍のやうに非猶太人主權者の頭上に懸つてゐる。此の主權者達は、臣民に臨時稅を申付けるといふ方法に依つて自分の需要を充すことをせずに、嘆願の手を差し延べながら我々の猶太資本家に泣付いて來る。外債は國家の身體に喰ひ入つてゐる蛭のやうなもので、自分から落ちるか、或は國家が無理にもぎとらぬ限りは、離すことの出來ない代物である。所が非猶太人國家には、それをもぎ取るに必要な力とてはもう殘つてゐない。それ所か之等の國々は、益々澤山の蛭を身に吸附かせるので、結局は自分が好きで招いた出血がもとで死ぬより外に道もないのである。

國債、殊に外債といふものは、實際自ら進んで國家の身體に施す放血法に外ならない。國債とは利息支拂の約束を含むところの國家の借用證書のことである。利率は調達の要ある元金の高に應じて變動する。もし五分利附とすれば、國家は二十年間に利子の形で借りた金額と同じ額の金を無益に支辨しなくてはならないし、四十年後には利子だけで元金の二倍、六十年後にはその三倍を支拂ひ、而も元金は原の儘といふことになる。

この計算から出て來ることは、國家は人頭稅の名義で貧民納稅者の最後の一文までも取上げるが、それは債權者たる外國の金持に支拂ふためであつて、自分の用に使ふために無利子の金を集めてゐるのではないといふことである。

國債も內債に限られてゐる間は、非猶太人もその國債經濟によつて貧民の懷から富豪の財布に金を流入させただけであるが、しかし我々が有力な連中を買收して、外債の採用を實現させてからは、國富の全部は間違ひなく我々のポケットに流れ込んだのである。それ以來あらゆる非猶太人は我々に臣從することになつた。

國家の貨幣經濟及び租稅經濟のあらゆる問題に於ける非猶太人主權者の輕率と近視、最高官吏等の收賄的傾向と無能とは、非猶太人國家全部を我々の奴隸的債務者としてしまつたので、もはやそれ等には自由の身の上になる見込はすべて失はれてしまつた。然しかうなる迄我々が拂つた勞力と金錢上の犧牲が如何に大であつたかを諸君は忘れてはいけない。

○未來の國債

我々は一刻たりとも金融が停滯するのに堪えられないから、定率利廻附長期國債はすべて廢止してしまふ。我々が許可する唯一の國債は、一分利附短期大藏證券のみである。かやうな低利ならば、國力を吸血者即ち大資本家の餌食に委せることはないであらう。定率利廻附長期證券の發行權は、大工業會社にのみ許容するであらう。大工業會社ならばその利益から容易に利子を拂ひ得る。之に反し國家は、借りた金を必要な支出に使用するのであつて、經濟的財寶の生產出に使用するのでないから、その借金で利得を得ないのが普通である。

○產業債券

我々の主權下では國家もまた產業債券を買ふであらう。それによつて國家は利益配當に與るが、之に反して以前には債務の重荷のために壓しつぶされになつてゐたのであつた。この處置は金融の梗塞を除き利子生活者の寄生根性及び怠惰を除くであらう。非猶太人が舵を取つてゐた間ならばかやうな惡德も我々には有利であるが、我々の支配の下ではそれを長くそのままにしておくことは出來ない。

○非猶太人は貨幣經濟及び租稅經濟の領域に於て無能。非猶太人支配者及び寵臣の顧問役としてのフリーメーソン結社の諜者

非猶太人の全く動物的な頭腦が全然の無能さの證據としては、彼等が高利附國債を我々に求め乍ら、結局は同額の金を高い割增利子附で返濟せねばならぬことなどは考へても見なかつたといふ事實にまさるものがあらうか。一體その必要金額を直ぐ自分の臣民から取りそして利息を節約した方が餘程簡單ではなかつたらうか。

我々の神選の主權の卓越した智能は正に次の點に顯はれてゐる。即ち我々は國債の問題を非猶太人にいい方面のみから說明して、國債を採用することが反つて彼等に有利であると思込ませるやうにするほどに巧妙な遣り方をしたのである。

やがて時が來て、我々自身が國家財政の豫算を組むやうになる曉には、我々が非猶太人國家に於て集めた數百年の經驗を基

として之を行ふことが出來る。我々の提案は一目瞭然としてゐて、我々の改革が有利なることには疑を殘すことはないであらう。また我々の提案は、我々が非猶太人を支配するために用ひた色々の弊害を、我々の王國に於てはその儘にしておく事が出來ないとの理由で、除去するであらう。

我々は決算や檢査の手續を完備せしめて、主權者も小吏も我々が國家財政計畫で豫定した以外の目的及び用途に一文たりとも國庫の金を流用し得ないやうにするであらう。確固たる計畫なしには統治は出來ぬ。かかる事情の下では英雄もまた破滅する外はなからう。

我々は、非猶太人主權者に接見義務や代表義務を課したりまた豪華な祝祭を催させたりして、彼等に詳しく政務を見る暇がないやうに故意にし向けて來た。即ち彼等は我々の主權の假面に他ならなかつたのである。また本當の國政の任に當つてゐた寵臣連も、政治に就ても少しも解する所がなかつた。その報告書を我々のフリーメーソン結社の牒者に作成せしめるのであつた。我々はこの報告書でうまくやつて、將來は貯蓄も出來るであらうと約束することによつて信じ易い非猶太人の心を摑んでおくことに成功した。然しこの貯蓄は何處から得ることが出來たであらうか。新稅からとでもいふのか。我が決算書と企劃書とを讀んだ人ならば誰でもさう尋ねることが出來たであらう。然るに非猶太人は誰一人としてこの明白な抗議に思至つた者はなかつた。

諸君は、非猶太人のかやうな呑氣さが彼等をどんな目に會はせたかを御承知である。人民達は驚歎すべき勤勉にも拘らず、非猶太人國家はもうその貨幣經濟及び租稅經濟の崩壞を目前に控えてゐるのである。

## 第二十一議定

### ○內　債

余は本日は、この前の報告を內債に關する詳論によつて補足したいと思ふ。外債の問題には最早立戻ることはしないであらう。外債は非猶太人の國民資產を以て我々を養つてくれたのであつた。それに反して我々の國にはもはや外國人も異鄕人も存

しないのである。

之迄我々は、最高級官吏達の收賄的傾向と主權者達の呑氣さとを巧に利用して、非猶太人政府に必要でもない金を押し付けて來た。そしてその金を二倍、三倍、時には四倍にも殖した。然し、何人かが、我々に對してこんな事をしかけるなどといふことは、絶對にあり得ないことである。それ故に、余は以下の詳論では、專ら內債に關する細目に立入るだけにとどめたいと思ふ。

國家が內債を賣出さうとすれば、通常は手形又は債券の應募者名簿を陳列しておく。一般の人の手にも入るやうに額面價格は一〇〇から一〇〇〇迄に定められる。第一回應募者には大低の場合割引をする。賣出しの翌日には、需要超過といふ名目の下に値段が人爲的に釣り上げられる。二三日後には、大藏省の金庫が一杯になつたので、到底金を仕舞ひ込むことが出來ぬといふ事になる。それでは何故金を受取つたのであるか？　つまり申込額て債券發行の數倍に上つたといふのだ。これが大成功たる所以は、政府の債券が如何なる信用を持つてゐるかが明らかになつたからである。

## ○國家の負債と租稅

かやうな國債劇が濟むと、國家は負債の大增加といふ事實に直面する。そしてこの負債の利子を支辨するために、國家は多くの場合その逃路をまた國債に求める。それによつて債務と利子の負擔は益々增大して來る。國家がその信用をすつかり利用し盡すと、新稅を課する外に道はないが、之で拂ひ得るのは負債元金でなくて、利子だけだといふことになる。かくてこの租稅は、他の負債を拂ふための負債とも言ふべきものである。

## ○國債利率の低減

かかる狀況に於ては、國家は國債の利率の引下げをやるのが常である。しかし國家は、之によつて利子の負擔を低減するかも知れぬが、負債そのものは減じ得ぬ。なほその上に、此の處置は國債の所有者達の同意を得てのみ實施され得る。之に同意しない者に對しては、國家はその所有債權の額面價格を拂戻さなくてはならぬ。もし債券所有者の全部が抗議を出して拂戻を要求することになれば、政府は自分自身の釣針に懸つてしまふ

わけで、要求額の全部を拂戻すことなどは思ひも寄らぬ事であらう。しかし幸なことには、非猶太人國家の人民は多くは金錢の事に暗いので、彼等は何時でも、新發資の冒險をやるよりも、爲替相場の損とか利子の低減の方を選んだのである。かくして彼等はその政府に對して、年々の利子支拂を幾度も數百萬づつ免除される可能性を與へたのである。

主に外債であるところの國家債務が今日の高さに昇つてしまつては、非猶太人政府も最早かやうな處置に出るわけには行かない。即ち彼等は、利子低減が行はれるならば我々が金を悉く拂戻すやうに要求するであらうことを充分よく知つてゐるからである。

**○國家の支拂不能**

支拂不能の宣告といふものは、あらゆる國に於て、政府と人民との間に深い溝があるといふことを最もよく證據だてる。

**○內債の結集。終身年金。**

余は上の事實の他に次の事實にも諸君の注意を惹かうと思ふ。即ち內債は、その支拂期限に多少長短の差はあつても、すべて一時借入金に變化されたのである。之等の負債は國立銀行或は貯蓄銀行に供託されてゐる金額から成る。もしこの金子が永い間政府の用に立てられてゐると、外債の利子支拂のために消費されてしまふ。さうするとその代りに政府の借用證書が供託される。かやうな政府の證書で、國庫の損失は補塡せられる。

**○有價證券取引所の廢止**

我々の世界支配が完成するや否や、貨幣經濟の領域に於けるかかる隱謀は、我々の利益にならないから、跡方もなく影を沒してしまふであらう。また我々は有價證券取引所を廢止するであらう。それは、我々の主權に對する尊敬の念が我々の發行した國庫債券の絕えざる動搖によつて動搖させられるのを許可することが出來ぬからである。また我々は債券には法定强制相場即ち額面價格を與へ、それの引上又は引下げに處罰を加へる。騰貴をも許容しないのは、それには後の下落の因が含まれてゐるからである。また有價證券の高値は、その價格の引下の口實を考へる。所がのこ遣り方は、我々が非猶太人の證券に對して

行つて來たことである。

**○產業債券の評價**

我々は有價證券取引所の代りに有力な國立信用取引所を置くであらうが、その任務は國家の希望通りに產業債券を評價し、それを抵當にして金を貸すにある。この取引所は一日に五億圓の產業債券を市場に投じ、或は同額を買上げる能力がある。このやり方であらゆる產業的企業は我々の左右する所となる。之に依つて我々の國家が如何に巨大な勢力を經濟界に於て占めるかは、諸君も想像出來ると思ふ。

## 第二十二議定

**○未來の秘密**

余が以上述べ來つた所は、現在及び過去の出來事の秘密を諸君に曝露し、またすべてが、間近にさし迫つてゐる大事件に向つて進行してゐるさまを諸君に示すことを專らの目的としてゐたのである。それ故に諸君は、非猶太人に對する我々の關係及び貨幣經濟に於ける我々の政策が如何なる秘密法則に從屬してゐるかを認めねばならないのである。然し余は尙ほ二三の點を附言しなければならない。

現代の最大の力——金力——は我々の手中にある。二日あれば我々は、好きなだけの金額を我々の秘密の倉庫から持出して來ることが出來るのである。

**○數百年來の禍は卽ち未來の幸福の基**

我々の世界支配が神の手で準備されたものたる事を實際なほ證明する必要があらうか。我々が數百年の間に惹起せしめざるを得なかつた禍惡が結局は眞の福祉と多方面の秩序とを齎したといふことを、我々は我々の富の力で實際證明出來るのではないか。我々は多少暴力を振ふ必要があるとしても、この秩序を維持するであらう。我々は、支離滅裂の地上に眞の幸福と個人の自由を再獲得して與へた人類の恩人は我々であることを證明するであらう。我々の掟を遵奉する者は誰でも、平和と秩序との恩惠に浴することが出來る。同時に我々は萬人を說いて、自

由とは個々人の放埒な肆意に存するのではないこと、人間の力と威嚴とは決して革命的主義の宣布、即ち、良心の自由とか一切平等とかの宣布にあるのではないこと、また個人の自由とは集合した人間の前に野蠻な言辭を弄して自他を擾亂に捲込む權利を何人にも與ふるものではないことを明らかにするであらう。眞の自由とは個人の不可侵性に存するのであるが、然しそれは個人が人間の共同生活のあらゆる規則を正直に誠實に遵守するといふ前提の下に於てのみ然りである。人間の眞の威嚴は、自己の權利と此の權利の限界とを知ることに存するのであつて、愛する自我を狂信することに存するのではない。

**○權力に對する人民の畏敬**

我々の權力は强力にならねばならぬから、莊麗にならねばならぬ。我々の權力は統治と指導を行ふが、偉大なる原理と稱する愚言をもつて實現不可能の夢想を宣布して廻る黨首領や辯舌家に追從することはしない。我々の權力は秩序を維持するであらうが、凡そ此處にのみ人間の全幸福は存るからである。人民は我々の主權の後光の前にひれ伏して、それを恭々しく仰ぎ見るであらう。眞の支配者は如何なる權利をも入手しなくてはおかないものであつて、神權に關してもそれは同じである。從つて何人と雖も敢へて彼に近づきその權力を一毫たりとも損ずることはないのである。

## 第二十三議定

**○贅澤品製造の制限**

我々に服從する習慣を諸國民に與へる爲に、我々は彼等を教育して質素を教へ込まなくてはならぬ。それ故に我々は贅澤品の製造を出來るだけ制限するであらう。之に依つて、派手好みと贅澤競爭とによつて今や非常に惡化してゐる風俗もまた改善を見るかもしれないのである。

**○家內工業の再現**

我々は家內工業を再興し、之により大工業の力に大打擊を與へるであらう。この事の必要なのは、大工業家が、恐らく無自

覺にであらうが、大衆を騙つて政府に反抗させることが屢々あるからである。

**○失　業**

家内工業家は失業を知らぬ。それ故に彼は現存の社會秩序と密接に結び付いてゐて、政府の力を殺ぎたいとは思はない。現在の優勢な大工業制では、增大して行く失業とそれから生ずる社會不安のために政府は絶えず脅かされてゐる。主權が我々に移つて來れば、失業も亦直ちに影を消すであらう。

**○禁　酒**

飲酒は我が主權の支配下では法律上禁止され、また嚴重に處罰される。飲酒は人間の品位を損ずる犯罪であつて、人間は酒に醉ひしれる時野獸に化してしまふ。

余は繰返して言ふが、大衆が服從を誓ふのは、彼等とは獨立した强大な權力が、彼等をして盲目的信賴を以て自己を仰がしめ、また彼等をしてその權力により社會の諸惡の攻擊から護られてゐるのを感ぜしめる時のみである。支配者の心が天使のやうだとしても、それが人民には何の役に立つか。人民には、王とは確固たる意志と不屈の權力との權化と見えねばならないのである。

**○舊社會の廢止とその新形式に於ての復活**

非猶太人政府は現勢を維持するのもなかなかの骨折りが要る。彼等の圍まれてゐる社會は、我々がひどく頽廢させたので、宗教心は全くなくしてゐるし、またその眞中からは絶えず暴動の火の手が上るようにしてある。現在の諸政府に取つて代るべき世界支配者は、先づこの燃え擴がる火事を消さねばならぬ。從つて彼はこの舊社會に對しては、その社會が自己の流す血によつて窒息するやうなことがあらうとも、斷乎として絶滅の方策を取り、やがてその社會をして、國家の何れの部分の病毒傳染をも斷然防止しようとして戰ふ正規軍として復活せしめるに努めなくてはならぬ。

**○神の選民**

神に選ばれたる世界支配者の任務は、人間的智性ではなく獸

的衝動に導かれてゐる無意味な革命力を挫くことである。今やこの無意味な力は、權利と自由の假面を被つて奪略と暴行を行ひながら、勝ち誇つてゐる。またその力はあらゆる社會秩序を破壞してしまつたが、それは廢跡の上に猶太王の玉座を据えるために外ならなかつた。然し彼等の使命も、猶太王が主權を握るや否や、解消してしまふのである。またその曉には、猶太王の行手に何の障害も殘つてゐないように、かかる力は途上から掃き捨てられねばならない。

その時に我々は諸國民に告げて「皆のものよ、神を讃へよ。そして神に選ばれたる者の前に膝を屈せよ。この者の崇高なる面こそは、人類の運命の豫定をば敎へ給ふ光の源なればなり。誠に神自身この者に導きの糸を垂れ給ふたのであつて、之はこの者以外の何人も我々を人類の諸惡より救濟し能はざらんがためなり」と言ふことが出來るであらう。

## 第二十四議定

### ○ダビデ家出たる王權の確保

諸君、本日の演題は、ダビデ家出の王の世界支配を永久に確保する爲に我々が用ひる手段が如何なるものであるかに就いてである。

先づ第一に我々の用ひるのは、世界史の指導權をシオンの聖者達に與へたのと同一の方法であつて、我々の望み通りの方向に人間を計畫的に敎育するといふ方法がそれに外ならない。

### ○王の準備

ダビデ家の若干の者が王とその後繼者とを敎育してその職務の準備をさせる。彼等は王の選擇を、世襲權に基いて行はず、個人の特殊の能力に基づいて行ふ。そして選ばれた者達は政治と行政のあらゆる秘密を敎へられねばならぬ。この場合の根本條件は、彼等以外に之等の秘密を知るものがないといふ事である。かかる前提の下に、政治の秘密に通曉してゐるもののみに政治は委せられねばならぬ、といふ確信が道を拓いて進むであらう。

ただ此等の選ばれたる者のみが、我々の諸原則の實行に當る

べきである。我々が國法上乃至は國民經濟上集めて來た數百年に亙る觀察と經驗とがその際彼等に用立てられるであらう。彼等は、自然自身が人間相互の關係に關して發布した諸法則の精神を吸入して我ものとするであらう。

### ○自然的繼承の廢止

王の直系の者でも、その修業時代に輕率、柔弱、及びその他の、政治上の無能を示すのみでなく政府の權威をも汚すやうな性質を見せる場合には、屢々王位繼承から除外される。

我々の賢者によつて政權を委ねられるであら王者は、支配が殘酷に墮する危險を冒しても、活動力と堅固さとを有する支配權を徹底的に行使する能力を持たねばならぬ。

王が意志薄弱に陷つたり、またその他の無能さを見せる時、彼は法律上直ちにその統治權を他の活動力ある者の手に讓る義務を負ふてゐる。

王の現在の計畫、殊に彼の未來の企圖は、その側近の顧問連中にさへも知れることはないであらう。

### ○王と三名の賢者

未來の事を知つてゐるのは、王と、王にあらゆる秘密を敎へ込んだ三賢者だけである。

### ○運命の權化としての王

不屈の意力で自分自身と人類とを指導する王は未知の進路を有する運命の權化である、と皆から見られるであらう。王がその法令で如何な目標を目ざしてゐるかは、何人も之を知らないであらう。從つて、王に反對を申立てたり、その道を遮らうとするやうな者は一人もないのである。

王の高い精神が、その實現を王が使命として與へられてゐる大目的に相當すべきであることは言ふ迄もない。それ故に如何なる王も、我が賢者達によつてその精神的能力が吟味されてからでなくては、王位に登ることは出來ない。

人民が王を知りまた愛するやうに、王は屢々人民の前に姿をあらはして、公共廣場で人民と談笑を交へなくてはならぬ。かうすれば、今まで恐怖政治即ちテロを使つて我々が引離しておいたかの二つのものは、必然的に結び付くに至るに違ひない。

我々は今迄このテロが必要であつたし、人民及び王の力が互に離れてゐることをも必要としたが、それは此の二つの力をそれぞれ別々に我々の主權に屈服させるためであつた。

## ○猶太王の道義は完全無缺

猶太王は決して情慾に左右されてはならぬ。特に彼は情慾を抑へねばならぬ。動物的衝動が彼の智力と情緒とを支配するやうな事は斷じてあつてはならぬ。情慾はあらゆる精神的能力の最惡の敵であつて、如何なる慧眼をも曇らし、また如何なる大天才をも、成下らせて、最も卑しい自然本能の滿足の他に何等人生の目的を認めざる禽獸にしてしまふ。

ダビデの聖胤を繼ぐ世界支配者は、人民と人類との福祉のために、あらゆる個人的喜樂を犧牲に供さなければならぬ。

我が世界支配者には道義上一點の弱點もあつてはならぬ。彼は萬人の輝かしき龜鑑たらねばならぬ。

——終——

## 恐るべき平和論

亞米利加では平和論が盛である。其の指導者は猶太人であることは申すまでもないが、今其の平和運動を起して、ラヂオなんかでも盛に宣傳して亞米利加人に加入を進めてゐる。併し是が一度組織が出來て大きくなると今度は其の平和運動の敵は獨逸と日本であると唱へる事になる。結局反日獨といふことになる、この平和運動は結局戰爭をさせる事が目的となりそれに依つて、自分等の最後の目的を達しようといふのである。將來斯ういふ口實の下に戰爭をさせる。卽此の戰爭は例外でもあるといふ所に々の平和が脅威されたから平和の爲に戰ふのであるといふ所に持つて行かうといふのである。是は千九百十六年の時に亞米利加を參戰させたやり口と同じである。此の事は日本に取つて非常に大事なことであつて、色々な陰謀が皆猶太人に依つてなされて居る。

さうして過去二十五年間猶太人は各國をコントロールし、戰爭を以て彼等を互に爭はしめ、自分は裏で軍需工業商業並に金融の力で支配權を握つて來て居るのであるが、其の間の經過は要するに猶太人支配の國をして猶太人の支配でない國に對して戰爭を仕掛けて來て居る。猶太人の支配して居る國は今では亞米利加、英吉利、佛蘭西、露西亞であり、支配して居ない國は日本、獨逸、伊太利である。

今トロツキーはメキシコに於てスターリンに對して新聞戰をやつて居る。その目的は亞米利加に居る猶太人をしてスターリンが反猶太主義者であるといふことを知らせる爲である。

若し是が亞米利加の猶太人に知れたら、亞米利加の猶太人は反スターリンになる。さういふことになると、其の間丈は亞米利加は當分親日的になるだらう。それは日本を利用してスターリンを倒さんが爲である。今亞米利加の猶太人はどんなことになるか、又、日本がスターリンを打つ爲に利用出來るかどうかといふことを考へて居る。

（米國を動かす猶太の勢力より）

長期戰下
國民必讀

谷口雅春著
生命の實相

健康報國、思想報國の秋！銃後同胞の一大武器として、本書程絶大の偉力を發揮せるは稀である。實に本書により、無限能力無限健康を得、又日本精神の眞髓に觸れ、毅然と立上りし者無數、宜なり既に小冊子合せて百萬部を發行し、全國到る處奇蹟的事例續出感謝の聲爆發す。國家總動員の今、銃後國民、思想健康報國の武器として、一家一冊必備を祈る。

普及全集版 全十五冊
一冊・一圓五十錢（送料十錢）
一時全拂・廿二圓五十錢（送料實費）
この分に限り「生命の實相の分類的研究」（二圓）を贈呈す

革表紙版 全六冊
風・空・水・火・行・地の卷
各冊・三圓五十錢（送料十四錢）
分賣自由（今のうちに揃へられないと以後は革表紙は出來ません）殘部僅少。

東京市赤坂區檜町五乃木坂
光明思想普及會（振替東京九一五五）

ユダヤ問題論集
定價 五十錢
昭和十三年二月二十五日印刷納本
昭和十三年三月一日發行
編者 辻村楠造
東京市豐島區千川町三ノ四三三六
發行者 服部仁三郎
東京市小石川區陸軍町五六
印刷所 株式會社常盤印刷所
東京市赤坂區檜町五
發行所 株式會社 光明思想普及會

370

¥0.50